

# 授 業 概 要

令和 8 (2026) 年度



広島大学

医学部 医学科

## 【注意事項】

授業日程は変更される場合があります。変更があった際は「もみじ」掲示板で通知します。

また、その他講義に関するお知らせなども「もみじ」掲示板で通知されるので、見落とさないように注意してください。

なお、授業日程に講義室使用不可と記載されていても、別の講義室が使用可能の場合、授業が入る可能性があります。

# 目 次

広島大学 医学部医学科専門科目のルール (グランドルール) .....	1
科目責任者等メールアドレス一覧 .....	2
令和 8 (2026) 年度医学部医学科行事日程 .....	4

## 1 年次生

1 年次時間割 .....	6
医療者プロフェッショナリズム .....	7
医学研究序論 .....	10
生命・医療倫理学 I .....	12
医療行動学 .....	14
合同早期体験実習 .....	15
グローバルリーダー概論 .....	16
コミュニケーション学 .....	17
脳神経医学 I .....	19
人体構造学 I .....	21

## 2 年次生

2 年次講義日程 .....	26
放射線生物学・放射線健康リスク科学 .....	48
人類遺伝学 .....	50
人体構造学 II .....	52
脳神経医学 II .....	64
組織細胞機能学 .....	67
生体反応学 .....	79
病因病態学 .....	89

## 3 年次生

3 年次講義日程 .....	94
医学英語 .....	116
臨床病理学 .....	117
器官・システム病態制御学 I .....	120
器官・システム病態制御学 II .....	142
脳神経医学 III .....	166
全身性疾患制御学 .....	170
社会医学 .....	194

## 4～6 年次生

生命・医療倫理学 II (4 年次) .....	204
医学研究実習 (4 年次) .....	205
症候診断治療学 (4 年次) .....	206
臨床実習入門プログラム (4 年次) .....	208
臨床実習 I・II (4～6 年次) .....	212
高学年 IPE (5 年次) .....	214
臨床実践学日程 (6 年次) .....	215

## 複数学年にまたがる科目

先端基盤医学方法論 .....	216
E BM .....	217

## 広島大学 医学部医学科専門科目のルール（グランドルール）

- すべての講義に出席することを単位付与の前提とする。欠席回数が、やむを得ないものを含め 3 分の 1 を超えたものは単位修得のための試験の受験資格(本試験, 追試験とも)を与えない(医学部細則第 14 条)。
- 遅刻・早退は認めない。講義開始から 30 分以上経過して出席した場合は欠席扱いとする。
- すべての講義で出席をとる。出席確認の方法には Forms, 学生証, 小テスト, コメントシート等を用いる。
- なお, シラバスや授業中に周知される各科目やユニットごとの遅刻, 早退, 出席確認のルールが, 医学科のグランドルールより優先されるので, 各自しっかりと確認すること(グランドルールと異なる場合もある)。
- 授業の実施方法は, 基本的に対面講義を主とする。
- 出席状況(回数)は自分自身で把握, 確認すること。教員や医学教育センター, 学生支援 G は出席・欠席回数(カードリーダーのタッチ記録, Forms の提出状況等も含む)の問い合わせには回答しない。

### ※講義室の出席システム(学生証)について

学生証を必ず持参し, 講義室に設置のカードリーダーにかざし, 読み取り音が鳴るので必ず確認すること。

学生証を紛失または忘れた場合は学生支援室にある講義出席届出票を受け取り, 必ず講義前に担当教員に提出すること。

### ※出席確認の不正防止のために

Forms などを用いる場合, 提出に制限時間を設ける, 授業中に示すパスワードを記載させる, 複数の出席確認方法を併用する, 授業毎に出席確認方法を変更する等で出席確認を実施する。

なお, 学生証の貸与等, 出席における不正に対しては, アンプロフェッショナル行為と判断して厳重に対処する。

### ※欠席連絡とオンライン受講について

録画(オンデマンド)視聴, また, Teams 等のオンラインツールを使用した授業のオンライン受講は出席とはならない。(ただし, 教員からの指示によるものは除く)

欠席の場合は, 事前に各科目の責任者(ユニット講義の場合はユニット責任者)およびコーディネーターにメール連絡し, 欠席届を学生支援グループへ提出すること。その場合, 病院受診したことが分かる領収書等, 会葬御礼等日付の記載のある証明書類の写しを添付すること。特に試験を病気で欠席する場合は, 必ず受診し診断書を提出すること。

なお, 欠席届の提出によって, 講義の欠席が出席扱いとなるものではない。

ただし, 集中して行われた講義ユニットの 1/3 以上を欠席した場合などにおいて, 学校感染症に罹患し出席停止期間内と認められた場合等には, 期間中の講義のオンデマンド視聴やスライド等の提供のもと, 追試験の実施等が行われるものとする。その際は必ず診断書を提出すること。

令和8（2026）年度 医学部医学科 行事日程

年次	授業科目名	開始日	終了日	備考	
1年	合同早期体験実習	夏季休業期間中の連続した2日間		詳細は説明会を開催する	
	平和共修科目 (Fundamentals of collaborative learning for Peace)	2026年10月1日(木)		詳細は説明会を開催する (合同早期体験実習と同時)	
2年	献体者慰霊祭	2026年6月7日(日)		全員出席 葬儀に相応しい頭髪・服装で出席すること	
3年	御遺骨返還式	2026年秋頃以降		日程の詳細は別途通知 葬儀に相応しい頭髪・服装で出席すること	
4年	医学研究実習	発表会 2026年7月28日(火)	表彰式 2026年7月30日(木)		
	症候診断治療学	2026年8月27日(木)～9月15日(火)	2026年11月12日(木)～12月8日(火)	日程は変更になる場合がある 日程の詳細は後日通知する	
	臨床実習入門プログラム	2026年9月18日(金)～11月6日(金)	2026年12月9日(水)～12月21日(月)	日程は変更になる場合がある 日程の詳細は後日通知する	
	共用試験CBT	2026年9月8日(火)～9月9日(水)		追再試験 2026年11月25日(水)	
	共用試験 臨床実習前OSCE	2026年11月10日(火)～11月11日(水) 延期試験(災害等による本試験延期) 12月8日(火)～9日(水)		追再試験 2026年12月13日(日)、 2026年12月19日(土)または2026年12月20日(日)	
	臨床実習説明会, 白衣着衣式	2026年12月23日(水) (予定)			
5年	高学年IPE	2026年9月16日(水)～9月18日(金)		グループ分け等の詳細は別途通知する	
	国家試験CBT	未定(例年, 1～2月予定)			
6年	臨床実践学	2026年4月10日(金)			
	共用試験 臨床実習後OSCE	2026年9月30日(水) 延期試験(災害等による本試験延期) 12月1日(火)		追再試験 2026年12月1日(火)	
	卒業試験	本試験1ブロック	2026年10月5日(月)		追再試験 2026年10月27日(火)
		本試験2ブロック	2026年10月9日(金)		
		本試験3ブロック	2026年10月13日(火)		追再試験 2026年10月30日(金)
		本試験4ブロック	2026年10月16日(金)		
		本試験5ブロック	2026年10月20日(火)		追再試験 2026年11月2日(月)
本試験6ブロック	2026年10月23日(金)				

注) 1, 2年次の専門科目が教養教育科目の振替授業日・授業予備日にあたる場合には, 教養教育科目の授業を優先とする。

注) 時間割は変更することがあるので, もみじ掲示に注意しておくこと。

注) 臨床実習I, IIについては別途通知済みの日程表, 別冊マニュアルを参照のこと。

1 年 次 生

## 令和8（2026）年度 医学部医学科1年生時間割

### 第1ターム

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1-2	領域科目（文系）	情報・データ科学入門	初修生物学	医療者 プロフェッショナリズム	大学教育入門
3-4					
5-6	コミュニケーション演習 I	ペーシック外国語 I	教養ゼミ（IPE）	コミュニケーション I	ペーシック外国語 I
7-8			教養ゼミ		
9-10					
履修キャンパス	東広島または霞	霞	霞	霞	霞

### 第2ターム

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1-2		基礎微分積分学	医学研究序論	細胞科学	初修物理学
3-4					
5-6	健康スポーツ科目	ペーシック外国語 II	グローバルリーダー概論	コミュニケーション I	ペーシック外国語 II
7-8					
9-10					
履修キャンパス	霞	霞	霞	霞	霞

夏季休業中： 合同早期体験実習（原則、夏季休業期間中の連続する2日），平和共修科目：2026年10月1日

### 第3ターム

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1-2	コミュニケーション演習 II	領域科目（文系）	コミュニケーション学		
3-4			人体構造学 I		
5-6	領域科目（理系）	ペーシック外国語 III	医療行動学	コミュニケーション II	ペーシック外国語 III
7-8					
9-10		ゼロから始める プログラミング			ゼロから始める プログラミング
履修キャンパス	東広島	霞	霞	霞	霞


### 第4ターム

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1-2	基礎線形代数学	領域科目（理系）	コミュニケーション学	脳神経医学 I	医療従事者の ための心理学
3-4			人体構造学 I		
5-6	生命・医療倫理学 I	ペーシック外国語 IV	医療行動学	コミュニケーション II	ペーシック外国語 IV
7-8					
9-10					
集中講義	データサイエンス基礎				
履修キャンパス	霞	霞	霞	霞	霞

教養科目

専門科目

授業科目名	医療者プロフェッショナリズム (Medical Professionalism)		
対象学年	1年生	単位数	2単位
科目責任者	はずめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はずめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	<p>本科目は、90分の講義コマ2コマを続け1回の時間を180分として行う。一部を除きほぼすべてをワークショップ（グループワーク）形式で行う。用いることのあるグループワークの手法は以下の通りである。</p> <p>1) グループワーク 与えられたテーマについてグループごとに討論し、グループとしての考えを成果（プロダクト）としてまとめ、パワーポイントなどに発表資料を作成し発表する。</p> <p>2) ペアワーク 二人一組になり、指示に従いディスカッション、説明などを行う。事後お互いにフィードバックをおこなう。</p> <p>3) ロールプレイ コミュニケーションワークショップなどにおいて、実際の場面などを想定しそれぞれが役を演じ、疑似体験を通してスキルを身につけ学修する。事後に観察者も含めお互いにフィードバックを行う。</p> <p>各グループワークの前には事前学習課題を出すことがあるので、その際は学生は事前にそれを読んだ上で授業に参加すること。</p>		
概要	<p>プロフェッショナリズムとは、医師としての価値観、理想、責任感、使命感および、それらを自らの行動にどう体現するかの方法論が統合されたものである。本科目ではプロフェッショナリズムを以下のように定義する。</p> <p>1) 他者に対するプロフェッショナリズム 相手の立場にたった良好なコミュニケーションをとれる 患者、家族などに対して誠意と思いやりをもって配慮ができる 同僚に対して敬意と親愛をもって接し、協働できる</p> <p>2) 自分に対するプロフェッショナリズム 常に学習し自らを向上させる姿勢をもつ 自分の限界をわきまえ、他者からの助言を自分の糧にできる</p> <p>3) 社会に対するプロフェッショナリズム 社会から期待されている役割を果たす 医師としての社会的責任を果たす 社会のルールを守り、医療資源を適切に使用する</p> <p>プロフェッショナリズムは医師が備えるべき基本的資質・能力として欠くことのできない重要なものであり、6年間の在学中を通じて確実に身につける必要がある。本科目では、6年間の教育の最初の一步として、プロフェッショナリズムとは何かをグループ討議の中で考え、自分なりの基本的な考えを確立することを目標とする。</p> <p>また、グループワークを行うことで、他者との協働に慣れ、協働のなかで学習する習慣を身につけることも目指す。</p>		

到達目標	<p>患者中心の視点を持ち、患者の心理、患者の願いを説明できる。  患者の問題を解決するために医師に期待されている役割を説明できる。  医師の専門性と社会における役割を説明できる。  生涯学習の重要性を説明できる。  医学部卒業後のキャリアパスについて理解し、自分自身の将来像について言語化できる。  自らの判断・意志で継続的学習を行うことができる。  適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。  コミュニケーションの方法と技能を理解し、活用できる。  多様性について理解し、受療上の問題点について説明できる。  具体的な臨床事例に文化・社会的課題を見いだすことができる。  効果的な対人コミュニケーションを説明できる。  話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える  グループで協働して作業を進め、学習し、グループのために役割を果たすことができる。  グループワーク、TBL、ペアワーク、ロールプレイなどの基本的技法を修得し、効果的にワークショップを進めることができる。  アカデミックライティング：課題について、ルールに従ってわかりやすく書くことができる。  また適切にピア評価を行うことができる。  R4年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムとの関連</p> 
講義日程	<p>第1ターム木曜日1～4限  2コマを続けたグループワークを計8回行う。別表参照のこと。</p>
出席の取り扱い	<p>各回、グループワークなどのワークショップのため、原則すべての講義に出席すること。  出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが講義中のプロダクトの提出、その他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。</p>
評価項目	<p>Formsによる講義要約、各グループワークでのピア評価、プロダクトに対するグループ評価、TBLの際の小テスト（個人、グループ）の成績、個人のレポートの評価などを総合して評価する。</p>
評価法	<p>総合得点60点以上をもって単位を認定する。</p>
予習・復習へのアドバイス	<p>授業後は、グループワークやディスカッションで得られた知見を振り返り発表資料（プロダクト）を見直して理解を深めましょう。</p>
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】  特になし</p>


日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/09(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	アイスブレイク	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/09(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	アイスブレイク	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/16(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	医学生のためのキャリア入門	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/16(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	医学生のためのキャリア入門	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/23(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	医療コミュニケーション(アサーション)	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/23(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	医療コミュニケーション	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/30(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	患者さんの声を聴く(医療人類学)	医学教育センター	西 真如/蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/04/30(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	患者さんの声を聴く(医療人類学)	医学教育センター	西 真如/蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/14(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	医療コミュニケーション(コーチング)	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/14(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	医療コミュニケーション	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/21(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	多様な価値観を理解する①	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/21(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	多様な価値観を理解する①	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/28(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	多様な価値観を理解する②	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/05/28(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	多様な価値観を理解する②	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/06/04(木)	1・2	医療者プロフェッショナリズム	まとめ	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子
2026/06/04(木)	3・4	医療者プロフェッショナリズム	まとめ	医学教育センター	蓮沼 直子/服部 稔/中島祐子


授業科目名	医学研究序論 (Introduction for medical research)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	やすだ ともはる 保田 朋波流	所属	免疫学
授業方法	講義中心、パワーポイント多用（オムニバス方式）		
概要	医師となるために受ける教育の中で、医学・医療の発展における医学的研究の重要性・必要性を学ぶ。		
到達目標	研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。医学的研究の目的・方法・結果の解析・有用性を知る。		
講義日程	第1回：I. 講義ガイダンス II. 基礎研究・臨床研究・トランスレーショナルリサーチ概論（保田 朋波流） 第2回：生命現象の物理学（藤原 祐一郎） 第3回：四次元顕微解剖学～覗いてみよう！細胞の骨や毛の動き～（池上 浩司） 第4回：基礎研究は面白い！～細胞の生き死にって大事と思いませんか？（森脇 健太） 第5回：災害医療が見える化する（久保 達彦） 第6回：生まれたての脳は柔らかい～神経回路の生後発達～（橋本 浩一） 第7回：医学研究における脳科学的アプローチ（相澤 秀紀） 第8回：医学研究における病理診断・病理学研究の意義－病理の世界をのぞいてみよう！（武島 幸男） 第9回：良い医療者になるために（福間 真悟） 第10回：病気を“分子病理学”的に理解する（三井 伸二） 第11回：免疫学序論（保田 朋波流） 第12回：法医学とは～実際、何を行っているの？～（奈女良 昭） 第13回：（ウイルス学） 第14回：（分子生物学・生命情報学） 第15回：（医系薬理学）		
評価項目	提出レポート、受講態度など。		
評価法	試験は行わない。 随時、レポートの提出が求められる。		
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意 アドバイス	医学生としての必須の授業であり、欠席することは許されない。出席は各講義のレポート提出によりカウントする。		
推奨参考書	なし		


日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/10(水)	1・2	医学研究序論	I.講義ガイダンス II.基礎研究・臨床研究・トランスレーショナルリサーチ概論	免疫学	保田 朋波流
2026/06/10(水)	3・4	医学研究序論	生命現象の物理学	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/06/17(水)	1・2	医学研究序論	四次元顕微解剖学～覗いてみよう！細胞の骨や毛の動き～	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/06/17(水)	3・4	医学研究序論	基礎研究は面白い！～細胞の生き死によって大事と思いませんか？	医化学	森脇 健太
2026/06/24(水)	1・2	医学研究序論	災害医療を見える化する	公衆衛生学	久保 達彦
2026/06/24(水)	3・4	医学研究序論	生まれたての脳は柔らかい～神経回路の生後発達～	神経生理学	橋本 浩一
2026/07/01(水)	1・2	医学研究序論	医学研究における脳科学的アプローチ	神経生物学	相澤 秀紀
2026/07/01(水)	3・4	医学研究序論	医学研究における病理診断・病理学研究的意義－病理の世界をのぞいてみよう！	病理学	武島 幸男
2026/07/08(水)	1・2	医学研究序論	良い医療者になるために	疫学・疾病制御学	福間 真悟
2026/07/08(水)	3・4	医学研究序論	病気を"分子病理学"的に理解する	分子病理学	三井 伸二
2026/07/15(水)	1・2	医学研究序論	免疫学序論	免疫学	保田 朋波流
2026/07/15(水)	3・4	医学研究序論	法医学とは～実際、何をやっているの？～	法医学	奈女良 昭
2026/07/22(水)	1・2	医学研究序論	未定	ウイルス学	後任教授
2026/07/22(水)	3・4	医学研究序論	未定	分子細胞情報学	後任教授
2026/07/29(水)	1・2	医学研究序論	未定	神経薬理学	後任教授

授業科目名	生命・医療倫理学I (Medical Ethics)		
対象学年	1年生	単位	1単位
科目責任者	ひのい たかお 檜井 孝夫	所属	遺伝子診療科
授業方法	講義中心、グループ討論		
概要	医師になる者にとって倫理的側面の必須な知識と考え方を学ぶ。		
到達目標	医療と医学における倫理の重要性を理解するために、具体的な医学・医療における倫理的な問題を指摘すると同時にそれらを解決する能力を身につける。		
講義日程	第1回 ガイダンス 生命倫理学 概論 檜井 第2回 研究倫理 檜井 第3回 医療格差と倫理 松本 第4回 患者の意志決定と終末期患者のこころの動き 倉田 第5回 医学史(医師の倫理) 蓮沼 第6・7回 アンプロフェッショナルな医学生の行動を考える 蓮沼・服部 第8・9回 アルコール依存 酒井		
評価項目	授業への参加態度 グループワークでの態度 レポート提出 課題テストの提出		
評価法	グループワークでの態度・提出レポート、課題テストなどで評価する。医師となるのに必要な素養を見につけるための授業であるので、録画の視聴を含めて、原則、全授業を出席することを単位認定の条件とする。出席は授業内で行う出席アンケート(Forms)で確認する。明らかに出席日数が不足する学生には、Teamsで録画した授業の視聴を求める。		
予習・復習へのアドバイス	生命医療倫理学は、医師になるために必須の素養を身につけるための授業である。興味と気概を持って授業に臨むこと。授業で学んだ内容について、自らネットを使って、知識を補充することが望ましい。		
履修上の注意 アドバイス	課題が出た際には、速やかにmoodleにて提出すること。 学外からの非常勤講師の授業が多いので、礼儀には気を付けること。 医学生としての姿勢を問う授業であるので、積極的に取り組むこと。		
推奨参考書	特になし 毎回の授業の講義プリント moodleの授業資料		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/12/07(月)	5・6	生命・医療倫理学I	ガイダンス 生命倫理学 概論	遺伝子診療科	檜井 孝夫
2026/12/07(月)	7・8	生命・医療倫理学I	研究倫理	遺伝子診療科	檜井 孝夫
2026/12/14(月)	7・8	生命・医療倫理学I	医療格差と倫理	地域医療システム学講座	松本 正俊
2026/12/21(月)	5・6	生命・医療倫理学I	患者の意志決定と終末期患者のこころの動き	精神科	倉田 明子
2026/12/21(月)	7・8	生命・医療倫理学I	医学史(医師の倫理)	医学教育センター	蓮沼 直子
2027/01/18(月)	5・6	生命・医療倫理学I	アンプロフェッショナルな医学生の行動を考える	医学教育センター	蓮沼 直子・服部 稔
2027/01/18(月)	7・8	生命・医療倫理学I	アンプロフェッショナルな医学生の行動を考える	医学教育センター	蓮沼 直子・服部 稔
2027/02/01(月)	5・6	生命・医療倫理学I	アルコール依存	客員教授等	酒井 規雄
2027/02/01(月)	7・8	生命・医療倫理学I	アルコール依存	客員教授等	酒井 規雄

授業科目名	医療行動学 (Behavioural Science in Medical Learning)		
対象学年	1年生	単位数	2単位
科目責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	10月～1月の間に、講義、グループワーク、医療面接・診療技能修得のための実習、研究室・病院実習を行う。		
概要	<p>本科目でめざすのは、「よい医師であるためには何を持っていなければいけないかを考え、それを得るために、6年間の在学中に自分が何をすればよいかを考え、計画する」ことである。そのために、医師の仕事に関わるいろいろな要素にスポットを当て、実際に医師のさまざまな仕事や医療現場を見学・体験する。本科目を通じて、6年間の医学生生活のなかで、何を達成することをめざし、そのために自分が何をやるのかを、じっくり考えてもらいたい。</p>		
到達目標	<p>よい医師となるために必要な能力、資質について自らの考えを述べることができる</p> <p>医師に必要な資質を身に着けるために、在学中に自分が何を学ぶか計画することができる</p> <p>医療におけるコミュニケーションスキルの重要性を説明し、実践できる</p> <p>地域医療、医療安全、漢方医学など様々な分野について医療における位置づけを説明できる</p> <p>人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる</p> <p>適切な言語・非言語コミュニケーションスキルを身に着け、活用できる</p> <p>医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる</p> <p>アカデミックライティング：課題について、ルールに従ってわかりやすく書くことができる。また適切にピア評価を行うことができる。</p> <p>実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。</p> <p>R4. 改訂版医学教育モデルコアカリキュラムとの関連</p> 		
講義日程	講義は対面で行う。実習はグループ単位で実施する。別途通知する日程を参照のこと。		
出席の取り扱い	講義や実習については、原則すべてに出席すること。Teamsでの掲示板討論を行う場合は、所定の回数書き込みを行うことを単位認定の要件とする。講義の出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが、講義中のプロダクトの提出、その他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。		
評価項目	講義・実習で行ったこと、学んだこと、感想を実習ごとにレポートに記載し提出する。その内容を評価する。また、グループワークのプロダクト、ピア評価も評価対象となる。講義・実習における積極性、態度も評価される。		
評価法	Forms、講義レポート、実習レポート、グループワークのプロダクト、ピア評価を加算のうえ、総合点で評価する。6割以上で合格とする。		
予習・復習へのアドバイス	当日のうちに講義内容やグループワークの気づきをまとめ、「これからの学びにどう活かすか」などを整理しましょう。		
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 特になし		

授業科目名	合同早期体験実習		
対象学年	医歯薬学部1年生	単位	-
科目責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	実習		
概要	病院の受付・案内，ボランティア・介護体験実習，保険薬局見学実習等を予定している。		
到達目標	<p>様々な医療施設において，医学部・歯学部・薬学部の学生が見学や体験実習などの行動を共にすることによって，福祉や医療・医学の現場を知り，専門の異なる医療関係者の相互協力の重要性を理解するとともに，その一端を担う医療人となるべき心構えと必要な条件を自覚する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者や障害者を取り巻く様々な医療関係者の役割を述べるができる。</li> <li>2) チーム医療の仕組みとその重要性を述べるができる。</li> <li>3) 実習内容について，各専門分野の立場に立って討論することができる。</li> <li>4) 医療や福祉の現場における問題点を述べるができる。</li> <li>5) 医師・看護師その他のコメディカルの方々と仕事を共にすることができる。</li> <li>6) 患者や障害者と行動を共にすることができる。</li> <li>7) 患者や障害者の不安や苦痛を述べるができる。</li> <li>8) 先端の医薬学研究と実践医療との関連を述べるができる。</li> </ol> <p>R4. 改訂版医学教育モデルコアカリキュラムとの関連</p> 		
講義日程	説明会 別途通知 実習 8月～9月の連続した2日間		
出席の取り扱い	実習のため欠席は認めない。やむを得ないものについては個別に相談すること。		
評価項目	身だしなみ、態度、下記グループおよび個人でのプロダクト。		
評価法	グループとしてはグループごとに作成した実習計画表及び振り返りシート、実習先からの評価を用いる。また、個別にはレポートにて評価する。		
予習・復習へのアドバイス	事前に訪問する実習施設の概要や特色を把握しておきましょう。どのような利用者がいるのか、どんなサービスや活動を行っているのかを事前に理解しておく、見学や体験がより有意義になります。		
履修上の注意 アドバイス	事前の説明会に参加すること。		
推奨参考書			

授業科目名	グローバルリーダー概論 (Outline of the Global leadership role)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	たなか じゅんこ 田中 純子	所属	医療政策室
授業方法	講義、ディスカッション、学生の発表、ワークショップ		
概要	幅広い専門分野でグローバルリーダーとして活躍する講師陣からグローバルリーダーの現状と課題について学ぶ。グローバル社会においてリーダーとして活躍するために必要な教養、国際的視野を身につける。学生のグループワークでは国際協力の現場におけるさまざまな課題を設定して議論し、解決案を提案する力を育成する。		
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル社会において求められているリーダーとは何かを学ぶ</li> <li>2. 医学・医療以外の分野におけるグローバルリーダーから学ぶことで、国際社会におけるリーダーとしての役割の共通性についての認識を深める</li> <li>3. 国際的課題を理解し、国際協力においてリーダー的役割を担う医師を養成する</li> </ol> <p>令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの関連する項目</p> 		
講義日程	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆6/10 (水) 渡辺その子氏 (JAXA 副理事長)</li> <li>◆6/17 (水) 藤井裕子氏 (柔道家)</li> <li>◆6/24 (水) 吉田和弘氏 (岐阜大学長)</li> <li>◆7/8 (水) 藤原康弘氏 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事長)</li> <li>◆7/15 (水) 越智光夫氏 (広島大学 学長)</li> <li>◆7/22 (水) 三山秀昭氏 (広島テレビ放送株式会社 顧問)</li> <li>◆7/29 (水) 田中純子氏 (広島大学 理事・副学長／特任教授)</li> </ul>		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	各講義ごとの課題レポート (ワークショップでの発表を含む)、および講義の受講態度等により総合的に判断する。なお、講義中の積極的な質疑や姿勢などを重視する。出席の取り扱いについては医学部医学科のルールに従うものとする。		
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意 アドバイス	自発的意見の発言を求める。		
推奨参考書	参考書などは授業の際に提示する。		

授業科目名	コミュニケーション学 (Human Relations)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	いとう まさのり 伊藤 公訓	所属	総合診療科
科目 コーディネーター	いけだ こうたろう 池田 晃太郎	所属	総合診療科
授業方法	講義, グループワークなどを予定しています.		
概要	医療の様々な場面で求められるコミュニケーションスキル, その活用のために必要な 周辺知識について幅広く学んで頂きます.		
科目の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CM-01: 患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮</li> <li>・ CM-02: 患者の意思決定の支援とそのため情報収集・わかりやすい説明</li> <li>・ CM-03: 患者や家族のニーズの把握と配慮</li> <li>・ GE-01-03: 患者中心の医療</li> <li>・ GE-01-04: 根拠に基づいた医療 (EBM)</li> <li>・ GS-01-01-01: 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる.</li> </ul> ※数字等は「医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版)」の該当箇所		
講義日程	別紙日程表を参照して下さい.		
出席の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席数はFormsでカウントします.</li> <li>・ 欠席時は「科目責任者」および「科目コーディネーター」への連絡は不要です. (学生支援グループへの欠席届提出など, 既定の手続きをお願いします)</li> <li>・ 欠席理由やFormsの提出忘れ等について連絡を頂いても返答しかねます.</li> <li>・ いかなる理由も含め欠席が講義の1/3以上の場合, 試験の受験資格はありません.</li> <li>・ とりまとめの関係上, 試験受験後に受験資格がないことが判明する場合があります.</li> <li>・ その他出席等の取り扱いは広島大学医学部医学科のグランドルールに従います.</li> </ul>		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席状況, 試験結果を総合して評価を行います.</li> <li>・ 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めません.</li> <li>・ 試験は記述式もしくはマークシート方式を予定しています.</li> </ul>		
予習・復習への アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習: 必要ありません.</li> <li>・ 復習: 講義毎に各自でまとめた内容を振り返るようにお願いします.</li> </ul>		
履修上の注意 アドバイス	問い合わせが必要な場合, 「科目コーディネーター」のみに連絡をお願いします.		
推奨参考書	必要に応じて講義内で紹介させていただきます.		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/07(水)	1・2	コミュニケーション学	総論	総合診療科	伊藤 公訓
2026/10/14(水)	1・2	コミュニケーション学	外来診療とコミュニケーション	客員教授等	横林 賢一
2026/10/21(水)	1・2	コミュニケーション学	患者さんとのコミュニケーション 1	総合診療科	池田 晃太郎
2026/10/28(水)	1・2	コミュニケーション学	総合診療とコミュニケーション 1	総合診療科	重信 友宇也
2026/11/04(水)	1・2	コミュニケーション学	アドバンス・ケア・プランニング 1	総合診療科	原武 大介
2026/11/11(水)	1・2	コミュニケーション学	救急診療とコミュニケーション	総合診療科	宮森 大輔
2026/11/18(水)	1・2	コミュニケーション学	患者さんとのコミュニケーション 2	客員教授等	河原 章浩
2026/11/25(水)	1・2	コミュニケーション学	医療におけるリスクマネジメント	総合診療科	吉田 秀平
2026/12/02(水)	1・2	コミュニケーション学	医療者同士のコミュニケーション	総合診療科	池田 晃太郎
2026/12/09(水)	1・2	コミュニケーション学	プライマリケアとコミュニケーション	客員教授等	小林 知貴
2026/12/16(水)	1・2	コミュニケーション学	型破り研修医処世術	客員教授等	上田 剛士
2026/12/23(水)	1・2	コミュニケーション学	総合診療とコミュニケーション 2	総合診療科	重信 友宇也
2027/01/13(水)	1・2	コミュニケーション学	アドバンス・ケア・プランニング 2	総合診療科	原武 大介
2027/01/20(水)	1・2	コミュニケーション学	医療とプレゼンテーションスキル	客員教授等	岸川 暢介
2027/01/27(水)	1・2	コミュニケーション学	総括	客員教授等	田妻 進
2027/02/03(水)	1・2	コミュニケーション学	試験	総合診療科	池田 晃太郎

授業科目名	脳神経医学I (Medical Neuroscience I)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学
授業方法	講義（講義補助用資料配布）・演習		
概要	医師となるために必要な脳神経の基盤医学的知識の習得に向けて、解剖学・生理学などの専門分野にわたる神経系の構造と機能を横断的に学習する。		
講義ユニットの到達目標	<p>細胞内液・外液のイオン組成、浸透圧と静止(膜)電位を説明できる。</p> <p>膜のイオンチャネル、ポンプ、受容体と酵素の機能を概説できる。</p> <p>細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を説明できる。</p> <p>神経組織の微細構造を説明できる。</p> <p>活動電位の発生機構と伝導を説明できる。</p> <p>シナプス（神経筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。</p> <p>刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。</p> <p>反射を説明できる。</p> <p>中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。</p> <p>主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリンなど）とその作用を説明できる。</p> <p>脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。</p> <p>脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢）の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布（デルマトーム）を概説できる。</p> <p>脳幹の構造と伝導路を説明できる。</p> <p>脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。</p> <p>脳幹の機能を概説できる。</p> <p>大脳の構造を説明できる。</p> <p>小脳の構造と機能を概説できる。</p> <p>交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと（1年次 第4ターム）		
出席の取り扱い	講義について；出席状況把握システムもしくはTeamsでの出席履歴・Forms・小テスト・レポート課題などにより出席をとる。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）		
評価法	講義の終了後に筆記試験を行う。評価は筆記試験の結果を中心として、授業後の小テスト、講義への参加態度などを踏まえて総合的に評価する。		
予習・復習へのアドバイス	講義前後に配布資料を確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意アドバイス	神経系という共通したシステムに対して、解剖学や生理学など異なったアプローチで理解を進めるため、各回の講義で得られる知識をよく整理して学習する。		
推奨参考書	<p>人体の正常構造と機能（縮刷版、日本医事新報）、イラスト解剖学 第10版（中外医学社）、標準生理学（医学書院）、カandel神経科学（メディカルサイエンスインターナショナル）</p>		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/12/03(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	脳神経系の理解に向けた基礎医学総論	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/03(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	脳神経系の理解に向けた臨床医学総論	脳神経外科学	堀江 信貴
2026/12/10(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	神経系を構成する細胞とその成り立ち	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/10(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	脳・脊髄の構造（１）	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/17(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	脳・脊髄の構造（２）	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/17(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	髄膜と脳循環	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/24(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	運動の実行：大脳皮質・脳幹・脊髄	神経生物学	相澤 秀紀
2026/12/24(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	脊髄神経・自律神経系総論	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2027/01/07(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	脳神経総論	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2027/01/07(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	静止膜電位	神経生理学	橋本 浩一
2027/01/21(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	活動電位（１）	神経生理学	橋本 浩一
2027/01/21(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	活動電位（２）	神経生理学	橋本 浩一
2027/01/28(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	シナプス伝達（１）	神経生理学	橋本 浩一
2027/01/28(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	シナプス伝達（２）	神経生理学	吉田 隆行
2027/02/04(木)	1・2	脳神経医学Ⅰ	試験	神経生物学	相澤 秀紀・池上 浩司・ 橋本 浩一・吉田 隆行
2027/02/04(木)	3・4	脳神経医学Ⅰ	試験	神経生物学	相澤 秀紀・池上 浩司・ 橋本 浩一・吉田 隆行

授業科目名	人体構造学 I (Structure of human body Part I)		
対象学年	医学部医学科 1 年生	単位	2 単位
科目責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	講義		
概要	<p>多様な生物の一つである人間の理解へ向けて、人体を構成する器官や組織、細胞の示す形態学的な特徴を学ぶ。具体的には「PS-01-02 個体の構成と機能」「PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」に関連する以下の項目を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物のひとつの種であるヒト <i>Homo sapiens</i> の体を、形態学の面から理解する</li> <li>・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで把握する</li> <li>・各器官の構造をその機能的意味と関連付けて理解する</li> </ul>		
	<p>PS-01-02-10 上皮組織と腺の構造と機能について理解している</p> <p>PS-01-02-11 支持組織を構成する細胞と細胞間質(線維成分と基質)について理解している</p> <p>PS-01-02-12 血管とリンパ管の微細構造と機能について理解している</p> <p>PS-01-02-14 筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して理解している</p> <p>PS-01-02-16 位置関係を方向用語(上・下、前・後、内側・外側、浅・深、頭側・尾側、背側・腹側、近位・遠位、内転・外転)で理解している</p> <p>PS-01-02-19 生体の恒常性維持と適応、恒常性維持のための調節機構(フィードバック調節)について理解している</p> <p>PS-01-02-22 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像、胚内体腔の形成過程について概要を理解している</p> <p>PS-01-03-18 免疫反応に関わる組織と細胞について理解している</p> <p>PS-02-02-01 血液・造血器・リンパ系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-1) 骨髄の構造、脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる</p> <p>(表2-1) 造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程、白血球の種類と機能を説明できる</p> <p>(表2-1) 赤血球とヘモグロビンの構造と機能、血漿タンパク質の種類と機能を説明できる</p> <p>PS-02-03-01 神経系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-2) 痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる</p> <p>(表2-2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を説明できる</p> <p>(表2-2) 内分泌及び自律機能と関連づけた視床下部の構造と機能を説明できる</p> <p>PS-02-04-01 皮膚系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-3) 皮膚の組織構造を説明できる</p> <p>PS-02-05-01 運動器(筋骨格)系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-4) 骨・軟骨・関節・靭帯の構成と機能、骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる</p> <p>(表2-4) 頭頸部の構成、脊柱の構成と機能を説明できる</p> <p>(表2-4) 四肢の骨格、主要筋群の運動と神経支配、骨盤の構成と性差を説明できる</p> <p>(表2-4) 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群、抗重力筋を説明できる</p> <p>PS-02-06-01 循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-5) 心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる</p>		

到達目標

- (表2-5) 心筋細胞の微細構造と機能、心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系を説明できる
- (表2-5) 体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる
- (表2-5) 大動脈と主な分枝(頭頸部、上肢、胸部、腹部、下肢)を図示し分布域を説明できる
- (表2-5) 主な静脈、門脈系と上・下大静脈系を説明できる
- (表2-5) 毛細血管における物質・水分交換を説明できる
- (表2-5) 胸管を経由するリンパの流れを説明できる
- PS-02-07-01 呼吸器系の構造と機能について基本的事項について理解している
- (表2-6) 気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造、肺循環と体循環の違いを説明できる
- (表2-6) 縦隔と胸膜腔の構造、呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる
- (表2-6) 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる
- (表2-6) 気道と肺の防御機構(免疫学的・非免疫学的)と代謝機能を説明できる
- PS-02-08-01 消化器系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-7) 各消化器官の位置、形態と関係する血管、腹膜と臓器の関係を説明できる
- (表2-7) 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる
- (表2-7) 消化管運動の仕組み、肝の構造と機能を説明できる
- (表2-7) 歯、舌、唾液腺の構造と機能、咀嚼と嚥下の機構を説明できる
- PS-02-09-01 腎・尿路系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-8) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる
- (表2-8) 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を説明できる
- (表2-8) 腎糸球体における濾過の機序を説明できる
- (表2-8) 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序、蓄排尿の機序を説明できる
- PS-02-10-01 生殖器系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-9) 男性生殖器の形態と機能、精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる
- (表2-9) 女性生殖器の形態と機能、性周期発現と排卵の機序を説明できる
- (表2-9) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる
- PS-02-11-01 妊娠と分娩に関する構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-10) 胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的变化を説明できる
- PS-02-14-01 内分泌・栄養・代謝系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-13) 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる
- (表2-13) 甲状腺と副甲状腺(上皮小体)から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる
- (表2-13) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる
- (表2-13) 膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる
- (表2-13) 男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる
- PS-02-15-01 眼・視覚系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-14) 眼球と付属器の構造、視覚情報の受容の仕組みと伝導路を説明できる
- (表2-14) 眼球運動の仕組みを説明できる
- PS-02-16-01 耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能について基本的事項を理解している
- (表2-15) 外耳・中耳・内耳の構造、聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる
- (表2-15) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造、喉頭の機能と神経支配を説明できる
- (表2-15) 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる

<p>講義日程</p>	<p>第1回 人体解剖学概論  第2回 組織学概論  第3回 循環器系Ⅰ  第4回 循環器系Ⅱ  第5回 呼吸器系  第6回 消化器系Ⅰ  第7回 消化器系Ⅱ  第8回 泌尿器系  第9回 生殖器系  第10回 内分泌系  第11回 骨格系  第12回 筋系  第13回 血液・外皮  第14回 感覚器  第15回 人体発生概論  第16回 筆記試験（期末試験）  （場合によってレポートを課すことがある）  （授業計画は受講者の理解度や講義の都合により変更の可能性がある）</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。  出席はオンラインフォームの提出および学生証の読み取りにより行う。  講義の出席が3分の2に満たない学生については試験を受けられない。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>第4ターム末に期末試験を行う。期末試験における合格最低基準は60点とする。  最終評価は期末試験の結果を中心に、講義への参加態度なども踏まえて総合的に判断する。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>[予習]  授業資料は事前に配布されるので、ざっと目を通しておくとよい。  [復習]  メモを書き込んだ授業資料を見返しなが、推奨参考書を読んで要点を書き出して“My学習ノート”をまとめるとよい。</p>
<p>履修上の注意 アドバイス</p>	<p>参考書を参照しながら、授業中に出题する確認問題などの演習で理解度を確認し、学習をすすめる。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>以下のいずれかを推奨する：  ・ カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで（西村書店）  ・ イラスト解剖学（中外医学社）  ・ 解剖学講義（南山堂）  ・ カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版（日本医事新報社）  ・ 臨床のための人体解剖学（メディカルサイエンスインターナショナル）</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/07(水)	3・4	人体構造学I	人体解剖学概論	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/10/14(水)	3・4	人体構造学I	組織学概論	神経生物学	相澤 秀紀
2026/10/21(水)	3・4	人体構造学I	循環器系Ⅰ	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/10/28(水)	3・4	人体構造学I	循環器系Ⅱ	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/11/04(水)	3・4	人体構造学I	呼吸器系	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/11/11(水)	3・4	人体構造学I	消化器系Ⅰ	解剖学及び発生生物学	坂本 信之
2026/11/18(水)	3・4	人体構造学I	消化器系Ⅱ	解剖学及び発生生物学	坂本 信之
2026/11/25(水)	3・4	人体構造学I	泌尿器系	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/12/02(水)	3・4	人体構造学I	生殖器系	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/12/09(水)	3・4	人体構造学I	内分泌系	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2026/12/16(水)	3・4	人体構造学I	骨格系	解剖学及び発生生物学	中里 亮太
2026/12/23(水)	3・4	人体構造学I	筋系	解剖学及び発生生物学	中里 亮太
2027/01/13(水)	3・4	人体構造学I	血液・外皮	神経生物学	相澤 秀紀
2027/01/20(水)	3・4	人体構造学I	感覚器	解剖学及び発生生物学	中里 亮太
2027/01/27(水)	3・4	人体構造学I	人体発生概論	解剖学及び発生生物学	池上 浩司
2027/02/03(水)	3・4	人体構造学I	試験		

**2 年 次 生**

		月	火	水	木	金
時間	曜日	3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	4月3日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	曜日	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日
1・2	8:40-10:15			組織細胞機能学(生化学1)(1) 細胞生物学(細胞と細胞周期) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学2)(1) 酵素の機能と調節 医化学(森脇 健太) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(2) 細胞生物学(タンパク質分解) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室
3・4	10:25-12:00			脳神経医学Ⅱ(1) 大脳皮質の機能局在・運動の調節 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(人体発生学)(1) 人体発生学1(筋骨格系・四肢の発生) 解剖学1(中里 亮太) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(3) 細胞生物学(小胞体) 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室
5・6	12:50-14:25			人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(1) 全身の概観と脊柱、肋骨(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(3) 上肢・上肢帯(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(5) 下肢・下肢帯(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室
7・8	14:35-16:10			人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(2) 全身の概観と脊柱、肋骨(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(4) 上肢・上肢帯(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(6) 下肢・下肢帯(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室
9・10	16:20-17:55					
時間	曜日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(1) メンデル遺伝1 講義の概要、メンデルの法則、家計図の作成 遺伝子診療科(権井 孝夫) 第5講義室	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)(1) 体表、頸部浅層、頭骨下の解剖 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室	脳神経医学Ⅱ(2) 脊髄と体性感覚 神経生物学(半田 高史) 第3講義室	脳神経医学Ⅱ(3) 記憶・学習・情動・意識 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(4) 細胞生物学(ゴルジ体・リソソーム・ペルオキシソーム) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	組織細胞機能学(生化学2)(2) 酵素の反応速度論 医化学(森脇 健太) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(1) オリエンテーション・原爆被害者の疫学 放射線影響評価部門計量生物・客員教授等(吉永 信治・坂田 律(客員教 授等)) 第5講義室	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)(2) 実習を始めるにあたって、白苟会理事講話、慰霊碑参拝 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(人体発生学)(2) 人体発生学2(循環器系の発生) 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(5) 細胞生物学(ミトコンドリア・葉緑体) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学Ⅱ(組織学)(1) 講義1(概要、顕微鏡の成り立ち・使い方) 神経生物学(相澤 秀紀、Deepa Kasaragod) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(7) あたま(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(1) 実習ガイダンス、準備(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(4) 広頸筋、乳腺、皮神経、皮静脈(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(7) 胸腹部浅層、頸神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学Ⅱ(組織学)(2) 実習1(形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀、Deepa Kasaragod) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)(8) あたま(形態系実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(2) 体幹前面の皮膚剥離(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(5) 広頸筋、乳腺、皮神経、皮静脈(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(9) 胸腹部浅層、頸神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55			人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(3) 体幹前面の皮膚剥離(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(6) 広頸筋、乳腺、皮神経、皮静脈(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(9) 胸腹部浅層、頸神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(2) メンデル遺伝2 ヒトのメンデル遺伝の概念と一般原則 放射線ゲノム疾患研究分野(浅野 孝基) 第5講義室	組織細胞機能学(生化学2)(3) 糖質代謝(1) 医化学(中津 祐介) 第3講義室	人体構造学II(人体発生学)(3) 人体発生学3(消化器系・呼吸器系の発生) 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室	人体構造学II(系統解剖学)(3) 肩から上肢の解剖 解剖学1(中里 亮太) 第3講義室	脳神経医学II(5) Microscopy of the nervous tissue 神経生物学(KASARAGOD DEEPA KAMATH) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	組織細胞機能学(生化学1)(6) 細胞生物学(細胞膜) 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(2) 放射線の物理現象と生物影響の接点 客員准教授(飯塚 大輔) 第5講義室	脳神経医学II(4) 聴覚・化学感覚の情報伝達経路 神経生物学(半田 高史) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(7) 細胞生物学(細胞骨格・接着装置) 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室	脳神経医学II(6) 視覚の情報伝達経路 神経生物学(松股 美穂) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学II(組織学)(3) 講義2(消化器1) 神経生物学(相澤 秀紀、Deeпа Kasaragod) 第3講義室	人体構造学II(人体解剖学実習)(10) 背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(13) 首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(18) 鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(19) 上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学II(組織学)(4) 実習2(形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀、Deeпа Kasaragod) 形態系実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(11) 背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(14) 首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(17) 鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(21) 上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学II(人体解剖学実習)(12) 背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(15) 首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(18) 鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(21) 上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
時限	時間	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(3) メンデル遺伝3 代表的な単一遺伝子病の臨床症状と診断・治療 脳神経内科(丸山 博文) 第5講義室	脳神経医学II(8) 前庭系と動眼系 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室			組織細胞機能学(生化学2)(4) 糖質代謝(2) 医化学(中津 祐介) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学II(7) 三叉神経系と内臓感覚系 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(3) 放射線物理の基礎 放射線影響評価部門・線量測定評価(保田 浩志) 第5講義室			人体構造学II(人体発生学)(4) 人体発生学4(泌尿生殖器系の発生) 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学II(組織学)(5) 講義3(消化器2) 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学II(人体解剖学実習)(24) 上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II(人体解剖学実習【骨学実習】)(10) 試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 第5講義室	人体構造学II(人体解剖学実習)(25) 前腕屈側伸側, 手背(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学II(組織学)(6) 実習3(形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀) 形態系実習室	人体構造学II(人体解剖学実習)(23) 上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II(人体解剖学実習【骨学実習】)(10) 試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 第5講義室	人体構造学II(人体解剖学実習)(28) 前腕屈側伸側, 手背(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学II(人体解剖学実習)(24) 上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室			人体構造学II(人体解剖学実習)(27) 前腕屈側伸側, 手背(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学 (3) メンデル遺伝 3 代表的な単一遺伝子病の臨床症状と診断・治療 脳神経内科(丸山 博文) 第5講義室	脳神経医学 II (8) 視覚系と動眼系 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室			組織細胞機能学 (生化学2) (4) 糖質代謝 (2) 医化学(中津 祐介) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学 II (7) 三叉神経系と内臓感覚系 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (3) 放射線物理の基礎 放射線影響評価部門・線量測定評価(保田 浩志) 第5講義室			人体構造学 II (人体発生学) (4) 人体発生学4 (泌尿生殖器系の発生) 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学 II (組織学) (5) 講義3 (消化器 2) 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (24) 上腕伸側, 肩甲骨背面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学 II (人体解剖学実習【骨学実習】) (10) 試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 第5講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (25) 前腕屈側伸側, 手背 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学 II (組織学) (6) 実習3 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀) 形態系実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (23) 上腕伸側, 肩甲骨背面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学 II (人体解剖学実習【骨学実習】) (10) 試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 第5講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (28) 前腕屈側伸側, 手背 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学 II (人体解剖学実習) (24) 上腕伸側, 肩甲骨背面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室			人体構造学 II (人体解剖学実習) (27) 前腕屈側伸側, 手背 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
時間		5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日
1・2	8:40-10:15				人体構造学 II (人体発生学) (5) 人体発生学5 (顔面・頭頸部の発生) 解剖学1(坂本 信之) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (5) 糖質代謝 (3) 医化学(中津 祐介) 第3講義室
3・4	10:25-12:00				脳神経医学 II (9) 視床下部と内臓機能の調節 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学 II (系統解剖学) (4) 背, 鼠径部, 胸部の解剖 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室
5・6	12:50-14:25				人体構造学 II (人体解剖学実習) (28) 口頭試験1 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (31) 手のひら (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10				人体構造学 II (人体解剖学実習) (29) 口頭試験1 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (32) 手のひら (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55				人体構造学 II (人体解剖学実習) (30) 口頭試験1 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (33) 手のひら (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
時間		5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学 (4) 細胞遺伝学 1 染色体の基礎 客員教授等(三春 龍夫) 第5講義室	組織細胞機能学 (生化学1) (8) 細胞生物学(坂3) 原医研(田代 聡) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (6) 糖質代謝 (4) 医化学(中津 祐介) 第3講義室	脳神経医学 II (12) 中枢神経薬理1 (パーキンソン病) 薬理学(田中 茂) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学1) (9) 細胞生物学(坂2) 原医研(田代 聡) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学 II (10) 末梢神経薬理 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (4) 放射線の生物学的影響 (1)・DNA損傷修復機構 放射線医学研究部門・放射線ゲノム疾患(浅野 孝基) 第5講義室	脳神経医学 II (11) 末梢神経薬理 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	脳神経医学 II (13) 中枢神経薬理2 (統合失調症, 薬物依存) 薬理学(田中 茂) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学1) (10) ビタミン 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学 II (組織学) (8) 講義4 (泌尿器) 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (34) 手の深層, 上肢の関節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (37) 固有背筋, 項の筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (40) 背筋, 腹壁の筋, 鼠径部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (45) 腹直筋, 腹膜, 膈 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学 II (組織学) (8) 実習4 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀) 形態系実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (35) 手の深層, 上肢の関節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (38) 固有背筋, 項の筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (41) 背筋, 腹壁の筋, 鼠径部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (44) 腹直筋, 腹膜, 膈 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学 II (人体解剖学実習) (36) 手の深層, 上肢の関節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (42) 固有背筋, 項の筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (42) 背筋, 腹壁の筋, 鼠径部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (45) 腹直筋, 腹膜, 膈 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日
1-2	8:40-10:15	細胞遺伝学 (5) 細胞遺伝学2 染色体異常症の臨床、出生前診断と着床前診断 産科婦人科(山崎 友美) 第5講義室		組織細胞機能学 (生化学1) (11) 細胞生物学(統③) 原医研(田代 聡) 第3講義室	脳神経医学II (14) 中枢神経薬理3 (気分障害・不眠・神経症性障害) 薬理学(田中 茂) 第3講義室	
3-4	10:25-12:00	組織細胞機能学 (生化学2) (7) 複合糖質 医化学(森脇 健太) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (5) 放射線の生物学的影響 (2) 染色体損傷 放射線影響評価部門・細胞修復制御(田代 聡) 第5講義室		脳神経医学II (15) 中枢神経薬理4 (てんかん) 薬理学(田中 茂) 第3講義室	脳神経医学II (16) 中枢神経薬理5 (麻酔薬) 薬理学(田中 茂) 第3講義室
5-6	12:50-14:25	人体構造学II (組織学) (9) 講義5 (呼吸器) 神経生物学(相澤 秀紀) 第3講義室	人体構造学II (人体解剖学実習) (46) 口頭試験2 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (49) 胸壁、胸膜、胸膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (52) 肺、くび深層、縦隔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (55) 心臓、縦隔深部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7-8	14:35-16:10	人体構造学II (組織学) (10) 実習5 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀) 形態系実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (47) 口頭試験2 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (52) 胸壁、胸膜、胸膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (53) 肺、くび深層、縦隔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (56) 心臓、縦隔深部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9-10	16:20-17:55		人体構造学II (人体解剖学実習) (48) 口頭試験2 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (53) 胸壁、胸膜、胸膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (54) 肺、くび深層、縦隔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (57) 心臓、縦隔深部 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
1-2	8:40-10:15	5月25日 人類遺伝学 (6) 遺伝子の多様性と異常 分子疫学研究分野(久米 広大) 第5講義室	5月26日 組織細胞機能学 (生化学1) (12) 中間試験 分子細胞情報学(金本 聡自) 第5講義室	5月27日	5月28日	5月29日 組織細胞機能学 (生化学1) (14) ヘムとポルフィリン 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室
3-4	10:25-12:00	人体構造学II (系統解剖学) (5) 腹部の解剖 解剖学1(坂本 信之) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (6) 放射線の生物学的影響 (3) 放射線がん 放射線医学研究部門・分子がん制御(笹谷 めくみ) 第5講義室	組織細胞機能学 (生化学1) (13) 細胞生物学(統④) 原医研(田代 聡) 第3講義室	脳神経医学II (17) 筋生理、聴覚 神経生理学(橋本 浩一) 第3講義室	脳神経医学II (18) 聴覚、平衡感覚、視覚 神経生理学(橋本 浩一) 第3講義室
5-6	12:50-14:25	人体構造学II (組織学) (11) 講義6 (リンパ器官) 神経生物学(半田 高史) 第3講義室	人体構造学II (人体解剖学実習) (62) 腹部内臓、腹膜、腹膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (64) 口頭試験3 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (64) 腸、胃、肝臓 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (69) 腹膜後器官、脾臓、後胸壁・後腹壁 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7-8	14:35-16:10	人体構造学II (組織学) (12) 実習6 (形態系実習室) 神経生物学(半田 高史) 形態系実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (59) 腹部内臓、腹膜、腹膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (62) 口頭試験3 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (65) 腸、胃、肝臓 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (68) 腹膜後器官、脾臓、後胸壁・後腹壁 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9-10	16:20-17:55		人体構造学II (人体解剖学実習) (60) 腹部内臓、腹膜、腹膜腔 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (63) 口頭試験3 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (66) 腸、胃、肝臓 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学II (人体解剖学実習) (69) 腹膜後器官、脾臓、後胸壁・後腹壁 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室

		月	火	水	木	金
曜日	時間	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(7) 染色体異常による先天異常 ダウン症、18トリソミーなど 小児科(岡田 寛) 第5講義室	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)(6) 下肢の解剖 解剖学1(中里 亮太) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学1)(15) 細胞内代謝とエネルギー代謝 客員教授等(上田 健) 第3講義室		脳神経医学Ⅱ(20) 自律神経 神経生理学(吉田 隆行) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学Ⅱ(19) 味覚・嗅覚 神経生理学(吉田 隆行) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(7) 医療放射線と人体影響(1)核医学検査・治療における被曝影響と放射線防護対策 客員教授等(工藤 崇) 第5講義室	組織細胞機能学(生化学1)(16) 細胞内代謝とエネルギー代謝 客員教授等(上田 健) 第3講義室		組織細胞機能学(生化学1)(17) 分子生物学(受容体とシグナル伝達) 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学Ⅱ(人体発生学)(6) 試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 第5講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(74) 横隔膜、腹神経叢、下肢の表層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(73) 大腿筋膜、大殿筋、大腿前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(76) 下肢の後面深層、膝窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(79) 口頭試問4(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(71) 横隔膜、腹神経叢、下肢の表層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(78) 大腿筋膜、大殿筋、大腿前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(77) 下肢の後面深層、膝窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(80) 口頭試問4(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(72) 横隔膜、腹神経叢、下肢の表層(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(75) 大腿筋膜、大殿筋、大腿前面(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(78) 下肢の後面深層、膝窩(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(81) 口頭試問4(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室
		6月9日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(8) ミトコンドリア遺伝 客員教授等(但馬 剛) 第5講義室	組織細胞機能学(生化学2)(8) ヌクレオチド代謝 医化学(森脇 健太) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)(7) 骨盤腔の解剖 解剖学1(坂本 信之) 第3講義室		組織細胞機能学(生理学)(1) 生理学総論 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学Ⅱ(21) 体性感覚 神経生理学(久保 怜香) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(8) 医療放射線と人体影響(2)放射線治療のための生物学 放射線治療科(村上 祐司) 第5講義室	脳神経医学Ⅱ(22) 運動野・小脳 神経生理学(橋本 浩一) 第3講義室	脳神経医学Ⅱ(23) 概日リズム 客員教授等(内匠 透) 第3講義室	組織細胞機能学(生理学)(2) 細胞生理：細胞の活動と膜電位 生理学及び生物物理学(下村 拓史) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学Ⅱ(組織学)(13) 講義7(生殖腺) 神経生物学(半田 高史) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(82) 下腿の前面と足(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(85) 下腿の最深層、膝と足の関節、膀胱(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目(1) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(88) 外陰部、会陰(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学Ⅱ(組織学)(14) 実習7(形態系実習室) 神経生物学(半田 高史) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(83) 下腿の前面と足(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(86) 下腿の最深層、膝と足の関節、膀胱(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目(2) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(89) 外陰部、会陰(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(84) 下腿の前面と足(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(87) 下腿の最深層、膝と足の関節、膀胱(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(90) 外陰部、会陰(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
		6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学(9) 遺伝医学的検査/集団遺伝・多因子遺伝 遺伝子診療科(新津 宏明) 第5講義室	脳神経医学Ⅱ(24) 小脳・基底核 神経生理学(橋本 浩一) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学2)(9) 脂質代謝(1) 医化学(中津 祐介) 第3講義室		組織細胞機能学(生理学)(3) 細胞生理2：吸収上皮細胞と膜輸送 生理学及び生物物理学(下村 拓史) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	組織細胞機能学(生化学1)(18) 分子生物学(遺伝子発現調節とタンパク質合成) 分子細胞情報学(金本 聡自) 第3講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学(9) 医療放射線と人体影響(3)診断放射線による被曝影響と放射線防護法 放射線診断科(中村 優子) 第5講義室		脳神経医学Ⅱ(25) 基底核・高次機能 神経生理学(岡田 佳奈) 第3講義室	組織細胞機能学(生理学)(4) 細胞生理3：生体の恒常性とセンサー機能 生理学及び生物物理学(川崎 陽一) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	人体構造学Ⅱ(組織学)(15) 講義8(内分泌腺) 神経生物学(松股 美穂) 第3講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(91) 骨盤内臓の位置(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(94) 骨盤の血管神経、骨盤内臓(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目(3) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(97) 口頭試問5(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10	人体構造学Ⅱ(組織学)(16) 実習8(形態系実習室) 神経生物学(松股 美穂) 形態系実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(92) 骨盤内臓の位置(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(95) 骨盤の血管神経、骨盤内臓(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目(4) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(98) 口頭試問5(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(93) 骨盤内臓の位置(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(96) 骨盤の血管神経、骨盤内臓(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)(99) 口頭試問5(解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室

曜日	月	火	水	木	金
時間	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
1・2	8:40-10:15 人類遺伝学 (10) がん関連遺伝子、がんゲノム医療と遺伝性腫瘍 (1) 遺伝子診療科(椿井 孝夫) 第5講義室	人体構造学 II (系統解剖学) (8) 頭頸部の解剖 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (10) 脂質代謝 (2) 医化学(中津 祐介) 第3講義室		
3・4	10:25-12:00 脳神経医学 II (26) 中間試験 神経生理学(相澤 秀紀・田中 茂・原田 佳奈・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH・松股 美穂) 第5講義室	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (10) 放射線防護 放射線影響評価部門・線量測定評価(保田 浩志) 第5講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (11) 脂質代謝 (3) 医化学(中津 祐介) 第3講義室	脳神経医学 II (27) 神経症候学 (臨床での応用に向けて) 脳神経内科(丸山 博文) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (12) 中間試験 医化学(森脇 健太) 第5講義室
5・6	12:50-14:25 人体構造学 II (組織学) (17) 講義9 (感覚器) 神経生物学(松股 美穂) 第3講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (100) 骨盤壁の筋と股関節、顔の浅層 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (103) 頸の深層、咽喉 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目 (5) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (106) 甲状腺、咽喉、気管、頭蓋内面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10 人体構造学 II (組織学) (18) 実習9 (形態系実習室) 神経生物学(松股 美穂) 形態系実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (101) 骨盤壁の筋と股関節、顔の浅層 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (104) 頸の深層、咽喉 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目 (6) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (107) 甲状腺、咽喉、気管、頭蓋内面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55 人体構造学 II (組織学) (18) 実習9 (形態系実習室) 神経生物学(松股 美穂) 形態系実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (102) 骨盤壁の筋と股関節、顔の浅層 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (105) 頸の深層、咽喉 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目 (6) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (108) 甲状腺、咽喉、気管、頭蓋内面 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
曜日	時間	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日
1・2	8:40-10:15 人類遺伝学 (11) がん関連遺伝子、がんゲノム医療と遺伝性腫瘍 (2) 遺伝子診療科(椿井 孝夫) 第5講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (13) 酸化ストレス 医化学(中津 祐介) 第3講義室	脳神経医学 II (28) 脳と精神機能 精神科(岡田 剛) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (14) 最先端代謝解析がもたらす病態の理解 客員教授等(大澤 毅) 第3講義室	人体構造学 II (系統解剖学) (9) 断面像の理解 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室
3・4	10:25-12:00 放射線生物学・放射線健康リスク科学 (11) 原子力災害医療 (1) メンタルヘルスケア 客員教授等(前田 正治) 第5講義室			組織細胞機能学 (生化学2) (15) 最先端代謝解析がもたらす病態の理解 客員教授等(大澤 毅) 第3講義室	組織細胞機能学 (生化学1) (19) 分子生物学 (遺伝子工学1) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室
5・6	12:50-14:25 人体構造学 II (人体解剖学実習) (109) 口腔、鼻腔、咽喉頭部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (112) 口頭試験6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (115) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目 (7) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (118) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
7・8	14:35-16:10 人体構造学 II (人体解剖学実習) (110) 口腔、鼻腔、咽喉頭部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (113) 口頭試験6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (116) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	平和科目 (8) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (119) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室
9・10	16:20-17:55 人体構造学 II (人体解剖学実習) (111) 口腔、鼻腔、咽喉頭部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (114) 口頭試験6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室	人体構造学 II (人体解剖学実習) (117) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学 II (人体解剖学実習) (120) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室

6/7(日)に献体者慰霊祭・ご遺骨返還式を実施予定。2年生全員出席 (変更の可能性あり)

時間	曜日	月		火		水		木		金	
		6月29日	6月30日	6月30日	7月1日	7月1日	7月2日	7月2日	7月3日	7月3日	7月3日
1-2	8:40-10:15	人間遺伝学 (11) がん関連遺伝子・がんゲノム医療と遺伝性腫瘍 (2) 遺伝子診療科(楠井 孝夫) 第5講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (13) 脳と精神機能 脳化学(中津 祐介) 第3講義室		脳神経医学II (28) 脳と精神機能 精神科(岡田 剛) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (14) 最先端代謝解析がもたらす病態の理解 客員教授等(大澤 毅) 第3講義室		人体構造学II (系統解剖学) (9) 断面像の理解 解剖学1(池上 浩司) 第3講義室	
3-4	10:25-12:00			放射線生物学・放射線健康リスク科学 (11) 原子力災害医療 (1) メンタルヘルスケア 客員教授等(前田 正治) 第5講義室				組織細胞機能学 (生化学2) (15) 最先端代謝解析がもたらす病態の理解 客員教授等(大澤 毅) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学1) (19) 分子生物学 (遺伝子工学1) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室	
5-6	12:50-14:25	人体構造学II (人体解剖学実習) (109) 口腔、鼻腔、咽頭鼻部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (112) 口頭試問6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (115) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		平和科目 (7) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (118) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
7-8	14:35-16:10	人体構造学II (人体解剖学実習) (110) 口腔、鼻腔、咽頭鼻部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (113) 口頭試問6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (116) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		平和科目 (8) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (119) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
9-10	16:20-17:55	人体構造学II (人体解剖学実習) (111) 口腔、鼻腔、咽頭鼻部、咀嚼筋 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (114) 口頭試問6 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (117) 顎関節、側頭下窩、舌、口蓋、副鼻腔、翼口蓋神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室				人体構造学II (人体解剖学実習) (120) 眼球、眼窩 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
時間	時間	7月6日		7月7日		7月8日		7月9日		7月10日	
1-2	8:40-10:15	人間遺伝学 (12) 難聴と遺伝 非症候性難聴の遺伝子診断 耳鼻咽喉科(石野 岳志) 第5講義室				組織細胞機能学 (生化学1) (20) 分子生物学 (遺伝子工学2) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室		組織細胞機能学 (生理学) (5) 細胞生理4:筋内の収縮 生理学及び生物物理学(川崎 陽 ) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (17) タンパク質とアミノ酸の構造 医学化学(森脇 健太) 第3講義室	
3-4	10:25-12:00	組織細胞機能学 (生化学2) (16) 細胞死 医学化学(森脇 健太) 第3講義室		放射線生物学・放射線健康リスク科学 (12) 原子力災害医療 (2) 放射線災害医療 放射線災害医療研究部門・放射線災害医療開発(廣橋 伸之) 第5講義室		組織細胞機能学 (生化学1) (21) 分子生物学 (進化・系統分類) 分子細胞情報学(上川 泰直) 第3講義室		組織細胞機能学 (生理学) (6) 循環1:血行動学、心周期 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (18) タンパク質とアミノ酸の代謝 医学化学(森脇 健太) 第3講義室	
5-6	12:50-14:25	人体構造学II (人体解剖学実習) (121) 舌下神経管、頭静脈孔、外耳・中耳 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (124) 内耳、翼突管、頸動脈管、耳神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (127) 口頭試問7 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室		平和科目 (9) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (130) 解剖学実習室 解剖学実習室 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
7-8	14:35-16:10	人体構造学II (人体解剖学実習) (122) 舌下神経管、頭静脈孔、外耳・中耳 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (125) 内耳、翼突管、頸動脈管、耳神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (128) 口頭試問7 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室		平和科目 (10) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (131) 解剖学実習室 解剖学実習室 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
9-10	16:20-17:55	人体構造学II (人体解剖学実習) (123) 舌下神経管、頭静脈孔、外耳・中耳 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (126) 内耳、翼突管、頸動脈管、耳神経節 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		人体構造学II (人体解剖学実習) (129) 口頭試問7 (解剖学実習室) 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太) 解剖学実習室					
時間	時間	7月13日		7月14日		7月15日		7月16日		7月17日	
1-2	8:40-10:15	人間遺伝学 (13) 遺伝性眼疾患 主に色覚について 眼科(近岡 泰一郎) 第5講義室				組織細胞機能学 (生理学) (9) 呼吸1:肺の機能 客員教授等(大河内 晋史) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (20) ゲノム科学・遺伝子発現解析の革新による医学・医療の進歩 客員教授等(原 雄一郎) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学1) (22) 薬学から見る生化学・分子生物学 ① 客員教授等(名黒 功) 第3講義室	
3-4	10:25-12:00	組織細胞機能学 (生化学2) (19) 代謝の統合 医学化学(森脇 健太) 第3講義室				組織細胞機能学 (生理学) (10) 呼吸2:呼吸の調節 客員教授等(大河内 晋史) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学2) (21) ゲノム科学・遺伝子発現解析の革新による医学・医療の進歩 客員教授等(原 雄一郎) 第3講義室		組織細胞機能学 (生化学1) (23) 薬学から見る生化学・分子生物学 ② 客員教授等(名黒 功) 第3講義室	
5-6	12:50-14:25	人体構造学II (組織学) (19) 実習10 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・半田 高史・松股 美穂・Deepa Kasaragod) 形態系実習室		組織細胞機能学 (生理学) (7) 循環1:心臓の電気生理学 客員教授等(中條 浩一) 第3講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (132) 予備日 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		平和科目 (11) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (134) 予備日 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
7-8	14:35-16:10	人体構造学II (組織学) (20) 実習11 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・半田 高史・松股 美穂・Deepa Kasaragod) 形態系実習室		組織細胞機能学 (生理学) (8) 循環2:心臓の研究最前線 客員教授等(中條 浩一) 第3講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (133) 予備日 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室		平和科目 (12) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室		人体構造学II (人体解剖学実習) (135) 予備日 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之) 解剖学実習室	
9-10	16:20-17:55										

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日
1・2	8:40-10:15			脳神経医学II (31) 脳実習2 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	人体構造学II (組織学) (21) 試験 神経生物学(相澤 秀紀) 第5講義室	組織細胞機能学 (生理学) (11) 循環4: 血圧・循環の調節 生理学及び生物物理学(川崎 陽) 第3講義室
3・4	10:25-12:00		放射線生物学・放射線健康リスク科学 (13) 原子力災害医療 (3) 原子力災害における放射線リスクコミュニケーション 客員教授等(神田 玲子) 第5講義室	脳神経医学II (32) 脳実習2 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	人体構造学II (組織学) (22) 試験 神経生物学(相澤 秀紀) 第5講義室	組織細胞機能学 (生理学) (12) 特別講義: 血液ガス 客員教授等(吉橋 正生) 第3講義室
5・6	12:50-14:25		脳神経医学II (29) 脳実習1 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	脳神経医学II (33) 脳実習3 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	平和科目 (13) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (22) 医学・生命科学におけるタンパク質立体構造研究の最前線 客員教授等(阿部 一啓) 第3講義室
7・8	14:35-16:10		脳神経医学II (30) 脳実習1 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	脳神経医学II (34) 脳実習3 (形態系実習室) 神経生物学(相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH) 形態系実習室	平和科目 (14) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	組織細胞機能学 (生化学2) (23) 医学・生命科学におけるタンパク質立体構造研究の最前線 客員教授等(阿部 一啓) 第3講義室
9・10	16:20-17:55					
時間	時間	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学 (14) 歯科遺伝学 歯科の立場での人類遺伝学 顎・口腔外科(濱田 充子) 第5講義室	その他 (1) 医学研究発表発表会のため 第3講義室	組織細胞機能学 (生理学) (15) 消化器1: 消化管の運動 内視鏡診療科(上垣内 由季) 第3講義室	組織細胞機能学 (生理学) (19) 腎臓1: ろ過・濃縮 生理学及び生物物理学(川崎 陽) 第3講義室	人体構造学II (系統解剖学) (10) ペーパー試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL UJAZ・中里 亮太) 第5講義室
3・4	10:25-12:00		放射線生物学・放射線健康リスク科学 (14) 放射線被ばくによる健康影響とリスク評価 放射線影響評価部門・計量生物(吉永 信治) 第5講義室	組織細胞機能学 (生理学) (16) 消化器2: 消化と吸収 内視鏡診療科(上垣内 由季) 第3講義室	組織細胞機能学 (生理学) (20) 腎臓2: 水・電解質代謝・酸塩基平衡 生理学及び生物物理学(川崎 陽) 第3講義室	人体構造学II (系統解剖学) (11) ペーパー試験 解剖学1(池上 浩司・坂本 信之・FARYAL UJAZ・中里 亮太) 第5講義室
5・6	12:50-14:25	組織細胞機能学 (生理学) (13) 中間試験 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第5講義室	その他 (2) 医学研究発表発表会のため 第3講義室	組織細胞機能学 (生理学) (17) 内分泌1: 視床下部下垂体 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室	平和科目 (15) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	組織細胞機能学 (生理学) (21) 内分泌3: 生殖 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	組織細胞機能学 (生理学) (14) 細胞生理: ドリル 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室	その他 (3) 医学研究発表発表会のため 第3講義室	組織細胞機能学 (生理学) (18) 内分泌2: 内分泌器 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室	平和科目 (16) シラバス参照 教養教育(平和科目担当教員) シラバス指定講義室	組織細胞機能学 (生理学) (22) 内分泌4: カルシウム代謝と骨 生理学及び生物物理学(下村 拓史) 第3講義室
9・10	16:20-17:55		その他 (4) 医学研究発表発表会のため 第3講義室			

R8 (2026) 年度医学科2年生講義予定

2026年3月24日現在

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日
1・2	8:40-10:15	人類遺伝学 (15) 人類遺伝学のまとめと試験 遺伝子診療科(楢井 孝夫) 第4・5講義室				
3・4	10:25-12:00		放射線生物学・放射線健康リスク科学 (15) 試験 放射線影響評価部門・計量生物(吉永 信治) 第5講義室			
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	時間	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	時間	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

R8 (2026) 年度医学科2年生講義予定

2026年3月24日現在

時限	曜日 時間	月	火	水	木	金
		8月24日	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	時間	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日
1・2	8:40-10:15		その他 (5) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (10) CBTのため講義室使用不可 第3講義室		
3・4	10:25-12:00		その他 (6) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (11) CBTのため講義室使用不可 第3講義室		
5・6	12:50-14:25		その他 (7) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (12) CBTのため講義室使用不可 第3講義室		
7・8	14:35-16:10		その他 (8) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (13) CBTのため講義室使用不可 第3講義室		
9・10	16:20-17:55		その他 (9) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (14) CBTのため講義室使用不可 第3講義室		
時間	時間	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日
1・2	8:40-10:15		その他 (15) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (20) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (25) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (30) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室
3・4	10:25-12:00		その他 (16) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (21) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (26) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (31) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室
5・6	12:50-14:25		その他 (17) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (22) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (27) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (32) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室
7・8	14:35-16:10		その他 (18) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (23) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (28) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (33) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室
9・10	16:20-17:55		その他 (19) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (24) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (29) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (34) 高学年IPEのため講義室使用不可 第3講義室

時間	曜日 時間	月	火	水	木	金
		9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	曜日 時間	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日
1・2	8:40-10:15	その他 (35) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第3講義室	その他 (40) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (45) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) (1) 組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) 予備日 生理学1、2、生化学1、2(藤原 祐一郎、橋本 浩一、森脇 健太、他) その他	
3・4	10:25-12:00	その他 (36) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第3講義室	その他 (41) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (46) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) (2) 組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) 予備日 生理学1、2、生化学1、2(藤原 祐一郎、橋本 浩一、森脇 健太、他) その他	脳神経医学II (35) 最終試験 神経生理学(橋本 浩一・吉田 隆行・岡田 佳奈・久保 怜香) 第5講義室
5・6	12:50-14:25	その他 (37) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第3講義室	その他 (42) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (47) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) (3) 組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) 予備日 生理学1、2、生化学1、2(藤原 祐一郎、橋本 浩一、森脇 健太、他) その他	組織細胞機能学 (生理学) (23) 総合：糖の体内動態の研究最前線 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	その他 (38) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第3講義室	その他 (43) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (48) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) (4) 組織細胞機能学・脳神経医学合同実習 (演習) 予備日 生理学1、2、生化学1、2(藤原 祐一郎、橋本 浩一、森脇 健太、他) その他	組織細胞機能学 (生理学) (24) 総合：栄養生理学 客員教授等(瀬山 一正) 第3講義室
9・10	16:20-17:55	その他 (39) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第3講義室	その他 (44) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他 (49) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第3講義室		



曜日	月	火	水	木	金
時間	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日
1・2	8:40-10:15 組織細胞機能学(生化学1)(24) 生化学1試験 分子細胞情報学(金本 聡自) 第5講義室	生体反応学(免疫学)(3) 免疫学-3 自然免疫の誘導性応答 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(1) 病原細菌学概論 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室		生体反応学(神経薬理学)(7) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室
3・4	10:25-12:00 生体反応学(免疫学)(2) 免疫学-2 自然免疫:生体防御の最前線 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(4) 免疫学-4 B細胞レセプターとT細胞レセプターによる抗原認識 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(2) 細菌の形態・構造と機能 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	組織細胞機能学(生理学)(26) 本試験 生理学及び生物物理学(藤原 祐一郎) 第5講義室	生体反応学(神経薬理学)(8) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室
5・6	12:50-14:25 生体反応学(神経薬理学)(1) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(3) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(3) ウイルスの増殖(2)・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(5) 薬理学総論 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(5) 免疫学-5 リンパ球抗原レセプターの形成 免疫学(河野 洋平) 第3講義室
7・8	14:35-16:10 生体反応学(神経薬理学)(2) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(4) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(4) ウイルスの感染症と病原性・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(6) 薬理学総論 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(6) 免疫学-5 リンパ球抗原レセプターの形成 免疫学(河野 洋平) 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内)(3) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	
時間	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日
1・2	8:40-10:15 生体反応学(細菌学)(3) 細菌の発育と増殖 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(5) 細菌の遺伝と変異 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室			生体反応学(免疫学)(10) 免疫学-8 B細胞とT細胞の分化 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室
3・4	10:25-12:00 生体反応学(細菌学)(4) 化学療法 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(5) 抗ウイルス免疫、ワクチン・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(9) 免疫学-7 リンパ球レセプターシグナル 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	組織細胞機能学(生化学2)(24) 最終試験 医化学(森脇 健太) 第5講義室	生体反応学(免疫学)(11) 免疫学-8 B細胞とT細胞の分化 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室
5・6	12:50-14:25 生体反応学(免疫学)(7) 免疫学-6 T細胞への抗原提示 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(6) 細菌感染と発症、細菌毒素 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(9) 薬理学総論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(11) 薬理学各論 解熱・鎮痛薬 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(13) 薬理学各論 循環器薬理 薬理学(酒井 規雄) 第3講義室
7・8	14:35-16:10 生体反応学(免疫学)(8) 免疫学-6 T細胞への抗原提示 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(6) 新興再興感染症、ウイルス持続感染・演習 ウイルス学(福士 雅也) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(10) 薬理学総論・各論 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(12) 薬理学各論 抗炎症薬 痛風・リュウマチ治療薬 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(14) 薬理学各論 循環器薬理 薬理学(酒井 規雄) 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内)(4) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	

	曜日	月	火	水	木	金
時限	時間	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日
1・2	8:40-10:15	生体反応学(細菌学)(7) 消毒と滅菌 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室		生体反応学(細菌学)(9) 球菌とその感染症 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(12) 免疫学-9 T細胞性免疫応答 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	
3・4	10:25-12:00	生体反応学(細菌学)(8) 真菌とその感染症 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室		生体反応学(細菌学)(10) グラム陽性桿菌とその感染症 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(13) 免疫学-9 T細胞性免疫応答 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(14) 中間試験 免疫学 第1・3講義室
5・6	12:50-14:25	生体反応学(神経薬理学)(15) 薬理学 各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他 薬理学(田中 茂) 第3講義室		生体反応学(細菌学)(11) その他のグラム陽性桿菌とその感染症 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(17) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(7) ウイルス感染症診断法、感染症法・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	生体反応学(神経薬理学)(16) 薬理学 各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他 薬理学(田中 茂) 第3講義室		生体反応学(細菌学)(12) 腸内細菌とその感染症、細菌性食中毒 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(18) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(8) ヘルペスウイルス・肝炎ウイルス・演習 岡山大学医学部病原ウイルス学(本田 知之) 第3講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
1・2	8:40-10:15	その他(50) 共用OSCEのため講義室使用不可(準備) 第3講義室	その他(55) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他(60) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室		生体反応学(ウイルス学)(9) インフルエンザウイルス・演習 安田女子大学(ウイルス学前教授)(坂口 剛正) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	その他(51) 共用OSCEのため講義室使用不可(準備) 第3講義室	その他(56) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他(61) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室		生体反応学(ウイルス学)(10) パライクソウイルス・演習 安田女子大学(ウイルス学前教授)(坂口 剛正) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	その他(52) 共用OSCEのため講義室使用不可(準備) 第3講義室	その他(57) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他(62) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(免疫学)(15) 免疫学-10 液性免疫応答 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(11) ヒトレトロウイルス・演習 熊本大学ヒトレトロウイルス共同研究センター(池田 輝政) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	その他(53) 共用OSCEのため講義室使用不可(準備) 第3講義室	その他(58) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他(63) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(免疫学)(16) 免疫学-10 液性免疫応答 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(12) ヒト免疫不全ウイルス・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室
9・10	16:20-17:55	その他(54) 共用OSCEのため講義室使用不可(準備) 第3講義室	その他(59) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	その他(64) 共用OSCEのため講義室使用不可 第3講義室	MECC(※希望者、別途案内)(5) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	
時限	時間	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日
1・2	8:40-10:15	生体反応学(神経薬理学)(19) 中間試験 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第5講義室	生体反応学(細菌学)(13) スピロヘータとその感染症 細菌学(歯学部)(小松澤 均) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(17) 免疫学-11 自然免疫と適応免疫の一体的な動態 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(19) 免疫学-12 粘膜免疫系 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	その他(65) 薬学部入試のため講義室使用不可 第3講義室
3・4	10:25-12:00	生体反応学(寄生虫学)(1) 寄生虫学-1 総論 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(14) その他のグラム陰性桿菌とその感染症 細菌学(歯学部)(松尾 美樹) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(18) 免疫学-11 自然免疫と適応免疫の一体的な動態 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(20) 免疫学-12 粘膜免疫系 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	その他(66) 薬学部入試のため講義室使用不可 第3講義室
5・6	12:50-14:25	生体反応学(神経薬理学)(20) 薬理学・各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(22) 薬理学実習ガイダンス 薬理学(田中 茂) その他	生体反応学(ウイルス学)(13) その他の病原ウイルス(1)・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(2) 寄生虫学-2 消化管寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	その他(67) 薬学部入試のため講義室使用不可 第3講義室
7・8	14:35-16:10	生体反応学(神経薬理学)(21) 薬理学・各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他 薬理学(田中 茂) その他		生体反応学(ウイルス学)(14) その他の病原ウイルス(2)・演習 ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(15) 学生実習ガイダンス ウイルス学(入江 崇) 第3講義室	その他(68) 薬学部入試のため講義室使用不可 第3講義室
9・10	16:20-17:55				MECC(※希望者、別途案内)(6) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	その他(69) 薬学部入試のため講義室使用不可 第3講義室

		月	火	水	木	金
時限	曜日 時間	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日
1・2	8:40-10:15		生体反応学(免疫学)(21) 免疫学-13 宿主防御機構の破綻 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	その他(70) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(免疫学)(23) 免疫学-14 アレルギーとアレルギー疾患 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(3) 寄生虫学-3 臓器(肝臓・肺) 寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室
3・4	10:25-12:00		生体反応学(免疫学)(22) 免疫学-13 宿主防御機構の破綻 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	その他(71) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(免疫学)(24) 免疫学-14 アレルギーとアレルギー疾患 免疫学(河野 洋平) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(25) 特別講義-1 客員教授等(山口東理科大学 藤原 久明) 第3講義室
5・6	12:50-14:25		生体反応学(神経薬理学)(23) 薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬 薬理学(田中 茂) その他	その他(72) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(16) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他	生体反応学(ウイルス学)(18) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他
7・8	14:35-16:10		生体反応学(神経薬理学)(24) 薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬 薬理学(田中 茂) その他	その他(73) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	生体反応学(ウイルス学)(17) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他	生体反応学(ウイルス学)(19) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他
9・10	16:20-17:55			その他(74) CBTのため講義室使用不可 第3講義室	MECC(※希望者、別途案内)(7) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	
時限	曜日 時間	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
1・2	8:40-10:15	生体反応学(免疫学)(26) 免疫学-15 自己免疫と移植 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室			生体反応学(免疫学)(28) 免疫学-16 免疫応答の操作 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	
3・4	10:25-12:00	生体反応学(免疫学)(27) 免疫学-15 自己免疫と移植 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(15) 試験 第5講義室	生体反応学(寄生虫学)(4) 寄生虫学-4 腸管系寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(5) 寄生虫学-5 その他の臓器・血液寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(6) 寄生虫学-6 幼虫移行症 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	生体反応学(ウイルス学)(20) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他	生体反応学(神経薬理学)(25) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) その他	生体反応学(神経薬理学)(27) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(29) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(31) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	生体反応学(ウイルス学)(21) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福士 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) 第2実習室	生体反応学(神経薬理学)(26) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) その他	生体反応学(神経薬理学)(28) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(30) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(32) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室
9・10	16:20-17:55				MECC(※希望者、別途案内)(8) 最終試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	

	曜日	月	火	水	木	金
時限	時間	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
1・2	8:40-10:15	生体反応学(免疫学)(26) 免疫学-15 自己免疫と移植 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室			生体反応学(免疫学)(28) 免疫学-16 免疫応答の操作 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	
3・4	10:25-12:00	生体反応学(免疫学)(27) 免疫学-15 自己免疫と移植 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(細菌学)(15) 試験 第5講義室	生体反応学(寄生虫学)(4) 寄生虫学-4 尿管系寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(5) 寄生虫学-5 その他の臓器・血液寄生 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(寄生虫学)(6) 寄生虫学-6 幼虫移行症 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	生体反応学(ウイルス学)(20) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福土 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) その他	生体反応学(神経薬理学)(25) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) その他	生体反応学(神経薬理学)(27) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(29) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(31) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	生体反応学(ウイルス学)(21) 微生物学実習(細菌学+ウイルス学) ウイルス学(入江 崇/福土 雅也/東浦 彰史/山本 旭麻) 第2実習室	生体反応学(神経薬理学)(26) 薬理学 各論 内分泌 代謝 薬理学(原田 佳奈) その他	生体反応学(神経薬理学)(28) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(30) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(32) 薬理学実習 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第3講義室
9・10	16:20-17:55				MECC(※希望者、別途案内)(8) 最終試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室	
時限	時間	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日
1・2	8:40-10:15	生体反応学(ウイルス学)(22) 試験 第5講義室	生体反応学(免疫学)(30) 免疫学実習/寄生虫学実習 免疫学(保田朋波流/河野洋平/北嶋康雄/井上洋子) その他			
3・4	10:25-12:00	生体反応学(寄生虫学)(7) 寄生虫学-7 総括・実習説明 客員教授等(井上 洋子) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(31) 免疫学実習/寄生虫学実習 免疫学(保田朋波流/河野洋平/北嶋康雄/井上洋子) その他			
5・6	12:50-14:25	生体反応学(免疫学)(29) 免疫学実習ガイドンス 免疫学(保田 朋波流) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(32) 免疫学実習/寄生虫学実習 免疫学(保田朋波流/河野洋平/北嶋康雄/井上洋子) その他	生体反応学(神経薬理学)(33) 薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(35) 薬理学 各論 血液 免疫 薬理学 客員等(客員教授 上山健彦) 第3講義室	生体反応学(免疫学)(34) 特別講義-2 客員教授等(シンシナティ大 佐々木 敦朗) 第3講義室
7・8	14:35-16:10		生体反応学(免疫学)(33) 免疫学実習/寄生虫学実習 免疫学(保田朋波流/河野洋平/北嶋康雄/井上洋子) その他	生体反応学(神経薬理学)(34) 薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬 薬理学(田中 茂) 第3講義室	生体反応学(神経薬理学)(36) 薬理学 各論 血液 免疫 薬理学 客員等(客員教授 上山健彦) 第3講義室	
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内)(9) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		
時限	時間	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日
1・2	8:40-10:15					その他(75) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
3・4	10:25-12:00					その他(76) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
5・6	12:50-14:25	生体反応学(免疫学)(35) 最終試験 免疫学 第1・3講義室			生体反応学(神経薬理学)(37) 期末試験 薬理学(田中 茂/原田 佳奈) 第5講義室	その他(77) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
7・8	14:35-16:10	生体反応学(寄生虫学)(8) 試験 免疫学 第1・3講義室				その他(78) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内)(10) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		その他(79) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第3講義室

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	12月21日	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25			その他(80) 白衣着衣式のため講義室使用不可  第3講義室		
7・8	14:35-16:10			その他(81) 白衣着衣式のため講義室使用不可  第3講義室		
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内) (11) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		
時限	時間	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

曜日	月	火	水	木	金	
時間	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
曜日	時間	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日
1・2	8:40-10:15			病因病態学 (1) 病理学入門 分子病理学(三井 伸二) 第3講義室	病因病態学 (5) グループ討議/自習 病理学(武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (9) Tutorial② 病理学(柳谷 桂) 第3講義室
3・4	10:25-12:00			病因病態学 (2) 病理学入門 病理学(武島 幸男、柳谷 桂) 第3講義室	病因病態学 (6) クラス発表① 病理学(武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (10) 自習 第3講義室
5・6	12:50-14:25			病因病態学 (3) Tutorial① 病理学(武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (7) レポート作成① 病理学(武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (11) 自習 第3講義室
7・8	14:35-16:10			病因病態学 (4) 自習 第3講義室	病因病態学 (8) 講義(炎症) 病理学(武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (12) 講義(免疫・感染症) 病理学(武島 幸男) 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内) (12) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		
曜日	時間	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日
1・2	8:40-10:15			病因病態学 (13) グループ討議/自習 病理学(柳谷 桂) 第3講義室	病因病態学 (17) 実習 1 病理学(AMATYA VISHWA JEET、柳谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	その他 (82) 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第3講義室
3・4	10:25-12:00			病因病態学 (14) クラス発表② 病理学(柳谷 桂) 第3講義室	病因病態学 (18) 実習 1 病理学(AMATYA VISHWA JEET、柳谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	その他 (83) 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第3講義室
5・6	12:50-14:25			病因病態学 (15) レポート作成② 病理学(柳谷 桂) 第3講義室	病因病態学 (19) 実習 1 病理学(AMATYA VISHWA JEET、柳谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	その他 (84) 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第3講義室
7・8	14:35-16:10			病因病態学 (16) 講義(代謝) 病理学(柳谷 桂) 第3講義室	病因病態学 (20) 実習 1 病理学(AMATYA VISHWA JEET、柳谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	その他 (85) 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内) (13) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		その他 (86) 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第3講義室

## R8 (2026) 年度医学科2年生講義予定

2026年3月24日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日
1・2	8:40-10:15	病因病態学 (21) Tutorial③ 分子病理学(三井 伸二) 第3講義室	病因病態学 (25) 自習 第3講義室	病因病態学 (29) 講義 (局所循環障害) 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (33) Tutorial④ 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室	病因病態学 (37) グループ討議/自習 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	病因病態学 (22) 自習 第3講義室	病因病態学 (26) グループ討議/自習 分子病理学(三井 伸二) 第3講義室	病因病態学 (30) 実習2 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (34) 自習 第3講義室	病因病態学 (38) クラス発表④ 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	病因病態学 (23) 講義 (全身循環障害) 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (27) クラス発表③ 分子病理学(三井 伸二) 第3講義室	病因病態学 (31) 実習2 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (35) 自習 第3講義室	病因病態学 (39) レポート作成④ 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	病因病態学 (24) 自習 第3講義室	病因病態学 (28) レポート作成③ 分子病理学(三井 伸二) 第3講義室	病因病態学 (32) 実習2 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (36) 講義 (退行性・進行性病変) 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室	病因病態学 (40) 講義 (遺伝子疾患) 病理学 (AMATYA VISHWA JEET) 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内) (14) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		
時限	時間	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日
1・2	8:40-10:15	病因病態学 (41) 実習3 病理学 (AMATYA VISHWA JEET、梶谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (45) Tutorial⑤ 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (49) グループ討議/自習 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (53) Tutorial⑥ 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室	病因病態学 (57) 自習 分子病理学(石川 洸) 第3講義室
3・4	10:25-12:00	病因病態学 (42) 実習3 病理学 (AMATYA VISHWA JEET、梶谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (46) 自習 第3講義室	病因病態学 (50) クラス発表⑤ 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (54) 自習 第3講義室	病因病態学 (58) グループ討議/自習 分子病理学(石川 洸) 第3講義室
5・6	12:50-14:25	病因病態学 (43) 実習3 病理学 (AMATYA VISHWA JEET、梶谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (47) 自習 第3講義室	病因病態学 (51) レポート作成⑤ 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (55) 自習 第3講義室	病因病態学 (59) クラス発表⑥ 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室
7・8	14:35-16:10	病因病態学 (44) 実習3 病理学 (AMATYA VISHWA JEET、梶谷 桂、武島 幸男) 第3講義室	病因病態学 (48) 講義 (腫瘍の定義・種類) 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (52) 講義 (腫瘍の発生・浸潤・転移) 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (56) 講義 (腫瘍の遺伝子異常・がんゲノム) 分子病理学(石川 洸) 第3講義室	病因病態学 (60) レポート作成⑥ 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第3講義室
9・10	16:20-17:55			MECC(※希望者、別途案内) (15) 17時から対面講義 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		

曜日	月	火	水	木	金
時間	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日
1・2	8:40-10:15	病因病態学 (61) 実習4 分子病理学(石川 洗、三井 伸二) 第3講義室			
3・4	10:25-12:00	病因病態学 (62) 実習4 分子病理学(石川 洗、三井 伸二) 第3講義室			
5・6	12:50-14:25	病因病態学 (63) 実習4 分子病理学(石川 洗、三井 伸二) 第3講義室		病因病態学 (65) 試験 (筆記・実習) 第5講義室	
7・8	14:35-16:10	病因病態学 (64) 実習4 分子病理学(石川 洗、三井 伸二) 第3講義室		病因病態学 (66) 試験 (筆記・実習) 第5講義室	
9・10	16:20-17:55		MECC(※希望者、別途案内) (16) 最終試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第3講義室		
時間	2月8日	2月9日	2月10日	2月11日	2月12日
1・2	8:40-10:15				
3・4	10:25-12:00				
5・6	12:50-14:25				
7・8	14:35-16:10				
9・10	16:20-17:55				
時間	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日
1・2	8:40-10:15				
3・4	10:25-12:00				
5・6	12:50-14:25				
7・8	14:35-16:10				
9・10	16:20-17:55				

R8 (2026) 年度医学科2年生講義予定

2026年3月24日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	2月22日	2月23日	2月24日	2月25日	2月26日
1・2	8:40-10:15	その他 (87) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室		その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
3・4	10:25-12:00	その他 (88) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室		その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
5・6	12:50-14:25	その他 (89) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室		その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
7・8	14:35-16:10	その他 (90) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室		その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
9・10	16:20-17:55	その他 (91) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室		その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室	その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第3講義室
時限	時間	3月1日	3月2日	3月3日	3月4日	3月5日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

授業科目名	放射線生物学・放射線健康リスク科学 (Radiation Biology & Radiation Health Risk Sciences)		
対象学年	医学部医学科2年生 歯学部歯学科3年生	単位	2単位
科目責任者	よしなが しんじ 吉永 信治	所属	原医研計量生物
科目 コーディネーター	よしなが しんじ 吉永 信治	所属	原医研計量生物
授業方法	講義中心 配付資料, パワーポイントを使用する。		
概要	放射線物理および放射線生物学の基礎的概念の理解を土台として、放射線の健康リスクを科学的に理解する。さらに、放射線災害医療に関して医療人の対処法等を理解する。		
到達目標	<p>放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。</p> <p>内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>放射線の人体（胎児を含む）への影響（急性影響と晩発影響）を説明できる。</p> <p>種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。</p> <p>放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。</p> <p>放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。</p> <p>放射線診断やインターベンショナルラジオロジーの被ばく軽減の原則を知り、それを実行できる。</p> <p>放射線同位元素を使用した検査や治療の概略及び被ばく防護について説明できる。</p> <p>放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。</p> <p>放射線災害への対応が説明できる。</p> <p>放射線学的検査および放射線災害におけるリスクコミュニケーションについて説明でき、実践できる。</p> <p>内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。</p> <p>放射線災害・原子力災害でのメンタルヘルスを説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	原則として医学部医学科のグランドルールに準じる		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	試験と出席状況等について総合的に評価する。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意 アドバイス	講義では、原則として講義に使用するパワーポイント図等をPDFにして配布致しますので、授業終了後にこれらの資料を基に復習して下さい。 広島は世界で最初に原爆の惨禍を受けた都市であり、その地にある広島大学に学ぶ学生は、放射線の人体影響・放射線災害医療等については是非とも勉強して理解を深めて下さい。		
推奨参考書	参考書は特に定めない。		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/14(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	オリエンテーション・原爆被爆者の疫学	放射線影響評価部門計量生物・客員教授等	吉永 信治・坂田 律（客員教授等）
2026/04/21(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線の物理現象と生物影響の接点	客員准教授	飯塚 大輔
2026/04/28(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線物理の基礎	放射線影響評価部門・線量測定評価	保田 浩志
2026/05/12(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線の生物学的影響（1）DNA 損傷修復機構	放射線医学研究部門・放射線ゲノム疾患	浅野 孝基
2026/05/19(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線の生物学的影響（2）染色体損傷	放射線影響評価部門・細胞修復制御	田代 聡
2026/05/26(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線の生物学的影響（3）放射線発がん	放射線医学研究部門・分子発がん制御	笹谷 めぐみ
2026/06/02(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	医療放射線と人体影響（1）核医学検査・治療における被曝影響と放射線防護対策	客員教授等	工藤 崇
2026/06/09(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	医療放射線と人体影響（2）放射線治療のための生物学	放射線治療科	村上 祐司
2026/06/16(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	医療放射線と人体影響（3）診断放射線による被曝影響と放射線防護法	放射線診断科	中村 優子
2026/06/23(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線防護	放射線影響評価部門・線量測定評価	保田 浩志
2026/06/30(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	原子力災害医療（1）メンタルヘルスケア	客員教授等	前田 正治
2026/07/07(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	原子力災害医療（2）放射線災害医療	放射線災害医療研究部門・放射線災害医療開発	廣橋 伸之
2026/07/21(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	原子力災害医療（3）原子力災害における放射線リスクコミュニケーション	客員教授等	神田 玲子
2026/07/28(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	放射線被ばくによる健康影響とリスク評価	放射線影響評価部門・計量生物	吉永 信治
2026/08/04(火)	3・4	放射線生物学・放射線健康リスク科学	試験	放射線影響評価部門・計量生物	吉永 信治

授業科目名	人類遺伝学 (Human genetics)		
対象学年	医学部医学科2年生 歯学部2年生	単位	2単位
科目責任者	ひのい たかお 檜井 孝夫	所属	遺伝子診療科
科目 コーディネーター	ひのい たかお 檜井 孝夫	所属	遺伝子診療科
授業方法	講義中心		
概要	<p>人類遺伝学（遺伝医療）はヒトゲノム計画に伴って目覚ましい発展を遂げた。今や全ての生命科学・医療は遺伝学を抜きにしては語れなくなってきた。本講義では、人類遺伝学の基本的概念を習得し、遺伝子・染色体が関わる疾患のメカニズムを理解して、最終的に遺伝医療における正しい知識に基づいた倫理観を養うことを目標としている。</p> <p>※ すべての医療従事者に、遺伝医学の知識と技能が必要な時代が到来しています。遺伝学の基礎をしっかりと習得して、3年次以降に学ぶ各種疾患の理解に役立てて下さい。生物を受験科目として選択しなかった学生は、高校生物（遺伝）を復習しておくことを勧めます。</p>		
到達目標	<p>Mendelの法則、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝を説明できる。 遺伝型と表現型の関係を説明できる。 染色体の構造を概説し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動を説明できる。 ゲノムの多様性に基づく個体の多様性を説明できる。 集団遺伝学の基礎としてHardy-Weinbergの法則を概説できる。 家系図を作成、評価（Bayesの定理、リスク評価）できる。 生殖細胞系列変異と体細胞変異の違いを説明でき、遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。 遺伝情報の特性（不変性、予見性、共有性、あいまい性）を説明できる。 遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。 遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮を説明できる。 遺伝医学関連情報にアクセスすることができる。 遺伝情報に基づく治療や予防をはじめとする適切な対処法を概説できる。 染色体・遺伝子検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>出席はFormsと学生証のどちらも確認できた場合に認める。講義中にテストやアンケートをとるときは回答も必須とする。3点の内、1つでも漏れていた場合は欠席とみなす。 3分の2以上の出席がない場合は試験の受験資格を与えない。また代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者にも試験受験を認めない。</p>		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	担当教員の出題による筆記試験を行う。 授業への参加態度と、筆記試験などにより判定する。		
予習・復習への アドバイス	<p>予習：講義の内容にそって事前にテキストに目を通し、特に重要な専門用語については予習の段階で理解しておく。 復習：講義で使われたスライド資料を参考に、専門用語の意味や使い方を確認し、重要なポイントについて復習をしておく。</p>		
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】 「遺伝医学への招待（改訂第6版）」 新川詔夫監修 南江堂 【その他、学習に有用な参考書等】 「遺伝医学やさしい系統講義」福嶋義光監修 メディカルサイエンスインターナショナル社 「トンプソン&amp;トンプソン遺伝医学・ゲノム医学 第3版」Ronald Cohn他 メディカルサイエンスインターナショナル社</p>		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/13(月)	1・2	人類遺伝学	メンデル遺伝1 講義の概要、メンデルの法則、家計図の作成	遺伝子診療科	檜井 孝夫
2026/04/20(月)	1・2	人類遺伝学	メンデル遺伝2 ヒトのメンデル遺伝の概念と一般原則	放射線ゲノム疾患研究分野	浅野 孝基
2026/04/27(月)	1・2	人類遺伝学	メンデル遺伝3 代表的な単一遺伝子病の臨床症状と診断・治療	脳神経内科	丸山 博文
2026/05/11(月)	1・2	人類遺伝学	細胞遺伝学1 染色体の基礎	客員教授等	三春 範夫
2026/05/18(月)	1・2	人類遺伝学	細胞遺伝学2 染色体異常症の臨床、出生前診断と着床前診断	産科婦人科	山崎 友美
2026/05/25(月)	1・2	人類遺伝学	遺伝子の多様性と異常	分子疫学研究分野	久米 広大
2026/06/01(月)	1・2	人類遺伝学	染色体異常による先天異常 ダウン症、18トリソミーなど	小児科	岡田 賢
2026/06/08(月)	1・2	人類遺伝学	ミトコンドリア遺伝	客員教授等	但馬 剛
2026/06/15(月)	1・2	人類遺伝学	遺伝医学的検査／集団遺伝・多因子遺伝	遺伝子診療科	新津 宏明
2026/06/22(月)	1・2	人類遺伝学	がん関連遺伝子、がんゲノム医療と遺伝性腫瘍（1）	遺伝子診療科	檜井 孝夫
2026/06/29(月)	1・2	人類遺伝学	がん関連遺伝子、がんゲノム医療と遺伝性腫瘍（2）	遺伝子診療科	檜井 孝夫
2026/07/06(月)	1・2	人類遺伝学	難聴と遺伝 非症候性難聴の遺伝子診断	耳鼻咽喉科	石野 岳志
2026/07/13(月)	1・2	人類遺伝学	遺伝性眼疾患 主に色覚について	眼科	近間 泰一郎
2026/07/27(月)	1・2	人類遺伝学	歯科遺伝学 歯科の立場での人類遺伝学	顎・口腔外科	濱田 充子
2026/08/03(月)	1・2	人類遺伝学	人類遺伝学のまとめと試験	遺伝子診療科	檜井 孝夫

授業科目名	人体構造学Ⅱ (Structure of human body Part II)		
対象学年	2年生	単位	7単位
科目責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	講義および実習中心，印刷物配布，スライド投影，光学顕微鏡観察，人体解剖学実習，学生による発表		
概要	<p>「医学一般」の「個体の構成と機能」  「人体各器官の正常構造と機能，病態，診断，治療」の「人体各器官の正常構造と機能」  「全身に及ぶ生理的変化，病態，診断，治療」の「成長と発達」「加齢と老化」</p> <p>に関連する項目を扱い，以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。</li> <li>・人体の構造が持つ機能的意義を理解する。</li> <li>・人体の構造が形成される個体発生の過程を知り，その機構について考察する。</li> <li>・人体の構造とその形成過程について臨床医学の面からも捉える。</li> </ul> <p>以上のことを通じ，人間の尊厳と生命への畏敬の念を養う。</p>		
到達目標	<p>「人体構造学」は，次のユニットからなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統解剖学</li> <li>2. 人体解剖学実習</li> <li>3. 組織学</li> <li>4. 人体発生学</li> </ol> <p>それぞれの目標・内容については，別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
講義日程	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <p>なお，履修者は全員，2026年6月7日(日)に行われる予定の慰霊祭に出席する。  さらに，2026年秋頃に予定されているご遺族へのご遺骨返還に立ち会う。  いずれも忌引きなどやむを得ない理由による欠席以外は認められない。  また，いずれも葬儀と同様の服装が必要となるので，それまでに相応しいものを整えておく。</p>		
評価項目	<p>試験の成績，および，講義・実習への参加態度など。  詳細は別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
評価法	<p>別に掲載する各ユニットの成績を総合して評価する。  ※総合評価の如何に関わらず各ユニットの成績が不良の場合は不合格とする。  特に延べおよそ280時限を費やす系統解剖学講義と人体解剖学実習を通した人体構造の理解度を問う解剖学総合試験の成績が不良の場合は不合格となる。</p>		
予習・復習へのアドバイス	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
履修上の注意 アドバイス	<p>解剖学はそこに何があるかを観る（単に『見る』ではない），他のものと見分ける，有るのか無いのかを見定める学問である。教科書や図譜に書（描）かれているものを暗記する学問では断じてない。各々が自分自身の五感を使って『理解』するものである。教科書や図譜どおりの人体はこの世に存在しない。問題意識を持って探究する姿勢が大事である。</p> <p>厳しい競争を勝ち抜いてきた多くの医学生にとって，解剖学は人生で初めての大きな壁となるかもしれない。膨大な語彙と立体構造，時間軸（発生）が作り出す多次元の世界に圧倒されないよう，枝葉にとらわれずにまずは幹を見定めることが重要である。</p> <p>多次元の世界で『迷子』になったら，1年生で履修した「人体構造学Ⅰ」の講義資料や試験，図や写真の多い解剖学教科書（「カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで」井上貴央（監訳），西村書店，2003）を読み返してみよう。あるいは，より簡単な解剖学の書物を通読してみるのもよい。例えば「入門人体解剖学（改訂第5版）藤田恒夫，南江堂，2012」や「入門組織学（改訂第2版）牛木辰男，南江堂，2013」などが良いかもしれない。</p>		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		

講義ユニット名	系統解剖学	所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
講義ユニット コーディネーター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	講義中心, 講義資料配付, スライド投影, 板書		
概要	<p>「PS-01 基礎医学」の「PS-01-02 個体の構成と機能」 「PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」</p> <p>に関連する項目を扱い、以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生物のひとつの種であるヒトの体について形態学の面から理解する。</li> <li>・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。</li> <li>・人体の構造により担われている機能を理解する。</li> <li>・各器官の構造を知ると共にその機能的意味を諸分野の成果も取り入れながら追究する。</li> </ul> <p>端的に言えば、「人体構造学Ⅰ」の発展的内容、および「人体解剖学実習」に関連する内容を学習する。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>PS-01-02-16 位置関係を方向用語(上・下、前・後、内側・外側、浅・深、頭側・尾側、背側・腹側、近位・遠位、内転・外転)で理解している</p> <p>PS-02-02-01 血液・造血器・リンパ系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-1) 骨髄の構造、脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる</p> <p>PS-02-03-01 神経系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-2) 中枢神経系と末梢神経系の構成、脳の血管支配と血液脳関門を説明できる (表2-2) 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる (表2-2) 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる (表2-2) 脊髄神経と神経叢(頸・腕・腰仙骨)の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布(デルマトーム)を説明できる (表2-2) 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を説明できる (表2-2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を説明できる (表2-2) 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を説明できる</p> <p>PS-02-04-01 皮膚系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-3) 皮膚の組織構造を説明できる</p> <p>PS-02-05-01 運動器(筋骨格)系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-4) 骨・軟骨・関節・靭帯の構成と機能を説明できる (表2-4) 頭頸部の構成、脊柱の構成と機能を説明できる (表2-4) 四肢の骨格、主要筋群の運動と神経支配、骨盤の構成と性差を説明できる (表2-4) 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群、抗重力筋を説明できる</p> <p>PS-02-06-01 循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-5) 心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる (表2-5) 心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系を説明できる (表2-5) 体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる (表2-5) 大動脈と主な分枝(頭頸部、上肢、胸部、腹部、下肢)を図示し分布域を説明できる (表2-5) 主な静脈、門脈系と上・下大静脈系を説明できる (表2-5) 胸管を経由するリンパの流れを説明できる</p> <p>PS-02-07-01 呼吸器系の構造と機能について基本的事項について理解している (表2-6) 気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造、肺循環と体循環の違いを説明できる (表2-6) 縦隔と胸膜腔の構造、呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる</p> <p>PS-02-08-01 消化器系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-7) 各消化器官の位置、形態と関係する血管、腹膜と臓器の関係を説明できる (表2-7) 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる (表2-7) 消化管運動の仕組み、肝の構造と機能を説明できる (表2-7) 大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる (表2-7) 歯、舌、唾液腺の構造と機能、咀嚼くと嚥下の機構を説明できる</p> <p>PS-02-09-01 腎・尿路系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-8) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる</p>		

	<p>(表2-8) 蓄排尿の機序を説明できる</p> <p>PS-02-10-01 生殖器系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-9) 男性生殖器の形態と機能、精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる</p> <p>(表2-9) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる</p> <p>(表2-9) 女性生殖器の形態と機能を説明できる</p> <p>PS-02-13-01 乳房の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-12) 乳房の構造と機能を説明できる</p> <p>PS-02-14-01 内分泌・栄養・代謝系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-13) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる</p> <p>PS-02-15-01 眼・視覚系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-14) 眼球と付属器の構造、視覚情報の受容の仕組みと伝導路を説明できる</p> <p>(表2-14) 眼球運動の仕組みを説明できる</p> <p>PS-02-16-01 耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能について基本的事項を理解している</p> <p>(表2-15) 外耳・中耳・内耳の構造、聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる</p> <p>(表2-15) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造、喉頭の機能と神経支配を説明できる</p> <p>(表2-15) 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる</p>
講義日程	詳細はユニット開始の際に配布する日程表を参照のこと。
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。 出席はオンラインフォームの提出および学生証の読み取りにより行う。 講義の出席が3分の2に満たない学生については試験を受けられない。 <b>※第1回講義は解剖学実習ガイダンスと倫理教育となっております。欠席は厳禁である。</b>
評価項目	試験の成績、講義への参加態度（講義中のミニテストへの参加など）
評価法	試験は「人体解剖学実習」も含んだ総合試験とし、講義と実習を通して身に着けた人体構造の理解度を評価する。試験における合格最低基準は60点とする。 最終評価は試験の結果を基本に、講義への参加態度、人体解剖学実習の口頭試問や実習参加態度も含めて総合的に判断する。
予習・復習へのアドバイス	<p>[予習] 授業資料は事前に配布されるので、ざっと目を通しておくとよい。</p> <p>[復習] 講義内容は並行して進む人体解剖学実習の内容と強くリンクしており、毎日の実習の予習と復習の際にメモを書き込んだ授業資料を見返すことで理解が格段に深まるはずである。 くわえて週末を有効に使い、推奨参考書を読み込んで要点を書き出して“My学習ノート”をまとめるとよい。 人体解剖学実習後に勉強し始めてのでは間に合わない。日々解剖学に触れて咀嚼・反芻していることが重要である。</p>
履修上の注意 アドバイス	同時期に人体解剖学実習、組織学が進行中である。 マクロとミクロの両視点で相互に関連させて学ぶことが重要である。
推奨参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>「解剖学講義（改定3版）」伊藤隆 原著，高野廣子 改訂（2012）南山堂。¥11,880。解剖学の『幹』から『主要な枝葉』を理解するにはちょうど良いボリュームである。</li> <li>「イラスト解剖学（第10版）」松村讓兒 著（2021）中外医学社。¥8,360。通称「イラ解」。各項目が1頁から見開き2頁に収められており、項目毎の重要なポイントが一目で分かる。試験前には重宝するだろう。しかし、それ故に単なる暗記となってしまう危険性もあるため、他の推奨図書をメインに、本書は補助の学習教材とするのが好ましい。</li> <li>「臨床のための解剖学（第3版）」K.L. Moore, A.F. Dalley, A.M.R. Agur 原著，佐藤達夫・坂井建雄 監訳（2024）メディカル・サイエンス・インターナショナル。¥15,950。純然たる解剖学だけを学ぶよりも、先取りで臨床と絡めて解剖学を学ぶ方が効率も良く、また、解剖学の意義もより強く感じられることであろう。高学年になっても使える1冊。</li> <li>「Gray's Anatomy, 43e」Susan Standring 編（2026）。¥56,122（南江堂で2026/2/22現在）。細胞学、組織学、肉眼解剖学、発生学と「人体構造学」の全てをカバーしている。Amazonだと¥30,000程度のものである。</li> <li>「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第5版」坂井建雄，河原克雅 著（2025）。¥19,800。電子書籍付き。解剖学、組織学、生理学をカバーしており、広く深く人体の仕組みを学ぶのに適した1冊である。高学年になっても『辞書』のように使える。</li> </ol>

講義ユニット名	人体解剖学実習	所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
講義ユニット コーディネーター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	実習中心、学生による発表		
概要	<p>「PR プロフェッショナリズム」  「GE-03-03 胎児期、新生児期、乳幼児期」  「LL 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」  「PS-01 基礎医学」の「PS-01-02 個体の構成と機能」  「PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」  「CM: コミュニケーション能力」  「IP: 多職種連携能力」</p> <p>に関連する項目を扱い、以下の2つの実習を行う。  1. 骨学実習：人骨標本を主として鋳型模型等も用いた観察同定実習。  2. 肉眼解剖学実習：献体された御遺体を解剖しながらの観察同定実習。</p> <p>これらの実習を通して、以下のことを目指す。  ・人体の各器官、各組織を同定する（＝名前をあてはめる）。  ・人体を構成する各々の構造の三次元的配置を学ぶ。  ・系統解剖学とともに局所解剖学を学ぶ。</p> <p>解剖学は解剖学名を『覚える』学問ではないことに注意されたし。</p>		
講義ユニットの 到達目標	PR-01-01-01 患者や社会に対して誠実である行動とはどのようなものかを考え、そのように行動する(利益相反等) PR-01-01-02 社会から信頼される専門職集団の一員であるためにはどのように行動すべきかを考え、行動する PR-01-02-01 自分自身の限界を適切に認識し行動する PR-01-02-02 他者からのフィードバックを適切に受け入れる PR-02-01-01 患者を含めた他者に思いやりをもって接する PR-02-02-01 自身の想像力の限界を認識した上で、他者を理解することに努める PR-02-03-01 医師に求められる品格とはどのようなものかを考え、それを備えるように努める PR-02-03-02 礼儀正しく振る舞う PR-03-01-02 答えのない問いについて考え続ける PR-04-01-01 生と死に関わる倫理的問題の概要を理解している GE-03-03-01 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化について理解している LL-01-01-02 学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる LL-02-01-01 後輩や同僚等と協働して学修できる LL-02-01-02 後輩や同僚等に対して、適切にフィードバックできる PS-01-02-16 位置関係を方向用語(上・下、前・後、内側・外側、浅・深、頭側・尾側、背側・腹側、近位・遠位、内転・外転)で理解している PS-01-03-18 免疫反応に関わる組織と細胞について理解している PS-02-02-01 血液・造血器・リンパ系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-1) 骨髄の構造、脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる PS-02-03-01 神経系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-2) 中枢神経系と末梢神経系の構成、脳の血管支配と血液脳関門を説明できる (表2-2) 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる (表2-2) 脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる (表2-2) 脊髄神経と神経叢(頸・腕・腰仙骨)の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布(デルマトーム)を説明できる (表2-2) 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を説明できる (表2-2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を説明できる (表2-2) 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を説明できる PS-02-04-01 皮膚系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-3) 皮膚の組織構造を説明できる PS-02-05-01 運動器(筋骨格)系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-4) 骨・軟骨・関節・靭帯の構成と機能を説明できる (表2-4) 頭頸部の構成、脊柱の構成と機能を説明できる (表2-4) 四肢の骨格、主要筋群の運動と神経支配、骨盤の構成と性差を説明できる (表2-4) 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群、抗重力筋を説明できる PS-02-06-01 循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している (表2-5) 心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる (表2-5) 心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系を説明できる		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>(表2-5) 体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる  (表2-5) 大動脈と主な分枝(頭頸部、上肢、胸部、腹部、下肢)を図示し分布域を説明できる  (表2-5) 主な静脈、門脈系と上・下大静脈系を説明できる  (表2-5) 胸管を経由するリンパの流れを説明できる  PS-02-07-01 呼吸器系の構造と機能について基本的事項について理解している  (表2-6) 気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造、肺循環と体循環の違いを説明できる  (表2-6) 縦隔と胸膜腔の構造、呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる  PS-02-08-01 消化器系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-7) 各消化器官の位置、形態と関係する血管、腹膜と臓器の関係を説明できる  (表2-7) 食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる  (表2-7) 消化管運動の仕組み、肝の構造と機能を説明できる  (表2-7) 大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる  (表2-7) 歯、舌、唾液腺の構造と機能、咀嚼くと嚥下の機構を説明できる  PS-02-09-01 腎・尿路系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-8) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる  (表2-8) 蓄排尿の機序を説明できる  PS-02-10-01 生殖器系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-9) 男性生殖器の形態と機能、精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる  (表2-9) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる  (表2-9) 女性生殖器の形態と機能を説明できる  PS-02-13-01 乳房の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-12) 乳房の構造と機能を説明できる  PS-02-14-01 内分泌・栄養・代謝系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-13) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる  PS-02-15-01 眼・視覚系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-14) 眼球と付属器の構造、視覚情報の受容の仕組みと伝導路を説明できる  (表2-14) 眼球運動の仕組みを説明できる  PS-02-16-01 耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-15) 外耳・中耳・内耳の構造、聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる  (表2-15) 口腔・鼻腔・咽喉・喉頭の構造、喉頭の機能と神経支配を説明できる  (表2-15) 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる  CM-01-01-01 言語的コミュニケーション技能を發揮して、良好な人間関係を築くことができる  GM-01-01-05 相手の話を聞き、事実や自分の意見を相手にわかるように述べることができる  IP-01-03-02 患者のケアと責任が継続できるよう、医師間での考えや期待を共有できる</p>
<p>講義日程</p>	<p>詳細は実習初日に配布する日程表を参照のこと。  <b>実習計画</b>  1. 骨学実習(池上・坂本・Ijaz・中里): 4回(4時限/回で計16時限)  ・実習を効率的に進めるための事前学習動画(1~1.5時間程度)の視聴を求める。  ・スケッチの提出を求める。場合によっては口頭試問も実施する。  2. 人体解剖学実習(池上・坂本・Ijaz・中里・浦川・黒瀬): 44回(6時限/回で計264時限)  ・そのうち7回は口頭試問を実施する。  ・最終回は全員で御遺体の納棺を行う。  ・実習期間中、所見ノートに観察記録を残す。  ・実習の進度によっては実習時間が延長することもある。</p> <p>人体解剖学実習の感想文について  人体解剖学実習終了後、実習を振り返り、その経験について1000~1200字程度の文章を書く。その中から10編程度を広島大学の篤志献体登録者の団体である広島大学白菊会の会報誌に、1編を篤志解剖全国連合会の体験記集に掲載する。これは献体登録者やその家族と解剖学実習に支えられて医学を学ぶ者たちとの交流の場でもある。この観点から、文章の良し悪しではなく、解剖学実習の意義がよく伝わるものを選ぶ。</p> <p>6月7日(日)に行われる予定の慰霊祭に出席する。また、2026年秋頃に行われるご遺族へのご遺骨返還にも臨席する。これらに出席しない者は単位が認定されない。</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>実習は献体して下さった方の体を使って行うものであり、無遅刻・無欠席での出席が原則である。アルバイトや部活動など課外活動による途中退室や早退も認められない。遅刻・欠席・途中退室・早退にはそれ相応の合理的な理由と説明が求められる。<b>正当な理由のない遅刻・欠席・途中退室・早退が複数回に及んだ場合、実習態度不良として不合格とする。</b></p> <p>慰霊祭への出席およびご遺骨返還への臨席は必須である。本人の傷病によるもの、忌引き以外の欠席は認められない。また当日までに葬儀に相応しい身なりの用意をしておくこと。</p>
<p>評価項目</p>	<p>試験の成績、口頭試問、実習に臨む態度(スケッチ、所見ノート、遅刻や無断退席の有無など)</p>

<p>評価法</p>	<p>1. 骨学実習：筆記試験、スケッチ、口頭試問を含む実習に臨む態度を総合して評価する。試験における合格最低基準は60点とする。</p> <p>2. 人体解剖学実習：系統解剖学と併せた総合筆記試験、口頭試問、所見ノート、実習に臨む態度のすべてを総合して評価する。</p> <p><b>※法令（死体解剖保存法）・倫理に反する行動があった場合にはその時点で実習中止とし次年度での履修とする。場合によっては停学や退学などの懲戒処分の対象にもなりうる。</b></p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>[予習] 事前に配布される実習のポイントを参照しながら、解剖学実習の手びきと図譜を読み込んでイメージをつける。その際に並行して進んでいる系統解剖学講義の授業資料も参照するとよい。</p> <p>[復習] 実習後にその日の実習内容を思い出しながら、解剖学実習の手びきと図譜を反芻することで、人体の三次元的構造が確かな知識として脳に強く刻み込まれるはずである。</p>
<p>履修上の注意 アドバイス</p>	<p>予習無しで実習を行うことは不可能である。予習では「解剖実習の手びき」とアトラスを見ながら、剖出するものがどこにあるのか、剖出するには何をどのようにするのかなどの操作をイメージする。その際、単なる解剖操作のみではなく、個々の操作の意味や目的を理解することも重要である。「解剖実習の手びき」に出てくる太字の解剖学用語については簡単に説明できなければならない。主要構造については1年生の「人体構造学Ⅰ」の講義資料を復習するもよいだろう。</p> <p>実習後の復習も必須である。復習では剖出した構造物の立体配置、「それ自身がからだにおいてどのような向きにおかれているか、他の臓器との位置関係はどうであったか」を再現するようにする。</p> <p>人体解剖学実習では、解剖している己と同じ人間を対象としていることを常に意識すること。自分の手で解剖しているお体が、本人の遺志により献体されたものであることを理解し、故人及びその周囲の方々に対する敬意と感謝を忘れてはならない。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>国家試験はほとんど日本語であるが、臨床では英語/ラテン語の頭文字を使った略称で会話がなされることが多い。また、国際的な医師となるには英語/ラテン語で人体の部位を説明できなければならない。ラテン語と英語は共通であることも多いので、英語から覚えても良い。試験問題も英語/ラテン語を含むが、まず次の書に出てくる解剖学用語から始めると良い。</p> <p>・キクタンメディカル〈1〉人体の構造編—聞いて覚える医学英単語（英語でつなぐ世界といのち医学英語シリーズ）高橋玲 ¥2,940（アルク）</p> <p>1. 骨学実習の際には下記のものが必須</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 骨学実習の手びき(寺田春水, 藤田恒夫 著)1992(南山堂)</li> <li>2) グラント解剖学図譜(Anne M. R. Agur, Arthur F. Dalley 著, 坂井建雄 監訳)2022(医学書院) (2は, 骨学実習に引き続いて行う人体解剖学実習にも使用する)</li> </ol> <p>2. 人体解剖学実習については下記のものが必須</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 解剖実習の手びき 改訂11版(寺田春水, 藤田恒夫 著)2004(南山堂)</li> <li>2) グラント解剖学図譜(Anne M. R. Agur, Arthur F. Dalley 著, 坂井建雄 監訳)2022(医学書院) 加えてVisible BodyのHuman Anatomy Atlas (アプリ: ¥2,000-3,000) の購入を強く推奨する。</li> </ol> <p>3. 実習班に1~2冊は「解剖学カラーアトラス(J.W. Rohen, 横地千仞, E. Lütjen-Drecoll 共著)2023(医学書院)」があると良い。実習ではこのアトラスの写真が一番参考になる(御遺体では絵の図譜のように様々なものが色で塗り分けられてはいない)。</p>

講義ユニット名	組織学	所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学
授業方法	講義 顕微鏡実習あるいはバーチャルスライドを用いた実習		
概要	医師となるために必要な解剖学的知識の習得にむけて、人体を構成する各器官（中枢神経系を除く）の細胞・組織構築について理解することを主な目標とする。		
講義ユニットの 到達目標	<p>細胞の観察法を説明できる。</p> <p>細胞の全体像を図示できる。</p> <p>核とリボソームの構造と機能を説明できる。</p> <p>小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系の構造と機能を説明できる。</p> <p>ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。</p> <p>細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。</p> <p>細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。</p> <p>原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。</p> <p>上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>支持組織を構成する細胞と細胞間質（線維成分と基質）を説明できる。</p> <p>血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>神経組織の微細構造を説明できる。</p> <p>筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。</p> <p>組織の再生の機序を説明できる。</p> <p>骨髄の構造を説明できる。</p> <p>脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。</p> <p>皮膚の組織構造を図示して説明できる。</p> <p>心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる。</p> <p>心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。</p> <p>歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。</p> <p>精巢の組織構造と精子形成の過程を説明できる。</p> <p>陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義・実習については出席状況把握システムもしくはTeamsやFormsでの出席履歴・オンライン教材の視聴履歴・小テスト・レポートなどにより出席をとる。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）		
評価法	本試験における合格最低基準は60点とする。最終的な評価は試験の結果に加えて実習レポートや講義・実習への参加・小テスト、口頭試問などにより総合的な評価を行う。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意 アドバイス	講義と実習を対にして進めるので、知識を整理して実習にのぞむこと。		
推奨参考書	<p>人体の正常構造と機能（縮刷版、日本医事新報）</p> <p>最新カラー組織学（西村書店）ウィーター図説で学ぶ機能組織学（エルゼビア・ジャパン）</p>		

講義ユニット名	人体発生学	所属科目名	人体構造学Ⅱ
講義ユニット 責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
講義ユニット コーディネーター	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	講義中心、印刷物配布、スライド投影		
概要	<p>「GE-03-03 胎児期、新生児期、乳幼児期」  「PS-01 基礎医学」の「PS-01-02 個体の構成と機能」  「PS-02 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療」</p> <p>に関連する項目を扱い、以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成体で見られる構造に発生過程が反映されていることを知り、成体の構造の必然性を理解する。</li> <li>・発生過程の変異により、いわゆる先天異常が引き起こされることを知る。</li> </ul>		
講義ユニットの 到達目標	<p>GE-03-03-01 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化について理解している</p> <p>PS-01-02-22 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像、胚内体腔の形成過程について概要を理解している</p> <p>PS-01-02-23 体節の形成と分化、咽頭弓・咽頭嚢(鰓弓・鰓嚢)の分化、頭・頸部と顔面・口腔の形成過程について理解している</p> <p>PS-01-02-24 体幹と四肢の骨格と筋、心血管系、泌尿生殖器系各器官の形成過程について理解している</p> <p>PS-01-02-25 消化・呼吸器系各器官の形成過程について理解している</p> <p>PS-01-02-26 神経管の分化と脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系、皮膚の形成過程について理解している</p> <p>PS-02-06-01 循環器系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-5) 体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる</p> <p>PS-02-10-01 生殖器系の構造と機能について基本的事項を理解している  (表2-9) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる</p>		
講義日程	別途通知する。		
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。 出席はオンラインフォームの提出および学生証の読み取りにより行う。 講義の出席が3分の2に満たない学生については試験を受けられない。		
評価項目	筆記試験、講義への参加態度		
評価法	筆記試験における合格最低基準は60点とする。 最終評価は筆記試験の結果を中心に、講義への参加態度なども踏まえて総合的に判断する。		
予習・復習への アドバイス	<p>[予習] 授業資料は事前に配布されるので、ざっと目を通しておくとよい。</p> <p>[復習] メモを書き込んだ授業資料を見返しながら、推奨参考書を読んで要点を書き出して“My 学習ノート”をまとめるとよい。</p>		
履修上の注意 アドバイス	<p>人体発生学は三次元的な人体構造が時間軸に沿って形成される過程を学ぶ学問である。つまり『四次元』の事象を学ぶことになる。一方で教科書や図、配布される講義資料は二次元情報である。学習対象と学習資料との間にある二次元分の乖離が人体発生学を難しくしている。講義中にも適宜使用するが、乖離を一次元分に留めるために、人体発生学の学習では動画を活用するとよい。今は様々な動画資料が世の中に満ち溢れている(もちろん、その真偽や著作権については各自で慎重に見定める必要があるが)。なお、動画資料を探す場合、英語のキーワードを使うことで、日本語で探す時の10倍以上の資料や情報を得ることができる。</p>		
推奨参考書	参考書の詳細については講義の中で紹介する。		

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/08(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	全身の概観と脊柱, 肋骨(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/08(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	全身の概観と脊柱, 肋骨(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/09(木)	3・4	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	人体発生学1(筋骨格系・四肢の発生)	解剖学1	中里 亮太
2026/04/09(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	上肢・上肢帯(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/09(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	上肢・上肢帯(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/10(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	下肢・下肢帯(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/10(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	下肢・下肢帯(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/13(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義1(概要・顕微鏡の成り立ち・使い方)	神経生物学	相澤 秀紀、Deepa Kasaragod
2026/04/13(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習1(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀、Deepa Kasaragod
2026/04/14(火)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	体表、頸部浅層、鎖骨下の解剖	解剖学1	池上 浩司
2026/04/14(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	あたま(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/14(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	あたま(形態系実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/15(水)	3・4	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	実習を始めるにあたって、白菊会理事講話、慰霊碑参拝	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/15(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	実習ガイダンス, 準備(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/15(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	体幹前面の皮膚剥離(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/15(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	体幹前面の皮膚剥離(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/16(木)	3・4	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	人体発生学2(循環器系の発生)	解剖学1	池上 浩司
2026/04/16(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	広頸筋, 乳腺, 皮神経, 皮静脈(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/16(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	広頸筋, 乳腺, 皮神経, 皮静脈(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/16(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	広頸筋, 乳腺, 皮神経, 皮静脈(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/17(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸腹部浅層, 頸神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/17(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸腹部浅層, 頸神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/17(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸腹部浅層, 頸神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/20(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義2(消化器1)	神経生物学	相澤 秀紀、Deepa Kasaragod
2026/04/20(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習2(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀、Deepa Kasaragod
2026/04/21(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/21(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/21(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	背中の皮膚剥離, 背中の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/22(水)	1・2	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	人体発生学3(消化器系・呼吸器系の発生)	解剖学1	池上 浩司
2026/04/22(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/22(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/22(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	首と胸部の深層, 腋窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/23(木)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	肩から上肢の解剖	解剖学1	中里 亮太
2026/04/23(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/23(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/23(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	鎖骨下, 腕浅層, 腕神経叢(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/24(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/24(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/24(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕屈側, 肩甲骨前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/27(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義3(消化器2)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/04/27(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習3(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/04/28(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/28(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/28(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	上腕伸側, 肩甲骨背面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/04/30(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	試験	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/04/30(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習【骨学実習】)	試験	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太
2026/05/01(金)	3・4	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	人体発生学4(泌尿生殖器系の発生)	解剖学1	池上 浩司
2026/05/01(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	前腕屈側伸側, 手背(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/05/01(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	前腕屈側伸側,手背(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/01(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	前腕屈側伸側,手背(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/07(木)	1・2	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	人体発生学5(顔面・頭頸部の発生)	解剖学1	坂本 信之
2026/05/07(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問1(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/07(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問1(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/07(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問1(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/08(金)	3・4	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	背中,鼠径部,胸部の解剖	解剖学1	池上 浩司
2026/05/08(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手のひら(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/08(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手のひら(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/08(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手のひら(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/11(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義4(泌尿器)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/11(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習4(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/12(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手の深層,上肢の関節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/12(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手の深層,上肢の関節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/12(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	手の深層,上肢の関節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/13(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	固有背筋,項の筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/13(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	固有背筋,項の筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/13(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	固有背筋,項の筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/14(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	脊髄,腹壁の筋,鼠径部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/14(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	脊髄,腹壁の筋,鼠径部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/14(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	脊髄,腹壁の筋,鼠径部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/15(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹直筋,腹膜,臍(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/15(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹直筋,腹膜,臍(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/15(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹直筋,腹膜,臍(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/18(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義5(呼吸器)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/18(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習5(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/19(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問2(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/19(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問2(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/19(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問2(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/20(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸壁,胸膜,胸膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/20(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸壁,胸膜,胸膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/20(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	胸壁,胸膜,胸膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/21(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	肺,くび深層,縦隔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/21(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	肺,くび深層,縦隔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/21(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	肺,くび深層,縦隔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/22(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	心臓,縦隔深部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/22(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	心臓,縦隔深部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/22(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	心臓,縦隔深部(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/25(月)	3・4	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	腹部の解剖	解剖学1	坂本 信之
2026/05/25(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義6(リンパ器官)	神経生物学	半田 高史
2026/05/25(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習6(形態系実習室)	神経生物学	半田 高史
2026/05/26(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹部内臓,腹膜,腹膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/26(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹部内臓,腹膜,腹膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/26(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹部内臓,腹膜,腹膜腔(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/27(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問3(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/27(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問3(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/27(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問3(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/05/28(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腸,胃,肝臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/05/28(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腸, 胃, 肝臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/28(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腸, 胃, 肝臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/29(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹膜後器官, 脾臓, 後胸壁・後腹壁(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/29(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹膜後器官, 脾臓, 後胸壁・後腹壁(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/05/29(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	腹膜後器官, 脾臓, 後胸壁・後腹壁(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/01(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体発生学)	試験	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/02(火)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	下肢の解剖	解剖学1	中里 亮太
2026/06/02(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	横隔膜, 腰神経叢, 下肢の表層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/02(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	横隔膜, 腰神経叢, 下肢の表層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/02(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	横隔膜, 腰神経叢, 下肢の表層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/03(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	大腿筋, 大殿筋, 大腿前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/03(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	大腿筋, 大殿筋, 大腿前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/03(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	大腿筋, 大殿筋, 大腿前面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/04(木)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下肢の後面深層, 膝窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/04(木)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下肢の後面深層, 膝窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/04(木)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下肢の後面深層, 膝窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/05(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問4(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/05(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問4(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/05(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問4(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/08(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義7(生殖器)	神経生物学	半田 高史
2026/06/08(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習7(形態系実習室)	神経生物学	半田 高史
2026/06/09(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の前面と足(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/09(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の前面と足(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/09(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の前面と足(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/10(水)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	骨盤腔の解剖	解剖学1	坂本 信之
2026/06/10(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の最深層, 膝と足の関節, 膀胱(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/10(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の最深層, 膝と足の関節, 膀胱(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/10(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	下腿の最深層, 膝と足の関節, 膀胱(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/12(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	外陰部, 会陰(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/12(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	外陰部, 会陰(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/12(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	外陰部, 会陰(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/15(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義8(内分泌器)	神経生物学	松股 美穂
2026/06/15(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習8(形態系実習室)	神経生物学	松股 美穂
2026/06/16(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤内臓の位置(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/16(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤内臓の位置(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/16(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤内臓の位置(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/17(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤の血管神経, 骨盤内臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/17(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤の血管神経, 骨盤内臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/17(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤の血管神経, 骨盤内臓(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/19(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問5(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/19(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問5(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/19(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問5(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/22(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	講義9(感覚器)	神経生物学	松股 美穂
2026/06/22(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習9(形態系実習室)	神経生物学	松股 美穂
2026/06/23(火)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	頭頸部の解剖	解剖学1	池上 浩司
2026/06/23(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤壁の筋と股関節, 顔の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/23(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤壁の筋と股関節, 顔の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/23(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	骨盤壁の筋と股関節, 顔の浅層(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/24(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	頰の深層, 咽頭(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/24(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	頰の深層, 咽頭(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/24(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	頰の深層, 咽頭(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/26(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	甲状腺, 喉頭, 気管, 頭蓋内面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/26(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	甲状腺, 喉頭, 気管, 頭蓋内面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/26(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	甲状腺, 喉頭, 気管, 頭蓋内面(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/29(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口腔, 鼻腔, 咽頭鼻部, 咀嚼筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/29(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口腔, 鼻腔, 咽頭鼻部, 咀嚼筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/29(月)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口腔, 鼻腔, 咽頭鼻部, 咀嚼筋(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/06/30(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問6(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/30(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問6(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/06/30(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問6(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/07/01(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	顎関節, 側頭下窩, 舌, 口蓋, 副鼻腔, 翼口蓋神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/01(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	顎関節, 側頭下窩, 舌, 口蓋, 副鼻腔, 翼口蓋神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/01(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	顎関節, 側頭下窩, 舌, 口蓋, 副鼻腔, 翼口蓋神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/03(金)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	断面像の理解	解剖学1	池上 浩司
2026/07/03(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	眼球, 眼窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/03(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	眼球, 眼窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/03(金)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	眼球, 眼窩(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/06(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	舌下神経, 頸静脈孔, 外耳・中耳(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/06(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	舌下神経, 頸静脈孔, 外耳・中耳(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/06(月)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	舌下神経, 頸静脈孔, 外耳・中耳(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/07(火)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	内耳, 翼突管, 頸動脈管, 耳神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/07(火)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	内耳, 翼突管, 頸動脈管, 耳神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/07(火)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	内耳, 翼突管, 頸動脈管, 耳神経節(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/08(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問7(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/07/08(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問7(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/07/08(水)	9・10	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	口頭試問7(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/07/10(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	解剖実習学納棺(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/10(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	解剖実習学納棺(解剖学実習室)	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/13(月)	5・6	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習10(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・半田 高史・松股 美穂・ Deepa Kasaragod
2026/07/13(月)	7・8	人体構造学Ⅱ(組織学)	実習11(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・半田 高史・松股 美穂・ Deepa Kasaragod
2026/07/15(水)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	予備日	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/15(水)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	予備日	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/17(金)	5・6	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	予備日	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/17(金)	7・8	人体構造学Ⅱ(人体解剖学実習)	予備日	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太・浦川 将・黒瀬 智之
2026/07/23(木)	1・2	人体構造学Ⅱ(組織学)	試験	神経生物学	相澤 秀紀
2026/07/23(木)	3・4	人体構造学Ⅱ(組織学)	試験	神経生物学	相澤 秀紀
2026/07/31(金)	1・2	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	ペーパー試験	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太
2026/07/31(金)	3・4	人体構造学Ⅱ(系統解剖学)	ペーパー試験	解剖学1	池上 浩司・坂本 信之・FARYAL IJAZ・ 中里 亮太

授業科目名	脳神経医学Ⅱ (Medical Neuroscience II)		
対象学年	2年生	単位	4単位
科目責任者	はしもと こういち 橋本 浩一	所属	神経生理学
授業方法	講義・演習・実習		
概要	医師となるために必要な脳神経の基盤医学的知識の習得に向けて、解剖学・生理学・薬理学などの専門分野にわたる神経系の構造と機能を横断的に学習する。		
講義ユニットの到達目標	<p>刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。  反射を説明できる。  脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。  脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。  主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン）とその作用を説明できる。  髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。  脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。  脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。  脳幹の構造と伝導路を説明できる。  脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。  脳幹の機能を概説できる。  大脳の構造を説明できる。  大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野）を説明できる。  記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。  随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。  小脳の構造と機能を概説できる。  大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。  痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。  視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。  視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。  眼球と付属器の構造と機能を説明できる。  視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。  聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。  平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。  味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。  交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。  視床下部の構造と機能を内分泌及び自律機能と関連付けて概説できる。  ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。  パーキンソン病治療薬の種類と作用機序を概説できる。  統合失調症治療薬の種類と作用機序を概説できる。  抗うつ薬、抗そう薬の種類と作用機序を概説できる。  催眠薬、抗不安薬の種類と作用機序を概説できる。  抗てんかん薬の種類と作用機序を概説できる。  麻酔薬の種類と作用機序を概説できる。  薬物依存の概要を理解している。</p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。 講義について；出席状況把握システムもしくはTeamsでの出席履歴・オンライン教材の視聴履歴・小テストなどにより出席をとる。 実習について；実習の欠席は、原則として認めない。
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）
評価法	中間試験と期末試験（以下、本試験と呼称する）を筆記形式（マークシート形式も含む）で行う。中間試験の範囲は解剖学（神経生物学担当）と薬理学（神経薬理学担当）の講義範囲とし、期末試験の範囲は生理学（神経生理学担当）の講義範囲とする。評価は本試験の結果（中間・期末試験の総合評価）を中心として、授業後の小テストや実習における提出レポート、講義への参加態度などを踏まえて評価する。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。合格点基準点は60点とする。本試験不合格者に対して、1回のみ再試験を行う。再試験の出題範囲は本試験の全範囲（解剖学・薬理学・生理学）とする。
予習・復習へのアドバイス	講義前後に講義資料を確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
履修上の注意 アドバイス	神経系という共通したシステムに対して、解剖学、薬理学、生理学など異なったアプローチで理解を進めるため、各回の講義で得られる知識をよく整理して学習する。
推奨参考書	人体の正常構造と機能（縮刷版、日本医事新報） NEW薬理学（南江堂）、標準生理学（医学書院）、カandel神経科学（メディカルサイエンスインターナショナル）

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/08(水)	3・4	脳神経医学Ⅱ	大脳皮質の機能局在・運動の調節	神経生物学	相澤 秀紀
2026/04/15(水)	1・2	脳神経医学Ⅱ	脊髄と体性感覚	神経生物学	半田 高史
2026/04/16(木)	1・2	脳神経医学Ⅱ	記憶・学習・情動・意識	神経生物学	相澤 秀紀
2026/04/22(水)	3・4	脳神経医学Ⅱ	聴覚・化学感覚の情報伝達経路	神経生物学	半田 高史
2026/04/24(金)	1・2	脳神経医学Ⅱ	Microscopy of the nervous tissue	神経生物学	KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/04/24(金)	3・4	脳神経医学Ⅱ	視覚の情報伝達経路	神経生物学	松股 美穂
2026/04/27(月)	3・4	脳神経医学Ⅱ	三叉神経系と内臓感覚系	神経生物学	相澤 秀紀
2026/04/28(火)	1・2	脳神経医学Ⅱ	前庭系と動眼系	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/07(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	視床下部と内臓機能の調節	神経生物学	相澤 秀紀
2026/05/11(月)	3・4	脳神経医学Ⅱ	末梢神経薬理	薬理学	原田 佳奈
2026/05/13(水)	3・4	脳神経医学Ⅱ	末梢神経薬理	薬理学	原田 佳奈
2026/05/14(木)	1・2	脳神経医学Ⅱ	中枢神経薬理1(パーキンソン病)	薬理学	田中 茂
2026/05/14(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	中枢神経薬理2(統合失調症・薬物依存)	薬理学	田中 茂
2026/05/21(木)	1・2	脳神経医学Ⅱ	中枢神経薬理3(気分障害・不眠・神経症性障害)	薬理学	田中 茂
2026/05/21(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	中枢神経薬理4(てんかん)	薬理学	田中 茂
2026/05/22(金)	3・4	脳神経医学Ⅱ	中枢神経薬理5(麻酔薬)	薬理学	田中 茂
2026/05/28(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	筋生理・聴覚	神経生理学	橋本 浩一
2026/05/29(金)	3・4	脳神経医学Ⅱ	聴覚・平衡感覚・視覚	神経生理学	橋本 浩一
2026/06/01(月)	3・4	脳神経医学Ⅱ	味覚・嗅覚	神経生理学	吉田 隆行
2026/06/05(金)	1・2	脳神経医学Ⅱ	自律神経	神経生理学	吉田 隆行
2026/06/08(月)	3・4	脳神経医学Ⅱ	体性感覚	神経生理学	久保 怜香
2026/06/10(水)	3・4	脳神経医学Ⅱ	運動野・小脳	神経生理学	橋本 浩一
2026/06/11(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	概日リズム	客員教授等	内匠 透
2026/06/16(火)	1・2	脳神経医学Ⅱ	小脳・基底核	神経生理学	橋本 浩一
2026/06/18(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	基底核・高次機能	神経生理学	岡田 佳奈
2026/06/22(月)	3・4	脳神経医学Ⅱ	中間試験	神経生理学	相澤 秀紀・田中 茂・原田 佳奈・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH・松股 美穂
2026/06/25(木)	3・4	脳神経医学Ⅱ	神経症候学(臨床での応用に向けて)	脳神経内科	丸山 博文
2026/07/01(水)	1・2	脳神経医学Ⅱ	脳と精神機能	精神科	岡田 剛
2026/07/21(火)	5・6	脳神経医学Ⅱ	脳実習1(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/07/21(火)	7・8	脳神経医学Ⅱ	脳実習1(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/07/22(水)	1・2	脳神経医学Ⅱ	脳実習2(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/07/22(水)	3・4	脳神経医学Ⅱ	脳実習2(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/07/22(水)	5・6	脳神経医学Ⅱ	脳実習3(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/07/22(水)	7・8	脳神経医学Ⅱ	脳実習3(形態系実習室)	神経生物学	相澤 秀紀・松股 美穂・半田 高史・KASARAGOD DEEPA KAMATH
2026/10/02(金)	3・4	脳神経医学Ⅱ	最終試験	神経生理学	橋本 浩一・吉田 隆行・岡田 佳奈・久保 怜香

授業科目名	組織細胞機能学 (Physiology and Biochemistry)		
対象学年	2年生	単位	10単位
科目責任者	ふじわら ゆういちろう 藤原 祐一郎	所属	生理学及び生物物理学
授業方法	生化学、生理学共に講義中心であるが、それに加え、実習がある。		
概要	医師となるための医学知識の習得にむけて、身体の機能調節の仕組みを基礎的側面から体系的に理解する。		
到達目標	各ユニットのシラバスを参照のこと		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）		
評価法	組織細胞機能学実習は生理学1、生理学2、生化学1、生化学2の4教室の共同として行われ、実習を欠席した場合は、試験結果に関わらず単位は不可となる。実習に参加した上で、生理学1、生化学1、生化学2（生理学2は含めない）すべての試験に合格した場合に、組織細胞機能学としての単位が認められる。評定（S, A, B, C）にも生理学2の点数を含めず、生理学1、生化学1、生化学2の3科目の平均点数で決定する。		
予習・復習へのアドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
履修上の注意 アドバイス	本科目の講義内容は臨床医学の理解のための基盤となるものである。また本講義の目的とするところは、単なる暗記ではなく、複雑な生体機能を真に理解することにある。それには学生諸君の講義や実習、グループ学習における積極的参加が不可欠であり、特に理由のないかぎり欠席は認めない。実習は講義の内容をさらに深く理解するために行われるものである。予習、復習に力を注いでほしい。毎回の授業内容が豊富なため、欠席するとその後の挽回が困難になる。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと		

講義ユニット名	生化学 1	所属科目名	組織細胞機能学
講義ユニット 責任者	もりわき けんた 森脇 健太	所属	医化学
講義ユニット コーディネーター	もりわき けんた 森脇 健太	所属	医化学
授業方法	講義中心であるが、それに加え、実習がある。		
概要	<p>医師となるために必要な生化学的知識の習得に向けて、細胞生物学、分子生物学の各関連項目を包括的ならびに体系的に理解する。実習は生化学 1、生化学 2、生理学 1、生理学 2 の 4 ユニットで組織細胞機能学実習として行う。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>PS-01-01-02 細胞の全体像を図示できる。</p> <p>PS-01-01-03 核とリボソーム、小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格の種類とその構造と機能について概要を理解している。</p> <p>PS-01-01-04 細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式について概要を理解している。</p> <p>PS-01-01-05 原核細胞と真核細胞の特徴について理解している。</p> <p>PS-01-01-06 メンデルの法則、ミトコンドリア遺伝、エピゲノム修飾(インプリンティングを含む)及び多因子遺伝について理解している。</p> <p>PS-01-01-08 染色体の構造を理解し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動について理解している。</p> <p>PS-01-01-09 DNAの複製と修復、DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節(セントラルドグマ)について理解している。</p> <p>PS-01-01-10 染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について概要を理解している。</p> <p>PS-01-01-11 ゲノム編集技術とその応用について概要を理解している。</p> <p>PS-01-01-12 進化の基本的な考え方について理解している。</p> <p>PS-01-01-13 生物種とその系統関係について理解している。</p> <p>PS-01-01-14 アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹について概要を理解している。</p> <p>PS-01-02-01 細胞内液・外液のイオン組成、及び浸透圧と(静止)膜電位の形成機構について理解している。</p> <p>PS-01-02-02 細胞膜のイオンチャネル、ポンプ及び膜を介する物質の能動・受動輸送過程について理解している。</p> <p>PS-01-02-03 活動電位の発生機構と伝導、シナプス(神経筋接合部を含む)の形態とシナプス伝達の機能(興奮性、抑制性)と可塑性について理解している。</p> <p>PS-01-02-04 情報伝達の種類と機能について理解している。</p> <p>PS-01-02-05 受容体の種類・細胞内局在・機能、受容体による細胞内シグナル伝達過程について理解している。</p> <p>PS-01-02-06 液性因子による細胞間情報伝達(自己分泌、傍分泌、内分泌)について理解している。</p> <p>PS-01-02-07 細胞骨格を構成するタンパク質とその機能、アクチンフィラメント系による細胞運動について概要を理解している。</p> <p>PS-01-02-08 細胞膜を介する分泌と吸収の過程と細胞内輸送システム、微小管の役割や機能について理解している。</p> <p>PS-01-02-09 軸索輸送、軸索の変性と再生について理解している。</p> <p>PS-01-02-29 タンパク質の構造、代謝と調節、生理的意義、主要なアミノ酸の代謝、尿素回路を理解している。</p> <p>PS-01-02-31 ヘム・ポルフィリンの代謝について概要を理解している。</p> <p>PS-01-02-34 ビタミン、微量元素の種類と作用について理解している。</p> <p>PS-01-04-11 ビタミン、微量元素の代謝異常の病態について理解している。</p> <p>PS-01-04-20 がんの原因や遺伝子変化について概要を理解している。</p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席の確認はFormsへの入力とカードリーダーにより行う。全講義回数の2/3以上の出席が受験資格に必要である。ただし、病気、その他の勘案すべき事情がある場合は、総合的に判断する。実習への出席は試験の受験資格には含まれないが、実習を欠席した場合は、試験結果に関わらず、組織細胞機能学の単位は不可となる。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	組織細胞機能学実習に欠席した場合、単位は与えられない。試験は前期、後期の2回行われ、MCQ形式と記述形式の併用により行う(配点: おおよそMCQ 50点、記述50点)。 本試験における合格基準は60点とする。 生理学1、生化学1、生化学2のすべての試験に合格した場合に、組織細胞機能学としての単位が認められる。生理学2の試験点数は、組織細胞機能学の評価には含まれない。他の科目(生理学1、生化学2)が不合格で、組織細胞機能学が不可となった場合、生化学1の合格は取り消され、翌年度も生化学1の履修が必要となる。
予習・復習へのアドバイス	講義資料を予めEDX UniText(講義資料サイト)にアップロードするので目を通しておくこと。 受講後に講義資料を見直すとともに講義中に行った演習問題に再度取り組むこと。 英語表記の記載についてもしっかり記憶すること。 生体内の現象と疾患との関わりを関連付けると理解しやすい。
推奨参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーニンジャーの新生化学(上・下), 廣川書店, 川寄敏祐監修, 中山和久編集, 2019年(上下とも9,680円(税込))</li> <li>・イラストレイテッド生化学, 丸善出版, 石崎泰樹・丸山敬監訳, 2023年(8,800円(税込))</li> <li>・Essential細胞生物学(原書第5版), 南江堂, Alberts, B. et al.原著者, 中村桂子/松原謙一ほか監訳, 2021年(8,800円(税込))</li> <li>・Molecular Biology of the Cell 細胞の分子生物学(第6版), ニュートンプレス, 中村桂子ほか監訳 原著の翻訳, 2017年(22,300円)</li> <li>・Genes VII (B. Lewin著), Oxford University Press, 2000年(8,750円)</li> <li>・ゲノム 第4版 (T.A. Brown著), メディカルサイエンスインターナショナル, 2018年(9,680円(税込))</li> <li>・分子細胞生物学 第7版(カープ著, 山本正幸, 渡辺雄一郎ほか監訳), 東京化学同人, 2016年(8,800円(税込))</li> <li>・生化学辞典 第4版(今堀和友, 山川民夫監修), 東京化学同人, 2007年(10,780円(税込))</li> <li>・分子細胞生物学辞典(村松正実ほか編), 東京化学同人, 2008年(13,200円(税込))</li> </ul>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/08(水)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(細胞と細胞周期)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/04/10(金)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(タンパク質分解)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/04/10(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(小胞体)	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/04/17(金)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(ゴルジ体・リソソーム・ペルオキシソーム)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/04/17(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(ミトコンドリア・葉緑体)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/04/20(月)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(細胞膜)	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/04/23(木)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(細胞骨格・接着装置)	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/05/12(火)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(核①)	原医研	田代 聡
2026/05/15(金)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(核②)	原医研	田代 聡
2026/05/15(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	ビタミン	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/05/20(水)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(核③)	原医研	田代 聡
2026/05/26(火)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	中間試験	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/05/27(水)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞生物学(核④)	原医研	田代 聡
2026/05/29(金)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	ヘムとポルフィリン	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/06/03(水)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	翻訳開始制御機構	客員教授等	上田 健
2026/06/03(水)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	細胞内代謝とエビジェネティクス	客員教授等	上田 健
2026/06/05(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	分子生物学(受容体とシグナル伝達)	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/06/15(月)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	分子生物学(遺伝子発現調節とタンパク質合成)	分子細胞情報学	金本 聡自
2026/07/03(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	分子生物学(遺伝子工学①)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/07/08(水)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	分子生物学(遺伝子工学②)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/07/08(水)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	分子生物学(進化・系統分類)	分子細胞情報学	上川 泰直
2026/07/17(金)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	薬学から見る生化学・分子生物学①	客員教授等	名黒 功
2026/07/17(金)	3・4	組織細胞機能学(生化学1)	薬学から見る生化学・分子生物学②	客員教授等	名黒 功
2026/10/19(月)	1・2	組織細胞機能学(生化学1)	生化学1試験	分子細胞情報学	金本 聡自

講義ユニット名	生化学2	所属科目名	組織細胞機能学
講義ユニット 責任者	もりわき けんた 森脇 健太	所属	医化学
講義ユニット コーディネーター	もりわき けんた 森脇 健太	所属	医化学
授業方法	講義中心であるが、それに加え、実習がある。		
概要	<p>生体・病態の成り立ちを生化学的観点から理解することを目標とする。そのために、生体を構成する物質の構造と機能、さらにそれらの生体構成分子がどのようにして複雑な生体反応を司り、また代謝されるかについて学修する。特に、生体反応を触媒する酵素と補酵素について、糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質・核酸の構造・機能・代謝について学修する。さらに、糖代謝・脂質代謝・アミノ酸代謝を総合的に理解し、代謝性病態を理解するための基礎知識を修得する。また、細胞死の生体恒常性維持における役割とその破綻がもたらす病態について学修する。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>PS-01-02-27 酵素の機能と調節について理解している。</p> <p>PS-01-02-28 糖質の構造、代謝と調節(解糖、クエン酸回路、電子伝達系と酸化リン酸化、グリコーゲン代謝、糖新生、五炭糖リン酸回路)、生理的意義について理解している。</p> <p>PS-01-04-07 糖代謝異常の病態について理解している。</p> <p>PS-01-02-37 複合糖質、複合脂質について概要を理解している。</p> <p>PS-01-02-32 ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路について理解している。</p> <p>PS-01-04-10 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態について理解している。</p> <p>PS-01-02-30 脂質の構造、代謝と調節、生理的意義、脂質の輸送(リポタンパク質)を理解している。</p> <p>PS-01-04-09 脂質代謝異常の病態について理解している。</p> <p>PS-01-02-33 酸化ストレス(フリーラジカル、活性酸素)について概要を理解している。</p> <p>PS-01-04-05 ネクロシスとアポトーシスの違いを含め、細胞傷害・変性と細胞死の多様性、病因と意義について理解している。</p> <p>PS-01-04-06 細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の特徴について理解している。</p> <p>PS-01-04-24 がんの免疫系による排除機構について概要を理解している。</p> <p>PS-01-02-29 タンパク質の構造、代謝と調節、生理的意義、主要なアミノ酸の代謝、尿素回路を理解している。</p> <p>PS-01-04-08 タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態について理解している。</p> <p>PS-01-02-35 栄養素の相互変換とエネルギー代謝(エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量)について理解している。</p> <p>PS-01-02-36 空腹時、飢餓時、食後、過食時と運動時における代謝について理解している。</p> <p>PS-02-14-01 内分泌・栄養・代謝系の構造と機能について基本的事項を理解している。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>出席状況把握システム、Formsへの入力、講義中の提出物などにより出席をとる。試験の受験には、講義回数の2/3以上の出席が必要である。ただし、病気、その他の勘案すべき事情がある場合は、総合的に判断する。実習への出席は試験の受験資格には含まれないが、実習を欠席した場合は、試験結果に関わらず、単位は不可となる。</p>		

評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	組織細胞機能学実習に欠席した場合、単位は与えられない。試験は前期、後期の2回行われ、記述およびMCQ形式により行う。合格基準は2回の試験の平均60点以上とする。 生理学1、生化学1、生化学2のすべての試験に合格した場合に、組織細胞機能学としての単位が認められる。生理学2の試験点数は、組織細胞機能学の評価には含まれない。他の科目(生理学1、生化学1)が不合格で、組織細胞機能学が不可となった場合、生化学2の合格は取り消され、翌年度も生化学2の履修が必要となる。
予習・復習へのアドバイス	(予習) 講義資料および教科書などに目を通しておくとよい。 (復習) 講義資料および教科書などを見返すとともに、講義中に出される練習問題に取り組むとよい。
推奨参考書	ミースフェルド生化学、R. L. Miesfeldら、東京化学同人、2020年 ベインズ・ドミニチャク生化学 原書6版、J. W. Baynesら、丸善出版、2024年 カラーイラストで学ぶ集中講義「生化学」改訂第2版、鈴木敬一郎ら、メディカルビュー社、2017 もっとよくわかる！細胞死、中野裕康ら、羊土社、2024年

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/09(木)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	酵素の機能と調節	医化学	森脇 健太
2026/04/13(月)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	酵素の反応速度論	医化学	森脇 健太
2026/04/21(火)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	糖質代謝（1）	医化学	中津 祐介
2026/05/01(金)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	糖質代謝（2）	医化学	中津 祐介
2026/05/08(金)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	糖質代謝（3）	医化学	中津 祐介
2026/05/13(水)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	糖質代謝（4）	医化学	中津 祐介
2026/05/18(月)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	複合糖質	医化学	森脇 健太
2026/06/09(火)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	ヌクレオチド代謝	医化学	森脇 健太
2026/06/17(水)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	脂質代謝（1）	医化学	中津 祐介
2026/06/24(水)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	脂質代謝（2）	医化学	中津 祐介
2026/06/24(水)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	脂質代謝（3）	医化学	中津 祐介
2026/06/26(金)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	中間試験	医化学	森脇 健太
2026/06/30(火)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	酸化ストレス	医化学	中津 祐介
2026/07/02(木)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	最先端代謝解析がもたらす病態の理解	客員教授等	大澤 毅
2026/07/02(木)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	最先端代謝解析がもたらす病態の理解	客員教授等	大澤 毅
2026/07/06(月)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	細胞死	医化学	森脇 健太
2026/07/10(金)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	タンパク質とアミノ酸の構造	医化学	森脇 健太
2026/07/10(金)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	タンパク質とアミノ酸の代謝	医化学	森脇 健太
2026/07/13(月)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	代謝の統合	医化学	森脇 健太
2026/07/16(木)	1・2	組織細胞機能学（生化学2）	ゲノム科学・遺伝子発現解析の革新による医学・医療の進歩	客員教授等	原 雄一郎
2026/07/16(木)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	ゲノム科学・遺伝子発現解析の革新による医学・医療の進歩	客員教授等	原 雄一郎
2026/07/24(金)	5・6	組織細胞機能学（生化学2）	医学・生命科学におけるタンパク質立体構造研究の最前線	客員教授等	阿部 一啓
2026/07/24(金)	7・8	組織細胞機能学（生化学2）	医学・生命科学におけるタンパク質立体構造研究の最前線	客員教授等	阿部 一啓
2026/10/29(木)	3・4	組織細胞機能学（生化学2）	最終試験	医化学	森脇 健太

講義ユニット名	生理学		所属科目名	組織細胞機能学
講義ユニット 責任者	ふじわら ゆういちろう 藤原 祐一郎	所属	生理学及び生物物理学	
講義ユニット コーディネーター	教室事務	所属	生理学及び生物物理学	
授業方法	講義及び実習			
概要	<p>生理学 (Physiology) とは、生命現象や人体の機能に焦点を当てた学問である。生体の機能を、個体、器官、組織、細胞、分子のレベルで物理・化学的に研究する。生理学は生体が働く仕組み(ハードウエア)とその論理・法則(ソフトウエア)及び意義を明らかにする。講義及び実習は自学自習の助けとなる。試験では理解度を評価し、合格者は「組織細胞機能学」の単位取得に一步前進する。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>生体の恒常性維持と適応を説明できる。  恒常性維持のための調節機構(ネガティブフィードバック調節)を説明できる。  生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。  運動生理学など、身体活動時の神経・骨格筋、循環器、代謝系の変化を説明できる。</p> <p>エネルギー代謝(エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量)を理解し、空腹(飢餓)時、食後(過食時)と運動時における代謝を説明できる。</p> <p>心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。  心筋細胞の電気現象と心臓の興奮(刺激)伝導系を説明できる。  興奮収縮連関を概説できる。  毛細血管における物質・水分交換を説明できる。  心周期にともなう血行動態を説明できる。  心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。  主な臓器(脳、心臓、肺、腎臓)の循環調節を概説できる。  血圧調節の機序を説明できる。  体位や運動に伴う循環反応とその機序を説明できる。  呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。</p> <p>肺気量分画、換気、死腔(換気力学(胸腔内圧、肺コンプライアンス、抵抗、クロージングボリューム(closing volume)))を説明できる。  肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。</p> <p>肺の換気と血流(換気血流比)が動脈血ガスにおよぼす影響(肺胞気-動脈血酸素分圧較差(alveolar-arterial oxygen difference &lt;A-aDO<sub>2</sub>&gt;))を説明できる。</p> <p>呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。  血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。  消化管運動の仕組みを説明できる。  消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。  肝の構造と機能を説明できる。  胃液の作用と分泌機序を説明できる。  胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。  膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。  小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。  大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。  主な消化管ホルモンの作用を説明できる。  歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。  腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。  腎糸球体における濾過の機序を説明できる。  尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。  水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。  腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質(エリスロポエチン、ビタミンD、レニン、アンジオテンシンII、アルドステロン)の作用を説明できる。  ホルモンを構造から分類し作用機序と分泌調節機能を説明できる。  各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。  視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。</p>			

講義ユニットの 到達目標	<p>甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる。</p> <p>男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>原則として、全講義回数の2/3以上の出席が受験資格に必要。</p> <p>なお混乱を避けるため、受験資格の有無に関わらず、受験は全員可能とする。ただし後で受験資格が無いことが判明した場合は、合格点であっても不可になることがある。</p> <p>また「実習」への出席は試験の受験資格には含まれないが、実習を欠席した場合は試験結果に関わらず、本ユニットの判定は不可となる。</p> <p>なお、不可抗力により、実習や試験等に遅刻したり、欠席する場合は必ず、ユニット責任者に連絡を入れた上で、学生支援に欠席届を提出すること。</p>
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	<p>実習（組織細胞機能学・脳神経医学合同実習）に欠席した場合、組織細胞機能学の単位は与えられない。</p> <p>試験における合格基準は原則60点。中間試験・小テスト・レポート等を予定しており、総合的に生理学の最終合否を決定する。</p> <p>生理学、生化学1、生化学2のすべての試験に合格した場合に、組織細胞機能学としての単位が認められる予定である。</p> <p>他の科目（生化学1、生化学2）が不合格で、組織細胞機能学が不可となった場合、生理学の合格は取り消され、翌年度も生理学の履修が必要となる。</p>
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
推奨参考書	<p>何か1冊教科書・参考書を所有することを勧める。</p> <p>医学書院、標準生理学 第10版：大森治紀, 大橋俊夫他, 2025年（推奨）</p> <p>文光堂、生理学テキスト 第8版：大地陸男著, 2017年（参考）</p> <p>エルゼビア、ガイトン生理学 原著第13版：John E. Hall, 2018年（参考）</p> <p>日本医事新報社、カラー図解・人体の正常構造と機能 改訂第4版, 坂井建雄, 河原克雅編, 2021年（参考）</p> <p>共立出版、生物学と医学のための物理学：曾我部正博, 吉村健二郎監訳, 2015年（参考）</p> <p>西村書店、バーン・レヴィ カラー基本生理学：板東武彦, 小山省三 監訳, 2003年（参考）</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/12(金)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	生理学総論	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/06/12(金)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	細胞生理1:細胞の活動と膜電位	生理学及び生物物理学	下村 拓史
2026/06/19(金)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	細胞生理2:吸収上皮細胞と膜輸送	生理学及び生物物理学	下村 拓史
2026/06/19(金)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	細胞生理3:生体の恒常性とセンサー機能	生理学及び生物物理学	川鍋 陽
2026/07/09(木)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	細胞生理4:筋肉の収縮	生理学及び生物物理学	川鍋 陽
2026/07/09(木)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	循環1:血行力学、心周期	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/14(火)	5・6	組織細胞機能学(生理学)	循環2:心臓の電気生理学	客員教授等	中條 浩一
2026/07/14(火)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	循環3:心臓の研究最前線	客員教授等	中條 浩一
2026/07/15(水)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	呼吸1:肺の機能	客員教授等	大河内 善史
2026/07/15(水)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	呼吸2:呼吸の調節	客員教授等	大河内 善史
2026/07/24(金)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	循環4:血圧・循環の調節	生理学及び生物物理学	川鍋 陽
2026/07/24(金)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	特別講義:血液ガス	客員教授等	吉栖 正生
2026/07/27(月)	5・6	組織細胞機能学(生理学)	中間試験	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/27(月)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	細胞生理:ドリル	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/29(水)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	消化器1:消化管の運動	内視鏡診療科	上垣内 由季
2026/07/29(水)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	消化器2:消化と吸収	内視鏡診療科	上垣内 由季
2026/07/29(水)	5・6	組織細胞機能学(生理学)	内分泌1:視床下部下垂体	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/29(水)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	内分泌2:内分泌器官	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/30(木)	1・2	組織細胞機能学(生理学)	腎臓1:ろ過・濃縮	生理学及び生物物理学	川鍋 陽
2026/07/30(木)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	腎臓2:水・電解質代謝、酸塩基平衡	生理学及び生物物理学	川鍋 陽
2026/07/31(金)	5・6	組織細胞機能学(生理学)	内分泌3:生殖	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/07/31(金)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	内分泌4:カルシウム代謝と骨	生理学及び生物物理学	下村 拓史
2026/10/02(金)	5・6	組織細胞機能学(生理学)	総合:糖の体内動態の研究最前線	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/10/02(金)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	総合:栄養生理学	客員教授等	瀬山 一正
2026/10/16(金)	7・8	組織細胞機能学(生理学)	総合:ドリル	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎
2026/10/22(木)	3・4	組織細胞機能学(生理学)	本試験	生理学及び生物物理学	藤原 祐一郎





授業科目名	生体反応学 (Biological Responses)		
対象学年	2年生	単位	12単位
科目責任者	やすだ ともはる 保田 朋波流	所属	免疫学
		所属	
		所属	
		所属	
授業方法	講義・演習形式であり、各コースで講義資料を準備する予定である（なお、ディスカッション・ディベート・学生の発表を含む可能性あり）。また、実験を中心とした実習を行う。		
概要	解剖学において生体の構造を習得し、組織細胞機能学（生化学＋生理学）で生体機能の基礎を習得した後、この「生体反応学」では細菌学、ウイルス学、薬理学、免疫学、寄生虫学を学ぶことにより、「生体がどのような反応をするか？」を習得する。この後、「病理学」においてシステムが破綻した病態を学び、さらに臨床系授業につなげる。		
到達目標	各ユニットのシラバスを参照のこと		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生でのCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとしている。		
評価法	「生体反応学」の成績は、薬理学・微生物学（細菌学、ウイルス学）・免疫学（免疫学、寄生虫学）の各コース素点の平均点で評価するが、1科目でも不合格があれば、「生体反応学・12単位」としては不合格になり、次年度に「生体反応学」全てを再履修することになる。		
予習・復習へのアドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
履修上の注意 アドバイス	生体反応学（細菌学、ウイルス学、薬理学、免疫学、寄生虫学）に関する膨大な知識を、教科書や参考書だけで理解することは極めて難しい。この講義では、要点をまとめて概説するため、出席を強く推奨する。系統立てられたこの講義体系の性質上、一度の欠席が次回の理解に大きな影響を及ぼす。従って、講義内容を深く理解するためには、予習と復習が不可欠である。科学の進歩によって知識は絶えず更新されており、常に最新の教科書や参考書を参照するようにしてほしい。積極的な学習態度が求められる。質問にはいつでも応じるので、遠慮なく提出してほしい。さらに、研究室を自由に訪れ、研究活動を体験してもらいたい。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと		

講義ユニット名	細菌学	所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	こまつざわ ひとし 小松澤 均	所属	細菌学
講義ユニット コーディネーター	いりえ たかし 入江 崇	所属	ウイルス学
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。さらに実験を中心とした実習を行う。		
概要	細菌は感染症を引き起こす主要な病原微生物である。これらは宿主の防御機構を巧みに回避し、時に重篤な感染症を引き起こす。歴史を通じて人類にとっての脅威であったが、抗菌化学療法薬の開発によって一時は制圧されたように見えた。しかし、耐性菌の出現により細菌感染症は依然として公衆衛生における重要な問題である。このユニットの講義と実習では、細菌の性質や増殖機構を理解し、さらに感染症やその予防と治療に関する基本的な知識を習得する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。</p> <p>細菌の感染経路を分類し、説明できる。</p> <p>細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。</p> <p>Gram陽性球菌（ブドウ球菌、連鎖球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ(桿)菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>Gram陰性スピリルム属病原菌 (Helicobacter pylori)の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>抗酸菌（結核菌、非結核性（非定型）抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル（ムコール））の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。</p> <p>生体の恒常性維持における常在菌・腸内細菌と宿主との相互作用の重要性を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義・演習においては、出席を試験の受験要件に含めない。実習においては全ての出席を単位認定の要件とする。本試験を事前の連絡なしに理由なく欠席した場合には当該年度の実験を認めない。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとする。		
評価法	試験はマークシート形式と記述形式の併用で試験を行う。本試験における合格基準点は基本的に60点とするが、得点の分布等を参考にして変更することがある。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編（2018）</p> <p>標準微生物学 第14版 医学書院 神谷茂・錫谷達夫・松本哲哉編（2021）</p>		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/21(水)	1・2	生体反応学（細菌学）	病原細菌学概論	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/10/21(水)	3・4	生体反応学（細菌学）	細菌の形態・構造と機能	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/10/26(月)	1・2	生体反応学（細菌学）	細菌の発育と増殖	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/10/26(月)	3・4	生体反応学（細菌学）	化学療法	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/10/27(火)	1・2	生体反応学（細菌学）	細菌の遺伝と変異	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/10/27(火)	5・6	生体反応学（細菌学）	細菌感染と発症、細菌毒素	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/11/02(月)	1・2	生体反応学（細菌学）	消毒と滅菌	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/11/02(月)	3・4	生体反応学（細菌学）	真菌とその感染症	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/11/04(水)	1・2	生体反応学（細菌学）	球菌とその感染症	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/11/04(水)	3・4	生体反応学（細菌学）	グラム陽性桿菌とその感染症	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/11/04(水)	5・6	生体反応学（細菌学）	その他のグラム陽性桿菌とその感染症	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/11/04(水)	7・8	生体反応学（細菌学）	腸内細菌とその感染症、細菌性食中毒	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/11/17(火)	1・2	生体反応学（細菌学）	スピロヘータとその感染症	細菌学（歯学部）	小松澤 均
2026/11/17(火)	3・4	生体反応学（細菌学）	その他のグラム陰性桿菌とその感染症	細菌学（歯学部）	松尾 美樹
2026/12/01(火)	3・4	生体反応学（細菌学）	試験		

講義ユニット名	ウイルス学	所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	いりえ たかし 入江 崇	所属	ウイルス学
講義ユニット コーディネーター	いりえ たかし 入江 崇	所属	ウイルス学
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。		
概要	ウイルス学は微生物学の一分野である。ウイルスはヒトに多くの病気を起こし、臨床的にも問題となる。本ユニットの講義・実習では、ウイルスの性質、増殖機構を理解し、さらにウイルスが引き起こす病気及びその予防と治療についての知識を習得する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。  構造と性状によりウイルスを分類できる。  デオキシリボ核酸&lt;DNA&gt;ゲノムとリボ核酸&lt;RNA&gt;ゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。  ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。  ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。  ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。  主な感染様式の詳細例を説明できる。  ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。  ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。  ワクチンの種類と問題点を説明できる。</p> <p>主なデオキシリボ核酸&lt;DNA&gt;ウイルス（サイトメガロウイルス (cytomegalovirus &lt;CMV&gt;)、Epstein-Barr &lt;EB&gt;ウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、ヒトヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>主なリボ核酸&lt;RNA&gt;ウイルス（インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコー (enteric cytopathic human orphan &lt;ECHO&gt;) ウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>レトロウイルス（ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus &lt;HIV&gt;) の特性と一般ゲノム構造を説明し、分類できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義・演習においては、出席を試験の受験要件に含めない。実習においては、すべての出席を単位認定の要件とする。本試験を事前の連絡なく理由なく欠席した場合には、当該年度の受験を認めない。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとする。		
評価法	試験はマークシート形式と記述形式の併用で行う。本試験における合格基準点は基本的に60点とするが、得点の分布等を参考にして変更することがある。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編（2018）  標準微生物学 第15版 医学書院 神谷茂・錫谷達夫・松本哲哉編（2024）</p>		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/16(金)	1・2	生体反応学（ウイルス学）	ウイルス学概論、ウイルス実験法・演習	ウイルス学	東浦 彰史
2026/10/16(金)	3・4	生体反応学（ウイルス学）	ウイルスの増殖（1）・演習	ウイルス学	山本 旭麻
2026/10/21(水)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	ウイルスの増殖（2）・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/10/21(水)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	ウイルスの感染症と病原性・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/10/27(火)	3・4	生体反応学（ウイルス学）	抗ウイルス免疫、ワクチン・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/10/27(火)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	新興再興感染症、ウイルス持続感染・演習	ウイルス学	福士 雅也
2026/11/06(金)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	ウイルス感染症診断法、感染症法・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/11/06(金)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	ヘルペスウイルス・肝炎ウイルス・演習	岡山大学医学部病原ウイルス学	本田 知之
2026/11/13(金)	1・2	生体反応学（ウイルス学）	インフルエンザウイルス・演習	安田女子大学（ウイルス学 学前教授）	坂口 剛正
2026/11/13(金)	3・4	生体反応学（ウイルス学）	パラミクソウイルス・演習	安田女子大学（ウイルス学 学前教授）	坂口 剛正
2026/11/13(金)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	ヒトレトロウイルス・演習	熊本大学ヒトレトロウイルス学 共同研究センター	池田 輝政
2026/11/13(金)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	ヒト免疫不全ウイルス・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/11/18(水)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	その他の病原ウイルス（1）・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/11/18(水)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	その他の病原ウイルス（2）・演習	ウイルス学	入江 崇
2026/11/19(木)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	学生実習ガイダンス	ウイルス学	入江 崇
2026/11/26(木)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/11/26(木)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/11/27(金)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/11/27(金)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/11/30(月)	5・6	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/11/30(月)	7・8	生体反応学（ウイルス学）	微生物学実習（細菌学＋ウイルス学）	ウイルス学	入江 崇/福士 雅也/ 東浦 彰史/山本 旭麻
2026/12/07(月)	1・2	生体反応学（ウイルス学）	試験		

講義ユニット名	薬理学	所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	たなか しげる 田中 茂	所属	神経薬理学
講義ユニット コーディネーター	たなか しげる 田中 茂	所属	神経薬理学
授業方法	講義形式（講義中心）であり、プリントを配布予定。また、シミュレーション実験の実習、演習を行う。		
概要	薬理学は薬物がどのように生体に影響を及ぼすかを学ぶ学問である。従って、薬物とそれに反応する生体の両者を理解する必要がある。薬理学の講義は、総論と各論に分かれている。総論では薬物の作用機序に関わる生体反応系を学ぶ。各論では様々な疾患の治療薬について、それらがどのような作用機序で治療効果を発揮するのかを学ぶ。総論と各論は縦系と横系の関係にあり、その両者が相まって、薬理学の全体が理解できるようになる。また、生体試料を模したシミュレーション実習を行い、薬物が生体にどのような反応を引き起こすかを実感してもらう。		
講義ユニットの 到達目標	<p>薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。</p> <p>薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性及び活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。</p> <p>薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。</p> <p>薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。</p> <p>薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。</p> <p>薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。</p> <p>薬物の評価におけるプラセボ効果の意義を説明できる。</p> <p>薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。</p> <p>薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。</p> <p>各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>主な薬物の有害事象を概説できる。</p> <p>薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。</p> <p>分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	出席状況把握システムにより出席をとる。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラムに記載される内容の理解」「4年生のCBTを合格するレベル」を満たすことを評価の合否レベルとしている。 また、独自に「薬理学の学習目標と理解すべき薬物」を提示する。		
評価法	MCQ形式と記述形式の併用で試験を行う（配点：MCQ 70点、記述 30点）。 本試験の結果と実習の出席点を加えて合格基準は60点とする。 試験は中間試験（総論の範囲、40点、期末試験（各論の範囲、60点）の2回行う。		
予習・復習への アドバイス	講義前後に配布資料を確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること		
推奨参考書	NEW薬理学 改訂第7版 南江堂 田中千賀子・加藤隆一編 カッツング・薬理学 原著12班 丸善 柳澤輝行 他 監訳 エース薬理学 南山堂 金井好克 監修		

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/19(月)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/19(月)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/20(火)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/20(火)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/22(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	原田 佳奈
2026/10/22(木)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	原田 佳奈
2026/10/23(金)	1・2	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/23(金)	3・4	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/28(水)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論	薬理学	田中 茂
2026/10/28(水)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 総論・各論	薬理学	田中 茂
2026/10/29(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 解熱・鎮痛薬	薬理学	原田 佳奈
2026/10/29(木)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 抗炎症薬 痛風・リュウマチ治療薬	薬理学	原田 佳奈
2026/10/30(金)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 循環器薬理	薬理学	酒井 規雄
2026/10/30(金)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 循環器薬理	薬理学	酒井 規雄
2026/11/02(月)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他	薬理学	田中 茂
2026/11/02(月)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他	薬理学	田中 茂
2026/11/05(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 内分泌 代謝	薬理学	原田 佳奈
2026/11/05(木)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 内分泌 代謝	薬理学	原田 佳奈
2026/11/16(月)	1・2	生体反応学(神経薬理学)	中間試験	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/11/16(月)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学・各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他	薬理学	田中 茂
2026/11/16(月)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学・各論 消化器 呼吸器 利尿薬 その他	薬理学	田中 茂
2026/11/17(火)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習ガイダンス	薬理学	田中 茂
2026/11/24(火)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬	薬理学	田中 茂
2026/11/24(火)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬	薬理学	田中 茂
2026/12/01(火)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 内分泌 代謝	薬理学	原田 佳奈
2026/12/01(火)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 内分泌 代謝	薬理学	原田 佳奈
2026/12/02(水)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/02(水)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/03(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/03(木)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/04(金)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/04(金)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学実習	薬理学	田中 茂/原田 佳奈
2026/12/09(水)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬	薬理学	田中 茂
2026/12/09(水)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 感染症治療薬 抗がん薬	薬理学	田中 茂
2026/12/10(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 血液 免疫	客員教授	上山 健彦
2026/12/10(木)	7・8	生体反応学(神経薬理学)	薬理学 各論 血液 免疫	客員教授	上山 健彦
2026/12/17(木)	5・6	生体反応学(神経薬理学)	期末試験	薬理学	田中 茂/原田 佳奈

講義ユニット名	免疫学, 寄生虫学		所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	やすだ ともはる	所属	免疫学	
	保田 朋波流			
講義ユニット コーディネーター	やすだ ともはる	所属	免疫学	
	保田 朋波流			
授業方法	講義および実習			
概要	<p>【免疫学】生体防御における免疫系の役割や仕組みを系統的に理解し、免疫組織の発生、免疫細胞の分化および抗原認識、免疫応答機序、感染防御などの基礎理論や知識を習得する。また免疫系の破綻によって引き起こされる疾患の種類や発症原因などについて学習する。</p> <p>【寄生虫学】寄生虫の形態、生活史、臨床症状、検査診断方法、治療法などの知識を学習する。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>【免疫学】</p> <p>リンパ組織である骨髄、胸腺、脾臓、リンパ節、扁桃、パイエル板の機能や特徴を説明できる。</p> <p>生体防御におけるリンパ系の役割や特徴、リンパ節の解剖学的構造や特徴について説明できる。</p> <p>自然免疫機構と獲得免疫機構の特徴、相違点、作用機序について説明できる。</p> <p>体液性免疫応答と細胞性免疫応答について関連する分子や細胞とともに説明できる。</p> <p>獲得免疫の特異性、多様性、記憶の特徴や仕組みについて説明できる。</p> <p>T細胞、B細胞、自然リンパ球、樹状細胞、好中球、マクロファージの機能や役割を説明できる。</p> <p>免疫グロブリンの遺伝子再構成による多様性獲得と細胞分化との関係について説明できる。</p> <p>T細胞受容体の遺伝子再構成による多様性獲得と細胞分化との関係について説明できる。</p> <p>抗原受容体刺激によって引き起こされるシグナル伝達の生物学的意義やその調節機構を説明できる。</p> <p>主要組織適合遺伝子複合体(MHC)クラスIとクラスIIの基本構造、抗原提示経路、生物学的意義について説明できる。</p> <p>代表的なサイトカインやケモカインの特徴や生物学的意義について説明できる。</p> <p>ウイルス、細菌、真菌、寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。</p> <p>ワクチンの種類やそれらの特徴、病原体に対し免疫学的記憶が成立するメカニズムを説明できる。</p> <p>ヘルパーT細胞、細胞傷害性T細胞、制御性T細胞、NKT細胞、<math>\gamma\delta</math>T細胞、NK細胞についてそれらの特徴や生体防御における役割を説明できる。</p> <p>各種抗体アイソタイプの特徴および体細胞高頻度突然変異やクラススイッチ組換えの原理や生物学的意義を説明できる。</p> <p>原発性免疫不全症と後天性免疫不全症候群について具体例をあげて説明できる。</p> <p>免疫学的自己と非自己の成立機序、識別機構および免疫学的寛容の原理を説明できる。</p> <p>自己免疫疾患の分類や特徴、発症機序について説明できる。</p> <p>アレルギー反応について特徴ごとに分類し、それらの発症機序を説明できる。</p> <p>がん免疫の概要、がん細胞の免疫逃避機構、がん治療に使用される免疫制御分子薬の作用機序について説明できる。</p> <p>【寄生虫学】</p> <p>原虫類・蠕虫類の分類及び形態学的特徴を説明できる。</p> <p>寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。</p> <p>寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。</p> <p>各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。</p> <p>寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。</p>			

	主な寄生虫感染症（回虫症、アニサキス症、吸虫症）を説明できる。
講義日程	別紙日程表を参照
出席の取り扱い	3分の2以上の出席を本試験および再試験の受験資格とする。講義途中での確認と当日のレポート提出を出席要件とする。
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）、説明能力、思考能力、取り組みの姿勢
評価法	選択肢形式と記述形式による免疫学中間試験、免疫学期末試験、寄生虫学試験に実習レポートを加えた総合評価を行う。100点満点中60点以上を合格基準とする。
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
推奨参考書	<p>【免疫学】 指定教科書：免疫生物学（第9版）監訳：笹月健彦・吉開泰信（南江堂）</p> <p>【寄生虫学】 図説 人体寄生虫学（第9版）著：吉田幸雄・有菌直樹（南山堂） 寄生虫病学（医学要点双書）著：中林敏夫・荒木恒治・佐藤淳夫・辻守康（金芳堂）</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/16(金)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学-1 免疫学の基礎概念	免疫学	保田 朋波流
2026/10/19(月)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-2 自然免疫:生体防御の最前線	免疫学	保田 朋波流
2026/10/20(火)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-3 自然免疫の誘導性応答	免疫学	保田 朋波流
2026/10/20(火)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-4 B細胞レセプターとT細胞レセプターによる抗原認識	免疫学	河野 洋平
2026/10/23(金)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学-5 リンパ球抗原レセプターの形成	免疫学	河野 洋平
2026/10/23(金)	7・8	生体反応学(免疫学)	免疫学-5 リンパ球抗原レセプターの形成	免疫学	河野 洋平
2026/10/26(月)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学-6 T細胞への抗原提示	免疫学	河野 洋平
2026/10/26(月)	7・8	生体反応学(免疫学)	免疫学-6 T細胞への抗原提示	免疫学	河野 洋平
2026/10/28(水)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-7 リンパ球レセプターシグナル	免疫学	河野 洋平
2026/10/30(金)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-8 B細胞とT細胞の分化	免疫学	保田 朋波流
2026/10/30(金)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-8 B細胞とT細胞の分化	免疫学	保田 朋波流
2026/11/05(木)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-9 T細胞性免疫応答	免疫学	保田 朋波流
2026/11/05(木)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-9 T細胞性免疫応答	免疫学	保田 朋波流
2026/11/06(金)	3・4	生体反応学(免疫学)	中間試験	免疫学	
2026/11/12(木)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学-10 液性免疫応答	免疫学	保田 朋波流
2026/11/12(木)	7・8	生体反応学(免疫学)	免疫学-10 液性免疫応答	免疫学	保田 朋波流
2026/11/16(月)	3・4	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-1 総論	客員教授等	井上 洋子
2026/11/18(水)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-11 自然免疫と適応免疫の一体的な動態	免疫学	保田 朋波流
2026/11/18(水)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-11 自然免疫と適応免疫の一体的な動態	免疫学	保田 朋波流
2026/11/19(木)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-12 粘膜免疫系	免疫学	保田 朋波流
2026/11/19(木)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-12 粘膜免疫系	免疫学	保田 朋波流
2026/11/19(木)	5・6	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-2 消化管寄生	客員教授等	井上 洋子
2026/11/24(火)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-13 宿主防御機構の破綻	免疫学	保田 朋波流
2026/11/24(火)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-13 宿主防御機構の破綻	免疫学	保田 朋波流
2026/11/26(木)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-14 アレルギーとアレルギー疾患	免疫学	河野 洋平
2026/11/26(木)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-14 アレルギーとアレルギー疾患	免疫学	河野 洋平
2026/11/27(金)	3・4	生体反応学(免疫学)	特別講義-1	客員教授等	山口東京理科大学 篠原 久明
2026/11/27(金)	1・2	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-3 臓器(肝臓・肺)寄生	客員教授等	井上 洋子
2026/11/30(月)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-15 自己免疫と移植	免疫学	保田 朋波流
2026/11/30(月)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学-15 自己免疫と移植	免疫学	保田 朋波流
2026/12/02(水)	3・4	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-4 脈管系寄生	客員教授等	井上 洋子
2026/12/03(木)	3・4	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-5 その他の臓器・血液寄生	客員教授等	井上 洋子
2026/12/03(木)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学-16 免疫応答の操作	免疫学	保田 朋波流
2026/12/04(金)	3・4	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-6 幼虫移行症	客員教授等	井上 洋子
2026/12/07(月)	3・4	生体反応学(寄生虫学)	寄生虫学-7 総括・実習説明	客員教授等	井上 洋子
2026/12/07(月)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学実習ガイダンス	免疫学	保田 朋波流
2026/12/08(火)	1・2	生体反応学(免疫学)	免疫学実習/寄生虫学実習	免疫学	保田朋波流/河野洋平/ 北嶋康雄/井上洋子
2026/12/08(火)	3・4	生体反応学(免疫学)	免疫学実習/寄生虫学実習	免疫学	保田朋波流/河野洋平/ 北嶋康雄/井上洋子
2026/12/08(火)	5・6	生体反応学(免疫学)	免疫学実習/寄生虫学実習	免疫学	保田朋波流/河野洋平/ 北嶋康雄/井上洋子
2026/12/08(火)	7・8	生体反応学(免疫学)	免疫学実習/寄生虫学実習	免疫学	保田朋波流/河野洋平/ 北嶋康雄/井上洋子
2026/12/11(金)	5・6	生体反応学(免疫学)	特別講義-2	客員教授等	シンシナティ大 佐々木 敦朗
2026/12/14(月)	5・6	生体反応学(免疫学)	最終試験	免疫学	
2026/12/14(月)	7・8	生体反応学(寄生虫学)	試験	免疫学	

授業科目名	病因病態学 (Pathology)		
対象学年	2年生	単位	5単位
科目責任者	たけしま ゆきお 武島 幸男	所属	病理学
	みい しんじ 三井 伸二	所属	分子病理学
授業方法	<p>講義形式：チュートリアル方式（ディスカッション・ディベート・学生の発表・レポート提出）、講義、顕微鏡観察実習・レポート提出  使用する視聴覚教材の種類：パワーポイント・バーチャルスライド・病理組織プレパラート等</p> <p>チュートリアル方式を主体とするが、モデル・コア・カリキュラムに添って必須ポイントは講義する。チュートリアルと講義・実習は連動して進める。代表的病態・疾患についてはバーチャルスライドあるいはプレパラートをを用いた病理組織実習を行なう。</p>		
概要	<p>疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深めるために、病理形態学的な病変の把握から遺伝子・分子レベルの異常の認識までの基礎的知識と技能を習得する。学生が主人公の学習方法であるチュートリアル方式を主として行うので、自ら勉強する課題を発見し解決する姿勢が重要である。週単位で学習項目が異なるので、それぞれの期間中に理解することが重要であり十分な復習が必要である。</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 【細胞傷害】細胞傷害の原因と機序、反応および形態学的変化を理解する。</li> <li>(2) 【循環障害】循環障害の成因と病態を理解する。</li> <li>(3) 【炎症】炎症の概念とその修復過程を理解する。</li> <li>(4) 【遺伝子異常と疾患・発生発達異常】遺伝子・染色体異常と発生発達異常や疾患の発生との関連を理解する。(人体遺伝学で主に受講する。)</li> <li>(5) 【腫瘍】腫瘍の概念と発生機構、病態生理や病理形態を理解し、その診断における意義を理解する。</li> <li>(6) 【代謝障害】代謝異常と蓄積症によって生じる多様な病態と形態学的変化を理解する。</li> </ol>		
講義ユニットの到達目標	<p>単一遺伝子疾患の遺伝様式を説明し、代表的な疾患を列挙できる。</p> <p>染色体異常による疾患の中で主なものを挙げ、概説できる。</p> <p>ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ、概説できる。</p> <p>エピゲノムの機序及び関連する疾患を概説できる。</p> <p>多因子疾患における遺伝要因と環境要因の関係を概説できる。</p> <p>細胞傷害・変性と細胞死の多様性、病因と意義を説明できる。</p> <p>細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的变化の特徴を説明できる。</p> <p>ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。</p> <p>糖代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>脂質代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>ビタミン、微量元素の代謝異常の病態を説明できる。</p> <p>肥満に起因する代謝障害の病態を説明できる。</p> <p>血行障害（阻血、虚血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因と病態を説明できる。</p> <p>梗塞（血栓、塞栓）の種類と病態を説明できる。</p> <p>ショック（血流分布異常性ショック（アナフィラキシー、感染性（敗血症性）、神経原性）、循環血液量減少性ショック（出血性、体液喪失）、心原性ショック（心筋性、機械性、不整脈）、閉塞性ショック（心タンポナーデ、肺塞栓症、緊張性気胸））を説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>血圧異常（高血圧、低血圧）を説明できる。</p> <p>臓器不全（多臓器不全、多臓器障害(multiple organ dysfunction syndrome &lt;MODS&gt;))を説明できる。</p> <p>炎症の定義を説明できる。</p> <p>炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化（局所の変化と全身的变化）を説明できる。</p> <p>感染症による炎症性変化を説明できる。</p> <p>創傷の治癒過程を概説できる。</p> <p>自律性の増殖と、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。</p> <p>癌の原因や遺伝子変化を説明できる。</p> <p>腫瘍の分類、分化度、グレード、ステージを概説できる。</p> <p>用語（異形成、上皮内癌、進行癌、早期癌、異型性、多形性等）を説明できる。</p> <p>癌の診断と治療を概説できる。</p> <p>癌の転移を説明できる。</p> <p>腫瘍の定義と病態を説明できる。</p> <p>腫瘍の症候を説明できる</p> <p>腫瘍のグレード、ステージを概説できる</p> <p>腫瘍の病理所見や診断を説明できる。</p> <p>病理診断、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製及び診断過程が説明できる。</p> <p>診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。</p> <p>術中迅速診断の利点、欠点を説明できる。</p> <p>デジタル画像を用いた病理診断（遠隔診断を含む）の利点、欠点を説明できる。</p> <p>病理解剖の医療における位置付けと法的事項、手続等を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>①講義、発表会の出席が3分の2以上。</p> <p>②すべてのコアタイム(6回)への出席。(特別な理由がない限り欠席は認めない。)</p> <p>上記すべてを満たすことを試験受験資格とする。</p> <p>*出席の確認はformsあるいは学生証と、任意の時間に出欠の確認を行う場合がある。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） プレゼンテーション能力</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式、記述形式の併用による試験を行う。 本試験における合格基準は試験の合計60点以上とする。 (レポートの提出がない場合、1レポートあたり4点減点する。)</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>推薦参考書を購読するとともに、発表会、講義を通じて知識の体得に努めること。 (書籍の電子ファイル化は個人利用に限り認められているので、他人へは絶対に渡さないこと。)</p>
<p>推奨参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理コア画像（日本病理学会編） <a href="https://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html">https://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html</a></li> <li>2. 標準病理学（医学書院）</li> <li>3. ルービン病理学（西村書店）</li> <li>4. 器官病理学（南山堂）</li> <li>5. Robbins : Pathologic Basis of Disease（Saunders）</li> <li>6. 組織病理アトラス（文光堂）</li> </ol>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2027/01/06(水)	1・2	病因病態学	病理学入門	分子病理学	三井 伸二
2027/01/06(水)	3・4	病因病態学	病理学入門	病理学	武島 幸男、櫛谷 桂
2027/01/06(水)	5・6	病因病態学	Tutorial①	病理学	武島 幸男
2027/01/06(水)	7・8	病因病態学	自習		
2027/01/07(木)	1・2	病因病態学	グループ討議/自習	病理学	武島 幸男
2027/01/07(木)	3・4	病因病態学	クラス発表①	病理学	武島 幸男
2027/01/07(木)	5・6	病因病態学	レポート作成①	病理学	武島 幸男
2027/01/07(木)	7・8	病因病態学	講義(炎症)	病理学	武島 幸男
2027/01/08(金)	1・2	病因病態学	Tutorial②	病理学	櫛谷 桂
2027/01/08(金)	3・4	病因病態学	自習		
2027/01/08(金)	5・6	病因病態学	自習		
2027/01/08(金)	7・8	病因病態学	講義(免疫・感染症)	病理学	武島 幸男
2027/01/13(水)	1・2	病因病態学	グループ討議/自習	病理学	櫛谷 桂
2027/01/13(水)	3・4	病因病態学	クラス発表②	病理学	櫛谷 桂
2027/01/13(水)	5・6	病因病態学	レポート作成②	病理学	櫛谷 桂
2027/01/13(水)	7・8	病因病態学	講義(代謝)	病理学	櫛谷 桂
2027/01/14(木)	1・2	病因病態学	実習1	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂、武島 幸男
2027/01/14(木)	3・4	病因病態学	実習1	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂、武島 幸男
2027/01/14(木)	5・6	病因病態学	実習1	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂、武島 幸男
2027/01/14(木)	7・8	病因病態学	実習1	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂、武島 幸男
2027/01/18(月)	1・2	病因病態学	Tutorial③	分子病理学	三井 伸二
2027/01/18(月)	3・4	病因病態学	自習		
2027/01/18(月)	5・6	病因病態学	講義(全身循環障害)	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/18(月)	7・8	病因病態学	自習		
2027/01/19(火)	1・2	病因病態学	自習		
2027/01/19(火)	3・4	病因病態学	グループ討議/自習	分子病理学	三井 伸二
2027/01/19(火)	5・6	病因病態学	クラス発表③	分子病理学	三井 伸二
2027/01/19(火)	7・8	病因病態学	レポート作成③	分子病理学	三井 伸二
2027/01/20(水)	1・2	病因病態学	講義(局所循環障害)	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/20(水)	3・4	病因病態学	実習2	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/20(水)	5・6	病因病態学	実習2	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/20(水)	7・8	病因病態学	実習2	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/21(木)	1・2	病因病態学	Tutorial④	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2027/01/21(木)	3・4	病因病態学	自習		
2027/01/21(木)	5・6	病因病態学	自習		
2027/01/21(木)	7・8	病因病態学	講義(退行性・進行性病変)	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2027/01/22(金)	1・2	病因病態学	グループ討議/自習	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2027/01/22(金)	3・4	病因病態学	クラス発表④	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2027/01/22(金)	5・6	病因病態学	レポート作成④	病理学	AMATYA VISHWA JEET

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2027/01/22(金)	7・8	病因病態学	講義(遺伝子疾患)	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2027/01/25(月)	1・2	病因病態学	実習3	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂, 武島 幸男
2027/01/25(月)	3・4	病因病態学	実習3	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂, 武島 幸男
2027/01/25(月)	5・6	病因病態学	実習3	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂, 武島 幸男
2027/01/25(月)	7・8	病因病態学	実習3	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂, 武島 幸男
2027/01/26(火)	1・2	病因病態学	Tutorial⑤	分子病理学	石川 洸
2027/01/26(火)	3・4	病因病態学	自習		
2027/01/26(火)	5・6	病因病態学	自習		
2027/01/26(火)	7・8	病因病態学	講義(腫瘍の定義・種類)	分子病理学	石川 洸
2027/01/27(水)	1・2	病因病態学	グループ討議/自習	分子病理学	石川 洸
2027/01/27(水)	3・4	病因病態学	クラス発表⑤	分子病理学	石川 洸
2027/01/27(水)	5・6	病因病態学	レポート作成⑤	分子病理学	石川 洸
2027/01/27(水)	7・8	病因病態学	講義(腫瘍の発生・浸潤・転移)	分子病理学	石川 洸
2027/01/28(木)	1・2	病因病態学	Tutorial⑥	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/28(木)	3・4	病因病態学	自習		
2027/01/28(木)	5・6	病因病態学	自習		
2027/01/28(木)	7・8	病因病態学	講義(腫瘍の遺伝子異常・がんゲノム)	分子病理学	石川 洸
2027/01/29(金)	1・2	病因病態学	自習	分子病理学	石川 洸
2027/01/29(金)	3・4	病因病態学	グループ討議/自習	分子病理学	石川 洸
2027/01/29(金)	5・6	病因病態学	クラス発表⑥	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/01/29(金)	7・8	病因病態学	レポート作成⑥	分子病理学	勝矢 脩嵩
2027/02/01(月)	1・2	病因病態学	実習4	分子病理学	石川 洸、三井 伸二
2027/02/01(月)	3・4	病因病態学	実習4	分子病理学	石川 洸、三井 伸二
2027/02/01(月)	5・6	病因病態学	実習4	分子病理学	石川 洸、三井 伸二
2027/02/01(月)	7・8	病因病態学	実習4	分子病理学	石川 洸、三井 伸二
2027/02/04(木)	5・6	病因病態学	試験(筆記・実習)		
2027/02/04(木)	7・8	病因病態学	試験(筆記・実習)		

**3 年 次 生**

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	4月3日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日
1・2	8:40-10:15			器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(1) 医の原則 医学教育センター(運沼 直子) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(5) 老年医学総論 リハビリテーション(三上 幸夫) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(9) 輸血医学 輸血部(山崎 尚也) 第2講義室
3・4	10:25-12:00			器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(2) 内科学総論 消化器内科(岡 志郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(6) ルーチンの臨床検査1 検査部(茂久田 翔) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(10) 周術期管理学総論 麻酔科(佐伯 昇) 第2講義室
5・6	12:50-14:25			器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(3) 外科学総論 第一外科(呉 晨名) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(7) 単純X線写真、核医学 放射線診断科(橋本航) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(11) ルーチンの臨床検査2 検査部(茂久田 翔) 第2講義室
7・8	14:35-16:10			器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(4) CT、MRI、超音波 放射線診断科(中村 優子) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(8) 胸痛、動悸、浮腫 循環器内科(宇都宮 裕人) 第2講義室	
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(12) 呼吸困難、チアノーゼ、喘鳴 呼吸器内科(堀益 靖) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(1) 脳神経外科総論 脳神経外科(堀江 信貴) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(2) 肝疾患総論 消化器内科(大野 敦司) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(3) 神経解剖/神経生理 神経生物学/神経生理学(相澤 秀紀・橋本 浩一) 第2講義室	
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(13) 老年医学各論 客員教授等(細見 直永) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(2) 神経内科学総論 脳神経内科(丸山 博文) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科)(1) 外傷学 整形外科(大妻 和憲) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(4) 錐体外路障害、脊髄小脳変性症 脳神経内科(山崎 雄) 第2講義室	
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(14) 腹部関連の症候 消化器内科(蓮井 章克) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(16) 意識障害、めまい、嚥下障害 脳神経内科(都甲 めぐみ) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科)(2) 整形外科概論 整形外科(安達 伸生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(1) 呼吸不全、低酸素、高炭酸ガス 分子内科(旧第二内科)(坂本 信二郎) 第2講義室	
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論)(15) 発熱、倦怠感、リンパ節腫脹 血液内科(進藤 岳郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(1) 膵臓疾患総論・炎症性疾患 消化器内科(石井 康隆) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(1) 血圧異常 再生医療開発研究分野(岸本 真治) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(2) 呼吸器の構造と機能 分子内科(旧第二内科)(堀益 靖) 第2講義室	
9・10	16:20-17:55					器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(4) 急性肝不全、薬物性肝障害 消化器内科(三木 大樹) 第2講義室
						器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(2) 狭心症 循環器内科(池永 寛樹) 第2講義室

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器) (3) 呼吸器疾患画像講義1 分子内科(旧第二内科)(山口 寛博) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(7) 神経病理 脳神経内科(松原 知康) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (6) 肝がんの診断(含転移性肝癌) 消化器内科(河岡 友和) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(10) 脳血管障害(虚血性)① 脳神経外科(石井 大造) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (3) 甲状腺 講義 客員教授等(山根 公則) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学Ⅰ(臨床医学総論) (17) 試験 医学教育センター(蓮沼 直子) 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (5) C型肝炎, その他のウイルス肝炎 消化器内科(藤野 初江) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(9) 頭部外傷 脳神経外科(瀬山 剛) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器) (4) 縦隔腫瘍 腫瘍外科(見前 隆洋) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器) (4) 動脈硬化、冠危険因子 再生医療開発研究分野(丸橋 達也) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	脳神経医学Ⅲ(5) 機能的脳神経外科① 脳神経外科(香川 幸太) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (3) 末梢神経 整形外科(児玉 祥) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (1) 内分泌総論1 講義 客員教授等(山根 公則) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (7) 膵臓の腫瘍性疾患 消化器内科(池本 珠莉) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	脳神経医学Ⅲ(6) 機能的脳神経外科② 脳神経外科(香川 幸太) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(8) 全身性疾患に伴う神経・筋障害 脳神経内科(杉本 太路) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器) (3) 末梢動脈疾患 再生医療開発研究分野(東 幸仁) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (2) 内分泌総論2 講義 客員教授等(山根 公則) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (4) 膝1 整形外科(中前 敦雄) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
1・2	8:40-10:15	脳神経医学Ⅲ(11) 間脳下垂体疾患 脳神経外科(木下 康之) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器) (5) 生体検査(心エコー、運動負荷心電図) 循環器内科(宇都宮 裕人) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (12) その他の肝疾患(ヘモクロマトーシス, Wilson病, 肝寄生虫 など) 消化器内科(大野 敦司) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(13) 筋疾患 脳神経内科(中森 正博) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学Ⅲ(12) 脳神経画像診断 脳神経外科(山崎 文之) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (10) B型肝炎 消化器内科(柘植 雅貴) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器) (6) 心不全の病態生理と診断 循環器内科(北川 知郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (4) 下垂体 講義 内分泌・糖尿病内科(馬場 隆太) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (8) 膵臓の早期診断最前線 客員教授等(花田 敬士) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (11) 胆道の腫瘍性疾患 消化器内科(石井 康隆) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器) (6) 呼吸機能検査 分子内科(旧第二内科)(中島 拓) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(14) 神経診断学 客員教授等(徳島大学 森野 豊之) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (9) 胆道の良性疾患 消化器内科(池本 珠莉) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器) (5) 胸膜疾患、胸水、気胸 分子内科(旧第二内科)(坂本 信二郎) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (13) 肝がんの内科的治療 消化器内科(河岡 友和) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (5) 骨系統疾患 整形外科(作田 智彦) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
1・2	8:40-10:15	脳神経医学III (11) 間脳下垂体疾患 脳神経外科(木下 康之) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (5) 生体検査 (心エコー、運動負荷心電図) 循環器内科(宇都宮 裕人) 第2講義室		器官・システム病態制御学I (消化器) (12) その他の肝疾患 (ヘモクロマトーシス、Wilson病、肝寄生虫など) 消化器内科(大野 敦司) 第2講義室	脳神経医学III (13) 筋疾患 脳神経内科(中森 正博) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学III (12) 脳神経画像診断 脳神経外科(山崎 文之) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (10) B型肝炎 消化器内科(柘植 雅貴) 第2講義室		器官・システム病態制御学I (循環器) (6) 心不全の病態生理と診断 循環器内科(北川 知郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (内分泌) (4) 下垂体 内分泌・糖尿病内科(馬場 隆太) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学I (消化器) (8) 膵癌の早期診断最新線 客員教授等(花田 敬士) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (11) 胆道の腫瘍性疾患 消化器内科(石井 康隆) 第2講義室		器官・システム病態制御学I (呼吸器) (6) 呼吸機能検査 分子内科 (旧第二内科) (中島 拓) 第2講義室	脳神経医学III (14) 神経診断学 客員教授等(徳島大学 森野 豊之) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学I (消化器) (9) 胆道の良性疾患 消化器内科(池本 珠莉) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (5) 胸膜疾患、胸水、気胸 分子内科 (旧第二内科) (坂本 信二郎) 第2講義室		器官・システム病態制御学I (消化器) (13) 肝がんの内科的治療 消化器内科(河岡 友和) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (5) 骨系統疾患 整形外科(作田 智彦 ) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日
1・2	8:40-10:15				器官・システム病態制御学I (呼吸器) (7) 肺がん外科治療 腫瘍外科(岡田 守人) 第2講義室	脳神経医学III (15) 振り返り授業 化学的神経解剖学・神経薬理学 神経薬理学(酒井 規雄) 第2講義室
3・4	10:25-12:00				器官・システム病態制御学II (整形外科) (6) 診断学・検査法 整形外科 (石橋 栄樹 ) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (7) 運動器のリハビリテーション リハビリテーション科(三上 幸夫) 第2講義室
5・6	12:50-14:25				器官・システム病態制御学I (呼吸器) (8) アレルギーの機序と代表疾患 分子内科 (旧第二内科) (岩本 博志) 第2講義室	脳神経医学III (16) 特別講義 (くも膜下出血、脳動脈瘤とAI) 客員教授等(島根県立中央病院 井川 房夫) 第2講義室
7・8	14:35-16:10				器官・システム病態制御学I (循環器) (7) (外科) 心臓血管外科総論 第一外科(高橋 信也) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (14) 肝がんの外科的治療 消化器・移植外科学(小林 剛) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学I (消化器) (15) 肝移植/門脈・脾疾患の外科治療 消化器・移植外科学(大段 秀樹) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (内分泌) (5) 脂質 講義 内分泌・糖尿病内科(江草 玄太郎) 第2講義室			器官・システム病態制御学I (循環器) (10) 肺循環疾患 循環器内科(宇都宮 裕人) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学I (循環器) (8) 弁膜症 循環器内科(植田 裕介) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (16) 自己免疫性肝疾患 (AIH, PBC) 消化器内科(藤野 初江) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (11) 咳、痰、咯血、市中肺炎 分子内科 (旧第二内科) (下地 清史) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (13) 呼吸器疾患画像講義2 分子内科 (旧第二内科) (益田 武) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (11) 急性冠症候群 循環器内科(池永 寛樹) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		脳神経医学III (17) 運動ニューロン病 脳神経内科(山崎 雄) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (12) 気管支喘息2 分子内科 (旧第二内科) (岩本 博志) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (14) 呼吸器真菌感染症、気管支拡張症 分子内科 (旧第二内科) (中島 拓) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (12) 生活習慣病の遺伝的背景とその臨床応用 (Web) 客員教授(尾崎 浩一) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (9) びまん性肺疾患1 (特発性間質性肺炎の定義、分類、診断、治療) 分子内科 (旧第二内科) (堀益 靖) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (10) 気管支喘息1 分子内科 (旧第二内科) (岩本 博志) 第2講義室	脳神経医学III (18) 脳血管障害(出血性)② 脳神経外科(森原 政志) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (9) 心筋症 循環器内科(北川 知郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (8) 膝2 整形外科 (楳本 明紀 ) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

時限	曜日 時間	月				
		5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌)(6) 糖尿病総論 講義 内分泌・糖尿病内科(大野 晴也) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(15) 呼吸器疾患診断に関する検査 分子内科(旧第二内科)(山口 覚博) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌)(8) 副腎1 講義 内分泌・糖尿病内科(馬場 隆太) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌)(9) 多発性内分泌腫瘍など 講義 内分泌・糖尿病内科(児玉 亮也) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌)(10) 副腎2 講義 内分泌・糖尿病内科(馬場 隆太) 第2講義室
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(14) (外科)大動脈疾患 第一外科(平岡 俊文) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(16) 肺結核、非結核性抗酸菌症 分子内科(旧第二内科)(下地 清史) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(16) 成人先天性心疾患(内科) 循環器内科(高張 康介) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(13) 不整脈の最新の知見、治療 客員教授(青沼 和隆) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(17) 胆膵疾患の外科治療 外科学(上村 健一郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(15) 心電図演習 循環器内科(徳山 丈仁) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(18) MASLD、アルコール性肝疾患 消化器内科(村上 英介) 第2講義室	
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌)(7) 糖尿病治療1 講義 内分泌・糖尿病内科(大野 晴也) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科)(9) 整形外科の病理 病理診断科(有廣 光司) 第2講義室		
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(17) びまん性肺疾患3(薬剤性肺炎、放射線肺炎、じん肺など) 分子内科(旧第二内科)(山口 覚博) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(19) COPD 分子内科(旧第二内科)(岩本 博志) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(20) 消化管疾患総論、画像診断 消化器内科(瀧川 英彦) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(22) 食道疾患 下部消化管腫瘍性疾患(1) 消化器内科(田中 秀典) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(24) 食道疾患 消化器内科(卜部 祐司) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(19) 試験(肝胆膵) 消化器内科(村上 英介・池本 珠莉) 第5講義室	脳神経医学Ⅲ(19) 認知症/脳・脊髄画像検査 脳神経内科(都甲 めぐみ) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(21) 上部消化管炎症性疾患 消化器内科(楢山 雄一) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(19) (外科)虚血性心疾患、弁膜症 第一外科(倉岡 正嗣) 第2講義室	
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(17) 心不全の治療 循環器内科(大久保 陽策) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(20) 脳腫瘍(良性) 脳神経外科(田口 慧) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(18) 慢性心不全の病態と治療 客員教授(木原 康樹) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器)(23) 下部消化管腫瘍性疾患(2) 消化器内科(岸田 圭弘) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器)(20) 心電図 循環器内科(岡村 祥央) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(18) 胸膜腫瘍、転移性肺腫瘍 腫瘍外科(見前 隆洋) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(20) 原発性肺癌1 分子内科(旧第二内科)(益田 武) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(21) 先天奇形・水頭症 脳神経外科(光原 崇文) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(呼吸器)(21) その他のびまん性肺疾患(LAM, 肺胞蛋白症, ARDSなど) 分子内科(旧第二内科)(中島 拓) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科)(10) 骨・関節感染症 整形外科(林 悠太) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
1・2	8:40-10:15		脳神経医学III (23) てんかん、頭痛 脳神経内科(石橋 はるか) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (25) 上部消化管腫瘍性疾患 (胃・十二指腸) 消化器内科(桑井 寿雄) 第2講義室	脳神経医学III (26) 末梢神経障害 脳神経内科(内藤 裕之) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (21) 不整脈 循環器内科(中野 由紀子) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学III (22) 中間試験 第5講義室	脳神経医学III (24) 脳腫瘍(悪性) 脳神経外科(米澤 潮) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (24) 睡眠時無呼吸、過換気症候群 分子内科 (旧第二内科) (坂本 信二郎) 第2講義室	脳神経医学III (27) 特別講義(脳血管障害の画像診断最前線) 客員教授等(広島市立安佐市民病院 松重 俊憲) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (11) 再生医療 整形外科(中佐 智幸 ) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (22) びまん性肺疾患2 (サルコイドーシス、過敏性肺炎、好酸球性肺炎) 分子内科 (旧第二内科) (堀益 靖) 第2講義室	脳神経医学III (25) 免疫性神経疾患 客員教授等(県立広島病院 越智 一秀) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (25) 院内肺炎、医療・介護関連肺炎 分子内科 (旧第二内科) (益田 武) 第2講義室	脳神経医学III (28) 神経内科学臨床検査 客員教授等(川崎医科大学 黒川 勝己) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (内分泌) (11) 乳癌1 講義 乳癌外科(重松 英朗) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学I (呼吸器) (23) 原発性肺癌2 分子内科 (旧第二内科) (益田 武) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (25) 院内肺炎、医療・介護関連肺炎 分子内科 (旧第二内科) (下地 清史) 第2講義室	脳神経医学III (29) 特別講義(脳の微小解剖と手術) 客員教授等(三原城町病院 今田 裕尊) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (12) 骨・軟部腫瘍 整形外科(古田 太輔) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
1・2	8:40-10:15			器官・システム病態制御学I (循環器) (24) (外科)末梢動脈、静脈、リンパ管 第一外科(小林 平) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (28) 機能性胃腸疾患 消化器内科(日山 亨) 第2講義室	
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学I (循環器) (22) 感染性心内膜炎、心膜炎、心タンポナーデ 循環器内科(佐田 良治) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (23) (外科)先天性心疾患 第一外科(高崎 泰一) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (25) (外科)不整脈外科 第一外科(今井 克彦) 第2講義室		
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学I (消化器) (26) 胃疾患外科治療 消化器外科 (佐伯 吉弘) 第2講義室		器官・システム病態制御学I (消化器) (27) 下部消化管炎症性疾患 (1) 消化器内科(高砂 健) 第2講義室		器官・システム病態制御学II (血液) (1) 血液学の世界:血液内科って、楽しい! 血液内科(進藤 岳郎) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学II (整形外科) (13) 股関節 整形外科(庄司 剛士) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (内分泌) (12) 乳癌2 講義 乳癌外科(重松 英朗) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (循環器) (26) 遺伝性不整脈の最新の話題~先天性QT延長症候群・Brugada症候群・早期再分極症候群~ 客員教授(清水 渉) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (腎臓) (1) 腎臓の構造と機能 腎臓内科(正木 崇生) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (14) 小児整形外科 客員教授等(志村 司) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
1・2	8:40-10:15		脳神経医学III (30) 神経感染症 分子疫学(久米 広大) 第2講義室	脳神経医学III (31) 脳血管障害 脳神経内科(津津 智久) 第2講義室	脳神経医学III (32) 特別講義(てんかんの最前線) てんかんセンター(飯田 幸治) 第2講義室	
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学I (消化器) (29) 消化管内視鏡検査・治療 消化器内科(岡 志郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (内分泌) (14) 副甲状腺 講義 内分泌・糖尿病内科(児玉 堯也) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (16) 手・肘 整形外科(児玉 祥) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (耳鼻咽喉科) (1) 耳鼻咽喉疾患 耳鼻咽喉科(竹野 幸夫) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学I (呼吸器) (26) 試験 第5講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (15) 特別講義 客員教授等(石橋 恭之) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (免疫・アレルギー) (1) 膠原病総論 リウマチ・膠原病内科(平田 信太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (腎臓) (2) 腎臓病の検査・診断の進め方 客員教授等(横山 敬生) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (31) 下部消化管炎症性疾患 (2) 消化器内科(山下 賢) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学I (内分泌) (13) 糖尿病治療2 講義 内分泌・糖尿病内科(大野 晴也) 第2講義室	器官・システム病態制御学I (消化器) (30) 食道疾患外科治療 消化器外科 (浜井 洋一) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (整形外科) (17) 足 整形外科 (中佐 智幸 ) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (血液) (2) 造血の仕組みを知る~個体発生は系統発生を繰り返す 血液内科(本庶 仁子) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (32) 炎症性腸疾患の外科治療 消化器外科(上神 慎之介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (19) 脊椎1 整形外科(中前 稔生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (3) 全身性硬化症、混合性結合組織病 リウマチ・膠原病科(杉本 智裕) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (34) 小腸疾患 消化器内科(斎井 章克) 第2講義室
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (2) 関節リウマチ、悪性関節リウマチ リウマチ・膠原病科(平田 信太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (3) 腎臓病の症候 腎臓内科(前岡 信二郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(泌尿器) (1) 泌尿器科学総論1 泌尿器科(日向 信之) 第2講義室	
5・6	12:50-14:25	器官・システム病態制御学Ⅰ(循環器) (27) 試験 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (15) 糖尿病合併症1 講義 内分泌・糖尿病内科(長野 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (33) 下部消化管腫瘍性疾患外科治療 消化器外科(下村 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (3) めまい 耳鼻咽喉科(小田 尊志) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (1) 外眼病・結膜 眼科(望月 英毅) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (18) 特別講義 客員教授等(緒方 俊平) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (2) 顔面外傷 耳鼻咽喉科(濱本 隆夫) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (20) 肩 整形外科(原田 洋平) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (4) 一次性糸球体疾患・ネフローゼ症候群 腎臓内科(石内 直樹) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (5) 二次性糸球体疾患(1) 腎臓内科(森井 健一) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (5) 全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群 リウマチ・膠原病科(平田 信太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (6) 成人発症ステル病、リウマチ性多発筋痛症 リウマチ・膠原病科(渡辺 裕文) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (22) 膝3 整形外科(仲田 恭平) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学Ⅲ(33) 試験 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (21) 脊椎2 整形外科(中前 稔生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (4) 咽喉疾患 耳鼻咽喉科(石野 岳志) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (17) 高尿酸血症・ビタミン 講義 内分泌・糖尿病内科(江草 玄太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (7) IgG4関連疾患、自己炎症性疾患 客員教授(山崎 聡士) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学(産科婦人科) (1) 産婦人科概論 産婦人科(山口 達) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (4) 基礎免疫学概論 リウマチ・膠原病科(石徳 理訓) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (16) 糖尿病合併症2 講義 内分泌・糖尿病内科(長野 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (2) 眼科救急疾患 眼科(福戸 敦彦) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (23) 骨粗鬆症 整形外科(植木 慎一) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		全身性疾患制御学(産科婦人科) (2) 正常解剖・性機能、性器の形態異常 産婦人科(的場 優介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(血液) (3) 目で見る血液内科学 検査部(中川 浩美) 第2講義室		脳神経医学Ⅲ(34) 精神医学総論(診断・検査・治療) 精神科(岡田 剛) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

時限	曜日 時間	月		火		水		木		金	
		6月29日		6月30日		7月1日		7月2日		7月3日	
1・2	8:40-10:15			器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (5) 二次性糸球体疾患(1) 腎臓内科(森井 健一) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (5) 全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群 リウマチ・膠原病科(平田 信太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (6) 成人発症ステル病、リウマチ性多発筋痛症 リウマチ・膠原病科(渡辺 裕文) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (22) 膝3 整形外科(仲田 恭平) 第2講義室				
3・4	10:25-12:00		脳神経医学Ⅲ(33) 試験 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (21) 脊椎2 整形外科(中前 稔生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (4) 咽喉疾患 耳鼻咽喉科(石野 岳志) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (17) 高尿酸血症・ビタミン 講義 内分泌・糖尿病内科(江草 玄太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (7) IgG4関連疾患、自己炎症性疾患 客員教授(山崎 聡士) 第2講義室				
5・6	12:50-14:25		全身性疾患制御学(産科婦人科) (1) 産婦人科概論 産婦人科(山口 建) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (4) 基礎免疫学概論 リウマチ・膠原病科(石徳 理訓) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (16) 糖尿病合併症2 講義 内分泌・糖尿病内科(長野 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (2) 眼科救急疾患 眼科(福戸 敦彦) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (23) 骨粗鬆症 整形外科(植木 慎一) 第2講義室				
7・8	14:35-16:10		全身性疾患制御学(産科婦人科) (2) 正常解剖・性機能、性器の形態異常 産婦人科(的場 優介) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ(血液) (3) 目で見える血液内科学 検査部(中川 浩美) 第2講義室		脳神経医学Ⅲ(34) 精神医学総論(診断・検査・治療) 精神科(岡田 剛) 第2講義室				
9・10	16:20-17:55										
時限	曜日 時間	7月6日		7月7日		7月8日		7月9日		7月10日	
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (6) 二次性糸球体疾患(2) 腎臓内科(佐々木 健介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (5) 唾液腺 耳鼻咽喉科(樽谷 貴之) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科) (4) 子宮体がん 子宮筋腫 産婦人科(的場 優介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (3) 眼形成 眼科(末岡 健太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (4) 網膜硝子体 眼科(坂口 裕和) 第2講義室				
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学Ⅰ(消化器) (35) 試験(消化管) 消化器内科(上垣内 由季) 第5講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科) (3) 腔・外陰疾患、子宮頸がん 産婦人科(山口 建) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (25) 救急・保存療法・観血的治療 整形外科(生田 祥也) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (8) その他の腎疾患 腎臓内科(土井 俊樹) 第2講義室				
5・6	12:50-14:25			器官・システム病態制御学Ⅱ(整形外科) (24) 特別講義 客員教授等(古川 俊治) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ(血液) (4) 貧血から全身を診る 客員教授等(川端 浩) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (5) 白内障・ぶどう膜炎 眼科(日山 知寿) 第2講義室				
7・8	14:35-16:10		脳神経医学Ⅲ(35) 不安・抑うつ病態・診断・治療 精神科(岡田 剛) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (7) 腎血管性疾患 腎臓内科(佐々木 健介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(泌尿器) (2) 泌尿器科学総論2 泌尿器科(日向 信之) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (8) 病歴聴取、身体診察、適切な検査の選択と解釈 客員教授(野島 崇樹) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (6) 喉頭と音声 客員教授等(井門 謙太郎) 第2講義室				
9・10	16:20-17:55										
時限	曜日 時間	7月13日		7月14日		7月15日		7月16日		7月17日	
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (9) 急性腎不全 腎臓内科(石内 直樹) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (7) 嚥下障害 耳鼻咽喉科(堀部 裕一郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (8) 難聴と聴覚補償 客員教授等(益田 慎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(泌尿器) (4) 上部・下部路感染症 泌尿器科(北野 弘之) 第2講義室				
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学Ⅰ(内分泌) (18) 試験 内分泌・糖尿病内科(長野 学) 第5講義室	脳神経医学Ⅲ(37) 精神科医療の法と倫理 精神科(大村 淳) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (7) 嚥下障害 耳鼻咽喉科(堀部 裕一郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (1) 皮膚科学総論 皮膚科(田中 曉生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (11) 膠原病リウマチ内科における分子標的治療・細胞治療と個別 化医療 客員准教授(吉田 雄介) 第2講義室				
5・6	12:50-14:25		脳神経医学Ⅲ(36) 症状性精神病 器質性精神障害 精神科(淵上 学) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科) (5) 良性卵巣腫瘍・卵管疾患、悪性卵巣腫瘍 産婦人科(山口 建) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (10) 結晶誘発性関節炎、線維筋痛症 客員教授(箱田 雅之) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (2) 【特別講義I】角化症 客員教授等(乃村 俊文) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科) (6) 婦人科内分泌、子宮内膜症 産婦人科(寺岡 有子) 第2講義室				
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (9) 多発性筋炎・皮膚筋炎 リウマチ・膠原病科(杉本 智裕) 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅰ(腎臓) (10) 慢性腎不全 腎臓内科(正木 崇生) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ(泌尿器) (3) 前立腺癌 泌尿器科(樽田 圭介) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ(38) 摂食障害 発達障害 精神科(黒崎 充勇) 第2講義室				
9・10	16:20-17:55										

時限	曜日 時間	月		火		水		木		金	
		7月20日		7月21日		7月22日		7月23日		7月24日	
1・2	8:40-10:15			器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科) (26) 試験 整形外科 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液) (5) 骨髄異形成症候群～形態とエヒゲノムの邂逅 客員教授等(一戸 辰夫) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科) (10) 平衡機能 耳鼻咽喉科(西田 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー) (13) 脊椎性関節炎総論、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関 節炎、掌蹠膿疱症性(骨) 関節炎 検査部(茂久田 翔) 第2講義室				
3・4	10:25-12:00			器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科) (6) 緑内障 眼科(廣岡 一行) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー) (12) 巨細胞性動脈炎、高安動脈炎、結節性多発動脈炎、ANCA関 連血管炎 客員准教授(吉田 雄介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科) (11) 異物と気管切開、喉頭癌 耳鼻咽喉科(桑家 伸幸) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液) (6) 急性白血病～造血と分化の破綻スパイラル 客員教授等(安藤 潔) 第2講義室				
5・6	12:50-14:25				器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科) (9) 癌 耳鼻咽喉科(上田 勉) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚) (4) 蕁麻疹・紅斑症・紅皮症 皮膚科(沼田 智史) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液) (7) 悪性リンパ腫～その著しい多様性(前半) 血液内科(進藤 岳郎) 第2講義室				
7・8	14:35-16:10			器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚) (3) 物理化学的皮膚障害・皮膚外科の基礎 皮膚科(菅 崇輔) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科) (7) 眼光学 眼科(戸田 良太郎) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚) (5) 湿疹・皮膚炎群 皮膚科(田中 暁生) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ (39) パーソンナリティ障害・精神分析 精神科(町野 彰彦) 第2講義室				
9・10	16:20-17:55										
時限	時間	7月27日		7月28日		7月29日		7月30日		7月31日	
1・2	8:40-10:15			その他 (1) 医学研究実習発表会のため講義室使用不可 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科) (12) 睡眠時無呼吸症候群 耳鼻咽喉科(小田 尊志) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科) (9) 角膜 眼科(近間 泰一郎) 第2講義室					
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓) (11) 試験 腎臓内科(前岡 侑二郎) 第5講義室	その他 (2) 医学研究実習発表会のため講義室使用不可 第2講義室	脳神経医学Ⅲ (41) コンサルテーション・リエゾン精神医学 精神科(淵上 学) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚) (6) 膠原病・血管炎 皮膚科(松原 大樹) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器) (5) 膀胱癌・血尿 泌尿器科(後藤 景介) 第2講義室					
5・6	12:50-14:25	脳神経医学Ⅲ (40) 幻覚・妄想の病態・診断・治療 精神科(藤田 翔) 第2講義室	その他 (3) 医学研究実習発表会のため講義室使用不可 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科) (8) 小児眼科・全身疾患と眼 眼科(小松 香織) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液) (8) 造血幹細胞移植～その歴史と近未来 血液内科(進藤 岳郎) 第2講義室						
7・8	14:35-16:10		その他 (4) 医学研究実習発表会のため講義室使用不可 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー) (14) ベーチェット病、シェーグレン症候群 検査部(茂久田 翔) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科) (13) 中耳炎 客員教授等(園本 優) 第2講義室	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (7) 検査方法、産科婦人科手術、絨毛性疾患 産婦人科(的場 優介) 第2講義室					
9・10	16:20-17:55		その他 (5) 医学研究実習発表会のため講義室使用不可 第2講義室								

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日
1・2	8:40-10:15	器官・システム病態制御学Ⅱ（泌尿器）（6） 腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍 泌尿器科(小島 浩平) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ（42） ストレス反応と情動・心身医学・身体症状症、解離性障害 精神科(増田 慶一) 第2講義室	医学英語（集中実習）（1） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	医学英語（集中実習）（5） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学Ⅱ（皮膚）（7） 先天性表皮水疱症・炎症性角化症 皮膚科(斎藤 伶) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（血液）（9） 悪性リンパ腫～その著しい多様性（後半） 寄員教授等(福島 伯泰) 第2講義室	医学英語（集中実習）（2） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	医学英語（集中実習）（6） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	
5・6	12:50-14:25	医学英語（1） 中間試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（皮膚）（8） 皮膚良性腫瘍・悪性リンパ腫 皮膚科(森橋 聡) 第2講義室	医学英語（集中実習）（3） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	医学英語（集中実習）（7） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	
7・8	14:35-16:10	器官・システム病態制御学Ⅱ（眼科）（10） 神経眼科 眼科(岡野 智文 ) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（泌尿器）（7） 男性不妊症・性分化異常 寄員教授等(三田 耕司) 第2講義室	医学英語（集中実習）（4） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	医学英語（集中実習）（8） 夏季集中実習（※詳細スケジュールは別途通知） 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時間	時間	8月24日	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時間	時間	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学Ⅱ（免疫・アレルギー）（15） 試験 リウマチ・膠原病科(渡辺 裕文) 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（泌尿器）（8） 精巣腫瘍 泌尿器科(後藤 景介) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（皮膚）（10） 水疱症・膿疱症 皮膚科(松尾 佳美) 第2講義室	全身性疾患制御学（小児）（3） リウマチ・膠原病 講義 小児科(土居 岳彦) 第2講義室
3・4	10:25-12:00		全身性疾患制御学（救急集中治療医学）（1） 救急集中治療医学 概論 救急集中治療医学(志馬 伸朗) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ（43） 小児精神医学 精神科(板垣 圭) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（血液）（11） 多発性骨髄腫と類縁疾患～骨と血液の不思議な関係 血液内科(吉田 徹巳) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（血液）（12） 骨髄増殖性疾患～白血病を飲み薬で治す 寄員教授等(木村 晋也) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		器官・システム病態制御学Ⅱ（血液）（10） 血液学を理解するための臨床検査 寄員教授等(松井 啓隆) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（皮膚）（9） 皮膚悪性腫瘍 皮膚科(水野 年登) 第2講義室	全身性疾患制御学（救急集中治療医学）（2） 急性呼吸不全／人工呼吸療法とECMO 救急集中治療医学(大下 慎一郎) 第2講義室	全身性疾患制御学（救急集中治療医学）（3） 生成AIと救急医療におけるデータサイエンス 寄員教授等(後藤 匡啓) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		全身性疾患制御学（小児）（1） 小児科学総論 講義 小児科(岡田 賢) 第2講義室	全身性疾患制御学（小児）（2） 感染症 講義 小児科(佐倉 文祥) 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（皮膚）（11） 附属器疾患・結合織疾患 皮膚科(金本 麻裕) 第2講義室	全身性疾患制御学（救急集中治療医学）（4） 災害医療／DMAT 救急集中治療医学(大下 慎一郎) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

		月	火	水	木	金
時限	曜日	9月1日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日
1・2	8:40-10:15		器管・システム病態制御学Ⅱ(免疫・アレルギー) (15) 試験 リウマチ・膠原病科(渡辺 裕文) 第5講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(泌尿器) (8) 精巣腫瘍 泌尿器科(後藤 景介) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (10) 水疱症・膿疱症 皮膚科(松尾 佳美) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児) (3) リウマチ・膠原病 講義 小児科(土居 岳彦) 第2講義室
3・4	10:25-12:00		全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (1) 救急集中治療医学 概論 救急集中治療医学(志馬 伸朗) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ (43) 小児精神医学 精神科(坂垣 圭) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(血液) (11) 多発性骨髄腫と類縁疾患～骨と血液の不思議な関係 血液内科(吉田 徹巳) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(血液) (12) 骨髄増殖性疾患～白血病を飲み薬で治す 客員教授等(木村 晋也) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		器管・システム病態制御学Ⅱ(血液) (10) 血液学を理解するための臨床検査 客員教授等(松井 啓隆) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (9) 皮膚悪性腫瘍 皮膚科(水野 隼登) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (2) 急性呼吸不全/人工呼吸療法とECMO 救急集中治療医学(大下 慎一郎) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (3) 生成AIと救急医療におけるデータサイエンス 客員教授等(後藤 匡啓) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		全身性疾患制御学(小児) (1) 小児科学総論 講義 小児科(岡田 賢) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児) (2) 感染症 講義 小児科(佐倉 文祥) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (11) 付属器疾患・結合織疾患 皮膚科(金本 麻裕) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (4) 災害医療/DMAT 救急集中治療医学(大下 慎一郎) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	曜日	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日
1・2	8:40-10:15		その他 (6) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (11) 試験 CBTのため講義室使用不可 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(耳鼻咽喉科) (14) 試験 耳鼻咽喉科(川住 知弘) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (6) ショック/循環管理と循環補助 病院高度救命救急センター(太田 浩平) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	器管・システム病態制御学Ⅱ(眼科) (11) 試験 第5講義室	その他 (7) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (12) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(輸血医学) (1) 輸血用血液の製造から臨床で使用されるまで(概論) 輸血部(藤井 輝久) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (7) 頭頸部外傷/脳死とドナー管理/神経集中治療 客員教授等(津村 龍) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (5) 心肺蘇生 救急集中治療医学(志馬 伸朗) 第2講義室	その他 (8) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (13) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (12) 母斑・母斑症 皮膚科(森脇 昌哉) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ (44) 特別講義 不安障害・PTSD 強迫性障害 客員教授等(森信 繁) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学(小児) (4) 成長・発達障害 講義 客員教授等(梶梅 あい子(外部講師)) 第2講義室	その他 (9) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (14) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(皮膚) (13) 全身疾患と皮膚(代謝異常・薬疹・肉芽腫症)・脱毛症 皮膚科(松尾 佳美) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(輸血医学) (2) 血液型の基礎と輸血関連検査 輸血部(藤井 輝久) 第2講義室
9・10	16:20-17:55		その他 (10) CBTのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (15) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		
時限	曜日	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日
1・2	8:40-10:15	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (8) ドクターヘリ/放射線災害医療 原医研 放射線災害医療開発研究分野(廣橋 伸之) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (11) 敗血症と敗血症性ショック 救急集中治療医学(志馬 伸朗) 第2講義室	その他 (17) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (22) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (27) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (9) 重症熱傷/環境異常 救急集中治療医学(大下 慎一郎) 第2講義室	脳神経医学Ⅲ (45) 統合失調症 精神科(大賀 健市) 第2講義室	その他 (18) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (23) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (28) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学(小児) (5) 免疫ゲノミクス 講義 客員教授等(小原 収(客員教授)) 第2講義室	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (12) 集中治療によるイノベーション普及の挑戦 客員教授等(高木 俊介) 第2講義室	その他 (19) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (24) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (29) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (10) 急性血液浄化/輸液療法/栄養療法 救急集中治療医学(石井 羽貴) 第2講義室	器管・システム病態制御学Ⅱ(輸血医学) (3) どんなときに輸血は行われるべきか? 輸血部(山崎 尚也) 第2講義室	その他 (20) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (25) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (30) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室
9・10	16:20-17:55		その他 (16) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (21) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (26) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (31) 高学年IPEのため講義室使用不可 第2講義室

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日
1・2	8:40-10:15				器官・システム病態制御学II (皮膚) (14) 試験 皮膚科(水野 隼登) 第5講義室	器官・システム病態制御学II (泌尿器) (9) 神経因性膀胱 客員教授等(梶原 充) 第2講義室
3・4	10:25-12:00				器官・システム病態制御学II (血液) (13) 出血・血栓性疾患 血液内科(杉原 清香) 第2講義室	脳神経医学III (46) 気分障害 精神科(大村 淳) 第2講義室
5・6	12:50-14:25				全身性疾患制御学 (救急集中治療医学) (13) 急性中毒 客員教授等(岩崎 泰昌) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (輸血医学) (4) 輸血に伴う有害事象とその対応は？ 輸血部(藤井 輝久) 第2講義室
7・8	14:35-16:10				全身性疾患制御学 (救急集中治療医学) (14) 救急初期診療 (ER) 客員教授等(井上 茂亮) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (泌尿器) (10) 尿路結石症 泌尿器科(宮本 俊輔) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日
1・2	8:40-10:15	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学) (15) 試験 救急集中治療医学 第5講義室	その他 (36) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (41) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室		
3・4	10:25-12:00	その他 (32) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第2講義室	その他 (37) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (42) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (6) アレルギー 講義 客員教授等(川口 浩史 (客員教授)) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (7) 新生児 講義 小児科(早川 誠一) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	その他 (33) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第2講義室	その他 (38) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (43) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	器官・システム病態制御学II (泌尿器) (11) 尿路性器の発生と異常 泌尿器科(内藤 美季) 第2講義室	全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (1) がんの疫学・治療学総論 客員教授等(永田 靖) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	その他 (34) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第2講義室	その他 (39) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (44) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	脳神経医学III (47) 不眠、過眠の病態・診断・治療 精神科(熊谷 元) 第2講義室	脳神経医学III (48) 特別講義 精神障害者の社会復帰 客員教授等(林 輝男) 第2講義室
9・10	16:20-17:55	その他 (35) 卒業OSCEのため講義室使用不可 (準備) 第2講義室	その他 (40) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他 (45) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	医学英語 (集中実習) (9) 試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日
1・2	8:40-10:15	全身性疾患制御学(救急集中治療医学) (15) 試験 救急集中治療医学 第5講義室	その他(36) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他(41) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室		
3・4	10:25-12:00	その他(32) 卒業OSCEのため講義室使用不可(準備) 第2講義室	その他(37) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他(42) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(6) アレギー 講義 客員教授等(川口 浩史(客員教授)) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(7) 新生児 講義 小児科(早川 誠一) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	その他(33) 卒業OSCEのため講義室使用不可(準備) 第2講義室	その他(38) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他(43) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	器官・システム病態制御学II(泌尿器)(11) 尿路性器の発生と異常 泌尿器科(内藤 美季) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(1) がんの疫学・治療学総論 客員教授等(永田 晴) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	その他(34) 卒業OSCEのため講義室使用不可(準備) 第2講義室	その他(39) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他(44) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	脳神経医学III(47) 不眠、過眠の病態・診断・治療 精神科(熊谷 元) 第2講義室	脳神経医学III(48) 特別講義 精神障害者の社会復帰 客員教授等(林 輝男) 第2講義室
9・10	16:20-17:55	その他(35) 卒業OSCEのため講義室使用不可(準備) 第2講義室	その他(40) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他(45) 卒業OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	医学英語(集中実習)(9) 試験 外国語教育センター(DAVIES WALTER JOHN HAVARD,FRASER SIMON ALASDAIR) その他	
時限	時間	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日
1・2	8:40-10:15	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(2) 緩和医療学 麻酔科(中村 隆治) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(3) 緩和医療学 がん化学療法 がん化学療法科(岡本 涉) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(10) 新生児蘇生法・小児二次救命処置 講義 小児科(早川 誠一) 第2講義室		全身性疾患制御学(産科婦人科)(12) 異常分娩(1) 産婦人科(山崎 友美) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学(産科婦人科)(8) 妊娠の成立・正常妊娠 産婦人科(山口 建) 第2講義室	脳神経医学III(50) 精神腫瘍学 精神科(倉田 明子) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科)(10) 異常妊娠(1) 産婦人科(大森 由里子) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(11) 免疫不全症 講義 小児科(浅野 李基) 第2講義室	全身性疾患制御学(麻酔)(2) 術前評価と各科の麻酔 麻酔科(横見 央) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学(小児)(8) 血液1 講義 小児科(溝口 洋子) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(9) 神経1 講義 小児科(小林 良行) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児外科)(1) 小児外科 総論 小児外科(佐伯 勇) 第2講義室	全身性疾患制御学(麻酔)(1) 麻酔科学概論 麻酔科(堤 保夫) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(4) 腫瘍外科 ～肺癌を中心に～ 腫瘍外科(見前 隆洋) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	脳神経医学III(49) 物忘れの病態・診断・治療 認知症 精神科(角 美英) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科)(9) 正常分娩 産婦人科(寺岡 有子) 第2講義室	器官・システム病態制御学II(泌尿器)(12) 前立腺肥大症 泌尿器科(関野 陽平) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科)(11) 正常分娩・産褥 産婦人科(寺岡 有子) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(5) 正常分娩・産褥 病理診断科(未定 ※病理診断科教授) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日
1・2	8:40-10:15		器官・システム病態制御学II(血液)(14) 試験 血液内科(本庶 仁子/進藤 岳郎) 第5講義室	脳神経医学III(51) アルコール・薬物関連障害、キャンパル障害 精神科(大賀 健市) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(7) 移植免疫学から見える腫瘍免疫学 血液・腫瘍内科(進藤 岳郎 先生) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(9) 臨床放射線腫瘍学各論2 放射線治療科(村上 祐司) 第2講義室
3・4	10:25-12:00		全身性疾患制御学(麻酔)(3) 基礎生理とモニタリング 麻酔科(檜崎 壮志) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(12) 呼吸器・消化器 講義 小児科(今中 雄介) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(8) 臨床放射線腫瘍学各論1 放射線治療科(今野 伸樹) 第2講義室	全身性疾患制御学(産科婦人科)(14) 異常分娩(2) 産婦人科(山崎 友美) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		全身性疾患制御学(産科婦人科)(13) 異常妊娠(2) 産婦人科(大森 由里子) 第2講義室	全身性疾患制御学(臨床腫瘍学・放射線腫瘍学)(6) 放射線腫瘍学総論 放射線治療科治療科(村上 祐司) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児外科)(2) 小児外科 各論(1) 小児外科(佐伯 勇) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(16) 内分泌1 講義 小児科(香川 礼子) 第2講義室
7・8	14:35-16:10		器官・システム病態制御学II(泌尿器)(13) 尿路外傷 泌尿器科(小羽田 悠貴) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(13) ミニ・チュートリアル1 講義 小児科(岡田 賢・土居 岳彦・佐倉 文祥)	全身性疾患制御学(小児)(14) 循環器 講義 客員教授等(小西 央郎(客員教授)) 第2講義室	全身性疾患制御学(小児)(16) 小児保健 講義 小児科(立石 裕一) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

時限	曜日 時間	月				
		10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	
1・2	8:40-10:15		全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (10) 臨床放射線腫瘍学各論3 放射線治療科(三好 章太) 第2講義室	全身性疾患制御学 (感染症) (1) 感染症総論 感染症科(大毛 宏喜) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (20) 腫瘍性疾患 講義 小児科(唐川 修平) 第2講義室	全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (12) 臨床放射線腫瘍学各論5 客員教授等(土井 敬子) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	脳神経医学III (52) 試験 精神科 第5講義室		全身性疾患制御学 (感染症) (2) 院内感染対策 感染制御部(森 美菜子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (感染症) (3) 口腔細菌と全身性疾患 口腔総合診療科(西 裕美) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (21) 代謝性疾患 講義 客員教授等(但馬 剛 (客員准教授)) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学 (麻酔) (4) 気道・呼吸管理と筋弛緩薬 麻酔科(楢崎 壮志) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (18) 血液2 講義 小児科(下村 麻衣子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (11) 臨床放射線腫瘍学各論4 放射線治療科(村上 祐司) 第2講義室	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (15) 母児感染・性感染症 客員教授等(田中 教文) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (22) 造血幹細胞移植 講義 小児科(溝口 洋子) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学 (小児) (17) 神経2 講義 小児科(小林 良行) 第2講義室	全身性疾患制御学 (麻酔) (5) 吸入麻酔の理論と臨床 麻酔科(大月 幸子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (19) 内分泌2 講義 小児科(香川 礼子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (16) 生殖・不妊症 客員教授等(兒玉 尚志) 第2講義室	全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (13) 臨床放射線腫瘍学各論6 客員教授等(椎文 雅浩) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	10月26日				
1・2	8:40-10:15		全身性疾患制御学 (産科婦人科) (18) 胎児・新生児異常・遺伝相談・母子保健 産婦人科(山崎 友美) 第2講義室	全身性疾患制御学 (麻酔) (7) 局所麻酔の理論と臨床 麻酔科(加藤 貴大) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (放射線診断) (1) 肝胆膵画像診断 放射線診断科(中村 優子) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (放射線診断) (4) 呼吸器画像診断I 放射線診断科(福本 航) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	器官・システム病態制御学II (泌尿器) (14) 試験 泌尿器科(後藤 景介) 第5講義室	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (19) 異常妊娠 (3) 産婦人科(大森 由里子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (臨床腫瘍学・放射線腫瘍学) (14) 臨床放射線腫瘍学各論7 放射線治療科(西淵 いくの) 第2講義室	全身性疾患制御学 (麻酔) (8) 体液・電解質と輸液・輸血 麻酔科(神谷 諭史) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児外科) (3) 小児外科 各論 (2) 小児外科(佐伯 勇) 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学 (感染症) (4) 敗血症と菌血症 救急集中治療科(志馬 伸朗) 第2講義室	全身性疾患制御学 (感染症) (5) 小児感染症 感染症科(野村 俊仁) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (23) ミニ・チュートリアル2 発表 小児科(岡田 賢・土居 岳彦・立石 裕一) その他	器官・システム病態制御学II (放射線診断) (2) 中枢神経画像診断I 客員教授 (JA広島総合病院) (海地 陽子) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (放射線診断) (5) 小児画像診断 放射線診断科(谷 千尋) 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (17) 異常分娩 (3) 産婦人科(山崎 友美) 第2講義室	全身性疾患制御学 (麻酔) (6) 静脈麻酔の理論と臨床 麻酔科(石井 友美) 第2講義室	全身性疾患制御学 (小児) (24) 腎・泌尿器 講義 客員教授等(郷田 聡 (客員教授)) 第2講義室	器官・システム病態制御学II (放射線診断) (3) 中枢神経画像診断II 客員教授 (JA広島総合病院) (海地 陽子) 第2講義室	全身性疾患制御学 (産科婦人科) (20) 合併症妊娠 客員教授等(田中 教文) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日
1・2	8:40-10:15			器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（6） 女性生殖器・乳腺画像診断 放射線診断科（赤木 元紀） 第2講義室	全身性疾患制御学（麻酔）（10） 導入・維持・覚醒と危機管理 麻酔科（三好 寛二） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（7） 輸入感染症とワクチン トランスレシヨルリセンター（繁本 憲文） 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）（15） 試験 放射線治療科 第5講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（7） 呼吸器画像診断Ⅱ/死後画像診断 放射線診断科（福本 航） 第2講義室	全身性疾患制御学（麻酔）（11） 麻酔の副作用・合併症 麻酔科（三好 寛二） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（8） 血液媒介性感染症 輸血部（藤井 輝久） 第2講義室
5・6	12:50-14:25	全身性疾患制御学（感染症）（6） 呼吸器感染症 感染症科（大森 慶太郎） 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（8） Interventional RadiologyⅡ（非血管系） 客員教授（岡山大学放射線医学）（平木 隆夫） 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（9） 泌尿器・男性生殖器画像診断 客員教授（中国労災病院）（本田 有紀子） 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学（麻酔）（9） 術後管理と集中治療 麻酔科（神谷 諭史） 第2講義室		全身性疾患制御学（地域医療）（1） プライマリケア、地域包括ケア、感染症対策 地域医療（柿本 聖樹） 第2講義室	全身性疾患制御学（漢方医学）（1） 漢方医学概論/漢方薬のエビデンス1 漢方診療センター/医学教育センター（小川 恵子/蓮沼 直子） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（9） 環境衛生微生物概論 IDEC国際連携機構（丸山 史人） 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
1・2	8:40-10:15	その他（46） 共用OSCEのため講義室使用不可（準備） 第2講義室	その他（50） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他（55） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室		器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（10） 心大血管画像診断 放射線診断科（立神 史穂） 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学（産科婦人科）（21） 試験 産婦人科（山崎 友美） 第5講義室	その他（51） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他（56） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	全身性疾患制御学（麻酔）（12） 術後急性痛と慢性痛、ペインクリニック 麻酔科（中村 隆治） 第2講義室	
5・6	12:50-14:25	その他（47） 共用OSCEのため講義室使用不可（準備） 第2講義室	その他（52） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他（57） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	全身性疾患制御学（小児）（25） 試験 小児科（淺野 孝基） 第5講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（11） Interventional RadiologyⅠ（血管系） 放射線診断科（結佐 啓吾） 第2講義室
7・8	14:35-16:10	その他（48） 共用OSCEのため講義室使用不可（準備） 第2講義室	その他（53） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他（58） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	全身性疾患制御学（小児）（26） 試験解説 小児科（岡田 賢、淺野 孝基） 第5講義室	全身性疾患制御学（感染症）（10） 耳鼻咽喉科領域感染症 耳鼻咽喉科・頭頸部外科（堀部 裕一郎） 第2講義室
9・10	16:20-17:55	その他（49） 共用OSCEのため講義室使用不可（準備） 第2講義室	その他（54） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室	その他（59） 共用OSCEのため講義室使用不可 第2講義室		
時限	時間	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日
1・2	8:40-10:15		全身性疾患制御学（漢方医学）（2） 漢方医学の歴史/病因・病態把握（気血水と八綱） 漢方診療センター（小川 恵子） 第2講義室	器官・システム病態制御学Ⅱ（放射線診断）（12） 核医学診断 （原医研）放射線災害・医科学研究機構（石橋 愛） 第2講義室		その他（60） 薬学部入試のため講義室使用不可 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学（小児外科）（4） 試験 小児外科（佐伯 勇） 第5講義室	全身性疾患制御学（地域医療）（2） 医師需給と医師偏在 地域医療（松本 正俊） 第2講義室	全身性疾患制御学（漢方医学）（4） 漢方薬のエビデンス2 客員教授等（有光 潤介） 第2講義室	全身性疾患制御学（漢方医学）（5） 漢方処方と生薬 客員教授等（苗木 司） 第2講義室	全身性疾患制御学（麻酔）（13） 試験 麻酔科（堤 保夫） 第5講義室
5・6	12:50-14:25		全身性疾患制御学（地域医療）（3） 地域医療とプライマリケア 客員教授等（川本 龍一） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（12） 抗菌薬適正使用 感染制御部（久保 有子） 第2講義室	全身性疾患制御学（漢方医学）（6） 鍼灸総論と臨床応用 客員教授等（宮川 浩也） 第2講義室	その他（61） 薬学部入試のため講義室使用不可 第2講義室
7・8	14:35-16:10	全身性疾患制御学（感染症）（11） 尿路感染症 泌尿器科（北野 弘之） 第2講義室	全身性疾患制御学（漢方医学）（3） 診断方法（四診）と治療法則 漢方診療センター（河原 章浩） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（13） 皮膚科感染症 皮膚科（森橋 聡） 第2講義室	全身性疾患制御学（感染症）（14） 感染症必修知識の確認 感染症科（北川 浩樹） 第2講義室	その他（62） 薬学部入試のため講義室使用不可 第2講義室
9・10	16:20-17:55					その他（63） 薬学部入試のため講義室使用不可 第2講義室

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

		月	火	水	木	金
時限	曜日 時間	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日
1・2	8:40-10:15			その他 (64) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		
3・4	10:25-12:00		器官・システム病態制御学II (放射線診断) (13) 試験 放射線診断科(中村 優子) 第5講義室	その他 (65) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		全身性疾患制御学 (漢方医学) (7) 試験 漢方診療センター(河原 章浩) 第5講義室
5・6	12:50-14:25			その他 (66) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		
7・8	14:35-16:10			その他 (67) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		
9・10	16:20-17:55			その他 (68) CBTのため講義室使用不可 第2講義室		
時限	時間	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
1・2	8:40-10:15		臨床病理学 (1) ①消化器講義1・演習 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (4) ③気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義1・演習 病理学(武島 幸男) 第2講義室	臨床病理学 (8) ⑤乳腺・内分泌講義・演習 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (12) ⑦腎・尿路・男性生殖器講義・演習 分子病理学(石川 洗) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身性疾患制御学 (感染症) (15) 試験 感染症科 第5講義室	臨床病理学 (2) ②消化器講義2および循環器講義・演習 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (5) ④気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義2・演習 病理学(柳谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (9) ⑥肝胆膵・細胞診講義・演習 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (13) ⑧女性生殖器講義・演習 分子病理学(勝矢 脩高) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		臨床病理学 (3) 演習・実習①② 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (6) 演習・実習②③④ 分子病理学・病理学(三井 伸二、武島 幸男、柳谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (10) 演習・実習⑤⑥ 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (14) 演習・実習⑦⑧ 分子病理学(石川 洗、勝矢 脩高) 第2講義室
7・8	14:35-16:10			臨床病理学 (7) 演習・実習②③④ 分子病理学・病理学(三井 伸二、武島 幸男、柳谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (11) 演習・実習⑤⑥ 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (15) 演習・実習⑦⑧ 分子病理学(石川 洗、勝矢 脩高) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

		月	火	水	木	金
曜日	時間	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
1・2	8:40-10:15		臨床病理学 (1) ①消化器講義1・演習 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (4) ③気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義1・演習 病理学(武島 幸男) 第2講義室	臨床病理学 (8) ⑤乳腺・内分泌講義・演習 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (12) ⑦腎・尿路・男性生殖器講義・演習 分子病理学(石川 洸) 第2講義室
3・4	10:25-12:00	全身疾患制御学 (感染症) (15) 試験 感染症科 第5講義室	臨床病理学 (2) ②消化器講義2および循環器講義・演習 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (5) ④気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義2・演習 病理学(榎谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (9) ⑥肝胆膵・細胞診講義・演習 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (13) ⑧女性生殖器講義・演習 分子病理学(勝矢 脩嵩) 第2講義室
5・6	12:50-14:25		臨床病理学 (3) 演習・実習①② 分子病理学(三井 伸二) 第2講義室	臨床病理学 (6) 演習・実習②③④ 分子病理学・病理学(三井 伸二、武島 幸男、榎谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (10) 演習・実習⑤⑥ 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (14) 演習・実習⑦⑧ 分子病理学(石川 洸、勝矢 脩嵩) 第2講義室
7・8	14:35-16:10			臨床病理学 (7) 演習・実習②③④ 分子病理学・病理学(三井 伸二、武島 幸男、榎谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (11) 演習・実習⑤⑥ 病理診断科(中桐 徹也) 第2講義室	臨床病理学 (15) 演習・実習⑦⑧ 分子病理学(石川 洸、勝矢 脩嵩) 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
曜日	時間	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日
1・2	8:40-10:15	臨床病理学 (16) ⑨中枢神経系講義1・演習 病理学(AMATYA VISHWA JEET) 第2講義室		社会医学 (衛生学) (1) 衛生学① 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (3) 公衆衛生学③ 第2講義室	社会医学 (法医学) (1) 法医学総論・死因論 第2講義室
3・4	10:25-12:00	臨床病理学 (17) ⑩中枢神経系講義2および小児疾患・腫瘍講義・演習 病理学(AMATYA VISHWA JEET、榎谷 桂) 第2講義室	臨床病理学 (20) 試験 第5講義室	社会医学 (衛生学) (2) 衛生学② 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (4) 公衆衛生学④ 第2講義室	社会医学 (法医学) (2) 死体現象 第2講義室
5・6	12:50-14:25	臨床病理学 (18) 演習・実習⑨⑩ 病理学(AMATYA VISHWA JEET、榎谷 桂) 第2講義室		社会医学 (公衆衛生) (1) 公衆衛生学① 第2講義室	社会医学 (衛生学) (3) 衛生学③ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (5) 衛生学⑤ 第2講義室
7・8	14:35-16:10	臨床病理学 (19) 演習・実習⑨⑩ 病理学(AMATYA VISHWA JEET、榎谷 桂) 第2講義室		社会医学 (公衆衛生) (2) 公衆衛生学② 第2講義室	社会医学 (衛生学) (4) 衛生学④ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (6) 衛生学⑥ 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
曜日	時間	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日
1・2	8:40-10:15	社会医学 (法医学) (3) 損傷1 第2講義室	社会医学 (衛生学) (7) 衛生学⑦ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (9) 衛生学⑨ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (11) 衛生学⑪ 第2講義室	その他 (69) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
3・4	10:25-12:00	社会医学 (法医学) (4) 損傷2 第2講義室	社会医学 (衛生学) (8) 衛生学⑧ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (10) 衛生学⑩ 第2講義室	社会医学 (衛生学) (12) 衛生学⑫ 第2講義室	その他 (70) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
5・6	12:50-14:25	社会医学 (法医学) (5) 法中毒1 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (5) 公衆衛生学⑤ 第2講義室	社会医学 (法医学) (7) アルコールの法医学 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (7) 公衆衛生学⑦ 第2講義室	その他 (71) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
7・8	14:35-16:10	社会医学 (法医学) (6) 法中毒2 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (6) 公衆衛生学⑥ 第2講義室	社会医学 (法医学) (8) アルコールの法医学 第2講義室	社会医学 (公衆衛生) (8) 公衆衛生学⑧ 第2講義室	その他 (72) 推薦入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
9・10	16:20-17:55					

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	12月21日	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日
1・2	8:40-10:15	社会医学（法医学）（9） 室息1 第2講義室			社会医学（公衆衛生）（11） 公衆衛生学 <sup>11</sup> 第2講義室	社会医学（法医学実習）（1） 法医学実習 その他
3・4	10:25-12:00	社会医学（法医学）（10） 室息2 第2講義室			社会医学（公衆衛生）（12） 公衆衛生学 <sup>12</sup> 第2講義室	社会医学（法医学実習）（2） 法医学実習 その他
5・6	12:50-14:25	社会医学（公衆衛生）（9） 公衆衛生学 <sup>9</sup> 第2講義室		その他（73） 白衣着衣式のため講義室使用不可 第2講義室	社会医学（法医学）（11） 法中毒3 第2講義室	社会医学（公衆衛生）（13） 公衆衛生学 <sup>13</sup> 第2講義室
7・8	14:35-16:10	社会医学（公衆衛生）（10） 公衆衛生学 <sup>10</sup> 第2講義室		その他（74） 白衣着衣式のため講義室使用不可 第2講義室	社会医学（法医学）（12） 死亡診断書・異常環境における死・嬰兒殺 第2講義室	社会医学（公衆衛生）（14） 公衆衛生学 <sup>14</sup> 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

		月	火	水	木	金
時限	曜日 時間	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					
時限	曜日 時間	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日
1・2	8:40-10:15			社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>13</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>15</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>17</sup> 第2講義室
3・4	10:25-12:00			社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>14</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>16</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>18</sup> 第2講義室
5・6	12:50-14:25			社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>15</sup> 第2講義室	社会医学（法医学） 法医学・DNA分析 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>19</sup> 第2講義室
7・8	14:35-16:10			社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>16</sup> 第2講義室	社会医学（法医学） 法医学・DNA分析 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>20</sup> 第2講義室
9・10	16:20-17:55					
時限	曜日 時間	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日
1・2	8:40-10:15		社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>21</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>23</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>21</sup> 第2講義室	その他（75） 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第2講義室
3・4	10:25-12:00		社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>22</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学） 衛生学 <sup>24</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>22</sup> 第2講義室	その他（76） 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第2講義室
5・6	12:50-14:25		社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>17</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>19</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>23</sup> 第2講義室	その他（77） 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第2講義室
7・8	14:35-16:10		社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>18</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>20</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生） 公衆衛生学 <sup>24</sup> 第2講義室	その他（78） 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第2講義室
9・10	16:20-17:55					その他（79） 大学入学共通テスト準備のため講義室使用不可 第2講義室

時限	曜日 時間	月				
		1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日
1・2	8:40-10:15	社会医学（衛生学）(25) 衛生学 <sup>25</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(1) 衛生学実習 <sup>①</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(5) 衛生学実習 <sup>⑤</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(9) 衛生学実習 <sup>⑨</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(13) 衛生学実習 <sup>⑬</sup> その他
3・4	10:25-12:00	社会医学（衛生学）(26) 衛生学 <sup>26</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(2) 衛生学実習 <sup>②</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(6) 衛生学実習 <sup>⑥</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(10) 衛生学実習 <sup>⑩</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(14) 衛生学実習 <sup>⑭</sup> その他
5・6	12:50-14:25	社会医学（衛生学）(27) 衛生学 <sup>27</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(3) 衛生学実習 <sup>③</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(7) 衛生学実習 <sup>⑦</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(11) 衛生学実習 <sup>⑪</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(15) 衛生学実習 <sup>⑮</sup> その他
7・8	14:35-16:10	社会医学（衛生学）(28) 衛生学 <sup>28</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(4) 衛生学実習 <sup>④</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(8) 衛生学実習 <sup>⑧</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(12) 衛生学実習 <sup>⑫</sup> その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）(16) 衛生学実習 <sup>⑯</sup> その他
9・10	16:20-17:55					
時限	曜日 時間	月				
		1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日
1・2	8:40-10:15	社会医学（衛生学）(29) 衛生学 <sup>29</sup> 第2講義室	社会医学（法医学）(17) 神経剤の毒性機構 第2講義室	社会医学（法医学実習）(4) 症例検討実習 <sup>②</sup> その他	社会医学（公衆衛生）(29) 公衆衛生学 <sup>29</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学）(31) 衛生学 <sup>31</sup> 第2講義室
3・4	10:25-12:00	社会医学（衛生学）(30) 衛生学 <sup>30</sup> 第2講義室	社会医学（法医学実習）(3) 症例検討実習 <sup>①</sup> その他	社会医学（法医学実習）(5) 症例検討実習 <sup>③</sup> その他	社会医学（公衆衛生）(30) 公衆衛生学 <sup>30</sup> 第2講義室	社会医学（衛生学）(32) 衛生学 <sup>32</sup> 第2講義室
5・6	12:50-14:25	社会医学（法医学）(15) 児童虐待・DV 第2講義室	社会医学（公衆衛生）(25) 公衆衛生学 <sup>25</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生）(27) 公衆衛生学 <sup>27</sup> 第2講義室	社会医学（法医学）(18) 血液型・法医学的個人識別とその応用 第2講義室	社会医学（衛生学）(33) 衛生学 <sup>33</sup> その他
7・8	14:35-16:10	社会医学（法医学）(16) 児童虐待・DV 第2講義室	社会医学（公衆衛生）(26) 公衆衛生学 <sup>26</sup> 第2講義室	社会医学（公衆衛生）(28) 公衆衛生学 <sup>28</sup> 第2講義室	社会医学（法医学）(19) 血液型・法医学的個人識別とその応用 第2講義室	社会医学（衛生学）(34) 衛生学 <sup>34</sup> その他
9・10	16:20-17:55					

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日
1・2	8:40-10:15	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（17） 衛生学実習①② 第2講義室	社会医学（法医学実習）（6） 症例検討実習④ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（23） 衛生学実習③④ その他	社会医学（法医学実習）（10） 症例検討実習⑧ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（27） 公衆衛生学実習③ その他
3・4	10:25-12:00	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（18） 衛生学実習⑤⑥ 第2講義室	社会医学（法医学実習）（7） 症例検討実習⑤ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（24） 衛生学実習⑤⑥ その他	社会医学（法医学実習）（11） 症例検討実習⑨ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（28） 公衆衛生学実習④ その他
5・6	12:50-14:25	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（19） 衛生学実習⑦⑧ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（21） 衛生学実習⑨⑩ その他	社会医学（法医学実習）（8） 症例検討実習⑥⑦ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（25） 公衆衛生学実習①② その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（29） 公衆衛生学実習⑤⑥ その他
7・8	14:35-16:10	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（20） 衛生学実習⑨⑩ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（22） 衛生学実習⑪⑫ その他	社会医学（法医学実習）（9） 症例検討実習⑧⑨ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（26） 公衆衛生学実習③④ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（30） 公衆衛生学実習⑦⑧ その他
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	2月8日	2月9日	2月10日	2月11日	2月12日
1・2	8:40-10:15	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（31） 公衆衛生学実習⑦⑧ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（35） 公衆衛生学実習⑪⑫ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（39） 公衆衛生学実習⑬⑭ その他		社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（43） 公衆衛生学実習⑰⑱ その他
3・4	10:25-12:00	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（32） 公衆衛生学実習⑧⑨ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（36） 公衆衛生学実習⑫⑬ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（40） 公衆衛生学実習⑮⑯ その他		社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（44） 公衆衛生学実習⑲⑳ その他
5・6	12:50-14:25	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（33） 公衆衛生学実習⑩⑪ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（37） 公衆衛生学実習⑭⑮ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（41） 公衆衛生学実習⑰⑱ その他		社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（45） 公衆衛生学実習㉑㉒ その他
7・8	14:35-16:10	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（34） 公衆衛生学実習⑪⑫ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（38） 公衆衛生学実習⑯⑰ その他	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（42） 公衆衛生学実習⑳㉑ その他		社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（46） 公衆衛生学実習㉓㉔ その他
9・10	16:20-17:55					
時限	時間	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（47） 公衆衛生学実習㉕ その他				
7・8	14:35-16:10	社会医学（衛生学・公衆衛生学実習）（48） 公衆衛生学実習㉖ その他				
9・10	16:20-17:55					

R8 (2026) 年度医学科3年生講義予定

2026年3月18日現在

曜日		月	火	水	木	金
時限	時間	2月22日	2月23日	2月24日	2月25日	2月26日
1・2	8:40-10:15	その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室		その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (71) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
3・4	10:25-12:00	その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室		その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (72) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
5・6	12:50-14:25	その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室		その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (73) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
7・8	14:35-16:10	その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室		その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (74) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
9・10	16:20-17:55	その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室		その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室	その他 (75) 前期入試準備のため講義室使用不可 第2講義室
時限	時間	3月1日	3月2日	3月3日	3月4日	3月5日
1・2	8:40-10:15					
3・4	10:25-12:00					
5・6	12:50-14:25					
7・8	14:35-16:10					
9・10	16:20-17:55					

授業科目名 Title of Course	医学英語 (医療英語 - オーラル・コミュニケーション・スキル)		
対象学年 Eligible Students	3年生	単位 Credits	1単位
科目責任者 Responsible Instructor	みかみ ゆきお 三上 幸夫	所属 Affiliation	リハビリテーション科
授業方法 Lesson Style	前期は本学で開発された医学英語の教材を用いてMoodleを用いてオンラインで実施する。夏期には、対面授業で3日間の集中講義を行う。集中講義と同じ内容を2年次に7回のコースとして早期に履修することもできる。さらに3年次に希望者を対象にMedical Writing Course を開設している。		
概要 Overview	本講義は、学生に医学英語の基礎を習得させることを目的としている。内容は、医師同士の専門的な英語表現と、医師と患者の間で用いられる日常的な英語表現の双方を含む。教材は、身体の各器官系およびそれに関連する医学分野を中心に構成されている。専門的な内容としては、解剖学用語、生理学、および疾患や治療に関連する医学用語を、短いエッセイや図解を通じて学習する。医師と患者のコミュニケーションに関しては、スクリプト化された対話やロールプレイを通じて、口頭コミュニケーション能力を養う。 尚、MD-PhDコースの学生は2年次での早期集中講義「MECC (Medical English Core Course)」を受講することが必須である。 また、4年次の「医学研究実習」、5-6年次の「臨床実習Ⅱ」で海外留学を希望する学生は、3年次の「MWC (Medical Writing Course)」を受講している事が求められる。		
到達目標 Academic Goals	本講義の主な目標は以下のとおりである。 1. 病歴聴取を行うための英語の技能および能力を養成すること。 2. 医学的問題を英語で説明するための英語力を向上させること。 3. 1,700語の医学英語の基本語彙を習得すること。 4. 複雑な医学用語の構成要素を識別する能力を身につけること。		
講義日程 Class Schedule	3年生 1,2ターム Moodleによるオンライン講義 (Davies先生) 【受講対象】全3年生  8月(3日間) IMEC (Intensive Medical English Course) 全7回 (Davies先生, Fraser先生) 【受講対象】2年次MECC未受講者  2年生 3ターム(木) MECC (Medical English Core Course) 全7回 (Davies先生, Fraser先生) 4ターム(水) 【受講対象】希望者、MD-PhDコースの学生は必修 ※講義時間は別途案内予定。受講希望調査後に抽選を行い、受講タームを通知。  (非必修授業) 3年生 3ターム MWC (Medical Writing Course) 全8回 (Fraser先生) 【受講対象】希望者、海外留学(※)を希望する学生 16:20-17:55 ※対象となる留学:4年次「医学研究実習」/5-6年次「臨床実習Ⅱ」		
出席の取り扱い Class Attendance Policy	全ての授業への出席は必須である。欠席が認められるのは、病気による場合のみとする。欠席した学生は、補講を受講することで授業の欠席分を補う必要がある。		
評価項目 Evaluation Item	1. 医学英語に関連する語彙を理解していること。 2. 構造化された質問や、医学的問題および治療法の説明を通じて、患者と英語でコミュニケーションをとる能力を身につけていること。		
評価法 Evaluation Method	学生の評価は、Moodleのスコア、各クォーター末の試験、および集中講義における口頭コミュニケーションおよび筆記課題によって行われる。		
予習・復習への アドバイス Suggestions on Preparation and Review	講義前後に配布資料を確認し、必要に応じて医学英語教材を用いて、内容の理解に努めること。		
履修上の注意 アドバイス Precautions and Advice on the class	本医学英語講義教材は、Moodleを使用してオンラインで提供される。年間を通じて復習および自主学習のために利用可能である。集中講義は9月に実施される。7週間の授業 (MECC2Y) を早期に履修し、合格した2年次学生は、集中講義の受講が免除される。		
推奨参考書 Recommended Reference Books	本講義では、広島大学で開発された医学英語教材14ユニットを使用する。これらの教材は、医学専門家の指導と監修のもと、英語教育の専門家によって設計された。各ユニットには、図解、短いエッセイ、音声付きの対話が含まれており、学生が多様な医学英語の用語を学習し、実践できるよう構成されている。また、講義では複雑な医学用語を理解するために役立つ単語の構成要素の識別にも重点を置いている。		

授業科目名	臨床病理学 (Clinical & Diagnostic Pathology)		
対象学年	3年生	単位	2単位
科目責任者	みい しんじ 三井 伸二	所属	分子病理学
	たけしま ゆきお 武島 幸男	所属	病理学
	なかぎり てつや 中桐 徹也	所属	病理診断科
授業方法	<p>講義形式：講義、演習（ディスカッション・ディベート・学生の発表・レポート提出）、顕微鏡観察実習・レポート提出          使用する視聴覚教材の種類：病理コア画像（日本病理学会編）、パワーポイント・DECS・病理組織プレパラート(VS)等          講義・演習方式を主体とするが、モデル・コア・カリキュラムに添って必須ポイントは講義する。講義・演習・実習は連動して進める。代表的病態・疾患についてはプレパラートあるいはバーチャルスライドを用いた病理組織実習を行なう。</p>		
概要	<p>病因病態学および臨床系ユニットの講義で学んだ知識を有機的に統合して、臓器系統別に疾患の概念・発生機序・診断と治療に関する理解を深める。          特に代表的疾患についてはCBTで求められるレベルの基礎的知識と技能を習得する。</p>		
到達目標	<p>           血行障害（阻血、虚血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因と病態を説明できる。            梗塞（血栓、塞栓）の種類と病態を説明できる。            ショック（血流分布異常性ショック（アナフィラキシー、感染性（敗血症性）、神経原性）、循環血液量減少性ショック（出血性、体液喪失）、心原性ショック（心筋性、機械性、不整脈）、閉塞性ショック（心タンポナーデ、肺塞栓症、緊張性気胸））を説明できる。            臓器不全（多臓器不全、多臓器障害(multiple organ dysfunction syndrome &lt;MODS&gt;))を説明できる。            炎症の定義を説明できる。            炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化（局所的変化と全身的变化）を説明できる。            感染症による炎症性変化を説明できる。            創傷の治癒過程を概説できる。            自律性の増殖と、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。            癌の原因や遺伝子変化を説明できる。            腫瘍の分類、分化度、グレード、ステージを概説できる。            用語（異形成、上皮内癌、進行癌、早期癌、異型性、多形性等）を説明できる。            癌の診断と治療を概説できる。            癌の転移を説明できる。            腫瘍の定義と病態を説明できる。            腫瘍の症候を説明できる            腫瘍のグレード、ステージを概説できる            腫瘍の病理所見や診断を説明できる。            病理診断、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製及び診断過程が説明できる。            診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。            術中迅速診断の利点、欠点を説明できる。            デジタル画像を用いた病理診断（遠隔診断を含む）の利点、欠点を説明できる。            病理解剖の医療における位置付けと法的事項、手続等を説明できる。            臨床的事項と病理診断、病理所見の相関を述べる事が出来る。            臓器系統別に代表的な疾患をあげ、その臨床病理学的な特徴を述べる事ができる。         </p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	①講義、実習について3分の2以上の出席。 ②期日までに各種レポート（5レポート）をすべて提出。 上記すべてを満たすことを試験受験資格とする。 *出席の確認はformsあるいは学生証で行う。
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） プレゼンテーション能力
評価法	MCQ形式、記述形式の併用による試験を行う。 本試験における合格基準は試験の合計60点以上とする。 （レポートが提出されていない場合は、1レポート当たり8点減点する。）
予習・復習へのアドバイス	推薦参考書を購読するとともに、講義、実習を通じて知識の体得に努めること。 （書籍の電子ファイル化は個人利用に限り認められているので、他人へは絶対に渡さないこと。）
推奨参考書	1. 病理コア画像（日本病理学会編） <a href="http://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html">http://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html</a> 2. 標準病理学（医学書院） 3. ルービン病理学（西村書店） 4. 器官病理学（南山堂） 5. Robbins : Pathologic Basis of Disease（Saunders） 6. 組織病理アトラス（文光堂） 7. 病理組織の見方と鑑別診断（医歯薬出版）

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/12/01(火)	1・2	臨床病理学	①消化器講義1・演習	分子病理学	三井 伸二
2026/12/01(火)	3・4	臨床病理学	②消化器講義2および循環器講義・演習	分子病理学	三井 伸二
2026/12/01(火)	5・6	臨床病理学	演習・実習①②	分子病理学	三井 伸二
2026/12/02(水)	1・2	臨床病理学	③気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義1・演習	病理学	武島 幸男
2026/12/02(水)	3・4	臨床病理学	④気道・呼吸器・縦隔・胸膜講義2・演習	病理学	櫛谷 桂
2026/12/02(水)	5・6	臨床病理学	演習・実習②③④	分子病理学・病理学	三井 伸二、武島 幸男、 櫛谷 桂
2026/12/02(水)	7・8	臨床病理学	演習・実習②③④	分子病理学・病理学	三井 伸二、武島 幸男、 櫛谷 桂
2026/12/03(木)	1・2	臨床病理学	⑤乳腺・内分泌講義・演習	病理診断科	中桐 徹也
2026/12/03(木)	3・4	臨床病理学	⑥肝胆膵・細胞診講義・演習	病理診断科	中桐 徹也
2026/12/03(木)	5・6	臨床病理学	演習・実習⑤⑥	病理診断科	中桐 徹也
2026/12/03(木)	7・8	臨床病理学	演習・実習⑤⑥	病理診断科	中桐 徹也
2026/12/04(金)	1・2	臨床病理学	⑦腎・尿路・男性生殖器講義・演習	分子病理学	石川 洸
2026/12/04(金)	3・4	臨床病理学	⑧女性生殖器講義・演習	分子病理学	勝矢 脩嵩
2026/12/04(金)	5・6	臨床病理学	演習・実習⑦⑧	分子病理学	石川 洸、勝矢 脩嵩
2026/12/04(金)	7・8	臨床病理学	演習・実習⑦⑧	分子病理学	石川 洸、勝矢 脩嵩
2026/12/07(月)	1・2	臨床病理学	⑨中枢神経系講義1・演習	病理学	AMATYA VISHWA JEET
2026/12/07(月)	3・4	臨床病理学	⑩中枢神経系講義2および小児疾患・腫瘍講義・演習	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂
2026/12/07(月)	5・6	臨床病理学	演習・実習⑨⑩	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂
2026/12/07(月)	7・8	臨床病理学	演習・実習⑨⑩	病理学	AMATYA VISHWA JEET、 櫛谷 桂
2026/12/08(火)	3・4	臨床病理学	試験		

授業科目名	器官・システム病態制御学 I (Clinical diagnosis and treatment I)		
対象学年	3年生	単位	12単位
科目責任者	おか しろ 岡 志郎	所属	消化器内科学
科目 コーディネーター	おか しろ 岡 志郎	所属	消化器内科学
授業方法	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
授業の概要	<p>臨床医学全般の知識を学習する。          本科目は以下の6つの講義ユニットで構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床医学総論</li> <li>2) 内分泌</li> <li>3) 呼吸器</li> <li>4) 循環器</li> <li>5) 消化器</li> <li>6) 腎臓</li> </ol> <p>各器官・システムの構造と機能、主要疾患と病態について学習し、診断治療に必要な知識を習得する。</p>		
授業の目標	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	試験はユニットごとに行う。試験形式については各ユニットのシラバスを参照のこと。		
成績評価の基準	各ユニットの到達度について評価する。 合格することを4年次への進級要件とする。		
予習・復習への アドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		

講義ユニット名	臨床医学総論	所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
講義ユニット コーディネーター	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。演習や症例検討なども併用する。		
概要	臨床医学総論では、臨床系の学習を進めるにあたって必要となる総論的な知識を、科横断的な視点から身に付けることを目標とする。また、症候学、診断学、検査総論、老年医学、周術期管理などの総論的な概説とともに、医の倫理や医師のとるべき態度・心構えなど、臨床診療を行うにあたって修得しておくべき事項についても解説を行う。		
講義ユニットの 到達目標	<p>医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。</p> <p>ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。</p> <p>リスボン宣言等に示された患者の基本的権利を説明できる。</p> <p>患者の自己決定権の意義を説明できる。</p> <p>選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援する。</p> <p>インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。</p> <p>医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。</p> <p>医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。</p> <p>高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。</p> <p>医療の質の確保（病院機能評価、国際標準化機構(International Organization for Standardization &lt;ISO&gt;)、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス等)を説明できる。</p> <p>老化学説、老化制御、加齢に伴う臓器の構造的・機能的変化を説明でき、これによる予備能の低下等患者にもたらされる生理的变化を説明できる。</p> <p>高齢者総合機能評価(comprehensive geriatric assessment &lt;CGA&gt;)を実施できる。</p> <p>老年症候群（歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害等）の概念を説明できる。</p> <p>フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防が説明できる。</p> <p>認知症、うつ、せん妄の違いを説明し、それぞれの鑑別、初期対応を実施できる。</p> <p>歩行障害・転倒の評価、鑑別診断を行い、原因に応じた転倒予防・リハビリテーションを説明できる。</p> <p>口腔機能低下、摂食・嚥下障害の評価、鑑別診断を行い、原因に応じた治療・リハビリテーション、予防を実施できる。</p> <p>高齢者の栄養マネジメントを説明できる。</p> <p>加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。</p> <p>高齢者の障害及び廃用症候群を説明でき、それらに対するリハビリテーションを説明できる。</p> <p>高齢者の退院支援と介護保険制度を説明できる。</p> <p>高齢者の人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）を説明できる。</p> <p>発熱の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>発熱をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>発熱がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>全身倦怠感の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>全身倦怠感をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>全身倦怠感がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>意識障害・失神の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>意識障害・失神をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>意識障害・失神がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>めまいの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>めまいをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p>		

講義ユニットの  
到達目標

めまいがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
浮腫の原因と病態生理を説明できる。  
浮腫をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
浮腫がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
呼吸困難の原因と病態生理を説明できる。  
呼吸困難をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
呼吸困難がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
胸痛の原因と病態生理を説明できる。  
胸痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
胸痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
動悸の原因と病態生理を説明できる。  
動悸をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
動悸がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
胸水の原因と病態生理を説明できる。  
胸水をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
胸水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
嚥下困難・障害の原因と病態生理を説明できる。  
嚥下困難・障害をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
嚥下困難・障害がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
腹痛の原因と病態生理を説明できる。  
腹痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
腹痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
リンパ節腫脹の原因と病態生理を説明できる。  
リンパ節腫脹をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  
リンパ節腫脹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  
臨床検査の目的と意義を説明でき、必要最小限の検査項目を選択できる。  
臨床検査の正しい検体採取方法と検体保存方法を説明できる。  
臨床検査の安全な実施方法(患者確認と検体確認、検査の合併症、感染症予防、精度管理)を説明できる。  
臨床検査の生理的変動、測定誤差、精度管理、ヒューマンエラーを説明できる。  
小児、高齢者、妊産婦の検査値特性を説明し、結果を解釈できる。  
病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解・説明できる。  
血算、凝固・線溶検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。  
病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリの意義を説明できる。  
免疫血清学検査、輸血検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。  
生体機能検査(心電図、心臓機能検査、呼吸機能検査、超音波検査、内分泌・代謝機能検査、脳波検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査)の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。  
細菌学検査(細菌の塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。  
超音波機器の種類と原理を説明できる。  
超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。  
超音波を用いる治療を概説できる。  
超音波の生体作用と安全性を説明できる。  
超音波造影法を説明できる。  
創傷治癒のメカニズムを説明できる。  
外科的治療の適応と合併症を説明できる。  
手術の危険因子を列挙し、その対応の基本を説明できる。  
基本的バイタルサイン(体温、呼吸、脈拍、血圧)の意義とモニターの方法を説明できる。  
主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。  
手術に関するインフォームド・コンセントの注意点を列挙できる。  
周術期管理における事前のリスク評価を説明できる。  
周術期における主な薬剤の服薬管理(継続、中止等)の必要性和それに伴うリスクの基本を説明できる。  
周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。  
術後痛の管理を説明できる。  
術後回復室の役割を概説できる。  
集中治療室の役割を概説できる。  
主な医療機器の種類と原理を概説できる。



講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	全ての講義に出席すること。出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが講義中の演習や小テストその他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 試験における合格基準は60点とする。
予習・復習へのアドバイス	シラバスに記載する到達目標に沿って、自分がどのくらい理解しているかを確認し、わからない部分は当日のうちに復習をしてください
推奨参考書	

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/08(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	医の原則	医学教育センター	蓮沼 直子
2026/04/08(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	内科学総論	消化器内科	岡 志郎
2026/04/08(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	外科学総論	第一外科	呉 晟名
2026/04/08(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	CT、MRI、超音波	放射線診断科	中村 優子
2026/04/09(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	老年医学総論	リハビリテーション	三上 幸夫
2026/04/09(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	ルーチンの臨床検査 1	検査部	茂久田 翔
2026/04/09(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	単純X線写真、核医学	放射線診断科	福本航
2026/04/09(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	胸痛、動悸、浮腫	循環器内科	宇都宮 裕人
2026/04/10(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	輸血医学	輸血部	山崎 尚也
2026/04/10(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	周術期管理学総論	麻酔科	佐伯 昇
2026/04/10(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	ルーチンの臨床検査 2	検査部	茂久田 翔
2026/04/13(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	呼吸困難、チアノーゼ、喘鳴	呼吸器内科	堀益 靖
2026/04/13(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	老年医学各論	客員教授等	細見 直永
2026/04/13(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	腹部関連の症候	消化器内科	壺井 章克
2026/04/13(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	発熱、倦怠感、リンパ節腫脹	血液内科	進藤 岳郎
2026/4/14(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	意識障害、めまい、嚥下障害	脳神経内科	都甲 めぐみ
2026/04/20(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (臨床医学総論)	試験	医学教育センター	蓮沼 直子

講義ユニット名	内分泌	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	いわもと ひろし 岩本 博志	所属	分子内科学（第二内科）呼吸器内科
講義ユニット コーディネーター	ながの がく 長野 学	所属	内分泌・糖尿病内科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>内分泌代謝疾患とは「ホルモンの異常によってもたらされる病気」である。ホルモンは脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺などで合成・分泌され、全身の諸臓器に作用する。異常をきたすホルモンの違い、過剰症・低下症により、全く異なる症状を呈する。全身に症状や徴候が出現し、あらゆる疾患の症状、徴候、検査所見を理解し、診療にあたる必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、多岐にわたる内分泌代謝疾患についての理解を深め、臨床医にとって基本的な知識を習得することが目標である。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>ホルモンを構造から分類し作用機序と分泌調節機能を説明できる。</p> <p>各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。</p> <p>視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。</p> <p>甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる。</p> <p>男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。</p> <p>三大栄養素、ビタミン、微量元素の消化吸収と栄養素の生物学的利用効率 (bioavailability) を説明できる。</p> <p>糖質・タンパク質・脂質の代謝経路と相互作用を説明できる。</p> <p>体重減少・体重増加の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>体重減少・体重増加をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>体重減少・体重増加がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>低身長をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。</p> <p>ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。</p> <p>血中ホルモン濃度に影響を与える因子を列挙できる。</p> <p>ホルモンの日内変動の例を挙げて説明できる。</p> <p>ホルモン分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応の型を説明できる。</p> <p>エネルギー摂取の過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。</p> <p>乳房の構造と機能を説明できる。</p> <p>乳房腫瘍、異常乳汁分泌（血性乳頭分泌）と乳房の腫脹・疼痛・変形をきたす主な病因を列挙できる。</p> <p>乳房腫瘍の画像診断（乳房撮影、超音波検査、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;）を概説できる。</p> <p>乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。</p> <p>良性乳腺疾患の種類を列挙できる。</p> <p>女性化乳房を概説できる。</p> <p>乳房：原発性乳癌について概説できる。</p> <p>乳癌の危険因子、症候、病理所見、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>Cushing病の病態と診断を説明できる。</p> <p>先端巨大症を概説できる。</p> <p>汎下垂体機能低下症を概説できる。</p> <p>尿崩症を概説できる。</p> <p>褐色細胞腫の病態、症候、画像所見、病理所見、診断、治療法を説明できる。</p> <p>高プロラクチン血症を概説できる。</p>		

<p>講義ユニットの 到達目標</p>	<p>抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone &lt;SIADH&gt;) を概説できる。          周期性四肢麻痺を概説できる。          Basedow病の病態、症候、診断と治療を説明できる。          甲状腺炎（慢性・亜急性）を概説できる。          甲状腺機能低下症の症候、診断と治療を説明できる。          カルシウム代謝の異常を疾患と関連付けて説明できる。          副甲状腺機能亢進症と副甲状腺機能低下症の病因、病態、症候と診断を説明できる。          悪性腫瘍に伴う高Ca血症を概説できる。          偽性副甲状腺機能低下症を概説できる。          Cushing症候群の病態、症候と診断を説明できる。          アルドステロン過剰症、原発性アルドステロン症を概説できる。          副腎不全（急性・慢性（Addison病））の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。          メタボリックシンドロームの病態について理解している。          糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。          糖尿病の急性合併症を説明できる。          糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。          糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物治療）を概説できる。          低血糖症を概説できる。          脂質異常症（高脂血症）の分類、病因と病態を説明できる。          脂質異常症（高脂血症）の予防と治療を説明できる。          高尿酸血症・痛風の病因と病態を説明できる。          ビタミン・微量元素の欠乏症と過剰症を概説できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとり、下記の本試験・再試験受験資格の絶対条件とする。なお、出席回数に関する問い合わせには一切応じないので、各人で管理すること。          講義担当者によっては授業途中で小テストを実施し出席を確認することがある。          全講義日程（本試験日を除く）のうち3分の2以上の出席がない場合は本試験及び再試験の受験資格を与えない。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。          本試験における合格基準は60点とする。          試験開始後15分以上の遅刻は受験を認めない。</p>
<p>予習・復習への アドバイス</p>	<p>講義資料で予習し、聴講内容について復習すること。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】          なし          【その他、学習に有用な参考書等】          内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医研修ガイドブック 診断と治療社</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/23(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	内分泌総論1 講義	客員教授等	山根 公則
2026/04/23(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	内分泌総論2 講義	客員教授等	山根 公則
2026/04/24(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	甲状腺 講義	客員教授等	山根 公則
2026/05/01(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	下垂体 講義	内分泌・糖尿病内科	馬場 隆太
2026/05/12(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	脂質 講義	内分泌・糖尿病内科	江草 玄太郎
2026/05/18(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	糖尿病総論 講義	内分泌・糖尿病内科	大野 晴也
2026/05/19(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	糖尿病治療1 講義	内分泌・糖尿病内科	大野 晴也
2026/05/20(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	副腎1 講義	内分泌・糖尿病内科	馬場 隆太
2026/05/21(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	多発性内分泌腫瘍など 講義	内分泌・糖尿病内科	児玉 堯也
2026/05/22(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	副腎2 講義	内分泌・糖尿病内科	馬場 隆太
2026/06/05(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	乳腺1 講義	乳腺外科	重松 英朗
2026/06/09(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	乳腺2 講義	乳腺外科	重松 英朗
2026/06/16(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	糖尿病治療2 講義	内分泌・糖尿病内科	大野 晴也
2026/06/17(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	副甲状腺 講義	内分泌・糖尿病内科	児玉 堯也
2026/06/23(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	糖尿病合併症1 講義	内分泌・糖尿病内科	長野 学
2026/07/01(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	糖尿病合併症2 講義	内分泌・糖尿病内科	長野 学
2026/07/02(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	高尿酸血症・ビタミン 講義	内分泌・糖尿病内科	江草 玄太郎
2026/07/13(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (内分泌)	試験	内分泌・糖尿病内科	長野 学

講義ユニット名	呼吸器	所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	いわもと ひろし 岩本 博志	所属	分子内科学（第二内科）呼吸器内科
講義ユニット コーディネーター	ほります やすし 堀益 靖	所属	分子内科学（第二内科）呼吸器内科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>肺は個体の生命維持に必須の臓器である。救急蘇生も呼吸と循環の維持、再開にまずは全力が注がれる。本ユニットでは呼吸器（声帯よりも末梢）の解剖、生理の復習から始まってそこに起こる疾患をほぼ網羅し、それらの概念、疫学、症状、検査、診断、治療を概説する。約半数の項目は内科医のみならず臨床医として生涯にわたって利用される重要事項である。単なる知識の羅列でなく、患者に病気のおおよそを説明できる程度の理解を求める。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>肺気量分画、換気、死腔（換気力学（胸腔内圧、肺コンプライアンス、抵抗、クローージングボリューム(closing volume)））を説明できる。  肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。  肺の換気と血流（換気血流比）が動脈血ガスにおよぼす影響（肺胞気-動脈血酸素分圧較差(alveolar-arterial oxygen difference &lt;A-aDO<sub>2</sub>&gt;))を説明できる。  呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。  血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。  気道と肺の防御機構（免疫学的・非免疫学的）と代謝機能を説明できる。  気道狭窄をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。  喘鳴の発生機序と原因疾患を説明できる。  咳・痰の原因と病態生理を説明できる。  咳・痰をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  咳・痰がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  血痰・喀血の原因と病態生理を説明できる。  血痰・喀血をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  血痰・喀血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  胸水の原因と病態生理を説明できる。  胸水をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  胸水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  胸水検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。  単純エックス線撮影、コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;、及び核医学検査（ポジトロン断層法(positron emission tomography &lt;PET&gt;)検査を含む）等の画像検査の意義を説明できる。  気管支内視鏡検査の意義を説明できる。  喀痰検査（喀痰細胞診、喀痰培養）の意義を説明できる。  呼吸不全の定義、分類、病態生理と主な病因を説明できる。  低酸素血症と高二酸化炭素血症の病因、分類と診断を説明し、治療を概説できる。  急性上気道感染症（かぜ症候群）と扁桃炎の病因、診断と治療を説明できる。  気管支炎・細気管支炎・肺炎（定型肺炎、非定型肺炎）の主な病原体を列挙し、症候、診断と治療を説明できる。  肺結核症と肺真菌症の症候、診断、治療と届出手続を説明できる。  非結核性（非定型）抗酸菌症を概説できる。  誤嚥性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。  クループ症候群と急性喉頭蓋炎の病因、診断と治療を説明できる。  肺化膿症と膿胸を概説できる。  慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病因を列挙できる。  慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病因、診断、治療、呼吸器リハビリテーションを説明できる。  気管支喘息（小児喘息を含む）の病態生理、診断と治療を説明できる。  間質性肺炎の原因、病態および診断と治療を説明できる。  びまん性汎細気管支炎の病態および診断と治療を概説できる。  放射線肺炎を概説できる。  じん肺症（珪肺(silicosis)、石綿肺(asbestosis))を概説できる。</p>		

<p>講義ユニットの 到達目標</p>	<p>急性呼吸促(窮)迫症候群(acute respiratory distress syndrome &lt;ARDS&gt;)の病因、症候と治療を説明できる。  過敏性肺炎の病因、症候と診断を説明できる。  サルコイドーシスの症候、診断と治療を説明できる。  好酸球性肺炎を概説できる。  薬剤性肺炎を概説できる。  過換気症候群を概説できる。  睡眠時無呼吸症候群を概説できる。  肺泡低換気症候群を概説できる。  気管支拡張症の症候、診断と治療を説明できる。  無気肺の病因と診断を説明できる。  肺リンパ脈管筋腫症を概説できる。  肺泡タンパク症を概説できる。  胸膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。  気胸(自然気胸、緊張性気胸、外傷性気胸)の病因、症候、診断と治療を説明できる。  縦隔気腫の病因、症候と診断を説明できる。  胸膜生検の適応を説明できる。  肺癌の組織型、病期分類、病理所見、診断、治療を説明できる。  転移性肺腫瘍の診断と治療を説明できる。  縦隔腫瘍の種類を列挙し、診断と治療を説明できる。  胸膜中皮腫の病因、診断、治療を概説できる。  カンジダ症、クリプトコックス症、アスペルギルス症の症候と診断と治療を説明できる。  ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席の確認は原則として出席状況把握システムによるが、授業中に小テストや演習を実施した場合、その提出がなければ(把握システム上出席になっいても)欠席とみなす。3分の2以上の出席がない場合は本試験及び再試験の受験資格を与えない。なお自らの出席状況は各自で管理・把握すること。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。本試験における合格基準は60点以上とする。</p>
<p>予習・復習への アドバイス</p>	<p>「病気がみえる」等の学習参考書を土台として、特に理解が難しい箇所等の重点的な学習には「朝倉内科学」等の教科書、もしくは講義資料に記載の引用文献等を参照することを推奨します。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>「朝倉内科学」  「日本呼吸器学会」および「日本肺癌学会」ホームページに掲載の各種ガイドライン・手引き</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/16(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸不全、低酸素、高炭酸ガス	分子内科（旧第二内科）	坂本 信二郎
2026/04/16(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸器の構造と機能	分子内科（旧第二内科）	堀益 靖
2026/04/20(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸器疾患画像講義1	分子内科（旧第二内科）	山口 覚博
2026/04/23(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	縦隔腫瘍	腫瘍外科	見前 隆洋
2026/04/28(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	胸膜疾患、胸水、気胸	分子内科（旧第二内科）	坂本 信二郎
2026/04/30(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸機能検査	分子内科（旧第二内科）	中島 拓
2026/05/07(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	肺がん外科治療	腫瘍外科	岡田 守人
2026/05/07(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	アレルギーの機序と代表疾患	分子内科（旧第二内科）	岩本 博志
2026/05/11(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	びまん性肺疾患1（特異性間質性肺炎の定義、分類、診断、治療）	分子内科（旧第二内科）	堀益 靖
2026/05/12(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	気管支喘息1	分子内科（旧第二内科）	岩本 博志
2026/05/13(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	咳、痰、喀血、市中肺炎	分子内科（旧第二内科）	下地 清史
2026/05/13(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	気管支喘息2	分子内科（旧第二内科）	岩本 博志
2026/05/14(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸器疾患画像講義2	分子内科（旧第二内科）	益田 武
2026/05/14(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸器真菌感染症、気管支拡張症	分子内科（旧第二内科）	中島 拓
2026/05/19(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	呼吸器疾患診断に関する検査	分子内科（旧第二内科）	山口 覚博
2026/05/21(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	肺結核、非結核性抗酸菌症	分子内科（旧第二内科）	下地 清史
2026/05/25(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	びまん性肺疾患3（薬剤性肺炎、放射線肺炎、じん肺など）	分子内科（旧第二内科）	山口 覚博
2026/05/25(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	胸膜腫瘍、転移性肺腫瘍	腫瘍外科	見前 隆洋
2026/05/26(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	COPD	分子内科（旧第二内科）	岩本 博志
2026/05/26(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	原発性肺癌1	分子内科（旧第二内科）	益田 武
2026/05/28(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	その他のびまん性肺疾患（LAM、肺胞蛋白症、ARDSなど）	分子内科（旧第二内科）	中島 拓
2026/06/01(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	びまん性肺疾患2（サルコイドーシス、過敏性肺炎、好酸球性肺炎）	分子内科（旧第二内科）	堀益 靖
2026/06/02(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	原発性肺癌2	分子内科（旧第二内科）	益田 武
2026/06/03(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	睡眠時無呼吸、過換気症候群	分子内科（旧第二内科）	坂本 信二郎
2026/06/03(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	分子内科（旧第二内科）	下地 清史
2026/06/15(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ （呼吸器）	試験		

講義ユニット名	循環器	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	なかの ゆきこ 中野 由紀子	所属	循環器内科
講義ユニット コーディネーター	おかむら しょう 岡村 祥央	所属	循環器内科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>1、心・血管系の解剖、生理、生化学などの知識に基づき病態や疾患概念を把握する。</p> <p>2、病歴聴取、身体診察、心電図・レントゲンなどの基本的検査法を理解し、疾患の診断方法について学ぶ。</p> <p>3、疾患に対する標準的な治療法について学ぶ。</p> <p>4、現代社会においての心・血管病の制圧の重要性、予防医学の重要性についても学ぶ。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>心臓の構造と分布する血管・神経、冠動脈の特長とその分布域を説明できる。</p> <p>体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる。</p> <p>大動脈と主な分枝（頭頸部、上肢、胸部、腹部、下肢）を図示し、分布域を概説できる。</p> <p>主な静脈を図示し、門脈系と上・下大静脈系を説明できる。</p> <p>心周期にともなう血行動態を説明できる。</p> <p>心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。</p> <p>主な臓器（脳、心臓、肺、腎臓）の循環調節を概説できる。</p> <p>血圧調節の機序を説明できる。</p> <p>体位や運動に伴う循環反応とその機序を説明できる。</p> <p>肺循環と体循環の違いを説明できる。</p> <p>胸水の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>胸水をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>胸水がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>胸部単純エックス線撮影写真、心電図の主な所見を説明できる。</p> <p>心臓超音波検査の主な所見を説明できる</p> <p>運動負荷心電図、ホルター心電図を説明できる。</p> <p>心臓シンチグラフィを説明できる。</p> <p>冠動脈造影、冠動脈コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;及び心臓磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;の主な所見を説明できる。</p> <p>心カテーテル検査（心内圧、心機能、シャント率の測定）と結果の解釈を説明できる。</p> <p>心不全の定義と原因、病態生理（収縮不全、拡張不全）を説明できる。</p> <p>左心不全と右心不全の徴候、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>急性心不全と慢性心不全の診断と薬物療法、非薬物療法（心臓リハビリテーションを含む）を説明できる。</p> <p>心不全診療における多職種連携（チーム医療）による疾病管理プログラムを概説できる。</p> <p>高齢者における心不全の特徴を説明できる。</p> <p>安定労作性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>冠攣縮性狭心症の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>急性冠症候群（不安定狭心症、非ST上昇型心筋梗塞及びST上昇型心筋梗塞）の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>虚血性心疾患の発症予防、再発予防を説明できる。</p> <p>陳旧性心筋梗塞の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>虚血性心疾患の薬物治療、非薬物療法（血行再建術（経皮的冠動脈形成術、ステント留置術、冠動脈バイパス術））、心臓リハビリテーションを説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>主な徐脈性不整脈（洞不全症候群（sick sinus症候群）、房室ブロック）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。</p> <p>主な上室性頻脈性不整脈（洞性頻脈、上室性期外収縮、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。</p> <p>主な心室性頻脈性不整脈（心室性期外収縮、心室頻拍、多源性心室頻拍（トルサード・ド・ポワント(torsades de pointes)、心室細動）の原因、症候、心電図の特徴、治療を説明できる。</p> <p>不整脈の原因となる疾患や病態（電解質異常、QT延長症候群、薬剤、甲状腺機能亢進症、Wolff-Parkinson-White &lt;WPW&gt;症候群、Brugada症候群等）を説明できる。</p> <p>不整脈の薬物療法、非薬物療法（カテーテルアブレーション、電氣的除細動、ペースメーカー植え込み、植え込み型除細動器）を概説できる。</p> <p>致死性不整脈の診断、初期対応、治療を説明できる。</p> <p>主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の病因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を説明できる。</p> <p>心肥大の病態生理、リモデリング機序を説明できる。</p> <p>特発性心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症）と二次性心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。</p> <p>急性心筋炎の病態、症候、診断、治療症候を説明できる。</p> <p>感染性心内膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>急性心膜炎、収縮性心膜炎の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>心タンポナーデの病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>主な心臓腫瘍（粘液腫など）の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>主な先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存、Fallot四徴症）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>動脈硬化の危険因子、病態、非侵襲的検査法を説明できる。</p> <p>急性大動脈解離の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>大動脈瘤（破裂）の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>閉塞性動脈硬化症とBuerger病の病態、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>高安動脈炎（大動脈炎症候群）を概説できる。</p> <p>深部静脈血栓症(deep vein thrombosis &lt;DVT&gt;)、血栓性静脈炎の病因、症候、合併症、治療を説明できる。</p> <p>上大静脈症候群の病因と症候を説明できる。</p> <p>下肢静脈瘤を説明できる。</p> <p>リンパ浮腫の病因を列挙できる。</p> <p>血圧異常（高血圧、低血圧）を説明できる。</p> <p>本態性高血圧症の疫学、診断、合併症、予後、治療を説明できる。</p> <p>二次性高血圧症の病因（内分泌性、腎血管性、薬剤性）、症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>各種降圧薬の作用機序、適応、禁忌、副作用を説明できる。</p> <p>高血圧緊急症の病態と対応を説明できる。</p> <p>他疾患（脳血管疾患、心疾患、腎疾患、糖尿病）を合併する場合の血圧管理を説明できる。</p> <p>高齢者の高血圧の特徴と治療の注意点を説明できる。</p> <p>低血圧の原因疾患、病態生理、症候、診断、予後、治療を説明できる。</p> <p>起立性低血圧、神経調節性失神の診断、予後、治療を説明できる。</p> <p>粘液腫の定義と病態、症候、検査所見、画像所見、病理所見、診断、治療法を説明できる。</p> <p>肺性心の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺血栓塞栓症の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺高血圧症を概説できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>

出席の取り扱い	対面の場合、出席状況把握システムにて出席をとる。オンラインの場合、講義内でアンケートや小テストによりカウントする。3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、内容の理解に努めること。
推奨参考書	

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/15(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	血圧異常	再生医療開発研究分野	岸本 真治
2026/04/17(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	狭心症	循環器内科	池永 寛樹
2026/04/22(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	末梢動脈疾患	再生医療開発研究分野	東 幸仁
2026/04/24(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	動脈硬化、冠危険因子	再生医療開発研究分野	丸橋 達也
2026/04/28(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	生体検査(心エコー、運動負荷心電図)	循環器内科	宇都宮 裕人
2026/04/30(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	心不全の病態生理と診断	循環器内科	北川 知郎
2026/05/07(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 心臓血管外科総論	第一外科	高橋 信也
2026/05/11(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	弁膜症	循環器内科	植田 裕介
2026/05/14(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	心筋症	循環器内科	北川 知郎
2026/05/15(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	肺循環疾患	循環器内科	宇都宮 裕人
2026/05/15(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	急性冠症候群	循環器内科	池永 寛樹
2026/05/15(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	生活習慣病の遺伝的背景とその臨床応用(Web)	客員教授	尾崎 浩一
2026/05/18(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	不整脈の最新の知見、治療	客員教授	青沼 和隆
2026/05/19(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 大動脈疾患	第一外科	平岡 俊文
2026/05/20(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	心電図演習	循環器内科	徳山 丈仁
2026/05/22(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	成人先天性心疾患(内科)	循環器内科	高張 康介
2026/05/25(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	心不全の治療	循環器内科	大久保 陽策
2026/05/27(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	慢性心不全の病態と治療	客員教授	木原 康樹
2026/05/28(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 虚血性心疾患、弁膜症	第一外科	倉岡 正嗣
2026/05/29(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	心電図	循環器内科	岡村 祥央
2026/06/05(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	不整脈	循環器内科	中野 由紀子
2026/06/08(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	感染性心内膜炎、心膜疾患、心タンポナーデ	循環器内科	佐田 良治
2026/06/09(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 先天性心疾患	第一外科	高崎 泰一
2026/06/10(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 末梢動脈、静脈、リンパ管	第一外科	小林 平
2026/06/10(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	(外科) 不整脈外科	第一外科	今井 克彦
2026/06/10(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	遺伝性不整脈の最新の話題～先天性QT延長症候群・Brugada症候群・早期再分極症候群～	客員教授	清水 渉
2026/06/22(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (循環器)	試験		

講義ユニット名	消化器	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	おか しろう 岡 志郎	所属	消化器内科
講義ユニット コーディネーター	おおの あつし 大野 敦司	所属	消化器内科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>消化器病学は、消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）、肝臓、胆嚢、膵臓などの解剖、機能、疾病に関して学ぶ学問である。腫瘍性疾患（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌など）、炎症性疾患（ウイルス性肝炎、炎症性腸疾患、膵炎など）、感染性疾患、代謝性疾患等、当分野の扱う疾患は非常に多岐にわたる。日常診療においても、消化器疾患に遭遇する機会は多く、これらについて基本的な知識を獲得し、内科的・外科的治療法につき、習熟しておくことは極めて重要である。本ユニットの講義では、消化器疾患への理解を深め、基本的知識を習得し、将来の臨床に役立てることを目標とする。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>各消化器官の位置、形態と関係する血管を図示できる。  腹膜と臓器の関係を説明できる。  食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。  消化管運動の仕組みを説明できる。  消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。  肝の構造と機能を説明できる。  胃液の作用と分泌機序を説明できる。  胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。  膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。  小腸における消化・吸収の仕組みを説明できる。  大腸における糞便形成と排便の仕組みを説明できる。  主な消化管ホルモンの作用を説明できる。  消化管の正常細菌叢（腸内細菌叢）の役割を説明できる。  食思(欲)不振の原因と病態生理を説明できる。  食思(欲)不振をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  食思(欲)不振がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  腹痛の原因と病態生理を説明できる。  腹痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  腹痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  悪心・嘔吐の原因と病態生理を説明できる。  悪心・嘔吐をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  悪心・嘔吐がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  吐血・下血の原因と病態生理を説明できる。  吐血・下血をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  吐血・下血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  便秘・下痢の原因と病態生理を説明できる。  便秘・下痢をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  便秘・下痢がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  黄疸の原因と病態生理を説明することができる。  黄疸をきたす疾患を列挙し、診断のポイントを説明することができる。  黄疸の治療について、病態別に説明することができる。  腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤の原因と病態を説明できる。  腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤をきたす疾患を列挙し、診断のポイントを説明することができる。  腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤がある患者の治療について、病態別に説明することができる。  肝腫大をきたす疾患を列挙し、その病態を説明することができる。  肝腫大のある患者における医療面接、診察と診断の要点を説明できる。  代表的な肝炎ウイルスの検査項目を列挙し、その意義を説明することができる。</p>		

講義ユニットの  
到達目標

消化器関連の代表的な腫瘍マーカー ( $\alpha$ -fetoprotein <AFP>、carcinoembryonic antigen <CEA>、carbohydrate antigen <CA> 19-9、protein induced by vitamin K absence or antagonists <PIVKA>-II) の意義を説明することができる。

消化器系疾患の画像検査を列挙し、その適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

生検と細胞診の意義と適応を説明できる。

腹水検査の目的と適応を説明し、結果を解釈することができる。

内視鏡機器の種類と原理を説明できる。

内視鏡検査法の種類を列挙し、概説できる。

消化器内視鏡検査から得られる情報を説明できる。

内視鏡を用いる治療を概説できる。

超音波機器の種類と原理を説明できる。

超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。

主な疾患、病態のエコー像を概説できる。

超音波を用いる治療を概説できる。

超音波の生体作用と安全性を説明できる。

超音波造影法を説明できる。

食中毒の病因、症候と予防法を説明できる。

食道・胃静脈瘤の病態、内視鏡分類と治療を説明することができる。

胃食道逆流症 (gastroesophageal reflux disease <GERD>) と逆流性食道炎の病態生理、症候と診断を説明できる。

Mallory-Weiss症候群を概説できる。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍) の病因、症候、進行度分類、診断と治療を説明できる。

*Helicobacter pylori* 感染症の診断と治療を説明できる。

胃ポリープの病理と肉眼分類を説明できる。

急性胃粘膜病変の概念、診断と治療を説明できる。

急性胃腸炎、慢性胃炎を概説できる。

胃切除後症候群の病態生理を説明できる。

機能的消化管障害 (機能的ディスぺプシア (functional dyspepsia <FD>)) を説明できる。

肥厚性幽門狭窄症を概説できる。

急性虫垂炎の症候、診断と治療を説明できる。

腸閉塞とイレウスの病因、症候、診断と治療を説明できる。

炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎・Crohn病) の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

痔核と痔瘻の病態生理、症候と診断を説明できる。

機能的消化管障害 (過敏性腸症候群) を概説できる。

腸管憩室症 (大腸憩室炎と大腸憩室出血) を概説できる。

薬物性腸炎を概説できる。

消化管ポリポーシスを概説できる。

大腸の主な先天性疾患 (鎖肛、Hirschsprung病) を概説できる。

腸重積症を概説できる。

便秘症、乳児下痢症を説明できる。

感染性腸炎を概説できる。

虚血性大腸炎を概説できる。

急性出血性直腸潰瘍を概説できる。

上腸間膜動脈閉塞症を概説できる。

消化管神経内分泌腫瘍 (neuroendocrine tumor <NET>) を概説できる。

消化管間質腫瘍 (gastrointestinal stromal tumor <GIST>) を概説できる。

胆石症の病因、症候、診断と治療を説明できる。

胆嚢炎と胆管炎の病因、病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。

胆嚢ポリープを概説できる。


先天性胆道拡張症と膵・胆管合流異常症を概説できる。

A型・B型・C型・D型・E型肝炎の疫学、症候、診断、治療と予後を説明することができる。

アルコール性肝障害を概説できる。

脂肪性肝疾患を概説できる。

自己免疫性肝炎を概説できる。

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>原発性胆汁性胆管炎と原発性硬化性胆管炎の症候、診断、治療と予後を説明することができる。</p> <p>薬物性肝障害を概説できる。</p> <p>急性肝炎、慢性肝炎の定義を説明できる。</p> <p>急性肝不全の概念、診断を説明できる。</p> <p>肝硬変の病因、病理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>肝硬変の合併症（門脈圧亢進症、肝性脳症、肝癌）を概説できる。</p> <p>肝膿瘍の症候、診断と治療を説明することができる。</p> <p>急性膵炎（アルコール性、胆石性、特発性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性膵炎（アルコール性、特発性）の病態生理、症候、診断、合併症と治療を説明できる。</p> <p>自己免疫性膵炎を概説できる。</p> <p>腹膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ヘルニアの概念、病態（滑脱、嵌頓、絞扼）と好発部位を説明できる。</p> <p>鼠径部ヘルニアの病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>消化器系腫瘍の診断・治療を概説できる。：食道癌、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、胆嚢・胆管癌、原発性肝癌、膵内分泌腫瘍、嚢胞性膵腫瘍、膵癌</p> <p>食道癌の病理所見、肉眼分類と進行度分類を説明できる。</p> <p>食道癌の症候、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>胃癌の疫学、病理所見、症候、肉眼分類と進行度分類を説明できる。</p> <p>胃癌の診断法を列挙し、所見とその意義を説明できる。</p> <p>胃癌の進行度に応じた治療を概説できる。</p> <p>大腸癌の病理所見、診断、肉眼分類と進行度分類を説明できる。</p> <p>大腸癌の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>胆嚢・胆管癌・乳頭部癌の病理所見、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>原発性肝癌、転移性肝癌の病因、病理所見、症候、診断と治療を説明することができる。</p> <p>膵癌の病理所見、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>嚢胞性膵腫瘍の分類と病理所見を説明できる。</p> <p>腹膜中皮腫、消化管間質腫瘍&lt;GIST&gt;、消化管カルチノイドを概説できる。</p> <p>ヘモクロマトーシスを概説できる。</p> <p>Wilson病を概説できる。</p> <p>主な原虫感染症（アメーバ赤痢）を説明できる。</p> <p>主な寄生虫感染症（回虫症、アニサキス症、吸虫症）を説明できる。</p> <p> <a href="https://core-curriculum.jp/x/UG930QhcTvaBaW0v5c0Q_A">https://core-curriculum.jp/x/UG930QhcTvaBaW0v5c0Q_A</a></p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席の確認方法は別途通知する。</p> <p>消化管・肝胆膵各々3分の2以上の出席がない場合は、試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。</p> <p>要件に抵触した学生についてはユニットの教務担当教員が当該学生と面談を行い、チューターとも相談した上で受験資格について判断することとする。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。</p> <p>本試験における合格点は60点とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努める事。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】 「カラー版 消化器病学 基礎と臨床」西村書店 各講義ごとに必要に応じてプリントを配布する</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/14(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	膵臓疾患総論・炎症性疾患	消化器内科	石井 康隆
2026/04/15(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝疾患総論	消化器内科	大野 敦司
2026/04/16(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝硬変・門脈圧亢進症・食道胃静脈瘤	消化器内科	村上 英介
2026/04/17(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	急性肝不全, 薬物性肝障害	消化器内科	三木 大樹
2026/04/21(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	C型肝炎, その他のウイルス肝炎	消化器内科	藤野 初江
2026/04/22(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝がんの診断(含転移性肝癌)	消化器内科	河岡 友和
2026/04/24(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	膵臓の腫瘍性疾患	消化器内科	池本 珠莉
2026/04/27(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	膵臓の早期診断最前線	客員教授等	花田 敬士
2026/04/27(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	胆道の良性疾患	消化器内科	池本 珠莉
2026/04/28(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	B型肝炎	消化器内科	柘植 雅貴
2026/04/28(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	胆道の腫瘍性疾患	消化器内科	石井 康隆
2026/04/30(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	その他の肝疾患(ヘモクロマトーシス, Wilson病, 肝寄生虫など)	消化器内科	大野 敦司
2026/04/30(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝がんの内科的治療	消化器内科	河岡 友和
2026/05/08(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝がんの外科的治療	消化器・移植外科学	小林 剛
2026/05/11(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	肝移植/門脈・脾疾患の外科治療	消化器・移植外科学	大段 秀樹
2026/05/12(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	自己免疫性肝疾患(AIH, PBC)	消化器内科	藤野 初江
2026/05/19(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	胆膵疾患の外科治療	外科学	上村 健一郎
2026/05/21(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	MASLD, アルコール性肝疾患	消化器内科	村上 英介
2026/05/25(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	試験(肝胆膵)	消化器内科	村上 英介・池本 珠莉
2026/05/27(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	消化管疾患総論、画像診断	消化器内科	瀧川 英彦
2026/05/27(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	上部消化管炎症性疾患	消化器内科	檜山 雄一
2026/05/28(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	下部消化管腫瘍性疾患(1)	消化器内科	田中 秀典
2026/05/28(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	下部消化管腫瘍性疾患(2)	消化器内科	岸田 圭弘
2026/05/29(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	食道疾患	消化器内科	卜部 祐司
2026/06/03(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	上部消化管腫瘍性疾患(胃・十二指腸)	消化器内科	桑井 寿雄
2026/06/08(月)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	胃疾患外科治療	消化器外科	佐伯 吉弘
2026/06/10(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	下部消化管炎症性疾患(1)	消化器内科	高砂 健
2026/06/11(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	機能性胃腸疾患	消化器内科	日山 亨
2026/06/16(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	消化管内視鏡検査・治療	消化器内科	岡 志郎
2026/06/17(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	食道疾患外科治療	消化器外科	浜井 洋一
2026/06/19(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	下部消化管炎症性疾患(2)	消化器内科	山下 賢
2026/06/23(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	炎症性腸疾患の外科治療	消化器外科	上神 慎之介
2026/06/24(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	下部消化管腫瘍性疾患外科治療	消化器外科	下村 学
2026/06/26(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	小腸疾患	消化器内科	壺井 章克
2026/07/06(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (消化器)	試験(消化管)	消化器内科	上垣内 由季

講義ユニット名	腎臓	所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	まさき たかお 正木 崇生	所属	腎臓内科
講義ユニット コーディネーター	まえおか ゆうじろう 前岡 侑二郎	所属	腎臓内科
授業方法	講義と演習を行う。		
概要	<p>腎臓は尿を作り出すことで体内を一定の環境に維持するのみならず、血圧や貧血のコントロールも行っている。腎臓病は自覚症状を伴わないことも多いが、日本では2000万人が慢性腎臓病(CKD)患者と考えられ、末期腎不全のために34.3万人が透析療法を受けている。臨床医には腎臓病の早期発見、末期腎不全への進展防止、腎不全患者への対応が求められる。</p> <p>本ユニットでは腎疾患の理解を深め、臨床医として必要な基本的知識を獲得することを目標とする。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>尿量・排尿の異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>血尿・タンパク尿の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>血尿・タンパク尿をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>血尿・タンパク尿がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>高・低Na血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低K血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低Ca血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低P血症、高・低Cl血症、高・低Mg血症を概説できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス(代謝性・呼吸性)の定義、病態生理と診断を説明できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス(代謝性・呼吸性)の治療を概説できる。</p> <p>腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。</p> <p>糸球体濾過量(実測、推算)を含む腎機能検査法を概説できる。</p> <p>腎生検の適応と禁忌を説明できる。</p> <p>急性腎不全(急性腎障害)の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性腎不全(慢性腎臓病(chronic kidney disease &lt;CKD&gt;))の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性腎臓病&lt;CKD&gt;重症度分類を説明できる。</p> <p>慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル骨代謝異常を概説できる。</p> <p>透析導入基準(慢性腎不全)を説明できる。</p> <p>腎不全の治療(血液透析・腹膜透析・腎移植)を説明できる。</p> <p>急性糸球体腎炎症候群の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性糸球体腎炎症候群(IgA腎症を含む)の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>急速進行性糸球体腎炎を概説できる。</p> <p>臨床症候分類(急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群、反復性または持続性血尿症候群)を概説できる。</p> <p>高血圧による腎障害(腎硬化症)を概説できる。</p> <p>腎血管性高血圧症を概説できる。</p> <p>尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。</p> <p>Fanconi症候群(腎性糖尿を含む)の概念、症候と診断を説明できる。</p> <p>急性・慢性尿細管間質性腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>糖尿病腎症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ルーブス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>アミロイド腎症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>膠原病類縁疾患(血管炎症候群、抗糸球体基底膜(glomerular basement membrane &lt;GBM&gt;)病(Goodpasture症候群))の腎病変を説明できる。</p> <p>IgA血管炎(紫斑病性腎炎)を概説できる。</p> <p>腎尿路の主な先天異常(多発性嚢胞腎)を概説できる。</p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システム（学生証）にて毎講義出席をとる。オンライン受講となった場合は、アンケートの提出(Forms)にて出席確認を行う。3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。 本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で60点とするが、得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超えた場合には平均点 $-1.5 \times$ 標準偏差を合格基準とする。
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>「内科学」矢崎義雄（総編集）朝倉書店</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <p>「エビデンスに基づく CKD診療ガイドライン2023」日本腎臓学会（編集）東京医学社</p> <p>「初学者から専門医までの腎臓学入門」日本腎臓学会編集委員会（編集）東京医学社</p> <p>「腎生検病理アトラス 改訂版」日本腎病理協会/日本腎臓学会（編集）東京医学社</p> <p>「水・電解質と酸塩基平衡」黒川清（著）南江堂</p> <p>「腎臓のはなし」坂井建雄（著）中公新書</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/11(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	腎臓の構造と機能	腎臓内科	正木 崇生
2026/06/18(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	腎臓病の検査・診断の進め方	客員教授等	横山 敬生
2026/06/24(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	腎臓病の症候	腎臓内科	前岡 侑二郎
2026/06/26(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	一次性糸球体疾患・ネフローゼ症候群	腎臓内科	石内 直樹
2026/06/30(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	二次性糸球体疾患(1)	腎臓内科	森井 健一
2026/07/06(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	二次性糸球体疾患(2)	腎臓内科	佐々木 健介
2026/07/07(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	腎血管性疾患	腎臓内科	佐々木 健介
2026/07/10(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	その他の腎疾患	腎臓内科	土井 俊樹
2026/07/14(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	急性腎不全	腎臓内科	石内 直樹
2026/07/15(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	慢性腎不全	腎臓内科	正木 崇生
2026/07/27(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅰ (腎臓)	試験	腎臓内科	前岡 侑二郎

授業科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ (Clinical diagnosis and treatment Ⅱ)		
対象学年	3年生	単位	13単位
科目責任者	たけの さちお 竹野 幸夫	所属	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学
科目 コーディネーター	たけの さちお 竹野 幸夫	所属	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学
授業方法	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
授業の概要	<p>本科目は以下の9の講義ユニットで構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 整形外科</li> <li>2) 皮膚</li> <li>3) 耳鼻咽喉科</li> <li>4) 眼科</li> <li>5) 泌尿器</li> <li>6) 血液</li> <li>7) 免疫・アレルギー</li> <li>8) 輸血医学</li> <li>9) 放射線診断</li> </ol> <p>各器官・システムの構造と機能、主要疾患と病態について学習し、診断治療に必要な知識を習得する。</p>		
授業の目標	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	試験はユニットごとに行う。試験形式については各ユニットのシラバスを参照のこと。		
成績評価の基準	各ユニットの到達度について評価する。 合格することを4年次への進級要件とする。		
予習・復習への アドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		

講義ユニット名	整形外科		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	あだち のぶお 安達 伸生	所属	整形外科	
講義ユニット コーディネーター	なかまえ あつお 中前 敦雄	所属	整形外科	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>運動器とは、体を支え、動かす組織である骨・関節・筋肉・靭帯・神経などの総称です。運動器の疾患は、新生児、小児、学童から成人、高齢者まであらゆる年齢層に及び、上肢（肩、肘、手）、下肢（股、膝、足）、脊椎（脊柱）・脊髄・骨盤など体の各部位に関連しています。先天性の変形、成長期の障害、スポーツ傷害、交通外傷、加齢による変形性関節症、リウマチ、骨粗鬆症、骨・軟部腫瘍など幅広い領域の疾患があります。治療も薬物療法、理学療法などの保存療法から手術療法に至るまで、幅広い知識と手技が要求されます。本ユニットの講義では、運動器の構造から、運動器疾患の診断、治療に至るまでの実際を理解し、それぞれの疾患に対する基本的な知識を得ることをめざします。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>脊柱の構成と機能を説明できる。  四肢の骨格、主要筋群の運動と神経支配を説明できる。  骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。  姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。  抗重力筋を説明できる。  運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる。  運動麻痺・筋力低下をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  運動麻痺・筋力低下がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  腰背部痛の原因と病態生理を説明できる。  腰背部痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  関節痛・関節腫脹の原因と病態生理を説明できる。  関節痛・関節腫脹をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。  関節痛・関節腫脹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。  筋骨格系の病態に即した徒手検査（四肢・脊柱の可動域検査、神経学的検査等）を説明できる。  筋骨格系画像診断（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;、超音波検査、骨塩定量）の適応を概説できる。  四肢・脊椎外傷の診断と初期治療を説明できる。  関節の脱臼、靭帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。  骨折の分類、症候、診断、治療と合併症を説明できる。  コンパートメント症候群の病態、症候、診断と治療を説明できる。  骨粗鬆症の病因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる。  関節炎、腱鞘炎の病態、診断と治療を説明できる。  変形性関節症の症候、診断と治療を説明できる。  絞扼性末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群等）を列挙し、その症候を説明できる。  頸椎症性脊髄症（脊柱靭帯骨化症を含む）・頸椎症性神経根症の神経症候を説明できる。  脊髄損傷の診断、治療を説明できる。  腰椎椎間板ヘルニアの症候、診断と治療を説明できる。  腰部脊柱管狭窄症の病態、症候、診断と治療を説明できる。  腰椎分離・すべり症の症候、診断と治療を説明できる。  運動器慢性疼痛（腰背部痛、頸部痛、肩こり）の病態、診断と治療を説明できる。  運動器疾患のリハビリテーションを概説できる。  化膿性関節炎の症候、診断と治療を説明できる。</p>			

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>椎間板炎、化膿性脊椎炎、脊椎カリエスの症候、診断と治療を説明できる。          移行性脊椎腫瘍、骨肉腫について概説できる。          原発性骨腫瘍（骨肉腫、Ewing肉腫）の臨床所見、画像所見、病理所見、初期治療を説明できる。          転移性骨腫瘍の臨床所見、画像所見、検査所見を説明できる。          悪性軟部腫瘍（脂肪肉腫）の診断、病理所見、治療を概説できる。          スポーツ医学を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席（学生証）をとる。オンライン授業ではTeamsへのアクセス履歴で出席を確認する。          3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度          （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>試験はマークシート形式で行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。本試験における合格基準は60点とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>予習：予定された授業内容に対応する項目を推薦参考書等で調べておく（とくに代表的な疾患・傷害）。復習：講義で使用したスライドのプリントをもとに、講義で示した重要項目や分からなかった部分を推薦参考書等で調べる。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】          標準整形外科学 共著 第15版 医学書院          【その他、学習に有用な参考書等】          図解四肢と脊椎の診かた Hoppenfeld著 首藤 貴翻訳 医歯薬出版株式会社          整形外科医のための神経学図説 ― 脊髄・神経根障害のみかた、おぼえかた          -Hoppenfeld著 津山直一監訳 新装版 南江堂</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/15(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	外傷学	整形外科	大饗 和憲
2026/04/15(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	整形外科概論	整形外科	安達 伸生
2026/04/22(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	末梢神経	整形外科	兒玉 祥
2026/04/24(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	膝1	整形外科	中前 敦雄
2026/05/01(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	骨系統疾患	整形外科	作田 智彦
2026/05/07(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	診断学・検査法	整形外科	石橋 栄樹
2026/05/08(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	運動器のリハビリテーション	リハビリテーション科	三上 幸夫
2026/05/15(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	膝2	整形外科	猫本 明紀
2026/05/20(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	整形外科の病理	病理診断科	有廣 光司
2026/05/29(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	骨・関節感染症	整形外科	林 悠太
2026/06/05(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	再生医療	整形外科	中佐 智幸
2026/06/05(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	骨・軟部腫瘍	整形外科	古田 太輔
2026/06/08(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	股関節	整形外科	庄司 剛士
2026/06/12(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	小児整形外科	客員教授等	志村 司
2026/06/16(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	特別講義	客員教授等	石橋 恭之
2026/06/18(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	手・肘	整形外科	兒玉 祥
2026/06/18(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	足	整形外科	中佐 智幸
2026/06/23(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	特別講義	客員教授等	緒方 俊平
2026/06/24(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	脊椎1	整形外科	中前 稔生
2026/06/25(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	肩	整形外科	原田 洋平
2026/06/30(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	脊椎2	整形外科	中前 稔生
2026/07/03(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	膝3	整形外科	仲田 恭平
2026/07/03(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	骨粗鬆症	整形外科	植木 慎一
2026/07/07(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	特別講義	客員教授等	古川 俊治
2026/07/09(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	救急・保存療法・観血的治療	整形外科	生田 祥也
2026/07/21(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (整形外科)	試験	整形外科	

講義ユニット名	皮膚	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	たなか あきお 田中 暁生	所属	皮膚科
講義ユニット コーディネーター	もりわき まさや 森脇 昌哉	所属	皮膚科
授業方法	講義はパワーポイントを使用してスライドを呈示しながら進める。演習は症例問題のディスカッションなどを取り入れる。		
概要	皮膚は体内と外界との境をなし、生体防御の第一線として重要な役割を果たす人体最大の臓器である。皮膚を構成する様々な細胞は、全身の炎症あるいは免疫反応にも深く関わっている。また、健康で美しい皮膚を保つことは豊かな社会生活を送るためにも重要である。皮膚科学は、皮膚におけるすべての異常を対象とし、多岐にわたる知識と技能を求められる医学分野である。医師として最低限必要な皮膚科学的知識を身につけ、皮膚疾患に対する考え方、検査法や治療法に対する理解を深めることを目指す。		
講義ユニットの 到達目標	<p>皮膚の組織構造を図示して説明できる。</p> <p>皮膚の細胞動態と角化の機構を説明できる。</p> <p>皮膚の免疫防御能を説明できる。</p> <p>発疹の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>発疹をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>発疹がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>皮膚検査法(硝子圧法、皮膚描記法(Darier徴候)、Nikolsky現象、Tzanck試験、光線テスト、発汗試験)を概説できる。</p> <p>皮膚アレルギー検査法(プリックテスト、皮内テスト、パッチテスト)を説明できる。</p> <p>微生物検査法(検体採取法、苛性カリ&lt;KOH&gt;直接検鏡法)を概説できる。</p> <p>湿疹反応を説明できる。</p> <p>湿疹・皮膚炎の疾患(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、皮脂欠乏性湿疹、自家感作性皮膚炎)を列挙し、概説できる。</p> <p>蕁麻疹の病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>多形滲出性紅斑、環状紅斑と紅皮症の病因と病態を説明できる。</p> <p>皮膚そう痒症の病因と病態を説明できる。</p> <p>皮膚血流障害と血管炎の病因、症候と病態を説明できる。</p> <p>薬疹や薬物障害の発生機序、症候と治療を説明できる。</p> <p>薬疹を起こしやすい主な薬物を列挙できる。</p> <p>自己免疫性水疱症の病因、病態と分類を説明できる。</p> <p>膿疱症の種類と病態を説明できる。</p> <p>水疱症鑑別のための検査法を説明できる。</p> <p>尋常性乾癬、扁平苔癬とGibert薔薇色靴糠疹の病態、症候と治療を説明できる。</p> <p>魚鱗癬の病態、症候と治療を説明できる。</p> <p>皮膚細菌感染症(伝染性膿痂疹、癬、癰、毛囊炎、丹毒、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群)を列挙し、概説できる。</p> <p>皮膚真菌症(表在性、深在性)の症候と病型を説明できる。</p> <p>皮膚結核病の症候、病型と病因菌を説明できる。</p> <p>梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。</p> <p>皮膚ウイルス感染症(単純ヘルペス、帯状疱疹、伝染性軟属腫、麻疹、風疹、水痘)を列挙し、概説できる。</p> <p>後天性免疫不全症候群&lt;AIDS&gt;に伴う皮膚症状(梅毒、難治性ヘルペス、伝染性軟属腫、カボジ肉腫等)を列挙し、概説できる。</p> <p>母斑・母斑症の種類を列挙できる。</p> <p>皮膚良性腫瘍、前癌状態と悪性腫瘍の種類と見分け方を説明できる。</p> <p>皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫を説明できる。</p> <p>基底細胞癌の定義と病態、症候、皮疹とダーモスコピー像の所見、病理所見や診断、治療法を説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>有棘細胞癌の定義と病態、症候、皮疹とダーモスコピー像の所見、病理所見や診断、治療法を説明できる。  悪性黒色腫の定義と病態、症候、皮疹とダーモスコピー像の所見、病理所見や診断、治療法を説明できる。  毛の疾患の病態、症状と治療を説明できる。  爪の疾患の病態、症状と治療を説明できる。  ポルフィリアを概説できる。  IgA血管炎(Schönlein-Henoch紫斑病)を概説できる。  全身性エリテマトーデス&lt;SLE&gt;の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。  全身性強皮症の病態生理、分類、症候、診断及び臓器病変(特に肺・腎)を説明できる。  全身性血管炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。  主要な全身性アレルギー性疾患の分類と特徴を概説できる。  アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。  熱傷面積(9の法則)と深(達)度から熱傷の重症度を説明できる。  熱傷の治療方針を概説できる。  褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。  主な薬物アレルギーの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。  薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>原則として広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。学生証による認証が困難な場合は講義内でおこなうクイズへの応答状況を参考にする。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式(6割程度)および語句や数値を解答させる問題(4割程度)により試験を行う。  本試験の合格基準は原則として60点とする。得点率60%未満の受験者が総受験者の20%を超えた場合には平均点-1.5*標準偏差を合格基準とするが、平均点-1.5*標準偏差が30点未満の場合は30点を合格基準とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：参考書等で該当の単元の臨床写真等をみしておくことを推奨します。</li> <li>・復習：講義毎に各自でまとめた内容を振り返るようにお願いします。</li> </ul>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】  あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)、標準皮膚科学 第11版(医学書院)  【その他、学習に有用な参考書等】  皮膚病アトラス 第5版(文光堂)、皮膚科学 第11版(金芳堂)、Fitzpatrick's Dermatology 9th Edition (McGraw-Hill Education)</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/07/16(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	皮膚科学 総論	皮膚科	田中 暁生
2026/07/16(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	【特別講義Ⅰ】角化症	客員教授等	乃村 俊文
2026/07/21(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	物理化学的皮膚障害・皮膚 外科の基礎	皮膚科	菅 崇暢
2026/07/23(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	蕁麻疹・紅斑症・紅皮症	皮膚科	沼田 智史
2026/07/23(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	湿疹・皮膚炎群	皮膚科	田中 暁生
2026/07/30(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	膠原病・血管炎	皮膚科	松原 大樹
2026/08/03(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	先天性表皮水疱症・炎症性 角化症	皮膚科	斎藤 怜
2026/08/04(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	皮膚良性腫瘍・悪性リンパ 腫	皮膚科	森桶 聡
2026/09/02(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	皮膚悪性腫瘍	皮膚科	水野 隼登
2026/09/03(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	水疱症・膿疱症	皮膚科	松尾 佳美
2026/09/03(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	附属器疾患・結合織疾患	皮膚科	金本 麻裕
2026/09/10(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	母斑・母斑症	皮膚科	森脇 昌哉
2026/09/10(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	全身疾患と皮膚(代謝異常・ 薬疹・肉芽腫症)・脱毛症	皮膚科	松尾 佳美
2026/09/24(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (皮膚)	試験	皮膚科	水野 隼登

講義ユニット名	耳鼻咽喉科		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	たけの さちお 竹野 幸夫	所属	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学	
講義ユニット コーディネーター	ちくいえ のぶゆき 築家 伸幸	所属	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学は、上気道および頭頸部感覚器の疾患を診断し、治療する専門分野である。高齢化社会において本領域の疾患は増加しており、その治療も内科的治療から外科的治療まで多岐にわたる。治療に際しては境界領域科ならびに疾患関連科との連携が重要である。近年増加・発展傾向にある内視鏡・低侵襲手術は従来より耳鼻咽喉科では他領域に先駆けて行われていて、頭頸部外科領域では従来の拡大手術に加えロボット手術や光免疫療法などの先進的治療も急速に発展している。臨床医は耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患の知識を修得することに加えて境界領域疾患や治療が複数科にまたがる疾患に対しても理解が必要となる。</p> <p>本ユニットの講義では、耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患への理解を深め、本領域ならびに境界領域の疾患において、臨床医として必要な基本的知識を確立することをめざす。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>咀嚼と嚥下の機構を説明できる。</p> <p>喉頭の機能と神経支配を説明できる。</p> <p>平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。</p> <p>難聴とめまいの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>めまいをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>嚥下困難・障害の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>嚥下困難・障害をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>嚥下困難・障害がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>気道狭窄、難聴、鼻出血、咽頭痛、開口障害と反回神経麻痺(嚙声)をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。</p> <p>聴力検査と平衡機能検査を説明できる。</p> <p>味覚検査と嗅覚検査を説明できる。</p> <p>滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>伝音難聴と感音難聴(迷路性と中枢性難聴)を鑑別し治療を説明できる。</p> <p>末梢性めまいと中枢性めまいを鑑別し、治療を説明できる。</p> <p>良性発作性頭位眩暈症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。</p> <p>副鼻腔炎(急性、慢性)の病態と治療を説明できる。</p> <p>アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。</p> <p>扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。</p> <p>気管切開の適応を説明できる。</p> <p>外耳道・鼻腔・咽頭喉頭・食道の代表的な異物の診断と除去法を説明できる。</p> <p>唾液腺疾患を列挙できる。</p> <p>舌癌、咽頭癌、喉頭癌について概説できる。</p> <p>口腔・咽頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。</p> <p>喉頭癌について、病因、病期分類、検査所見、画像所見、病理所見、治療法を説明できる。</p> <p>流行性耳下腺炎(ムンプス)の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。</p> <p>顔面神経麻痺の原因と診断及び治療法を説明できる。</p> <p>急性上気道感染症(かぜ症候群)と扁桃炎の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>睡眠時無呼吸症候群を概説できる。</p> <p>振動障害と騒音障害を説明できる。</p>			

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席は出席状況把握システム、あるいは講義内でのアンケートや小テストによりカウントする。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。試験はマークシート形式で行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。本試験における合格基準は60点とする。
予習・復習へのアドバイス	予習のアドバイス：解剖・生理の復習、耳・鼻・咽喉・喉頭・気管・食道の解剖学的構造を理解する。聴覚・平衡感覚、嗅覚、発声・嚥下機能の生理学的メカニズムを確認する。主要な疾患の概要を把握する。事前に講義資料が配布される場合は目を通し、疑問点を明確にする。推奨文献（教科書、ガイドライン）をチェックし、必要な部分を読んでおく。 復習のアドバイス：講義ノートの整理、講義内で提示された症例を振り返り、診断プロセスを再確認する。関連する症例を医学書やオンラインリソースで探して学習を深める。 最新のガイドライン・論文に触れる。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科（医学書院） 【その他、学習に有用な参考書等】 講義プリント、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会のHP ( <a href="https://www.jibika.or.jp/">https://www.jibika.or.jp/</a> )

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/19(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	鼻副鼻腔疾患	耳鼻咽喉科	竹野 幸夫
2026/06/24(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	顔面外傷	耳鼻咽喉科	濱本 隆夫
2026/06/25(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	めまい	耳鼻咽喉科	小田 尊志
2026/07/01(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	咽頭疾患	耳鼻咽喉科	石野 岳志
2026/07/07(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	唾液腺	耳鼻咽喉科	樽谷 貴之
2026/07/10(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	喉頭と音声	客員教授等	井門 謙太郎
2026/07/15(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	嚥下障害	耳鼻咽喉科	堀部 裕一郎
2026/07/16(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	難聴と聴覚補償	客員教授等	益田 慎
2026/07/22(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	癌	耳鼻咽喉科	上田 勉
2026/07/23(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	平衡機能	耳鼻咽喉科	西田 学
2026/07/23(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	異物と気管切開、喉頭癌	耳鼻咽喉科	築家 伸幸
2026/07/29(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	睡眠時無呼吸症候群	耳鼻咽喉科	小田 尊志
2026/07/30(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	中耳炎	客員教授等	國本 優
2026/09/10(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (耳鼻咽喉科)	試験	耳鼻咽喉科	川住 知弘

講義ユニット名	眼科	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	さかぐち ひろかず 坂口 裕和	所属	眼科
講義ユニット コーディネーター	ひやま ともな 日山 知奈	所属	眼科
授業方法	双方向講義方式。講義と演習を行い、問題に対するアセスメント方法を学ぶ。		
概要	物が見える仕組みを理解する。個別の病態、症状、治療および全身疾患に関連した眼疾患や眼科救急疾患について学習する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>眼球と付属器の構造と機能を説明できる。  眼球運動のしくみを説明できる。  対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能を説明できる。  眼・視覚系に関する主要症候（視力障害、視野異常、色覚異常、眼球運動障害、眼脂・眼の充血、飛蚊症、眼痛）を列挙し、それらの発生機序、原因疾患と治療を説明できる。</p> <p>基本的眼科検査（視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査）を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。</p> <p>屈折異常（近視、遠視、乱視）と調節障害が説明できる。  感染性角結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる。  白内障の病因、症候、診断と治療を説明できる。  緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。  裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる。  糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる。  ぶどう膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。  視神経炎(症)・うっ血乳頭の病因、症候と診断を説明できる。  アルカリ、酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる。  網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる。  網膜芽細胞腫の症候、診断と治療を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席の確認方法は別途通知する。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。体調不良等による本試験欠席においても、追試験は1回までとする。		
評価項目	到達目標の達成度 (理解と知識の応用力を含む)		
評価法	MCQ形式にて試験を行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。 本試験における合格基準は60点とする。		
予習・復習への アドバイス	次回講義のテーマに関連する教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。疾患名や検査方法の専門用語をあらかじめ調べ、講義中に理解が深まるよう準備する。講義スライドや配布資料を見直し、疾患の病態生理や治療法を整理する。		
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準眼科学 監修：中澤 満 医学書院		

日付	時限	科目（ユニット）名	眼光学	担当診療科・講座	担当者
2026/06/26(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	外眼部・結膜	眼科	望月 英毅
2026/07/02(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	眼科救急疾患	眼科	福戸 敦彦
2026/07/09(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	眼形成	眼科	末岡 健太郎
2026/07/10(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	網膜硝子体	眼科	坂口 裕和
2026/07/10(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	白内障・ぶどう膜炎	眼科	日山 知奈
2026/07/21(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	緑内障	眼科	廣岡 一行
2026/07/22(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	眼光学	眼科	戸田 良太郎
2026/07/29(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	小児眼科・全身疾患と眼	眼科	小松 香織
2026/07/30(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	角膜	眼科	近間 泰一郎
2026/08/03(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	神経眼科	眼科	岡野 智文
2026/09/07(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (眼科)	試験		

講義ユニット名	泌尿器	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	ひなた のぶゆき 日向 信之	所属	泌尿器科
講義ユニット コーディネーター	ごとう けいすけ 後藤 景介	所属	泌尿器科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>泌尿器科学は、尿路と精路の疾患を診断し、治療する専門分野である。なかでも、前立腺肥大症、前立腺癌、腎細胞癌、尿失禁は、高齢化社会において増加しており、さらに近年の内視鏡・低侵襲手術の進歩は著しく、臨床医はこれらを理解し、正しい泌尿器科学の知識を修得する必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、泌尿器科疾患への理解を深め、泌尿器科領域において、臨床医として必要な基本的知識を確立することをめざす。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>男性生殖器の発育の過程を説明できる。</p> <p>男性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。</p> <p>陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>勃起不全と射精障害を概説できる。</p> <p>精巣機能障害を概説できる。</p> <p>腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。</p> <p>尿流動態検査を説明できる。</p> <p>精巣と前立腺の検査法(尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;)の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>蓄排尿の機序を説明できる。</p> <p>腎尿路の主な先天異常(多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流)を概説できる。</p> <p>腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路外傷の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿路の炎症(膀胱炎・前立腺炎・尿道炎)の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>尿失禁の病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>神経因性膀胱を概説できる。</p> <p>男性不妊症を概説できる。</p> <p>前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。</p> <p>停留精巣、陰嚢内腫瘍を概説できる。</p> <p>前立腺癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>精巣腫瘍の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>性感染症の原因微生物を説明できる</p> <p>梅毒の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>淋菌感染症の診断と治療を説明できる。</p> <p>性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。</p> <p>腎癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>腎盂・尿管腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		

出席の取扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席の確認方法は別途通知する。 3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。但し、不適格問題(正解率の不良な問題)は除外する。
予習・復習へのアドバイス	講義の際のハンドアウトやスライドを見直して復習すること。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準泌尿器科 香川征 監修 赤座英之、並木幹夫 著 医学書院 【その他、学習に有用な参考書等】 初回講義時にプリントを配布するので、内容を精読すること

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/25(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	泌尿器科学総論1	泌尿器科	日向 信之
2026/07/08(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	泌尿器科学総論2	泌尿器科	日向 信之
2026/07/16(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	前立腺癌	泌尿器科	稗田 圭介
2026/07/17(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	上部・下部路感染症	泌尿器科	北野 弘之
2026/07/31(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	膀胱癌・血尿	泌尿器科	後藤 景介
2026/08/03(月)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	腎腫瘍, 腎盂尿管腫瘍	泌尿器科	小島 浩平
2026/08/04(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	男性不妊症・性分化異常	客員教授等	三田 耕司
2026/09/02(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	精巣腫瘍	泌尿器科	後藤 景介
2026/09/25(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	神経因性膀胱	客員教授等	梶原 充
2026/09/25(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	尿路結石症	泌尿器科	宮本 俊輔
2026/10/01(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	尿路性器の発生と異常	泌尿器科	内藤 美季
2026/10/07(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	前立腺肥大症	泌尿器科	関野 陽平
2026/10/13(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	尿路外傷	泌尿器科	小羽田 悠貴
2026/10/26(月)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (泌尿器)	試験	泌尿器科	後藤 景介

講義ユニット名	血液	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	しんどう たけろう 進藤 岳郎	所属	原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科
講義ユニット コーディネーター	しんどう たけろう 進藤 岳郎	所属	原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科
授業方法	対話的講義形式。スライド呈示に加えて、適宜学生に質問しながら進める。		
概要	<p>血液疾患の歴史は苦難の連続であったが、先人の苦勞と努力で今では多くの患者が長期生存できる。また最初に血液疾患を診るのはほとんどの場合非専門医であるため、全ての臨床医がその知識を持っておく必要がある。</p> <p>本講では造血免疫系の仕組みと異常や病態、また分子レベルでの診断・検査法を理解する。そして近年急速に発展した最新治療の基礎を習得することを目指す。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>造血リンパ組織の構造を説明できる。</p> <p>造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。</p> <p>主な造血因子（エリスロポエチン、顆粒球コロニー刺激因子（granulocyte-colony stimulating factor &lt;G-CSF&gt;）、トロンボポエチン）の分子レベルでの作用機序を説明できる。</p> <p>骨髄、脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer板の構造と機能を説明できる。</p> <p>骨髄検査（骨髄穿刺、骨髄生検）の適応と手技を説明できる。</p> <p>末梢血および骨髄に見られる血球形態の特徴とその異常を理解し、説明できる。</p> <p>赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。</p> <p>白血球の種類と機能を説明できる。</p> <p>血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。</p> <p>末梢血の血球数の基準値とその変化の意義を説明できる。</p> <p>貧血の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>貧血をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>貧血がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>貧血を分類し、鑑別に有用な検査を列挙できる。</p> <p>生体内での鉄の吸収と代謝に関わる分子経路を説明できる。</p> <p>鉄欠乏性貧血、鉄利用障害による貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>再生不良性貧血・夜間発作性血色素尿症(paroxysmal nocturnal hemoglobinuria &lt;PNH&gt;)の病因、病態、診断、治療と予後を説明できる。</p> <p>溶血性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>巨赤芽球性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>急性白血病の病態、症候、病理所見、診断および治療と予後を説明できる。</p> <p>急性白血病の分類の歴史、FAB分類からWHO分類、ICC分類まで概説できる。</p> <p>急性白血病の発症に関連する代表的な染色体異常および遺伝子異常を説明できる。</p> <p>小児白血病と成人白血病の特徴の相違を説明できる。</p> <p>骨髄異形成症候群(myelodysplastic syndrome: MDS)の病態、症候、病理所見、診断および治療と予後を説明できる。</p> <p>MDSの発症に関連する代表的な染色体異常および遺伝子異常・エピゲノム異常を説明できる。</p> <p>治療関連骨髄系腫瘍の病態、診断を説明できる。</p> <p>慢性骨髄性白血病の病態、症候、病理所見、診断および治療と予後を説明できる。</p> <p>骨髄増殖性疾患（真性赤血球増加症・本態性血小板血症、骨髄線維症）の病因、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>悪性リンパ腫の分類を概説し、病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。</p> <p>多発性骨髄腫およびALアミロイドーシスの病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>成人T細胞白血病リンパ腫(ATL/ATLL)の病因、疫学、臨床所見、病理所見を説明できる。</p> <p>造血器腫瘍の治療に用いられる代表的な分子標的薬・抗体医薬品とその作用機序を説明できる。</p> <p>出血傾向・血栓傾向の病因、病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>免疫性血小板減少性紫斑病(immune thrombocytopenic purpura, ITP)の病態、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>血栓性血小板減少性紫斑病(thrombotic thrombocytopenic purpura, TTP)および微小血管障害(thrombotic microangiopathy; TMA)の概念と診断・治療法を概説できる。</p> <p>血友病、von Willebrand(フォン・ヴィルブランド)病の病態、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。</p> <p>播種性血管内凝固(disseminated intravascular coagulation, DIC)の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>深在性静脈血栓症(deep vein thrombosis, DVT)の発症リスク、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>造血幹細胞移植の種類と適応を説明できる。</p> <p>HLA分子の機能および組織適合性との関係を説明できる。</p> <p>移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理と発症時の対応を説明できる。</p> <p>移植片対白血病効果について説明できる。</p> <p>造血器疾患治療時に発生しやすい感染症とその予防策と治療法を説明できる。</p> <p>造血器疾患治療時に発生しやすい非感染性合併症の予防策と治療法を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。講義の最後にアンケートをとるときは、講義アンケートの記載が出席扱いに代用される場合がある。</p> <p>代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者には試験受験を認めない。自らの出席状況は各自で管理・把握すること。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)</p>
<p>評価法</p>	<p>全20問によるMCQ形式にて本試験・追試験を行う。</p> <p>本試験・追試験とも合格基準は60点とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>復習が大事です。10分でもよいので、講義内容をできるだけ当日に復習しておいて下さい。</p> <p>本講義で提供する内容は血液学のごく一部ですが、各疾患の診断ポイントとイメージ、また造血器腫瘍のWHO分類の体系を理解しているかいないかは大切です。これらは臨床実習時に大きな差となって表れます。最低限のエッセンスだけでもよいので、この機会に自分の中に落とし込んで下さい。</p> <p>講義ではできるだけ各疾患の治療開発の歴史を紹介するように務めます。治らない病気に長く挑んできた先人の苦勞を感じることで、無味乾燥な分類も頭に入りやすくなるはずです。</p> <p>講義中の質問はいつでも大歓迎です。分からないことを人に聞く姿勢は、皆さんの成長に必須です。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>内科学書(改訂第9版)第6巻 血液・造血器疾患 神経疾患 中山書店</p> <p>Principle and Practice 「血液・造血系・リンパ系」 医学生・レジデントのための必修エッセンス 文光堂</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/12(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	血液学の世界：血液内科って、楽しい！	血液内科	進藤 岳郎
2026/06/19(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	造血の仕組みを知る～個体発生は系統発生を繰り返す	血液内科	本庶 仁子
2026/07/01(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	目で見る血液内科学	検査部	中川 浩美
2026/07/09(木)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	貧血から全身を診る	客員教授等	川端 浩
2026/07/22(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	骨髄異形成症候群～形態とエピゲノムの邂逅	客員教授等	一戸 辰夫
2026/07/24(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	急性白血病～造血と分化の破綻スパイラル	客員教授等	安藤 潔
2026/07/24(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	悪性リンパ腫～その著しい多様性(前半)	血液内科	進藤 岳郎
2026/07/31(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	造血幹細胞移植～その歴史と近未来	血液内科	進藤 岳郎
2026/08/04(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	悪性リンパ腫～その著しい多様性(後半)	客員教授等	福島 伯泰
2026/09/01(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	血液学を理解するための臨床検査	客員教授等	松井 啓隆
2026/09/03(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	多発性骨髄腫と類縁疾患～骨と血液の不思議な関係	血液内科	吉田 徹巳
2026/09/04(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	骨髄増殖性疾患～白血病を飲み薬で治す	客員教授等	木村 晋也
2026/09/24(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	出血・血栓性疾患	血液内科	杉原 清香
2026/10/13(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (血液)	試験	血液内科	本庶 仁子/進藤 岳郎

講義ユニット名	免疫・アレルギー	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	ひらた しんたろう 平田 信太郎	所属	リウマチ・膠原病科
講義ユニット コーディネーター	わたなべ ひろふみ 渡辺 裕文	所属	リウマチ・膠原病科
授業方法	事前学習動画+講義+演習問題。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎などの膠原病・リウマチ性疾患を解説します。膠原病は多臓器障害をきたす疾患であり、常に全体像を把握しながら診療することが重要です。発熱、関節痛や皮疹など日常診療でよく遭遇する症状が膠原病を疑うきっかけとなることも多く、その鑑別診断や診断アプローチを学んでもらいます。また、各疾患の背景にある免疫異常を捉えることが、治療方針決定に役立つ、近年進歩してきている個別化医療に役立っており、その点を概説します。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>膠原病の定義を説明できる。          関節炎をきたす疾患を列挙できる。自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。          膠原病に特徴的な皮疹を説明し、関連する疾患を列挙できる。          関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療を説明できる。          関節リウマチの関節外症状を説明できる。          全身性強皮症、混合性結合組織病の病態生理、分類、症候、診断及び臓器病変を説明できる。          全身性エリテマトーデス(SLE)の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。          SLEの重症合併症(神経精神ループス、ループス腎炎)を説明できる。          抗リン脂質抗体症候群の症候、診断と治療を説明できる。          成人発症スチル病、リウマチ性多発筋痛症の症候、診断と治療を説明できる。          IgG4関連疾患の症候、診断と治療を説明できる。          自己炎症性疾患を概説できる。          多発性筋炎・皮膚筋炎の特異的自己抗体を列挙できる。          結晶誘発性関節炎の診断と治療を説明できる。          膠原病診療における分子標的治療・細胞治療と個別化医療について理解する。          全身性血管炎を分類/列挙し、その症候、診断と治療を説明できる。          脊椎関節炎を分類/列挙し、その症候、診断と治療を説明できる。          ベーチェット病、シェーグレン症候群の症候、診断と治療を説明できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>「広島大学 医学部医学科のルール」に準拠して取り扱う。          ○出席システム(学生証とForms)にてすべての講義で出席をとることを原則とする。          ○学生証を紛失または忘れた場合は学生支援室にある講義出席届出票を受け取り、必ず講義前に担当教員に提出する。          ○すべての講義に出席することを単位付与の前提とする。欠席日数が、やむを得ないものを含め3分の1を超えたものは受験資格(本試験、追試験とも)を与えない(医学部細則第14条)。          ○遅刻・早退は認めない。講義開始から30分以上経過して出席した場合は欠席扱いとする。          ○出席状況(回数)や学生証読取り状況は自身で把握、確認すること。欠席回数の問い合わせには回答しない。</p>		
評価項目	到達目標の達成度(基本的理解と知識の応用)		
評価法	MCQ形式で試験を行う。本試験における合格基準は60点とする。		
予習・復習への アドバイス	講義前に事前学習動画を確認し、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	<p>リウマチ病学テキスト(第3版) 診断と治療社          ハリソン内科学(第5版) メディカル・サイエンス・インターナショナル          内科学(第12版) 朝倉書店          内科学書(第9版) 中山書店          内科診断学(第4版) 医学書院</p>		

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/17(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	膠原病総論	リウマチ・膠原病科	平田 信太郎
2026/06/23(火)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	関節リウマチ、悪性関節リウマチ	リウマチ・膠原病科	平田 信太郎
2026/06/25(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	全身性硬化症、混合性結合組織病	リウマチ・膠原病科	杉本 智裕
2026/06/30(火)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	基礎免疫学概論	リウマチ・膠原病科	石徳 理訓
2026/07/01(水)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群	リウマチ・膠原病科	平田 信太郎
2026/07/02(木)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	成人発症スチル病、リウマチ性多発筋痛症	リウマチ・膠原病科	渡辺 裕文
2026/07/03(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	IgG4関連疾患、自己炎症性疾患	客員教授	山崎 聡士
2026/07/09(木)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	病歴聴取、身体診察、適切な検査の選択と解釈	客員教授	野島 崇樹
2026/07/13(月)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	多発性筋炎・皮膚筋炎	リウマチ・膠原病科	杉本 智裕
2026/07/15(水)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	結晶誘発性関節炎、線維筋痛症	客員教授	箱田 雅之
2026/07/17(金)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	膠原病リウマチ内科における分子標的治療・細胞治療と個別化医療	客員准教授	吉田 雄介
2026/07/22(水)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	巨細胞性動脈炎、高安動脈炎、関節性多発動脈炎、ANCA関連血管炎	客員准教授	吉田 雄介
2026/07/24(金)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	脊椎性関節炎総論、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関節炎、掌蹠膿疱症性(骨)関節炎	検査部	茂久田 翔
2026/07/29(水)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	ベーチェット病、シェーグレン症候群	検査部	茂久田 翔
2026/09/01(火)	1・2	器官・システム病態制御学Ⅱ (免疫・アレルギー)	試験	リウマチ・膠原病科	渡辺 裕文

講義ユニット名	輸血医学	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	ふじい てるひさ 藤井 輝久	所属	病院輸血部
講義ユニット コーディネーター	ふじい てるひさ 藤井 輝久	所属	病院輸血部
授業方法	各コマの前半はパワーポイントを用いた講義形式、後半はQ&A及び解説、事例提示などを行う。また講義最終回の後半は理解度を深めるための小テストを行う。		
概要	医療を行う上で、輸血医学の重要性は高まっている。さらに近年の国家試験を見ても、関連する事項が問題に採用されている。輸血用血液は全て献血によりまかなわれており、日本は少子高齢化の影響を受けて慢性的な供給不足に陥っている。また感染症などの様々な副反応を来す。輸血を安全で適正かつ有効に使用・利用するために必要な知識を4回にまとめた。		
講義ユニットの 到達目標	血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。 血液型(ABO、RhD)検査、血液交差適合(クロスマッチ)試験、不規則抗体検査を説明できる。 輸血副反応、輸血使用記録保管義務、不適合輸血の防止手順を説明できる。 輸血の適正使用、成分輸血、自己血輸血、緊急時の輸血を説明できる。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	出席は出席状況把握システムと、講義内で行うQ&Aによりカウントする。 出席の取り扱いについては、血液学に準ずる。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	試験(国家試験形式、血液学と合同)		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	実践! 輸血療法Q&A(大坂顕通編, 中外医学社) ミニマム輸血学(大久保光夫 中外医学社) 日本輸血・細胞治療学会HP <a href="http://www.jstmct.or.jp/jstmct/">http://www.jstmct.or.jp/jstmct/</a> のe-learning		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/09/10(木)	3・4	器官・システム病態制御学Ⅱ (輸血医学)	輸血用血液の製造から臨床で使用されるまで（概論）	輸血部	藤井 輝久
2026/09/11(金)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (輸血医学)	血液型の基礎と輸血関連検査	輸血部	藤井 輝久
2026/09/15(火)	7・8	器官・システム病態制御学Ⅱ (輸血医学)	どんなときに輸血は行われるべきか？	輸血部	山崎 尚也
2026/09/25(金)	5・6	器官・システム病態制御学Ⅱ (輸血医学)	輸血に伴う有害事象とその対応は？	輸血部	藤井 輝久

講義ユニット名	放射線診断	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	なかむら ゆうこ 中村 優子	所属	放射線診断学
講義ユニット コーディネーター	なかむら ゆうこ 中村 優子	所属	放射線診断学
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	画像診断では、心臓大血管・呼吸器などの領域別に、代表的疾患あるいは病態について、単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の読影法と鑑別診断の考え方を講義する。インターベンショナルラジオロジー（IVR、画像診断技術を用いた低侵襲治療）では、IVRの基本的な手技およびその理論的背景を概説し、その適応および臨床応用について述べる。		
到達目標	<p>PS-03-04-05 腫瘍の画像検査（エックス線、CT、MRI、PET・核医学、超音波等）の異常所見がわかり診断できる。</p> <p>PS-03-04-24 主な腫瘍のインターベンショナルラジオロジーの適応について概要を理解している。</p> <p>CS-02-03-07 主要な臨床・画像検査の目的と適応を理解し、解釈できる。</p> <p>CS-02-04-16 インターベンショナルラジオロジーについて概要を理解している。</p> <p>表2-2. 神経系（検査方法）脳・脊髄の画像検査（CT・MRI）を説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-5. 循環器系（検査方法）心臓シンチグラフィ、冠動脈CT、MRIを説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-6. 呼吸器系（検査方法）画像検査（エックス線撮影・CT・MRI）、核医学検査（ポジトロン断層法（PET））を説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-7. 消化器系（検査方法）画像検査（エックス線撮影・超音波検査・CT・MRI）を説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-8. 腎・尿路系（検査方法）腎・尿路系の画像診断（エックス線撮影・尿路造影・CT・MRI）を説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-9. 生殖器系（検査方法）精巣と前立腺の画像検査法（尿路造影・CT・MRI）、超音波検査 骨盤内臓器と腫瘍の画像診断（超音波断層法、CT、MRIを説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p> <p>表2-12. 乳房（検査方法）乳房腫瘍に対する画像診断（超音波検査・マンモグラフィ・MRI）を説明でき、基本的疾患について読影が出来る。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。出席状況把握システム、Forms出席アンケート内の小テスト解答提出の両方をもって出席とみなす。3分の2以上の出席がない場合は本試験、追試験、再試験のいずれにおいても受験資格を与えない。		
評価項目	画像に関する基本的な知識（CT値やMRI画像の信号特性の解釈法）、疾患・病態の知識、それらに応用した論理的な読影能力および疾患の鑑別能力について評価を行う。（基本的理解と知識の応用）		
評価法	MCQ形式にて試験を行う。試験開始後10分以上の遅刻は受験を認めない。本試験における合格基準は60点とする。		
予習・復習への アドバイス	予習は特に必要ない。講義における各疾患の画像の診断ポイントについて講義資料で復習すること。IVRIについては、各手技の適応について講義資料で確認すること。		
推奨参考書	特になし		

日付	時限	開講学部	学年	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/29(木)	1・2	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	肝胆膵画像診断	放射線診断科	中村 優子
2026/10/29(木)	5・6	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	中枢神経画像診断Ⅰ	客員教授(JA広島総合病院)	海地 陽子
2026/10/29(木)	7・8	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	中枢神経画像診断Ⅱ	客員教授(JA広島総合病院)	海地 陽子
2026/10/30(金)	1・2	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	呼吸器画像診断Ⅰ	放射線診断科	福本 航
2026/10/30(金)	5・6	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	小児画像診断	放射線診断科	谷 千尋
2026/11/04(水)	1・2	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	女性生殖器・乳腺画像診断	放射線診断科	赤木 元紀
2026/11/04(水)	3・4	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	呼吸器画像診断Ⅱ/死後画像診断	放射線診断科	福本 航
2026/11/04(水)	5・6	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	Interventional RadiologyⅡ(非血管系)	客員教授(岡山大学放射線医学)	平木 隆夫
2026/11/06(金)	5・6	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	泌尿器・男性生殖器画像診断	客員教授(中国労災病院)	本田 有紀子
2026/11/13(金)	1・2	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	心大血管画像診断	放射線診断科	立神 史稔
2026/11/13(金)	5・6	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	Interventional RadiologyⅠ(血管系)	放射線診断科	帖佐 啓吾
2026/11/18(水)	1・2	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	核医学診断	(原医研)放射線災害・医学研究機構	石橋 愛
2026/11/24(火)	3・4	医学部	3	器官・システム病態制御学Ⅱ (放射線診断)	試験	放射線診断科	中村 優子

授業科目名	脳神経医学Ⅲ (Medical Neuroscience III)		
対象学年	3年生	単位	7単位
科目責任者	まるやま ひろふみ 丸山 博文	所属	脳神経内科学
	おかだ ごう 岡田 剛	所属	精神神経医科学
	ほりえ のぶたか 堀江 信貴	所属	脳神経外科学
科目 コーディネーター	やまぎき ゆう 山崎 雄	所属	脳神経内科学
	すみ ふみ 角 芙美	所属	精神神経医科学
	せやま ごう 瀬山 剛	所属	脳神経外科学
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	<p>神経筋疾患については、解剖学的知識に基づき正確な病巣診断および治療、予後予測について学習する。脳神経は中枢神経系、末梢神経系により複雑に構成され、運動・感覚・自律神経を司っている。中枢神経系、末梢神経系や筋肉の構造や機能を理解することは、的確な病巣診断を基に適切な治療を行っていく上で重要である。さらに、病態も循環障害、腫瘍、炎症、変性など多岐にわたり、病態と症状を適切に理解することは予後予測の上でも重要である。</p> <p>精神科医療については、精神疾患の概念・病態の理解および診断、治療法について学習する。病態理解は生物学的、心理的、社会的観点から行い、治療法も同様の観点から理解を深める。また、良好な治療者患者関係を構築するための精神科面接についても学習する。</p>		
講義ユニットの到達目標	<p>けいれんの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>けいれんをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>けいれんがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>もの忘れの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>もの忘れをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>もの忘れがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>頭痛の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>頭痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>頭痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>小脳性・前庭性・感覚性運動失調障害を区別して説明できる。</p> <p>振戦を概説できる。</p> <p>その他の不随意運動(ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難(asterixis)、アテトーシス、チック)を概説できる。</p> <p>歩行障害を病態に基づいて分類できる。</p> <p>失語症と構音障害の違いを説明できる。</p> <p>脳浮腫の病態を説明できる。</p> <p>急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。</p> <p>脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。</p>		

脳・脊髄のコンピュータ断層撮影(computed tomography <CT>)・磁気共鳴画像法(magnetic resonance imaging <MRI>)検査の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

神経系の電気生理学的検査(脳波検査、筋電図、末梢神経伝導検査)で得られる情報を説明できる。

脳脊髄液検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。

脳血管障害(脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫、脳梗塞、一過性脳虚血発作)の病態、症候と診断を説明できる。

脳血管障害の治療と急性期・回復期・維持期(生活期)のリハビリテーション医療を概説できる。

認知症の病因を列举できる。

認知症をきたす主な病態(Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、血管性認知症)の症候と診断治療を説明できる。

Parkinson病の病態、症候と診断を説明できる。

脳深部刺激療法について説明できる

筋萎縮性側索硬化症を概説できる。

多系統萎縮症を概説できる。

脳炎・髄膜炎、脳症の病因、症候と診断を説明できる。

多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。

頭部外傷の分類を説明できる。

急性硬膜外・硬膜下血腫及び慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。

ニューロパチーの病因(栄養障害、中毒、遺伝性)と病態を分類できる。

Guillain-Barré症候群の症候、診断を説明できる。

Bell麻痺の症候、診断を説明できる。

主な神経障害性疼痛(三叉・坐骨神経痛)を概説できる。

糖尿病の慢性合併症を列举し、概説できる。

ビタミン・微量元素の欠乏症と過剰症を概説できる。

ポルフィリアを概説できる。

重症筋無力症の病態、症候と診断を説明できる。

進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候と診断を説明できる。

周期性四肢麻痺を概説できる。

てんかんの分類、診断と治療を説明できる。

頭痛(片頭痛、緊張型頭痛等)の分類、診断と治療を説明できる。

水頭症の症候と治療を説明できる。

主な脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位を説明し、病態を概説できる。

脳・脊髄腫瘍、転移性脳腫瘍について概説できる。

Sjögren症候群を概説できる。

全身性血管炎を分類/列举し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

Behçet病の症候、診断と治療を説明できる。

重金属、青酸、ヒ素、パラコート、自然毒による中毒を概説できる。

不安・抑うつの原因と病態生理を説明できる。

不安・抑うつをきたす疾患(群)を列举し、診断の要点を説明できる。

不安・抑うつがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を説明できる。

意識障害、不眠、幻覚・妄想をきたす精神障害を列举し、その鑑別診断を説明できる。

ストレスなどの心理社会的要因が症候(息苦しさ、心窩部痛、腹痛、頭痛、疲労、痒み、慢性疼痛等)に密接に関与している代表的な疾患を列举し、その鑑別診断を説明できる。

ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を説明できる。

患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。

精神科診断分類法を説明できる。

精神科医療の法と倫理に関する必須項目(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法、インフォームド・コンセント)を説明できる。

コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。

心理学的検査法の種類と概要を説明できる。

症状精神病の概念と診断、治療を説明できる。

講義ユニットの到達目標	<p>薬物使用に関連する精神障害やアルコール、ギャンブル等への依存症の病態と症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>統合失調症の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>うつ病の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>双極性障害（躁うつ病）の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>解離性障害群の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>パーソナリティ障害群を説明できる。</p> <p>知的能力障害群と自閉症スペクトラム障害(autism spectrum disorder &lt;ASD&gt;)を説明できる。</p> <p>注意欠如・多動障害(attention deficit / hyperactivity disorder &lt;ADHD&gt;)と運動障害群を説明できる。</p> <p>頭部外傷後の高次脳機能障害を説明できる。</p> <p>精神保健医療福祉の現状と制度を説明できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う。講義の最後にアンケートをとるときは、講義アンケートの記載が出席扱いに代用される場合がある。</p> <p>代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者には試験受験を認めない。</p> <p>Forms回答は、必ず講義の当日中に提出すること。当日中にFormsで回答できない場合は、当日中にnaika3@hiroshima-u.ac.jpに連絡をすること。</p> <p>精神科が担当する授業については、授業中に行う小テスト、もしくはアンケートや感想を、各講義毎に設定しているFormsアンケートに記入し、各講義時間終了10分後までに提出をすることをもって、「出席」とする。</p>
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	<p>試験は計3回、MCQ形式にて試験を行う。本試験における合格基準点は60点とする。</p> <p>なお、講義時間中に話していない内容も出題される可能性があるため、関連する項目について十分な自主学習を行うこと。</p> <p>試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。</p>
予習・復習へのアドバイス	<p>復習の方を重視すること。講義資料・参考書などでも不明な点は担当講座に問い合わせてみる。</p> <p>インターネットの情報は出典を確認し、信頼できるものであるかどうか判断すること。</p>
履修上の注意 アドバイス	<p>神経系という共通したシステムに対して、臨床の立場での内科学、外科学など異なったアプローチで理解を進めるため、各回の講義で得られる知識をよく整理して学習する。</p>
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭ほか 南山堂</li> <li>2) 研修医・医学生のための神経内科学 神田隆 中外医学社</li> <li>3) 標準脳神経外科学 第15版 新井一監修 医学書院</li> <li>4) 標準精神医学 第9版 尾崎紀夫ほか 医学書院</li> </ol> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) よくわかる脳MRI 改訂第4版 青木茂樹ほか 秀潤社</li> <li>6) 神経内科ハンドブック鑑別診療と治療 水野美邦 医学書院</li> <li>7) 脳神経外科学 改訂13版 総編集：太田富雄 金芳堂</li> <li>8) 改訂版 脳神経外科学必修講義 著者：松谷雅生 メジカルビュー社</li> <li>9) 日本神経学会のガイドライン一覧のURL <a href="http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html">http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html</a></li> <li>10) カプラン臨床精神医学テキスト</li> </ol>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/04/14(火)	1・2	脳神経医学Ⅲ	脳神経外科総論	脳神経外科	堀江 信貴
2026/04/14(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	神経内科学総論	脳神経内科	丸山 博文
2026/04/17(金)	1・2	脳神経医学Ⅲ	神経解剖/神経生理	神経生物学/神経生理学	相澤 秀紀・橋本 浩一
2026/04/17(金)	3・4	脳神経医学Ⅲ	錐体外路障害、脊髄小脳変性症	脳神経内科	山崎 雄
2026/04/20(月)	5・6	脳神経医学Ⅲ	機能的脳神経外科①	脳神経外科	香川 幸太
2026/04/20(月)	7・8	脳神経医学Ⅲ	機能的脳神経外科②	脳神経外科	香川 幸太
2026/04/21(火)	1・2	脳神経医学Ⅲ	神経病理	脳神経内科	松原 知康
2026/04/21(火)	7・8	脳神経医学Ⅲ	全身性疾患に伴う神経・筋障害	脳神経内科	杉本 太路
2026/04/22(水)	3・4	脳神経医学Ⅲ	頭部外傷	脳神経外科	瀬山 剛
2026/04/23(木)	1・2	脳神経医学Ⅲ	脳血管障害(虚血性)①	脳神経外科	石井 大造
2026/04/27(月)	1・2	脳神経医学Ⅲ	間脳下垂体疾患	脳神経外科	木下 康之
2026/04/27(月)	3・4	脳神経医学Ⅲ	脳神経画像診断	脳神経外科	山崎 文之
2026/05/01(金)	1・2	脳神経医学Ⅲ	筋疾患	脳神経内科	中森 正博
2026/05/01(金)	5・6	脳神経医学Ⅲ	神経診断学	客員教授等	徳島大学 森野 豊之
2026/05/08(金)	1・2	脳神経医学Ⅲ	振り返り授業 化学的神経解剖学・神経薬理学	神経薬理学	酒井 規雄
2026/05/08(金)	5・6	脳神経医学Ⅲ	特別講義(くも膜下出血、脳動脈瘤とAI)	客員教授等	島根県立中央病院 井川 房夫
2026/05/12(火)	5・6	脳神経医学Ⅲ	運動ニューロン病	脳神経内科	山崎 雄
2026/05/13(水)	7・8	脳神経医学Ⅲ	脳血管障害(出血性)②	脳神経外科	桑原 政志
2026/05/26(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	認知症/脳・脊髄画像検査	脳神経内科	都甲 めぐみ
2026/05/26(火)	5・6	脳神経医学Ⅲ	脳腫瘍(良性)	脳神経外科	田口 慧
2026/05/27(水)	7・8	脳神経医学Ⅲ	先天奇形・水頭症	脳神経外科	光原 崇文
2026/06/01(月)	3・4	脳神経医学Ⅲ	中間試験		
2026/06/02(火)	1・2	脳神経医学Ⅲ	てんかん、頭痛	脳神経内科	石橋 はるか
2026/06/02(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	脳腫瘍(悪性)	脳神経外科	米澤 潮
2026/06/02(火)	5・6	脳神経医学Ⅲ	免疫性神経疾患	客員教授等	県立広島病院 越智 一秀
2026/06/04(木)	1・2	脳神経医学Ⅲ	末梢神経障害	脳神経内科	内藤 裕之
2026/06/04(木)	3・4	脳神経医学Ⅲ	特別講義(脳血管障害の画像診断最前線)	客員教授等	広島市立安佐市民病院 松重 俊憲
2026/06/04(木)	5・6	脳神経医学Ⅲ	神経内科学臨床検査	客員教授等	川崎医科大 黒川 勝己
2026/06/04(木)	7・8	脳神経医学Ⅲ	特別講義(脳の微小解剖と手術)	客員教授等	三原城町病院 今田 裕尊
2026/06/16(火)	1・2	脳神経医学Ⅲ	神経感染症	分子疫学	久米 広大
2026/06/17(水)	1・2	脳神経医学Ⅲ	脳血管障害	脳神経内科	柁津 智久
2026/06/18(木)	1・2	脳神経医学Ⅲ	特別講義(てんかんの最前線)	てんかんセンター	飯田 幸治
2026/06/29(月)	3・4	脳神経医学Ⅲ	試験		
2026/07/03(金)	7・8	脳神経医学Ⅲ	精神医学総論(診断・検査・治療)	精神科	岡田 剛
2026/07/06(月)	7・8	脳神経医学Ⅲ	不安・抑うつ病態・診断・治療	精神科	岡田 剛
2026/07/13(月)	5・6	脳神経医学Ⅲ	症状性精神病 器質性精神障害	精神科	淵上 学
2026/07/14(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	精神科医療の法と倫理	精神科	大村 淳
2026/07/17(金)	7・8	脳神経医学Ⅲ	摂食障害 発達障害	精神科	黒崎 充勇
2026/07/24(金)	7・8	脳神経医学Ⅲ	パーソナリティ障害・精神分析	精神科	町野 彰彦
2026/07/27(月)	5・6	脳神経医学Ⅲ	幻覚・妄想の病態・診断・治療	精神科	藤田 翔
2026/07/29(水)	3・4	脳神経医学Ⅲ	コンサルテーション・リエゾン精神医学	精神科	淵上 学
2026/08/04(火)	1・2	脳神経医学Ⅲ	ストレス反応と情動・心身医学・身体症状症、解離性障害	精神科	増田 慶一
2026/09/02(水)	3・4	脳神経医学Ⅲ	小児精神医学	精神科	板垣 圭
2026/09/11(金)	5・6	脳神経医学Ⅲ	特別講義 不安障害・PTSD 強迫性障害	客員教授等	森信 繁
2026/09/15(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	統合失調症	精神科	大賀 健市
2026/09/25(金)	3・4	脳神経医学Ⅲ	気分障害	精神科	大村 淳
2026/10/01(木)	7・8	脳神経医学Ⅲ	不眠、過眠の病態・診断・治療	精神科	熊谷 元
2026/10/02(金)	7・8	脳神経医学Ⅲ	特別講義 精神障害者の社会復帰	客員教授等	林 輝男
2026/10/05(月)	7・8	脳神経医学Ⅲ	物忘れの病態・診断・治療 認知症	精神科	角 美美
2026/10/06(火)	3・4	脳神経医学Ⅲ	精神腫瘍学	精神科	倉田 明子
2026/10/14(水)	1・2	脳神経医学Ⅲ	アルコール・薬物関連障害、ギャンブル障害	精神科	大賀 健市
2026/10/19(月)	3・4	脳神経医学Ⅲ	試験	精神科	

授業科目名	全身性疾患制御学 (Systemic Disease Control)		
対象学年	3年生	単位	12単位
科目責任者	やまぐち けん 山口 建	所属	産科婦人科学
科目 コーディネーター	やまざき ともみ 山崎 友美	所属	産科婦人科学
授業方法	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
授業の概要	<p>本科目は以下の9の講義ユニットで構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産科婦人科</li> <li>2) 救急集中治療医学</li> <li>3) 小児</li> <li>4) 麻酔蘇生学</li> <li>5) 臨床腫瘍学・放射線腫瘍学</li> <li>6) 感染症</li> <li>7) 小児外科</li> <li>8) 地域医療</li> <li>9) 漢方医学</li> </ol> <p>全身すべての臓器に発生する生理的变化および疾患の様々な原因について、今まで学んだ生体反応学・病態病因学等をもとにして、各種疾患の病態生理を理解し、診断及び治療法を学ぶ。</p>		
授業の目標	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと。		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		
評価法	試験はユニットごとに行う。試験形式については各ユニットのシラバスを参照のこと。		
成績評価の基準	各ユニットの到達度について評価する。 合格することを4年次への進級要件とする。		
予習・復習への アドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		

講義ユニット名	産科婦人科	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	やまぐち けん 山口 建	所属	産科婦人科学
講義ユニット コーディネーター	やまざき ともみ 山崎 友美	所属	産科婦人科学
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。あるいは配布資料などに沿って説明しながら授業をすすめる。		
概要	産科学では女性の一生における大きなイベントである妊娠・出産についての正しい知識を習得し、妊娠・分娩時の異常を学ぶ必要がある。また、婦人科疾患については解剖、内分泌環境、腫瘍性病変等について学んでいく必要がある。講義を通して妊産婦や婦人科疾患の病態、診断、治療法などを理解することを目標とする。		
講義ユニットの 到達目標	<p>女性生殖器の発育の過程を説明できる。</p> <p>女性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>性周期発現と排卵の機序を説明できる。</p> <p>閉経の過程と疾病リスクの変化を説明できる。</p> <p>乳房の構造と機能を説明できる。</p> <p>成長発達に伴う乳房の変化を説明できる。</p> <p>乳汁分泌に関するホルモンの作用を説明できる。</p> <p>不正性器出血、膣分泌物（帯下）の増量、膣乾燥感、性交痛、乳汁漏出症をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。</p> <p>月経異常・無月経を説明できる。</p> <p>月経異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>月経異常をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>月経異常がある患者の治療の要点を説明、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>血中ホルモン（卵巣刺激ホルモン&lt;follicle-stimulating hormone &lt;FSH&gt;）、黄体形成ホルモン&lt;luteinizing hormone &lt;LH&gt;）、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン&lt;human chorionic gonadotropin &lt;hCG&gt;、エストロゲン、プロゲステロン）測定値を評価できる。</p> <p>骨盤内臓器と腫瘍の画像診断（超音波検査、コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;、子宮卵管造影&lt;hysterosalpingography &lt;HSG&gt;）所見を概説できる。</p> <p>基礎体温の所見を説明できる。</p> <p>膣分泌物の所見を説明できる。</p> <p>内外生殖器の先天異常を説明できる。</p> <p>卵巣機能障害、更年期障害を概説できる。</p> <p>不妊症の系統診断と治療を説明できる。</p> <p>子宮筋腫・子宮腺筋症の症候、診断と治療を概説できる。</p> <p>子宮内膜症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>外陰、膣と骨盤内感染症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>クラミジア感染症を説明できる。</p> <p>性感染症の原因微生物を説明できる</p> <p>梅毒の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>淋菌感染症の診断と治療を説明できる。</p> <p>性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。</p> <p>子宮頸癌・子宮体癌（子宮内膜癌）の予防、症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>卵巣腫瘍（卵巣癌、卵巣嚢腫）の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>絨毛性疾患（胎状奇胎、絨毛癌）の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>妊娠の診断法を説明できる。</p> <p>妊娠に伴う身体的変化を概説できる。</p> <p>胎児・胎盤検査法（超音波検査、分娩監視装置による）の意義を説明できる。</p> <p>羊水検査法の意義と異常所見を説明できる。</p>		

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる。  妊娠・分娩・産褥での母体の解剖学的と生理学的変化を説明できる。  胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的变化を説明できる。  正常妊娠の経過を説明できる。  正常分娩の経過を説明できる。  産褥の過程を説明できる。  育児に伴う母体の構造的・生理的な変化、精神問題を説明できる。  母子保健の意義を医学的に説明できる。  妊娠時の薬物療法の注意点を説明できる。  主な異常妊娠（流産、切迫流産、子宮外妊娠（異所性妊娠）、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、胎児発育不全）の病態を説明できる。  主な異常分娩（早産、微弱陣痛、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷）の病態を説明できる。  主な異常産褥（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎）の病態を説明できる。  産科救急（産科出血、播種性血管内凝固&lt;DIC&gt;）の病態と治療を説明できる。  主な合併症妊娠（耐糖能異常、甲状腺疾患、血液型不適合妊娠、toxoplasmosis, other agents, rubella, cytomegalovirus, herpes simplex &lt;TORCH&gt;症候群）の病態を説明できる。  胎児機能不全(non-reassuring fetal status &lt;NRFS&gt;)を説明できる。  人工妊娠中絶の適応を説明できる。  帝王切開術の適応を説明できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席は広島大学医学部医学科のグランドルールに従う  オンラインの場合も講義室で受講した場合もForms の出席アンケートの提出をもって出席とみなす</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度  （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>試験（MCQ形式で試験を行う（配点 MCQ 100点）。  本試験における合格基準は60点とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>講義内容に該当する教科書を読んで予習しておいて下さい。  復習はその日のうちに行ってください。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】  標準産科婦人科学 編集：綾部琢哉/板倉敦夫 医学書院</p>

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/06/29(月)	5・6	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	産婦人科概論	産婦人科	山口 建
2026/06/30(火)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	正常解剖・性機能、性器の形態異常	産婦人科	的場 優介
2026/07/07(火)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	腔・外陰疾患、子宮頸がん	産婦人科	山口 建
2026/07/08(水)	1・2	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	子宮体がん 子宮筋腫	産婦人科	的場 優介
2026/07/14(火)	5・6	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	良性卵巣腫瘍・卵管疾患、悪性卵巣腫瘍	産婦人科	山口 建
2026/07/17(金)	5・6	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	婦人科内分泌、子宮内膜症	産婦人科	寺岡 有子
2026/07/31(金)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	検査方法、産科婦人科手術、絨毛性疾患	産婦人科	的場 優介
2026/10/05(月)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	妊娠の成立、正常妊娠	産婦人科	山口 建
2026/10/06(火)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	正常分娩	産婦人科	寺岡 有子
2026/10/07(水)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常妊娠(1)	産婦人科	大森 由里子
2026/10/08(木)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	正常分娩・産褥	産婦人科	寺岡 有子
2026/10/09(金)	1・2	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常分娩(1)	産婦人科	山崎 友美
2026/10/13(火)	5・6	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常妊娠(2)	産婦人科	大森 由里子
2026/10/16(金)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常分娩(2)	産婦人科	山崎 友美
2026/10/22(木)	5・6	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	母児感染・性感染症	客員教授等	田中 教文
2026/10/22(木)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	生殖・不妊症	客員教授等	兒玉 尚志
2026/10/26(月)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常分娩(3)	産婦人科	山崎 友美
2026/10/27(火)	1・2	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	胎児・新生児異常・遺伝相談、母子保健	産婦人科	山崎 友美
2026/10/27(火)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	異常妊娠(3)	産婦人科	大森 由里子
2026/10/30(金)	7・8	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	合併症妊娠	客員教授等	田中 教文
2026/11/09(月)	3・4	全身性疾患制御学 (産科婦人科)	試験	産婦人科	山崎 友美

講義ユニット名	救急集中治療医学		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	しめ のぶあき 志馬 伸朗	所属	救急集中治療医学	
講義ユニット コーディネーター	おおしも しんいちろう 大下 慎一郎	所属	救急集中治療医学	
授業方法	講義+ディスカッション。スライドを呈示しながら進める講義に加え、Q&A方式、グループワークおよび質疑応答による双方向的・学生参加型講義。状況によりオンライン形式・ハイブリッド形式の場合あり。			
概要	【一般目標】救急・集中治療医学を中心とした急性期医療の内容と問題点を知る。救急・集中治療現場で出会う可能性が高い病態に適切に対処できるようになるために、緊急度、重症度の評価法および各種病態のメカニズムと診断、治療法について修得する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>緊急を要する病態や疾患の基本的知識を説明できる。</p> <p>救急医，集中治療医，救命救急センターの意義や役割を概説できる。</p> <p>救急初期診療（ER）の意義，位置づけ，役割と，診療内容について説明できる。</p> <p>集中治療室（ICU）の意義，位置づけ，役割と，診療内容について説明できる。</p> <p>災害医療（災害時保健医療，医療救護班，災害派遣医療チーム [Disaster Medical Assistance Team: DMAT, 等]，災害拠点病院，トリアージ，等）を説明できる。</p> <p>病院前救護（プレホスピタルケア），メディカルコントロール，救急医療システムに関して理解し，説明できる。</p> <p>終末期医療，ACP（アドバンスドケアプランニング），BSC（best supportive care），DNAR（do not attempt resuscitation），脳死，治療の差し控え，無益な治療について理解し，述べるができる。</p> <p>科学的根拠に基づいた医療とは何かを述べるができる。</p> <p>心肺停止の病態，症候，診断・鑑別，治療法を説明できる。</p> <p>ショック（血流分布異常性，循環血液量減少性，心原性，閉塞性）の病態，症候，診断，治療法を説明できる。</p> <p>急性循環不全の病態，症候，診断，治療法（ECMO，インペラ，IABP，人工ペースメーカー）を説明できる。</p> <p>多臓器不全・多臓器障害を説明できる。</p> <p>敗血症の原因疾患，病態，診断，治療法（初期蘇生と原因治療など）を説明できる。</p> <p>感染症の診断（微生物検査，画像検査を含む），治療法（抗微生物薬療法）を説明できる。</p> <p>播種性血管内凝固（disseminated intravascular coagulation: DIC）の基礎疾患，病態，症候，診断，治療法を説明できる。</p> <p>中枢神経救急（急性・慢性頭蓋内圧亢進，脳血管障害（脳出血，くも膜下出血，頭蓋内血腫，脳梗塞，一過性脳虚血発作））の病態，症候，診断，治療法を説明できる。</p> <p>急性呼吸不全（重症肺炎，急性呼吸窮迫症候群（acute respiratory distress syndrome: ARDS），間質性肺炎，肺血栓塞栓症，気胸）の病態，症候，診断，治療法（人工呼吸，V-V ECMO）を説明できる。</p> <p>急性循環不全の病態，症候，診断，治療法（V-A ECMO，インペラ，IABP，人工ペースメーカー）を説明できる。</p> <p>急性腎不全（急性腎障害）の病態，症候，診断，治療法（急性血液浄化）を説明できる。</p> <p>急性中毒（一酸化炭素，有機溶剤，重金属，ヒ素，パラコート，アルコール，向精神薬等）の病態，症候，診断，治療法を説明できる。</p> <p>熱傷の病態，症候，診断（面積計算），治療法を説明できる。</p>			

<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>環境要因による急性障害（熱中症，低体温症）の病態，症候，診断，治療法を説明できる。 放射線の特性（種類，性質，定量法，単位）と放射線被ばく障害の病態，症候（急性影響，晩発影響，胎児への影響），診断，治療法，予防法（被ばく低減の3原則，安全管理）を説明できる。 救急集中治療に必要な検査・治療手技（気管挿管，気管切開，胸腔ドレナージ，動脈ライン確保，中心静脈ルート確保，気管支鏡，等）の意義・方法・合併症を説明できる。</p>
<p>講義ユニットの到達目標</p>	<p>救急医学/集中治療医学で取り扱う主要な病態/疾患について、診断と治療法を説明できる。 救急医学/集中治療医学で取り扱う主な医療機器やデバイスの種類と原理を概説できる。 救急医療行政、災害医療や病院前診療の基本的考えと実際について説明できる</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>原則，全講義に出席すること。グランドルールに加え，病欠・忌引きを含め3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験，追試験とも）の受験資格を与えない。なお，出席は，出席状況把握システム（WEBの場合はWEBへのアクセス）と，講義終了時のミニテスト（提出時間と内容も考慮する），講義中の質疑応答により評価する。<b>出欠回数（受験資格の有無）の問い合わせ，出席不足の場合の受験希望には一切応じない。</b></p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標（上記）の達成度</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。試験の15分以上の遅刻は認めない。 本試験における合格基準は，絶対基準で60点とする。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>講義では積極的な姿勢が重要です。講義中に感じた疑問点は教員に積極的に質問し、復習に活かしてください。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【推奨する参考書等】 みんなの救命救急科 中外医学社 みんなの集中治療科 中外医学社 第5版 救急診療指針 へるす出版 集中治療医学 (株) Gakken 日本集中治療医学会 専門医テキスト第3版 真興交易 日本版敗血症診療ガイドライン2024 真興交易 JRC蘇生ガイドライン2020：医学書院 改訂第6版 外傷初期診療ガイドラインJATEC へるす出版 抗菌薬の考え方，使い方 ver. 5 中外医学社 臨床中毒学 第2版 医学書院</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/09/01(火)	3・4	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	救急集中治療医学 概論	救急集中治療医学	志馬 伸朗
2026/09/03(木)	5・6	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	急性呼吸不全／人工呼吸療法とECMO	救急集中治療医学	大下 慎一郎
2026/09/04(金)	5・6	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	生成AIと救急医療におけるデータサイエンス	客員教授等	後藤 匡啓
2026/09/04(金)	7・8	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	災害医療／DMAT	救急集中治療医学	大下 慎一郎
2026/09/07(月)	5・6	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	心肺蘇生	救急集中治療医学	志馬 伸朗
2026/09/11(金)	1・2	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	ショック／循環管理と循環補助	病院高度救命救急センター	太田 浩平
2026/09/11(金)	3・4	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	頭頸部外傷／脳死とドナー管理／神経集中治療	客員教授等	津村 龍
2026/09/14(月)	1・2	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	ドクターヘリ／放射線災害医療	原医研 放射線災害医療開発研究分野	廣橋 伸之
2026/09/14(月)	3・4	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	重症熱傷／環境異常	救急集中治療医学	大下 慎一郎
2026/09/14(月)	7・8	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	急性血液浄化／輸液療法／栄養療法	救急集中治療医学	石井 潤貴
2026/09/15(火)	1・2	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	敗血症と敗血症性ショック	救急集中治療医学	志馬 伸朗
2026/09/15(火)	5・6	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	集中治療医によるイノベーション普及の挑戦	客員教授等	高木 俊介
2026/09/24(木)	5・6	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	急性中毒	客員教授等	岩崎 泰昌
2026/09/24(木)	7・8	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	救急初期診療（ER）	客員教授等	井上 茂亮
2026/09/28(月)	1・2	全身性疾患制御学 (救急集中治療医学)	試験	救急集中治療医学	

講義ユニット名	小児	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	おかだ さとし 岡田 賢	所属	小児科学
講義ユニット コーディネーター	あさの たかき 浅野 孝基	所属	小児科学
授業方法	講義形式。スライドの提示、配布資料による実習、黒板書きの複写などDECSシステム以外の方法も用い、学生自身が頭と手を使い授業を完成させる。期間中、小児科的な思考方法のトレーニングとして、ミニ・テュートリアルも実施する。		
概要	小児科学の要諦は、小児の特徴である「成長」「発達」の過程を理解することにある。これを基礎に据えた上で、新生児期から思春期にかけて問題となる内科的疾患および周辺領域の疾患について、臓器別に系統立てて講義を進める。		
講義ユニットの 到達目標	<p>※ 全身の器官が対象となるため各器官の病態、診断、治療については、全目標項目の列挙はしない。各回の講義は下記のタイトルで行い、医学科学生に必要な臨床小児科学が漏れなく習得できるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎小児科学総論</li> <li>◎成長・発達障害</li> <li>◎小児保健</li> <li>◎新生児疾患</li> <li>◎代謝性疾患</li> <li>◎腎・泌尿器疾患</li> <li>◎神経疾患</li> <li>◎呼吸器・消化器疾患</li> <li>◎感染症</li> <li>◎新生児蘇生法、小児二次救命処置</li> <li>◎内分泌疾患</li> <li>◎免疫不全症</li> <li>◎リウマチ性疾患・膠原病</li> <li>◎血液疾患</li> <li>◎腫瘍性疾患</li> <li>◎造血幹細胞移植</li> <li>◎新生児蘇生法・小児二次救命処置</li> <li>◎アレルギー性疾患</li> <li>◎循環器疾患</li> </ul> <p>※ 本ユニット固有の到達目標は以下の通りである。 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。 主な先天性疾患を列挙できる。 新生児の生理的特徴を説明できる。 新生児仮死の病態を説明できる。 新生児マスキングを説明できる。 新生児黄疸の鑑別と治療を説明できる。 新生児期の呼吸障害の病因を列挙できる。 正常児・低出生体重児・病児の管理の基本を説明できる。 低出生体重児固有の疾患を概説できる。 乳幼児の生理機能の発達を説明できる。 乳幼児の正常な精神運動発達を説明できる。 乳幼児の保育法・栄養法の基本を概説できる。 乳幼児突然死症候群(sudden infant death syndrome &lt;SIDS&gt;)を説明できる。 小児の精神運動発達及び心身相関を説明できる。 小児の栄養上の問題点を列挙できる。 小児の免疫発達と感染症の関係を概説できる。 小児保健における予防接種の意義と内容を説明できる。</p>		

講義ユニットの到達目標	<p>成長に関わる主な異常（小児心身症を含む）を列挙できる。          児童虐待を概説できる。          小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。          神経発達障害群（自閉症スペクトラム障害&lt;ASD&gt;、注意欠如・多動障害&lt;ADHD&gt;、限局性学習障害、チック障害群）を列挙できる。          思春期発現の機序と性徴を説明できる。          思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。          移行期医療の現状と課題を説明できる。          体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。          乳幼児と小児の輸液療法を説明できる。          小児白血病と成人白血病の違いを説明できる。          脳性麻痺の病因、病型、症候とリハビリテーションを説明できる。          小児のけいれん性疾患（熱性けいれんなど）を説明できる。          クループ症候群と急性喉頭蓋炎の病因、診断と治療を説明できる。          細気管支炎の病因、病態と治療を説明できる。          気管支喘息（小児喘息を含む）の病態生理、診断と治療を説明できる。          新生児呼吸促進症候群の症候、病態、診断と治療を説明できる。          便秘症、乳児下痢症、腸重積症、鼠径ヘルニアなど小児消化器疾患について説明できる。          小児の腎・泌尿器疾患（特に、ネフローゼ症候群）について説明できる          神経芽腫を概説し、小児腹部固形腫瘍（腎芽腫、胚芽腫、奇形腫）との鑑別点を説明できる。          麻疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。          風疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。          水痘・带状疱疹の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。          単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核(球)症を説明できる。          川崎病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。          先天性免疫異常症の病態、診断と治療を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	授業中に課題を課し、出欠確認を行う。全授業数の2/3以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。 授業への参加態度も加味して、最終的な合否判定を行う。
予習・復習へのアドバイス	予習：先にアップロードされる授業資料に目を通す。その際に、教科書の該当項を学習しておくことより授業の理解が進む。 復習：教科書の該当項を復習し、授業での不明点を含め周辺知識も学習する。
推奨参考書	標準小児科学（第9版、医学書院）、小児科学（第11版、文光堂）、小児科学（第6版、医学書院）、Nelson Essentials of Pediatrics(9th)

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/09/01(火)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	小児科学総論 講義	小児科	岡田 賢
2026/09/02(水)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	感染症 講義	小児科	佐倉 文祥
2026/09/04(金)	1・2	全身性疾患制御学 (小児)	リウマチ・膠原病 講義	小児科	土居 岳彦
2026/09/07(月)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	成長・発達障害 講義	客員教授等	梶梅 あい子 (外部講師)
2026/09/14(月)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	免疫ゲノミクス 講義	客員教授等	小原 収 (客員教授)
2026/10/01(木)	3・4	全身性疾患制御学 (小児)	アレルギー 講義	客員教授等	川口 浩史 (客員教授)
2026/10/02(金)	3・4	全身性疾患制御学 (小児)	新生児 講義	小児科	早川 誠一
2026/10/05(月)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	血液1 講義	小児科	溝口 洋子
2026/10/06(火)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	神経1 講義	小児科	小林 良行
2026/10/07(水)	1・2	全身性疾患制御学 (小児)	新生児蘇生法・小児二次救命処置 講義	小児科	早川 誠一
2026/10/08(木)	3・4	全身性疾患制御学 (小児)	免疫不全症 講義	小児科	浅野 孝基
2026/10/14(水)	3・4	全身性疾患制御学 (小児)	呼吸器・消化器 講義	小児科	今中 雄介
2026/10/14(水)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	ミニ・チュートリアル1 講義	小児科	岡田 賢・土居 岳彦・佐倉 文祥
2026/10/15(木)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	循環器 講義	客員教授等	小西 央郎 (客員教授)
2026/10/16(金)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	内分泌1 講義	小児科	香川 礼子
2026/10/16(金)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	小児保健 講義	小児科	立石 裕一
2026/10/19(月)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	神経2 講義	小児科	小林 良行
2026/10/20(火)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	血液2 講義	小児科	下村 麻衣子
2026/10/21(水)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	内分泌2 講義	小児科	香川 礼子
2026/10/22(木)	1・2	全身性疾患制御学 (小児)	腫瘍性疾患 講義	小児科	唐川 修平
2026/10/23(金)	3・4	全身性疾患制御学 (小児)	代謝性疾患 講義	客員教授等	但馬 剛 (客員准教授)
2026/10/23(金)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	造血幹細胞移植 講義	小児科	溝口 洋子
2026/10/28(水)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	ミニ・チュートリアル2 発表	小児科	岡田 賢・土居 岳彦・立石 裕一
2026/10/28(水)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	腎・泌尿器 講義	客員教授等	郷田 聡 (客員教授)
2026/11/12(木)	5・6	全身性疾患制御学 (小児)	試験	小児科	浅野 孝基
2026/11/12(木)	7・8	全身性疾患制御学 (小児)	試験解説	小児科	岡田 賢、浅野 孝基

講義ユニット名	麻酔蘇生学	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	つつみ やすお 堤 保夫	所属	麻酔蘇生学
講義ユニット コーディネーター	ならさき そうし 檜崎 壮志	所属	麻酔蘇生学
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	周術期管理の基本である麻酔管理、および痛みの治療の基本について、それらの基礎的事項が概説できるようになることを目標とする。		
講義ユニットの 到達目標	<p>周術期の主な電解質異常の原因疾患、症候、治療を概説できる。</p> <p>動脈血ガス分析の結果を解釈し、異常への対応を概説できる。</p> <p>基本的バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍、血圧）の意義を説明できる。</p> <p>主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。</p> <p>周術期管理における事前のリスク評価を説明できる。</p> <p>周術期における主な薬剤の服薬管理（継続、中止等）の必要性和それに伴うリスクの基本を説明できる。</p> <p>周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。</p> <p>術後痛の管理を説明できる。</p> <p>集中治療室の役割を概説できる。</p> <p>麻酔の概念、種類と麻酔時の生体反応を説明できる。</p> <p>麻酔管理を安全に行うための術前評価を概説できる。</p> <p>筋弛緩薬の種類と使用上の原則を説明できる。</p> <p>吸入麻酔の適応、禁忌、方法、事故と合併症を概説できる。</p> <p>静脈麻酔の適応、禁忌、方法、事故と合併症を概説できる。</p> <p>気管挿管を含む各種の気道確保法を概説できる。</p> <p>周術期における呼吸管理を概説できる。</p> <p>局所麻酔、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔の適応、禁忌と合併症を概説できる。</p> <p>安全な麻酔のためのモニタリングの方法、重要な異常所見と対処法を概説できる。</p> <p>悪性高熱症や神経筋疾患患者における麻酔管理上の注意点を概説できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>広島大学医学部医学科専門科目のグランドルールに従う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席回数、やむを得ないものを含め3分の1を超えたものは試験の受験資格（本試験、追試験とも）を与えない（医学部細則第14条）。</li> <li>・ 出席確認の方法は、講義室の出席システムでの認証をもって行う。</li> <li>・ 講義開始から30分以上経過して出席した場合は欠席扱いとする。</li> <li>・ 出席状況（回数）は自分自身で把握、確認すること。教員や医学教育センター、学生支援Gは欠席回数の問い合わせには回答しない。</li> </ul>		
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）		
評価法	試験はマークシート形式で行う。 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。 本試験における合格基準は60点とする。		
予習・復習への アドバイス	予習：講義ユニットの到達目標に関連する指定教科書の該当ページを事前に読み、内容を把握しておく。 復習：講義で使用した資料を精読し、重要なポイントを整理・理解する。		
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 日本麻酔科学会 周術期管理チームテキスト		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/08(木)	5・6	全身性疾患制御学（麻酔）	麻酔科学概論	麻酔科	堤 保夫
2026/10/09(金)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	術前評価と各科の麻酔	麻酔科	横見 央
2026/10/13(火)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	基礎生理とモニタリング	麻酔科	檜崎 壮志
2026/10/19(月)	5・6	全身性疾患制御学（麻酔）	気道・呼吸管理と筋弛緩薬	麻酔科	檜崎 壮志
2026/10/20(火)	7・8	全身性疾患制御学（麻酔）	吸入麻酔の理論と臨床	麻酔科	大月 幸子
2026/10/27(火)	7・8	全身性疾患制御学（麻酔）	静脈麻酔の理論と臨床	麻酔科	石井 友美
2026/10/28(水)	1・2	全身性疾患制御学（麻酔）	局所麻酔の理論と臨床	麻酔科	加藤 貴大
2026/10/29(木)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	体液・電解質と輸液・輸血	麻酔科	神谷 諭史
2026/11/02(月)	7・8	全身性疾患制御学（麻酔）	術後管理と集中治療	麻酔科	神谷 諭史
2026/11/05(木)	1・2	全身性疾患制御学（麻酔）	導入・維持・覚醒と危機管理	麻酔科	三好 寛二
2026/11/05(木)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	麻酔の副作用・合併症	麻酔科	三好 寛二
2026/11/12(木)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	術後急性痛と慢性痛、ペインクリニック	麻酔科	中村 隆治
2026/11/20(金)	3・4	全身性疾患制御学（麻酔）	試験	麻酔科	堤 保夫

講義ユニット名	臨床腫瘍学・放射線腫瘍学		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	むらかみ ゆうじ 村上 祐司	所属	放射線腫瘍学	
講義ユニット コーディネーター	いまの のぶき 今野 伸樹	所属	放射線腫瘍学	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	臨床腫瘍学の基礎と臨床を総合的に講義する。まず放射線療法、薬物療法、手術療法、緩和医療と腫瘍病理学について総論を学習する。総論に引き続いて、放射線腫瘍学の各論として腫瘍性疾患の臨床を分野毎に詳説する。			
講義ユニットの 到達目標	腫瘍の症候を説明できる 腫瘍のグレード、ステージを概説できる 腫瘍の検査所見を説明できる。 腫瘍の画像所見や診断を説明できる。 腫瘍の病理所見や診断を説明できる。 放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 種々の正常組織の放射線感受性の違いを説明できる。 放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。 高精度放射線治療の種類、適応について説明できる。 腫瘍の放射線治療を概説できる。 脳腫瘍に対する放射線治療について説明できる。 頭頸部癌に対する放射線治療について説明できる。 肺癌に対する放射線治療について説明できる。 乳癌に対する放射線治療について説明できる 消化器癌に対する放射線治療について説明できる。 婦人科腫瘍に対する放射線治療について説明できる。 前立腺癌に対する放射線治療について説明できる。 悪性リンパ腫・造血器腫瘍に対する放射線治療について説明できる。 緩和照射について説明できる。 放射線治療による副作用と障害を説明できる。 現代医学における放射線の有効的活用について具体的に説明できる。 腫瘍の集学的治療を概説できる。 腫瘍の手術療法を概説できる。 腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）を概説できる。 腫瘍の生物学的療法を概説できる。 腫瘍における支持療法を概説できる。 腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。 腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。 腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる。 腫瘍における緩和ケアを概説できる。 緩和ケア（緩和ケアチーム、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを含む）を概説できる。 全人的苦痛を説明できる。 緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。 疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。 オピオイドの適応と課題を説明できる。 緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。			

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>出欠は、カードリーダーの履歴及びFormsの提出にて毎講義確認する。受講時には必ず学生証をカードリーダーにタッチし、当日中にFormsを提出すること。両方の出席を必須とし、どちらか一方しか出席が確認できない場合は欠席扱いとなる。</p> <p>遅刻・早退は認めない。講義開始から30分以上経過して出席した場合は欠席扱いとする。</p> <p>カードリーダー読取り後は講義室のモニターに学生番号が表示されるので、必ず各自で確認すること。カードあるいはカードリーダーの不具合等にて名前が確認できないときには当日中に学生支援グループに連絡すること。</p> <p>学生証を忘れた場合は、授業開始前に学生証忘れの用紙を提出すること。</p> <p>体調不良等でオンライン受講を希望するは授業開始1時間前までに放射線腫瘍学教室 (housya@hiroshima-u.ac.jp) へ連絡をすること。</p> <p>オンラインは同時双方向の受講のみ出席と認める。事前連絡無しの場合や授業時間外でのオンデマンド視聴は欠席扱いとなる。</p> <p>受験資格は広島大学医学部医学科グランドルールに従い、欠席回数が1/3を超えた者は本試・追試ともに受験資格は与えない。</p> <p><b>出席状況(回数)は自身で把握、確認すること。欠席回数の問い合わせには回答しない。</b></p>
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。 本試験における合格基準は60点とする。ただし59点以下が多数名の場合は考慮する。
予習・復習へのアドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】 がん・放射線療法 改訂第8版 (秀潤社)</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】 臨床放射線腫瘍学—最新知見に基づいた放射線治療の実践 (南江堂)</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/02(金)	5・6	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	がんの疫学・治療学総論	客員教授等	永田 靖
2026/10/05(月)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	緩和医療学	麻酔科	中村 隆治
2026/10/06(火)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	がん化学療法	がん化学療法科	岡本 渉
2026/10/09(金)	5・6	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	腫瘍外科 ～肺癌を中心に～	腫瘍外科	見前 隆洋
2026/10/09(金)	7・8	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	（仮）腫瘍病理学	病理診断科	（未定 ※病理診断科教授）
2026/10/14(水)	5・6	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	放射線腫瘍学総論	放射線治療科治療科	村上 祐司
2026/10/15(木)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	移植免疫学から見える腫瘍免疫学	血液・腫瘍内科	進藤 岳郎 先生
2026/10/15(木)	3・4	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論1	放射線治療科	今野 伸樹
2026/10/16(金)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論2	放射線治療科	村上 祐司
2026/10/20(火)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論3	放射線治療科	三好 章太
2026/10/21(水)	5・6	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論4	放射線治療科	村上 祐司
2026/10/23(金)	1・2	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論5	客員教授等	土井 歆子
2026/10/23(金)	7・8	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論6	客員教授等	権丈 雅浩
2026/10/28(水)	3・4	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	臨床放射線腫瘍学各論7	放射線治療科	西淵 いくの
2026/11/02(月)	3・4	全身性疾患制御学（臨床腫瘍学・放射線腫瘍学）	試験	放射線治療科	

講義ユニット名	感染症		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	おおげ ひろき	所属	感染症科	
	大毛 宏喜			
講義ユニット コーディネーター		所属		
		メール		
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>感染症はウイルス、細菌、寄生虫、原虫、リケッチアなどの起炎菌が体内の各臓器に感染して発症する。日常臨床においては、臨床医が必ず遭遇する疾患であり、正しい感染症の診断、治療についての知識を修得する必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、診療科や臓器に関係なく、感染症への理解を深めて、臨床医として必要な基本的知識を確立することを目指す。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>敗血症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。</p> <p>医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。</p> <p>薬剤耐性 (antimicrobial resistance &lt;AMR&gt;)、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌 (Methicillin-resistant Staphylococcus aureus &lt;MRSA&gt;)、バンコマイシン耐性腸球菌 (vancomycin-resistant Enterococci &lt;VRE&gt;)、基質特異性拡張型βラクタマーゼ (extended spectrum beta-lactamase &lt;ESBL&gt;) 産生 Gram 陰性桿菌、多剤耐性アシネトバクター属菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等) を概説できる。</p> <p>コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。</p> <p>コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。</p> <p>新興・再興感染症（中東呼吸器症候群 (Middle East respiratory syndrome &lt;MERS&gt;)、ジカ熱、劇症型 A 群レンサ球菌感染症等）、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。</p> <p>各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。</p> <p>ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。</p> <p>細菌感染症診断における直接塗抹、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる</p> <p>真菌感染症診断における直接塗抹、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査を説明できる。</p> <p>病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。</p> <p>抗菌薬適正使用 (antimicrobial stewardship &lt;AMS&gt;) を説明できる。</p> <p>予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。</p> <p>感染症法を概説できる。</p> <p>インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>ヒト免疫不全ウイルス &lt;HIV&gt; 感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。</p> <p>単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核 (球) 症を説明できる。</p> <p>サイトメガロウイルス &lt;CMV&gt; 感染症を説明できる。</p> <p>ヒト T 細胞白血病ウイルス (human T-cell leukemia virus type 1 &lt;HTLV-I&gt;) 感染症を説明できる。</p> <p>黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>A 群 β 溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。</p> <p>インフルエンザ (桿) 菌感染症と Moraxella catarrhalis 感染症を説明できる。</p> <p>緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>Clostridium difficile 感染症の症候と診断と治療を説明できる。</p>			

<p>講義ユニットの 到達目標</p>	<p>結核症、非結核性（非定型）抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。  マイコプラズマ感染症を説明できる。  レジオネラ感染症を説明できる。  リケッチア感染症を説明できる。  カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。  ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。  主な原虫感染症（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢）を説明できる。  急性・慢性腎盂腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。  性感染症の原因微生物を説明できる。  梅毒の症候と診断と治療を説明できる。  新型コロナウイルス感染症の症候と診断と治療を説明できる。  標準予防策、接触感染予防策を説明・実践できる。</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席確認方法は別途通知する。  3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験，追試験）の受験資格を与えない。  試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度  （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>MCQ形式にて試験を行う。  本試験における合格基準は基本的には絶対基準とするが、一定の条件を満たした時（得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超える場合）には相対基準を適用する。相対基準は、平均得点－(1～2)×標準偏差とする。</p>
<p>予習・復習への アドバイス</p>	<p>講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>【購入を推奨する参考書】  標準感染症学（医学書院）  Harrison's principles of Internal Medicine  ハリソン内科学（MEDSI）感染症</p>

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/21(水)	1・2	全身性疾患制御学（感染症）	感染症総論	感染症科	大毛 宏喜
2026/10/21(水)	3・4	全身性疾患制御学（感染症）	院内感染対策	感染制御部	森 美菜子
2026/10/22(木)	3・4	全身性疾患制御学（感染症）	口腔細菌と全身性疾患	口腔総合診療科	西 裕美
2026/10/26(月)	5・6	全身性疾患制御学（感染症）	敗血症と菌血症	救急集中治療科	志馬 伸朗
2026/10/27(火)	5・6	全身性疾患制御学（感染症）	小児感染症	感染症科	野村 俊仁
2026/11/02(月)	5・6	全身性疾患制御学（感染症）	呼吸器感染症	感染症科	大森 慶太郎
2026/11/06(金)	1・2	全身性疾患制御学（感染症）	輸入感染症とワクチン	トランスレーショナルリサーチセンター	繁本 憲文
2026/11/06(金)	3・4	全身性疾患制御学（感染症）	血液媒介性感染症	輸血部	藤井 輝久
2026/11/06(金)	7・8	全身性疾患制御学（感染症）	環境衛生微生物概論	IDEC国際連携機構	丸山 史人
2026/11/13(金)	7・8	全身性疾患制御学（感染症）	耳鼻咽喉科領域感染症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	堀部 裕一郎
2026/11/16(月)	7・8	全身性疾患制御学（感染症）	尿路感染症	泌尿器科	北野 弘之
2026/11/18(水)	5・6	全身性疾患制御学（感染症）	抗菌薬適正使用	感染制御部	久保 有子
2026/11/18(水)	7・8	全身性疾患制御学（感染症）	皮膚科感染症	皮膚科	森桶 聡
2026/11/19(木)	7・8	全身性疾患制御学（感染症）	感染症必修知識の確認	感染症科	北川 浩樹
2026/11/30(月)	3・4	全身性疾患制御学（感染症）	試験	感染症科	

講義ユニット名	小児外科	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	さえき いさむ 佐伯 勇	所属	小児外科
講義ユニット コーディネーター	さえき いさむ 佐伯 勇	所属	小児外科
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。各論は反転授業形式		
概要	<p>新生児、乳児、小児期に特有の外科的疾患、とくに、先天奇形、乳児以降の一般的外科疾患（腸重積、鼠径ヘルニア、虫垂炎）、胆道系疾患、悪性腫瘍について、疾患を理解し、手術適応と手術法の概略を習得する</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>小児外科学の意味、概念を理解する          いわゆる小児外科疾患とは何かを理解し、成人外科との違いを説明できる          小児外科のcommon disease（鼠径ヘルニア、停留精巣、虫垂炎など）、          肝胆道系疾患、新生児疾患、泌尿器疾患、消化器疾患、悪性腫瘍など          多彩な疾患群があることを理解し、各々の特徴的で重要な疾患に関して理解を深め          代表的疾患に関してはその特徴と治療法を説明できるようになる          小児悪性腫瘍に関しては、広島大学病院が小児がん拠点病院であることから          小児悪性腫瘍の治療に関して様々な小児固形腫瘍の鑑別及び治療法に関して学習を行う。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義中の入退室は認めない。その他医学科のグランドルールに準ずる。		
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）		
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は、60点とする。60点未満は再試験。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	【その他、学習に有用な参考書等】 標準小児外科学		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/10/07(水)	5・6	全身性疾患制御学 (小児外科)	小児外科 総論	小児外科	佐伯 勇
2026/10/15(木)	5・6	全身性疾患制御学 (小児外科)	小児外科 各論 (1)	小児外科	佐伯 勇
2026/10/30(金)	3・4	全身性疾患制御学 (小児外科)	小児外科 各論 (2)	小児外科	佐伯 勇
2026/11/16(月)	3・4	全身性疾患制御学 (小児外科)	試験	小児外科	佐伯 勇

講義ユニット名	地域医療	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	まつもと まさとし 松本 正俊	所属	地域医療システム学
講義ユニット コーディネーター	まつもと まさとし 松本 正俊	所属	地域医療システム学
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。		
概要	地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける。		
講義ユニットの 到達目標	<p>地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。</p> <p>医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。</p> <p>地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。</p> <p>かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。</p> <p>地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。</p> <p>地域医療に積極的に参加・貢献する。</p> <p>経済的側面や制度的側面をふまえた上で、医療現場の実践を評価できる。</p> <p>在宅療養と入院または施設入所との関係について総合的な考察ができる。</p> <p>在宅医療の在り方、今後の必要性と課題を概説できる。</p> <p>在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。</p> <p>褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。</p> <p>在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。</p> <p>介護の定義と種類を説明できる。</p> <p>日常生活動作&lt;ADL&gt;（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。</p> <p>地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>学生証による出席システム、およびFormsのミニテストへのオンライン回答をもって出席とみなす。オンライン回答は授業終了後1時間以内に行うこと。制限時間までにオンライン回答しなかった場合も欠席と見なす。「オンライン回答が締め切りを1分過ぎた」といった申し出がよくあるが、これらは一切認めない。</p>		
評価項目	地域医療に関する理解を確認する。		
評価法	毎回のミニテストの結果と授業態度で評価する。		
予習・復習への アドバイス	予習は不要。復習は講義資料および以下の参考書が良いと思われる。		
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>地域医療学入門 日本医学教育学会/全国地域医療教育協議会監修 岡崎仁昭/松本正俊責任編集 診断と治療社</p>		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/11/04(水)	7・8	全身性疾患制御学 (地域医療)	プライマリケア、地域包括ケア、感染症対策	地域医療	柿本 聖樹
2026/11/17(火)	3・4	全身性疾患制御学 (地域医療)	医師需給と医師偏在	地域医療	松本 正俊
2026/11/17(火)	5・6	全身性疾患制御学 (地域医療)	地域医療とプライマリケア	客員教授等	川本 龍一

講義ユニット名	漢方医学	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	おがわ けいこ	所属	漢方診療センター
	小川 恵子		
講義ユニット コーディネーター	はまなみ よしと	所属	漢方診療センター
	濱浪 嘉登		
授業方法	スライドによる系統講義		
概要	日本の伝統医学である漢方の基礎を理解し、臨床に応用できるよう知識を身につける。		
講義ユニットの 到達目標	漢方医学の特徴や、主な漢方薬の適応、薬理作用を概説できる。 東洋・西洋医学の診断、および治療体系の相違を概説できる。 漢方薬の効能を科学的に概説できる。 気血水・八綱・五臓・六病位・四診・方証相対の概念を概説できる。 漢方薬の作用機序・副作用等を概説できる。 鍼灸治療の特徴と適応を概説できる。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義開始30分以内の出席システムでのカード認証をもって出席とする。学生証を紛失または忘れた場合は学生支援室にある講義出席届出票を受け取り、必ず講義前に担当教員に提出する。グランドルールに加え、病欠・忌引きを含め3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験、再試験等）の受験資格を与えない。出欠回数（受験資格の有無）の問い合わせ、出席不足の場合の受験希望には一切応じない。		
評価項目	漢方の概念理解と漢方薬に関する基礎知識が一定レベルに達していること		
評価法	医師国家試験に準じたMCQ形式にて試験を行う。試験の15分以上の遅刻は認めない。本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で60点とするが、得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超えた場合には平均点-1.5×標準偏差を合格基準とする。		
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。		
推奨参考書	1. 基本がわかる 漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会 2. Kampo Medicine 経方理論への第一歩 単行本 - 2020/7/21 全日本病院出版会		

日付	時限	科目（ユニット）名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/11/05(木)	7・8	全身性疾患制御学 (漢方医学)	漢方医学概論/漢方薬のエビデンス1	漢方診療センター/ 医学教育センター	小川 恵子/蓮沼 直子
2026/11/17(火)	1・2	全身性疾患制御学 (漢方医学)	漢方医学の歴史/病因・病態把握（気 血水と八綱）	漢方診療センター	小川 恵子
2026/11/17(火)	7・8	全身性疾患制御学 (漢方医学)	診断方法（四診）と治療法則	漢方診療センター	河原 章浩
2026/11/18(水)	3・4	全身性疾患制御学 (漢方医学)	漢方薬のエビデンス2	客員教授等	有光 潤介
2026/11/19(木)	3・4	全身性疾患制御学 (漢方医学)	漢方処方と生薬	客員教授等	笛木 司
2026/11/19(木)	5・6	全身性疾患制御学 (漢方医学)	鍼灸総論と臨床応用	客員教授等	宮川 浩也
2026/11/27(金)	3・4	全身性疾患制御学 (漢方医学)	試験	漢方診療センター	河原 章浩

授業科目名	社会医学 (Social medicine)		
対象学年	3年生	単位	11単位
科目責任者	ふくま しんご 福間 真悟	所属	疫学・疾病制御学
科目 コーディネーター	ふくま しんご 福間 真悟	所属	疫学・疾病制御学
授業方法	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
授業の概要	<p>本科目は以下の3つの講義ユニットで構成される。</p> <p>1) 衛生学 (福間真悟教授) 2) 公衆衛生学 (久保達彦教授) 3) 法医学 (奈女良昭教授)</p> <p>社会医学分野に関する知識を習得し、実習を行う。</p>		
授業の目標	各ユニットのシラバスを参照のこと。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと。		
評価項目	到達目標の達成（基本的理解と知識の応用）。 ユニット毎に設定された成績評価条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件） に十分に留意して履修すること。		
評価法	試験はユニットごとに行う。試験形式については各ユニットのシラバスを参照のこと。		
成績評価の基準	<p>1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべてのユニットを取得する必要があります。</p> <p>2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度には衛生学・公衆衛生学・法医学のすべてのユニットを再度取得する必要があります。</p> <p>3. ユニットごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。</p>		
予習・復習への アドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		

講義ユニット名	衛生学	所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	ふくま しんご 福間 真悟	所属	疫学・疾病制御学
講義ユニット コーディネーター	すぎやま あや 杉山 文	所属	疫学・疾病制御学
授業方法	<p>講義および演習。 各講義についてレポート提出。筆記試験を2回に分けて実施。 実習については、クラスの学生をグループに分け行う。 実習終了後、発表会。実習報告書の提出。</p>		
概要	<p>【講義および演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健統計・健康水準・医学研究デザイン等を習得する。</li> <li>○疫学の基本を理解し、その疫学方法論を習得する。</li> <li>○感染症発生時の疫学的対処を実例に基づいて提示し、応用力を培う。</li> <li>○スクリーニングの理論を理解する。</li> <li>○種々の慢性疾患の病態の把握や制御方法に関する知識を習得する。</li> <li>○国内外の疫学研究、臨床研究について学ぶ。</li> <li>○医学統計学を学ぶ。</li> <li>○臨床試験について学ぶ。</li> <li>○医療経済学について学ぶ。</li> <li>○データサイエンスについて学ぶ。</li> </ul> <p>【実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実データを用いた臨床疫学実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ毎にテーマを設定し、サンプルデータを解析する。</li> <li>○実習発表会を公開で行う。</li> <li>○実習報告書を作成する。</li> </ul> </li> <li>2. EBM実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>○論文の情報収集方法、論文の読み方（批判的吟味）について実習する。</li> <li>○論文の活用や臨床へ適用についてディスカッションする。</li> </ul> </li> <li>3. 行動経済学実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>○行動経済学について学ぶ。</li> <li>○グループワーク、発表会</li> </ul> </li> </ol>		
講義ユニットの 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。</li> <li>○ 保健、医療に関する国際的課題と日本の課題を理解し、説明できる。</li> <li>○ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。</li> <li>○ 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。</li> <li>○ データの適切な要約方法（代表値、広がり、グラフ表現）を説明できる。</li> <li>○ 基本的な有意差検定の種類と仮説検定のしくみを説明できる。</li> <li>○ 根拠に基づいた医療&lt;EBM&gt;の5つのステップを列挙できる。</li> <li>○ Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome &lt;PICO (PECO)&gt;を用いた問題の定式化ができる。</li> <li>○ 研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。</li> <li>○ 医学研究に必要なサンプルサイズを説明できる。</li> <li>○ データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。</li> <li>○ 得られた情報の批判的吟味ができる。</li> <li>○ がん検診の推奨の強さを説明できる。</li> <li>○ 人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（国際疾病分類（International Classification of Diseases &lt;ICD&gt;）等）を説明できる。</li> <li>○ 平均寿命、健康寿命を説明できる。</li> <li>○ 罹患率と発生割合の違いを説明できる。</li> </ul>		

<p>講義ユニットの 到達目標</p>	<p>○ 疫学とその応用（疫学の概念、疫学指標（リスク比、リスク差、オッズ比）とその比較（年齢調整率、標準化死亡率(standardized mortality ratio &lt;SMR&gt;))、バイアス・交絡とその制御)を説明できる。</p> <p>○ 予防医学（一次、二次、三次予防）と健康保持増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導）を概説できる。</p> <p>○ 医療における費用対効果分析を説明できる。 ○ 感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。 ○ 予防接種の意義と現状を説明できる。</p> <p>○ 世界の保健・医療問題（母子保健、感染症、非感染性疾患(non-communicable diseases &lt;NCD&gt;)、UHC (Universal Health Coverage)、保健システム（医療制度）、保健関連SDG (Sustainable Development Goals))を概説できる。</p> <p>○ 臨床研究、臨床試験、治験を概説できる。 ○ ワクチンによるウイルス感染症予防の原理と問題点を説明できる。</p> <p>○ 臨床検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率（事前確率）・検査後確率（事後確率）、尤度比、receiver operating characteristic &lt;ROC&gt;曲線）と判定基準（基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値）を説明できる。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの関連する項目</p>
<p>講義日程</p>	<p>別紙日程表を参照のこと</p>
<p>出席の取り扱い</p>	<p>講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。出席回数の確認方法については授業時にお知らせする。実習については原則全ての出席を試験の受験要件とする。以上の条件を満たさない場合は第2回試験の受験資格を失い、第1回試験の結果は無効となる。</p>
<p>評価項目</p>	<p>到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）</p>
<p>評価法</p>	<p>試験は2回行う。出題形式はMCQ形式と記述形式の併用とする。 筆記試験における合格基準は次の1)～3)をすべて満たすことを原則とする：1) 第1回試験が50点以上、2) 第2回試験が50点以上、3) 第1回試験と第2回試験の平均が60点以上。ただし、平均点・偏差値を考慮して総合的に最終判断する。 衛生学の成績評価は、下記について総合的に判定する。 ○講義及び実習の出席状況ならびに授業態度。 ○各講義のレポート(Forms)、演習レポートの提出状況および内容。 ○筆記試験の成績。 ○実習発表の内容、実習報告書の提出状況と内容。 【履修上の注意】 ・他の学生の受講や授業の進行を阻害する行動を取るものや、著しく不適切な態度をとるものについては、受講を制限する場合がある。 ・講義・実習を欠席する場合は、その理由と共に事前に申し出ること。 ・遅刻については、原則、欠席と同様の取り扱いをする。</p>

履修上の注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衛生学・公衆衛生学の領域のコアカリキュラムに従った知識・技能の習得にとどまらず、医学研究、臨床研究を行う際に必要な疫学基礎・実践・方法論の講義、演習を通じ、疾病制御をめざした研究の実施方法や思考過程を学ぶこと。</li> <li>○ 講義・実習の内容および順序は、変更する場合がありますので留意すること。</li> <li>○ 変更の都度、「もみじ」により連絡をする。</li> <li>○ 講義の内容や演習の内容に関する質問は、いつでも受付けます。</li> </ul>
予習・復習への アドバイス	○講義資料をもとに復習すること。
推奨参考書	参考書などは授業の際に提示する。

講義ユニット名	公衆衛生学	所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	くぼ たつひこ 久保 達彦	所属	公衆衛生学
講義ユニット コーディネーター	ゆみや ゆい 弓屋 結	所属	公衆衛生学
授業方法	講義(ワークショップ等含む)及び実習 ・ 講義について、学外講師による講義については特に積極的な参加を求める。 ・ ワークショップ、小レポートは講義中に適宜実施する。 ・ 実習については成果発表に加え実習班内でのチームワークへの貢献を評価する。		
概要	医師法第一条において医師の職務は”医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。”と規定されている。医師の職務に位置付けられている公衆衛生とは何かについて、本講座では講義と実習を通して理解を深めていく。本講座における公衆衛生の定義は「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術」(Winslow)とする。		
講義ユニットの 到達目標	公衆衛生の定義を説明できる。 健康(健康の定義)、障害と疾病の概念と社会環境(機能障害、活動制限、参加制約、生活の質<QOL>)を説明できる。 社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係(健康の社会的決定要因(social determinant of health))を概説できる。 仕事と健康、環境と適応、生体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全が健康と生活に与える影響を概説できる。 各ライフステージの健康問題(母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健)を説明できる。 医師法、医療法等の医療関連法規を概説できる。 医療計画(医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等)及び地域医療構想を説明できる。 地域包括ケアシステム の概念を理解し、地域における、保健(母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健)・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間(行政を含む)の連携の必要性を説明できる。 在宅医療の在り方、今後の必要性和課題を概説できる。 日本における社会保障制度と医療経済(国民医療費の収支と将来予測)を説明できる。 医療保険、介護保険及び公費医療を説明できる。 障害者福祉・精神保健医療福祉の現状と制度を説明できる。 産業保健(労働基準法等の労働関係法規を含む)を概説できる。 世界の保健・医療問題(母子保健、感染症、非感染性疾患(non-communicable diseases <NCD>)、UHC(Universal Health Coverage)、保健システム(医療制度)、保健関連SDG(Sustainable Development Goals))を概説できる。 医師が行う公衆衛生活動について事例を踏まえて説明できる。		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は試験の受験資格を与えない。遅刻は欠席扱いとする。自らの出席状況は学生自身で管理・把握すること。詳細は別途、講座で定める「公衆衛生学UNITの履修ルール」に従う。		
評価項目	到達目標の達成度(基本的理解と知識の応用)		

<p>評価法</p>	<p>MCQ形式を基本とし、講義の状況に応じて記述形式の併用にて試験を行う。  本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で6割とするが、得点分布を考慮する。  成績評価は、下記について総合的に判定する。  ○講義及び実習への参加態度  ○筆記試験の成績  ○演習レポート提出状況  ○実習発表の内容、実習報告書の提出。【重要事項】  1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を取得することが必要である。  2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度に衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を再度取得することが必要である。  3. 科目ごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。  4. 学外講師による講義はとりわけ積極的な受講態度で臨むこと。</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努める。</p>
<p>履修上の注意 アドバイス</p>	<p>各自が日常的に医療と社会及び自己の役割等について実体論により熟考すること。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>1) 財団法人厚生統計協会：国民衛生の動向  2) MEDIC MEIDIA：公衆衛生がみえる</p>

講義ユニット名	法医学	所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	なめら あきら 奈女良 昭	所属	法医学
講義ユニット コーディネーター	はらだ たかひろ 原田 崇弘	所属	死因究明教育研究センター
授業方法	講義形式でスライドを多用する。法中毒学領域では実習室での実習、法医病理学領域では学生を8グループに分け、各グループに症例を割り当てた上でcase presentationを行い、各症例の法医診断を発表する。各グループはあらかじめレジメを作成し、配布しておくこと。なお、症例は全て実際の司法解剖事例であるので、資料の閲覧は講義室内で行い、資料の持ち出し・コピーは厳禁する。		
概要	<p>「社会医学」では、衛生学・公衆衛生学・法医学の三研究室が、それぞれの分担部分を講義し、演習および実習を行う。法医学は、医と法との多数の接点において、医学的見地からこれらに対し公正に判断を下し、基本的人権を擁護するなかで、民主的法治国家の安全に寄与していく学問であり、臨床医学の進歩、および社会制度の変遷にもないその対象範囲を拡張し、新たな問題点を発掘し、これらの問題に積極的に関わり得られた新知見を基に新たな科学的な提言を行っていくことが求められている。すなわち、法医学が健全に機能している社会こそが民主主義国家である。社会医学としての法医学の重要性を認識した上で、法医学を基礎的理論と応用医学的側面の両面より学び、医師としての実際的な活動に直ちに活用し得る知識の習得を目標とする。また、医師の基礎的教養である法医学の知識を習得することを目標とする。具体的には死亡診断書を適切に作成し得る知識の習得を目標とする。講義では各領域の専門家に講義を依頼し、最新の知見の教授を行う。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>医師の法的義務を列举し、例示できる。  医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。  医師法、医療法等の医療関連法規を概説できる。  医療関連法規に定められた医師の義務を列举できる。  医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携を説明できる。  感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。  植物状態、脳死、心臓死及び脳死判定を説明できる。  異状死・異状死体の取り扱いと死体検案を説明できる。  死亡診断書と死体検案書を作成できる。  個人識別の方法を説明できる。  病理解剖、法医解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖）を説明できる。  診断書、検案書、証明書（診断書、出生証明書、死産証書、死胎検案書、死亡診断書、死体検案書）を説明できる。  薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列举できる。  薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。  薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。  頭部外傷の分類を説明できる。  急性硬膜外・硬膜下血腫及び慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。  中毒患者の検査と起因物質の分析を概説できる。  一酸化炭素中毒の発生機序、症候、診断と治療法を説明できる。  有機リン剤、有機塩素剤と有機溶剤による中毒の機序、診断と治療を説明できる。  重金属、青酸、ヒ素、パラコート、自然毒による中毒を概説できる。  アルコール、覚醒剤・麻薬・大麻などの乱用薬物による中毒を説明できる。  医薬品による中毒を説明できる。  児童虐待を概説できる。  死の概念と定義や生物学的な個体の死を説明できる。  植物状態と脳死の違いを説明できる。  内因死と外因死について違いと内容を説明できる。  診療関連死を説明できる。</p>		

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	広島大学医学部細則第14条4に基づき、授業実施時数の3分の2以上の出席（出席カードによって確認する）を満たさない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験を認めない。ただし、所定の手続きを経て欠席した場合で、その欠席がやむを得ない事由によるものと認められるときは、担当教員の判断によるものとする。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準点は60点とする。ただし、素点にレポート等で加点する場合もある。 【重要事項】 1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を取得することが必要となる。 2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度に衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を再度取得することが必要である。 3. 科目ごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。
予習・復習へのアドバイス	講義後に該当項目を教科書等で再確認し、知識の定着を図ること。
履修上の注意 アドバイス	受講者に対しては、積極的に講義に参画し、講義中に疑問点の残らないように努めることを希望する。
推奨参考書	NEWエッセンシャル法医学（医歯薬出版） 長尾正崇，高取健彦，岩佐峰雄，法医学の立場からみた「臓器の移植に関する法律」の問題点．現代医学 49：29-32，2001. Nagao M, Takatori T, Maeno Y, Isobe I, Koyama H, Tsuchimochi T. Development of forensic diagnosis of acute sarin poisoning. Legal Med 5: S34-S40, 2003. 長尾正崇 法医学からみた児童虐待．小児科 45：2213-2219，2004.

日付	時限	科目(ユニット)名	授業内容	担当診療科・講座	担当者
2026/12/11(金)	1・2	社会医学(法医学)	法医学総論・死因論	法医学	原田 崇弘
2026/12/11(金)	3・4	社会医学(法医学)	死体現象	法医学	原田 崇弘
2026/12/14(月)	1・2	社会医学(法医学)	損傷1	法医学	原田 崇弘
2026/12/14(月)	3・4	社会医学(法医学)	損傷2	法医学	原田 崇弘
2026/12/14(月)	5・6	社会医学(法医学)	法中毒1	法医学	奈女良 昭
2026/12/14(月)	7・8	社会医学(法医学)	法中毒2	法医学	奈女良 昭
2026/12/16(水)	5・6	社会医学(法医学)	アルコールの法医学	客員教授等	広工大 吉本名誉教授
2026/12/16(水)	7・8	社会医学(法医学)	アルコールの法医学	客員教授等	広工大 吉本名誉教授
2026/12/21(月)	1・2	社会医学(法医学)	窒息1	法医学	原田 崇弘
2026/12/21(月)	3・4	社会医学(法医学)	窒息2	法医学	原田 崇弘
2026/12/24(木)	5・6	社会医学(法医学)	法中毒3	法医学	奈女良 昭
2026/12/24(木)	7・8	社会医学(法医学)	死亡診断書・異常環境における死・嬰兒殺	法医学	原田 崇弘
2026/12/25(金)	1・2	社会医学(法医学実習)	法医学実習	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2026/12/25(金)	3・4	社会医学(法医学実習)	法医学実習	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/01/07(木)	5・6	社会医学(法医学)	法歯学・DNA分析	客員教授等	神齒大 山田教授
2027/01/07(木)	7・8	社会医学(法医学)	法歯学・DNA分析	客員教授等	神齒大 山田教授
2027/01/25(月)	5・6	社会医学(法医学)	児童虐待・DV	客員教授等	杏林大 佐藤名誉教授
2027/01/25(月)	7・8	社会医学(法医学)	児童虐待・DV	客員教授等	杏林大 佐藤名誉教授
2027/01/26(火)	1・2	社会医学(法医学)	神経剤の毒性機構	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/01/26(火)	3・4	社会医学(法医学実習)	症例検討実習①	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/01/27(水)	1・2	社会医学(法医学実習)	症例検討実習②	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/01/27(水)	3・4	社会医学(法医学実習)	症例検討実習③	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/01/28(木)	5・6	社会医学(法医学)	血液型・法医学的個人識別とその応用	客員教授等	島根大 竹下教授
2027/01/28(木)	7・8	社会医学(法医学)	血液型・法医学的個人識別とその応用	客員教授等	島根大 竹下教授
2027/02/02(火)	1・2	社会医学(法医学実習)	症例検討実習④	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/02/02(火)	3・4	社会医学(法医学実習)	症例検討実習⑤	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/02/03(水)	5・6	社会医学(法医学実習)	症例検討実習⑥	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/02/03(水)	7・8	社会医学(法医学実習)	症例検討実習⑦	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/02/04(木)	1・2	社会医学(法医学実習)	症例検討実習⑧	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭
2027/02/04(木)	3・4	社会医学(法医学実習)	症例検討実習⑨	法医学	原田 崇弘/奈女良 昭

4 ~ 6 年 次 生

授業科目名	生命・医療倫理学II (Medical Ethics)		
対象学年	4年生	単位	1単位
科目責任者	ひのい たかお 檜井 孝夫	所属	遺伝子診療科
授業方法	講義中心、グループ討論		
概要	医師になる者にとって倫理的側面の必須な知識と考え方を学ぶ。		
到達目標	医療と医学における倫理の重要性を理解するために、具体的な医学・医療における倫理的な問題を指摘すると同時にそれらを解決する能力を身につける。		
講義日程	第1回 オリエンテーション 檜井 第2・3回 出生前診断・着床前診断についてのワークショップ 山崎・阿部 第4・5回 医療過誤問題 弁護士の視点から 医師の視点から 酒井・岸本 第6回 やさしい日本語 蓮沼 第7・8回 EBM総論 ワークショップ 南郷・蓮沼		
評価項目	授業への参加態度、グループ討論の態度 レポートの内容、課題の提出		
評価法	提出したレポートの内容で評価する。医師となるのに必要な素養を見に付けるための授業であるので、録画の視聴を含めて、原則、全授業を出席することを単位認定の条件とする。出席は授業内で行う出席アンケートで確認する。		
履修上の注意 アドバイス	学外からの非常勤講師の授業が多いので、礼儀には気を付けること。 医学生としての姿勢を問う授業であるので、積極的に取り組むこと。		
予習・復習への アドバイス	生命医療倫理学は、医師になるために必須の素養を身につけるための授業である。興味と気概を持って授業に臨むこと。授業で学んだ内容について、自らネットを使って、知識を補充することが望ましい		
推奨参考書	特になし 毎回の授業の講義プリント Teams、moodleの授業資料		

授業科目名	医学研究実習 (Practice for Medical Research)		
対象学年	4年生	単位	10単位
科目責任者	やすだ ともはる 保田 朋波流	所属	免疫学
	もりわき けんた 森脇 健太	所属	医化学
	みい しんじ 三井 伸二	所属	分子病理学
	あいざわ ひでのり 相澤 秀紀	所属	神経生物学
	たなか あきお 田中 暁生	所属	皮膚科学
	はしもと こういち 橋本 浩一	所属	神経生理学
概要	<p>医学研究実習は、学生が医学研究を体験し、これによって基盤医学研究とは何であるかを理解し、研究マインドのある医師・研究者になることを目的とする。この場合の基盤医学研究とは、細胞・動物および各種生体材料等を用いた実験、数理モデル・医工連携研究等、および人の集団を観察の対象とする社会医学研究等を指す。これらの取り組みを通して、研究指導者とコミュニケーションをとり、実験の背景を知り、実験計画の立案・実験手技の実践を行う。優れた結果の有無に関わらず、研究の過程を体験することが重要である。診療の見学等の臨床の場に出ることは、本実習の基盤医学研究の範囲には含まない。</p>		
授業方法	<p>※事前に「医学研究実習の手引き」を参照し、配属先の研究室を選択する。</p> <p>① 学生は、医学科ならびに原医研を含む広島大学の研究室に所属して研究を行う。基礎社会医学、臨床医学、原医研の研究室に所属することができるが、臨床の場に出るのではなく、医学研究を行う。</p> <p>② 教員の紹介によって上記以外の国内外の研究室に派遣されて研究することができる。公開されている派遣可能な研究室の情報をもとに、教員と相談して行き先を探す。学生が自分で行き先を探すことも可能であるが、その場合でも広島大学の教員を通して派遣されるという形式とする。</p> <p>③ 学外への派遣の場合には、派遣先研究室、派遣する教員と連絡をとり、準備を整えておく。学外派遣先が決定し次第、派遣先研究室の研究内容、志願理由を提出し事前確認を受ける。</p> <p>④ 国内外の研究室への派遣については、旅費、滞在費は原則として自己負担とする。実習費用の手当（教育関連予算等からの援助）については消耗品代の一部に限って支出する。</p> <p>自分の行った研究について、ポスター発表および口頭発表を行う。また、報告書を作成する。</p>		
到達目標	<p>各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究）に参加する。  実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。  生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。  研究課題解決に向けて実験・解析を実践し、得られた結果を科学的に考察できる。  患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。  抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学等）に参加することができる。  科学研究に必要な知識・技術を身につける。</p>		
講義日程	4月～7月のすべての授業時間をあてる。具体的なスケジュールは所属研究室と相談のこと。		
評価項目 評価法	受入研究室の教員、あるいは国内外の研究室に派遣した教員の判断に基づき実験ノートならびに月末のレポート、発表会での発表、報告書とともに実習中の態度などを合わせて総合的に成績を評価する。		
予習・復習への アドバイス	配属先および派遣担当の指導教員と相談し、研究論文を読んで研究背景や実験内容の理解に努める。特に学外派遣の学生は実験手技のトレーニングを事前に受けておく事が望ましい。実験を教えてもらう際にはわからない点を質問したり自分で調べるなどして、実験内容や目的を完全に理解したうえで実行することが重要である。		
推奨参考書	各研究室の指定による。必要に応じて、基礎医学の教科書をもう一度ひもとく。実習中に英文の論文を読むことを推奨する。		

授業科目名	症候診断治療学 PBL(problem-based learning) tutorial		
対象学年	4年生	単位	9単位
科目責任者	はずめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はずめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	<p>小グループによる学生の自主学習を行う。1クールを4日間とし計6クール(予定)を行う。学生は8～9名のグループをつくる。</p> <p>基本的な流れ 各クール初日に症例シナリオの前半を受け取り、その症例の問題解決をどのように行えばよいかを討論する。2日目夕方に中間発表を行う。3日目にシナリオ後半を受け取り、症例の問題解決の方法を討論して考える。4日目夕方に最終発表を行う。中間発表の際には、教員がチューターとして同席し、必要に応じて討論の方向にアドバイスを与える。 シナリオにより上記と異なる流れとなる。各クールの初日の指示に従うこと。</p>		
概要	<p>従来医学部では講義中心の教育が行われ、知識を伝授することに重きがおかれてきた。しかし、医師の仕事は生涯が学習であり、受動的に知識を受けるのみでは、主体的な学習姿勢を養うことはできない。本科目では講義は少数が限定的にあるのみで、授業は学生の主体的な学習行動を中心として構成させる。学生は、目の前にある課題(症例)の問題点を自らみつけ、その解決法を考えるなかで学習し(problem-based learning: PBL)、自分が何を知っていて何を知らないか、何を知べきかを常に自分で考える習慣を身につける。また、臨床推論に即した思考過程を通じて、知識を統合・構築・応用する能力を身につける。</p>		
到達目標	<p>学べきことを自ら考えて学ぶ主体的な学習を行うことができる。</p> <p>解決すべき問題点を発見し自己学習によって解決していく問題基盤型の学習法を行うことができる。</p> <p>必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。</p> <p>課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。</p> <p>自分の持つ知識をネットワーク化して整理し、応用することができる。</p> <p>適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。</p> <p>他者とのコミュニケーション、相互理解、協力、共働をすることができる。</p> <p>患者の症候から症候学、診断学の知識を用いて疾患を診断し適切な治療方針を立てることができる。</p> <p>課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。</p> <p>講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。</p> <p>必要な情報が検索できる。また、その情報の信頼性、妥当性についても検討できる。</p> <p>生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。</p> <p>問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。</p> <p>情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを説明できる。</p> <p>診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを説明できる。</p> <p>診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。</p> <p>診断過誤の原因とその防止法を説明できる。</p> <p>状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることが説明できる。</p> <p>治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や摺り合わせをすることができる。</p> <p>コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。</p> <p>基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。</p>		

到達目標	<p>得られた情報を基に、その症例の問題点を抽出できる。</p> <p>病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。</p> <p>人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈で説明することができる。</p> <p>主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。</p> <p>臨床疫学的指標（感度・特異度、尤度比等）を考慮して、必要十分な検査を挙げ、症例における検査結果の臨床的意義を解釈できる。</p> <p>患者の症候から症候学、診断学の知識を用いて疾患を診断し適切な治療方針を立てることができる。</p> <p>科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。</p>
講義日程	別途通知する
出席の取り扱い	<p>本科目は実習として扱う。したがって、すべての日程に出席すること。各クール1日目と3日目のコアタイム, 2日目と4日目の朝のグループ討論, 2日目と4日目の夕方の発表会などでは出席をとる。</p> <p>出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが講義中のプロダクトの提出、その他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。</p>
評価項目	コアタイムの際の討論への貢献度、発表プロダクト、各クールごとに提出する症候に関する個人レポートを評価する。期間中の態度も評価する。
評価法	独立した試験は行わない。上記評価項目での得点を全クール分総合し合否を判定する。出席、プロダクトの内容などにより補習を行うことがある。対象者はこれに参加しないと単位が与えられない。
予習・復習へのアドバイス	クールごとに提出する症候に関するレポートは、単に情報をまとめるだけでなく、論理的に組み立て、臨床推論のプロセスや根拠を明確に示すよう心がけてください。
推奨参考書	

授業科目名	臨床実習入門プログラム (Introduction to Clinical Clerkship)		
対象学年	4年生	単位	4単位
科目責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	全員を対象とした講義形式および小グループ単位での実習形式を併用する。実習では、指導者のもとで互いに診察実技を行い、繰り返し練習することで手技の修得をめざす。		
概要	臨床実習を行うにあたっては、単に疾患についての知識をもっているのみではなく、患者さんに接する際にとるべき態度や、医療面接や身体診察を正しく行う技能も身に付けておく必要がある。本プログラムでは、診療の現場に出るにあたって必要な態度、知識、技能を総合的に得ることを目標とする。		
到達目標	<p>診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。</p> <p>患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。</p> <p>病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴、システムレビュー等）を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。</p> <p>網羅的に系統立てて適切な順序で効率的な身体診察を行える。異常所見を認識・記録し、適切な鑑別診断が行える。</p> <p>基本的な臨床技能（適応、実施方法、合併症、注意点）を理解し、適切な態度で診断や治療を行える。</p> <p>診療録（カルテ）についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical record &lt;POMR&gt;)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。</p> <p>患者の病状（症状、身体所見、検査所見等）、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と意見交換ができる。</p> <p>緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を説明できる。診療チームの一員として救急医療に参画できる。</p> <p>慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療を説明できる。医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。</p> <p>患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護等との両立支援を含め患者と家族に対して誠実で適切な支援を行える。</p> <p>コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。</p> <p>患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。</p> <p>患者に分かりやすい言葉で説明できる。</p> <p>患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。</p> <p>医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。</p> <p>患者の要望（診察・転医・紹介）への対処の仕方を説明できる。</p> <p>患者のプライバシーに配慮できる。</p> <p>患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。</p> <p>チーム医療の意義を説明できる。</p> <p>医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。</p> <p>自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。</p> <p>保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。</p> <p>実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。</p> <p>医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。</p> <p>医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。</p>		

到達目標

医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。

医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。

医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。

医療関連感染症の原因及び回避する方法（院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム（infection control team <ICT>）、感染対策マニュアル等）を概説できる。

真摯に疑義に応じることができる。

医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。

医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。

基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルブルーフの考え方等）を概説し、指導医の指導の下に実践できる。

医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。

標準予防策（standard precautions）の必要性を説明し、実行できる。

患者隔離の必要な場合を説明できる。

針刺し事故（針刺切創）等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。

医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。

医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。診療報酬制度を説明でき、同制度に基づいた診療計画を立てることができる。

診療録（カルテ）に関する基本的な知識（診療録の管理と保存（電子カルテを含む）、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画（subjective, objective, assessment, plan <SOAP>））を説明でき、実際に作成できる。

診療に関する諸記録（処方箋、入院診療計画書、検査・画像・手術の記録、退院時要約）を説明できる。

電子化された診療情報の作成ができ、管理を説明できる。

薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。

副作用と有害事象の違い、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。

薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。

話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える。

甲状腺の触診ができる。

標準予防策（standard precautions）、感染経路別予防策（飛沫感染予防策、接触感染予防策や空気感染予防策等）が必要となる病原微生物を説明できる。

患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための个人防护具、予防接種等を概説できる。

医療従事者の体液曝露後の感染予防策を概説できる。

死に至る身体と心の過程を説明できる。その個別性にも共感配慮できる。

人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での患者とのコミュニケーション、頻度の高い苦痛とその対処法・ケアを説明できる。

水・補液、栄養管理を含む人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）と小児の特殊性を説明できる。

人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での本人の意思決定、事前指示、延命治療、Do not attempt resuscitation <DNAR>、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えの概念を説明できる。

患者の死後の家族ケア（悲嘆のケア（グリーフケア））を説明できる。

薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。

各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。

抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。

抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。

麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。

主な薬物の有害事象を概説できる。




年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。


到達目標

薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。  
処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。  
分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。  
ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。  
清潔の概念と必要性を説明できる。  
手洗いの意味と手技を説明できる。  
ガウンテクニックの必要性と手技を説明できる。  
消毒の意味と方法を説明でき、被覆材の種類と適応、効果を説明できる。  
食行動、食事摂取基準、食事バランス、日本食品標準成分表、補助食品、食物繊維・プロバイオティクス・プレバイオティクスを概説できる。  
栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメント、栄養サポートチーム(nutrition support team <NST>)、疾患別の栄養療法を説明できる。  
各種補液製剤（ビタミン、微量元素を含む）の特徴と病態に合わせた適応、投与時の注意事項を説明できる。  
経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。  
リハビリテーションの概念と適応（心大血管疾患、呼吸器疾患、癌等の内部障害を含む）を説明できる。  
リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。  
福祉・介護との連携におけるリハビリテーションの役割を説明できる。  
障害を国際生活機能分類の心身機能・身体構造、活動、参加に分けて説明できる。  
機能障害と日常生活動作(activities of daily living <ADL>)の評価ができる。  
理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。  
主な歩行補助具、車椅子、義肢（義手、義足）と装具を概説できる。  
緩和ケア（緩和ケアチーム、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを含む）を概説できる。  
全人的苦痛を説明できる。  
緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。  
疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。  
オピオイドの適応と課題を説明できる。  
緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。  
適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。  
医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。  
病歴（主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。  
診察時に患者に適切な体位（立位、座位、半座位、臥位、砕石位）を説明できる。  
診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。  
適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録<POMR>を作成できる。  
診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画<SOAP>で記載できる。  
症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。  
プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。  
患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。  
患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。  
患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。  
感染を予防するため、診察前後の標準予防策(standard precautions)ができる。  
身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。  
患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。  
身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。  
上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。  
両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。  
呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。  
腋窩で体温を測定できる。  
下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施できる。  
全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声）を評価できる。  
頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。  
眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。  
耳（耳介、聴力）の診察ができる。  
耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。  
音叉を用いて聴力試験を実施できる。  
口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。  
鼻腔、副鼻腔の診察ができる。

到達目標	<p>鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。          甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺の診察ができる。          頭頸部リンパ節の診察ができる。          胸部の視診、触診、打診ができる。          呼吸音と副雑音の聴診ができる。          心音と心雑音の聴診ができる。          背部の叩打痛を確認できる。          腹部の視診、聴診ができる。          区分に応じて腹部の打診、触診ができる。          圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。          腹水の有無を判断できる。          腸雑音、血管雑音の聴診ができる。          直腸（前立腺を含む）指診を実施できる（シミュレータでも可とする）。          意識レベルを判定できる。          脳神経系の診察ができる（眼底検査を含む）。          腱反射の診察ができる。          小脳機能・運動系の診察ができる。          感覚系（痛覚、温度覚、触覚、深部感覚）の診察ができる。          髄膜刺激所見（項部硬直、Kernig徴候）を確認できる。          四肢と脊柱（彎曲、疼痛）の診察ができる。          関節（可動域、腫脹、疼痛、変形）の診察ができる。          筋骨格系の診察（徒手筋力テスト）ができる。          主訴からの診断推論を組み立てられる、又はたどることができる。          疾患の病態や疫学を理解する。          治療の立案・実施に可能な範囲で参加できる。          保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加できる。          小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加できる。          基本的な小児科診察ができる。          どのように小児科にコンサルテーションすればよいか説明できる。          皮膚消毒を実施できる。          静脈採血をシミュレータで実施できる。          手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。          12誘導心電図を記録できる。          経皮的酸素飽和度を測定できる。          無菌操作を実施できる。          手術や手技のための手洗いができる。          手術室におけるガウンテクニックができる。          緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。          一次救命処置を実施できる。          医療人類学(基本的な視点、方法、理論について理解できる。)</p>
講義日程	別途通知する
出席の取り扱い	<p>講義については、実習時の出席確認、Microsoft Formsや出席状況把握システム等にて出席を確認する。          すべての日程に参加すること。欠席した場合には、スキルスラボでのre-visitへの参加および自己研鑽を行うことを課す。</p>
評価項目	<p>独立した試験は行わない。出席条件を満たせば単位は認定する。          単位の認定にあたっての成績には、PreCC-OSCEの成績をあてる。</p>
評価法	診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験（PreCC-OSCE）によって到達度の評価を行う。
予習・復習へのアドバイス	<p>実習当日までに、手技動画を視聴し手順を頭に入れておきましょう。事前にイメージトレーニングをしておくことで、実習本番ではスムーズに手技を行えます。また、視聴しながら分からない点や疑問点があればメモを取り、当日指導医に質問すると、より深い理解と確実な習得につながります</p>
推奨参考サイト	PreCC-OSCEの手技動画については、追って通知する。

授業科目名	臨床実習Ⅰ・Ⅱ Clinical ClerkshipⅠ・Ⅱ		
対象学年	4～6年生	単位数	臨床実習Ⅰ 40単位 臨床実習Ⅱ 30単位
科目責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	<p>共用試験に合格した学生は、臨床実習生（医学）として診療参加型臨床実習を通じて、病棟、外来、手術室、検査室等において、診療チームの一員として指導医の指導監督の下に実習を行う。</p> <p>詳細は臨床実習の指針、臨床実習Ⅰマニュアル、臨床実習Ⅱシラバスを参照すること。（以下これらを合わせてシラバスと表記する。）各説明会の資料も確認すること。</p>		
概要	<p>主に学内をローテートする臨床実習Ⅰと学内外を2ないし4週間実習する臨床実習Ⅱがある。臨床実習Ⅰはグループごとに決められたスケジュールに則って実習する。臨床実習Ⅱは事前に行ったマッチング結果に沿って実習する。</p> <p>臨床実習の目的は医療現場での思考法や基本的診療技能について、実際の患者の診療を通じた臨床場面の中で修得することである。実際の診療を通じて、医療面接、臨床推論、基本的診療技能、コミュニケーション能力、チーム医療、医療安全、プロフェッショナルリズムを統合的に学び、自己省察しながら実践し身につける重要な機会である。</p>		
到達目標	<p>臨床実習（Ⅰ、Ⅱ）共通の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。</li> <li>・ 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。</li> <li>・ 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。</li> <li>・ 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。</li> <li>・ 感度・特異度等を考慮して、必要十分な検査を挙げることができる。</li> <li>・ 科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。</li> <li>・ 適切に患者の情報を収集し、POMR（問題志向型診療記録）を作成できる。</li> <li>・ 診療経過をSOAP（主観的所見・客観的所見・評価・計画）で記載できる。</li> <li>・ 症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。</li> <li>・ 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。</li> <li>・ 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。</li> <li>・ 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。</li> <li>・ 感染を予防するため、診察前後の手洗いや器具等の消毒ができる。</li> <li>・ 指導医や同僚に接するとき、挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。</li> <li>・ 患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。</li> <li>・ 患者に対して、挨拶ができ、適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で接することができる。</li> <li>・ 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。</li> <li>・ 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。</li> <li>・ 診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。</li> </ul> <p>その他令和4年度医学教育モデル・コア・カリキュラムに記載の臨床実習に関連する項目、別表、診療参加型臨床実習ガイドラインなどを参照すること。（次ページQRコード①）</p>		
講義日程	別途日程表を参照		

<p>出席の取り扱い</p>	<p>休むことなくすべての実習に出席すること。やむを得ず欠席する場合は規定に従い連絡、届出をすること。また、大学病院以外の施設で実習する際には「学外実習 出席表」を実習先に持参し、実習先で押印（署名）をもらうこと。且つ、出席表は月末ごとに学生支援に提出すること。</p> <p>臨床実習Ⅰにおいては病院見学による欠席は認めない。 病院見学は原則として長期休暇など実習のない時期を活用する。臨床実習Ⅱの期間においても提示されたルールに従って事前に届け出をすること。</p> <p>診療科、施設ごとのルールはシラバスを参照すること。</p> <p>臨床実習マイページに、各診療科での実習を終了後1週間以内に必要事項を記載すること。提出終了をもって当該診療科・施設での実習が完了したものとみなす。</p> <p>6年生用届け出用Forms  臨床実習マイページ </p>
<p>評価項目</p>	<p>身だしなみ、コミュニケーション・礼節、個人情報取り扱い・守秘義務、集合時間や提出期限の厳守、必要事項の届け出・連絡はプロフェッショナリズムとして共通した評価項目となる。また、診療科、施設ごとのルールに従うこと。</p> <p>評価項目は診療科、施設ごとにシラバスを参照すること。</p>
<p>評価法</p>	<p>評価については診療科、施設ごとにシラバスを参照すること。 プロフェッショナリズムについては360度評価を行う。（360度評価とは指導医のみならず、実習に関わるメディカルスタッフ、事務員、患者、学生等からの評価を指す。）</p>
<p>予習・復習への アドバイス</p>	<p>診療科・施設での指示に従うこと。</p> <p>①診療参加型臨床実習ガイドライン（令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム151ページ、PDF161ページ～）、②診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目を適宜参照すること。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>上記①、②右記QRコードを参照</p> <p>①  ② </p>

多職種連携教育（高学年IPE）の授業概要			
授業概要	学部学生による討論を通じて、より望ましい多職種連携および協働によるチーム医療の在り方について理解を深める。具体的には、学科・専攻横断的なチームにおいて、専門性の観点および専門領域の枠組みを超えた観点から、PBL (problem-based learning) 形式で、シナリオ（事例）に関する多職種連携・協働によるチーム医療の実践について討論し、その成果を発表する。		
目的	保健医療の各領域における専門職業人として、多職種連携・協働によるチーム医療の考え方・態度について理解する。 ケア対象者（家族を含む）にとっての、より望ましい多職種連携および協働実践の意義とあり方について理解する。		
到達目標	<p>令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム IP 多職種連携能力</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>シナリオ（事例）について、多職種連携・協働に参加する各職種の役割と責任を述べることができる。</li> <li>専門職種間の対立に気づき対立解消に向けたよりよいチームワークのためのコミュニケーションが取れる。</li> <li>各々の専門性の枠を越え、保健医療専門職業人に必須の共通する基礎的知識・技術・態度について討論することができる。</li> <li>シナリオ（事例）の多職種連携・協働によるチーム医療の実践について、生活者である当事者の視点で保健、医療、福祉の側面から計画立案できる。</li> <li>シナリオ（事例）当事者の地域での生活における、多職種連携・協働による倫理的実践を模擬患者/模擬患者家族とのロールプレイングにより実施できる。</li> <li>各自の専門性を踏まえて、協働型リーダーシップについて考察できる。</li> </ol>		
学習方法	シナリオの活用 文献検索等 学科・専攻横断的チームによるPBL形式の学習		
学習上の key words	多職種連携・協働、PBL		
学習 resource	大学病院等関連施設、文献、既習の授業内容など		
予習・復習へのアドバイス	各職種の役割について確認しましょう。ロールプレイでは自分がどのような貢献をできたか、他のメンバーとの違いは何だったかを客観的に振り返ることで、多職種連携・協働における自身の強み・弱みを把握できます。		
授業スケジュール		1日目	2日目
	1コマ	ガイダンス／PBL形式	PBL形式／発表準備
	2コマ	PBL形式	発表（模擬患者に対する実践）2班 フィードバック
	3コマ	PBL形式	発表（模擬患者に対する実践）2班 フィードバック
	4コマ	PBL形式／目標達成状況確認	発表（模擬患者に対する実践）2班 フィードバック

## 令和8(2026)年度 医学科6年生臨床実践学 講義日程

時間	4月10日(金)
場所	臨床講義棟1F 第4講義室
8:45-10:15	北川 浩樹(感染症科) 「感染症学から見た医師国家試験」
10:30-12:00	蓮沼 直子(医学教育センター) 「国試までの道のり」
12:50-14:20	秋田 智之・杉山 文(疫学・疾病制御学) 「保健医療・保健統計からみた国試」
14:35-16:05	北口 雅章(弁護士:法医学) 特別講義「医療訴訟の実情」

複数学年にまたがる  
科目

授業科目名	先端基盤医学方法論		
科目責任者	ふじわら ゆういちろう 藤原 祐一郎	所属	生理学及び生物物理学
科目 コーディネーター	ふじわら ゆういちろう 藤原 祐一郎	所属	生理学及び生物物理学
授業方法	講義と演習		
概要	<p>本講義では異なった研究アプローチを持つ上記の先端医科学の領域の中から履修学生が演習分野を複数選択し、各回は演習領域を専門とする教員がオムニバス形式で担当する。講義では学生による最新の研究領域の概説や研究成果についてのプレゼンテーションを基本として、担当教員と学生により当該専門領域の方法論に関する議論を行う。</p> <p style="text-align: center;">各専門領域で異なる方法論を 学生のプレゼンテーションと教員による解説で理解を深める</p>		
講義ユニットの到達目標	最新の研究領域に関するプレゼンテーションや議論を通して、先端的な医科学研究の基盤となる基礎・社会医学の研究方法を習得する。		
講義日程	参加学生を8班に分けて、テーマを決めた後に、担当基礎社会医学系教員の指導の下に論文の抄読と発表準備を行う。講義は適宜、年間8回行う。非常勤講師のセミナーも行う。		
出席の取り扱い	自分が担当の回は欠席しない。担当順は学生間で調整すること。		
評価項目	プレゼンテーションの内容と授業中の議論		
評価法	プレゼンテーションの内容と授業への参加態度などを踏まえて総合的に評価する。		
予習・復習へのアドバイス	毎回の担当者は、発表する論文を予め参加学生に伝え、それに基づいて予習をする。また、論文内容で疑問を持った事項を、ネットなどで調べて、関連知識を深める。		
履修上の注意 アドバイス	プレゼンテーションの準備に際して助言が必要な場合は、各担当教員へ電子メールで要件を事前連絡し、アポイントを取ることを。		
推奨参考書	特になし		

プログラム名	EBM (Evidence-based Medicine)																																																																
対象学年	医学科 1～6年生																																																																
概要	<p>EBM (Evidence-based Medicine) は、「入手可能な最良の科学的根拠に基づいて、個々の患者に最善の医療を提供する行動様式」と定義される。医学では歴史的に、個々の医師の経験や慣習が診療方針を選択する主な根拠となっていたが、科学的に信頼性の高い研究結果に基づいた診療をめざそうという考え方が1990年代に提唱され、現代では医学・医療の基盤として定着している。EBMでは、科学的手法によって集められ解析された臨床試験の結果等のエビデンス（科学的根拠）を信頼度別に分類し、個々の患者に最善の医療を決定する際の根拠として利用する。しかし、最善の医療を行うためには、患者に特有の臨床状況、患者の意志や価値観、費用、医療者の技量等も考慮される必要があることから、学生は、患者の個性を考慮しつつ科学的根拠に基づいた医療をいかにして実現するか、その方法論を修得する必要がある。</p> <p>令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム  GE-01-04根拠に基づいた医療&lt;EBM&gt;  GE総合的に患者・生活者をみる姿勢 / 01全人的な視点とアプローチ  GE-01-04-01根拠に基づいた医療 (EBM) の5つのステップを列挙できる。  GE総合的に患者・生活者をみる姿勢 / 01全人的な視点とアプローチ / 04根拠に基づいた医療&lt;EBM&gt;</p>																																																																
授業方法	<p>本プログラムでは1～6年の全学年にわたって、講義、グループワーク (GW)、実習などさまざまな方法を用いて段階的にEBMに関する教育を行う。具体的な分担科目および教育内容・方法は以下の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目 (ユニット) 名</th> <th>学年</th> <th>内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生命・医療倫理学I</td> <td>1</td> <td>総論、事例</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>放射線生物学・放射線健康リスク科学</td> <td>2</td> <td>方法論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>免疫学</td> <td>2</td> <td>総論、事例</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>衛生学</td> <td>3</td> <td>総論、方法論、事例</td> <td>講義、GW</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生学</td> <td>3</td> <td>方法論</td> <td>講義、GW</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>3</td> <td>事例</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>腎臓</td> <td>3</td> <td>方法論</td> <td>講義、GW</td> </tr> <tr> <td>泌尿器</td> <td>3</td> <td>事例</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>血液</td> <td>3</td> <td>総論、方法論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>3</td> <td>総論、方法論、事例</td> <td>講義、GW</td> </tr> <tr> <td>臨床腫瘍学</td> <td>3</td> <td>方法論、事例</td> <td>講義、演習</td> </tr> <tr> <td>症候診断治療学</td> <td>4</td> <td>方法論、症例検討</td> <td>チュートリアル</td> </tr> <tr> <td>臨床実習入門プログラム</td> <td>4</td> <td>事例</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>臨床実習 I</td> <td>4～5</td> <td>方法論、症例検討</td> <td>GW、症例検討</td> </tr> <tr> <td>臨床実習 II</td> <td>5～6</td> <td>方法論、症例検討</td> <td>GW、症例検討</td> </tr> </tbody> </table>	科目 (ユニット) 名	学年	内容	方法	生命・医療倫理学I	1	総論、事例	講義	放射線生物学・放射線健康リスク科学	2	方法論	講義	免疫学	2	総論、事例	講義	衛生学	3	総論、方法論、事例	講義、GW	公衆衛生学	3	方法論	講義、GW	消化器	3	事例	講義	腎臓	3	方法論	講義、GW	泌尿器	3	事例	講義	血液	3	総論、方法論	講義	救急	3	総論、方法論、事例	講義、GW	臨床腫瘍学	3	方法論、事例	講義、演習	症候診断治療学	4	方法論、症例検討	チュートリアル	臨床実習入門プログラム	4	事例	講義	臨床実習 I	4～5	方法論、症例検討	GW、症例検討	臨床実習 II	5～6	方法論、症例検討	GW、症例検討
科目 (ユニット) 名	学年	内容	方法																																																														
生命・医療倫理学I	1	総論、事例	講義																																																														
放射線生物学・放射線健康リスク科学	2	方法論	講義																																																														
免疫学	2	総論、事例	講義																																																														
衛生学	3	総論、方法論、事例	講義、GW																																																														
公衆衛生学	3	方法論	講義、GW																																																														
消化器	3	事例	講義																																																														
腎臓	3	方法論	講義、GW																																																														
泌尿器	3	事例	講義																																																														
血液	3	総論、方法論	講義																																																														
救急	3	総論、方法論、事例	講義、GW																																																														
臨床腫瘍学	3	方法論、事例	講義、演習																																																														
症候診断治療学	4	方法論、症例検討	チュートリアル																																																														
臨床実習入門プログラム	4	事例	講義																																																														
臨床実習 I	4～5	方法論、症例検討	GW、症例検討																																																														
臨床実習 II	5～6	方法論、症例検討	GW、症例検討																																																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者にとって最善の医療とは何かを説明できる</li> <li>2) EBMの概念について説明できる</li> <li>3) EBMによって患者に最善の医療を提供する過程と手順を説明できる</li> <li>4) EBMが医学・医療においてなぜ重要であるかを説明できる</li> <li>5) 臨床試験の種類と内容を説明できる</li> <li>6) エビエンスレベルとは何かを説明できる</li> <li>7) 学会等のガイドラインを読み、必要な情報を抽出できる</li> <li>8) 文献検索を行い必要な文献を収集することができる</li> <li>9) 集めた文献を批判的に吟味することができる</li> <li>10) 集めた情報を、個々の情報の信頼度に配慮したうえで融合することができる</li> <li>11) EBMの考え方に基づいて症例検討を行うことができる</li> <li>12) EBMの考え方に基づいて、個々の患者に最善の医療方針を決定することができる</li> </ol>																																																																
予習・復習へのアドバイス	EBMの定義や基本的なプロセス (PICO設定、文献検索、批判的吟味、統合・適用) を概説レベルで理解しておきましょう。																																																																